建築構造図

図面番号	特記仕様書・規準図・柱状図	縮尺	図面番号	伏図・軸組図	縮尺	図面番号	基礎構造・鉄骨構造関係図	縮尺	図面番号	木質構造関係図	縮尺	図面番号	雑詳細図	縮尺
2001	特記仕様書１	N.S.	2101	杭伏図	1/100	2201	杭・基礎断面リスト	1/40	2301	木質梁断面リスト（１）	1/40	2401	雑配筋詳細図	1/40
2002	特記仕様書２	N.S.	2102	基礎伏図	1/100	2202	地中梁・RC小梁リスト	1/40	2302	木質梁断面リスト（２）	1/40	2402	太陽光パネル　伏図・軸組図・リスト	1/100,1/20
2003	特記仕様書３	N.S.	2103	1階伏図	1/100	2203	柱・柱脚リスト	1/40	2303	木質梁断面リスト（３），木質柱リスト	1/40	2403	**各部納まり詳細図・多目的ホールすのこ鉄骨詳細図**	1/20
2004	特記仕様書４	N.S.	2104	2階伏図	1/100	2204	鉄骨部材リスト	1/40	2304	木質耐震パネルリスト（１）	1/20	2404	西側遮光ルーバー下地詳細図	1/10,1/20
2005	木工事特記仕様書	N.S.	2105	3階伏図	1/100	2205	鉄骨継手リスト	1/40	2305	木質耐震パネルリスト（２）	1/5,1/10,1/30	2405	EVシャフト受鉄骨詳細図	1/40
2006	構造鉄筋規準図（１）	N.S.	2106	4階伏図	1/100	2206	鉄骨小梁・スラブリスト	1/40	2306	木質耐震パネルリスト（３）	1/5,1/10,1/30	2406	屋外階段(1)詳細図	1/200,1/100,1/40,1/30,1/10
2007	構造鉄筋規準図（２）	N.S.	2107	5階伏図	1/100	2207	Y10通り鉄骨詳細図	1/50	2307	6階梁納まり詳細図（１）～（４）	1/20			
2008	構造鉄筋規準図（３）	N.S.	2108	6階伏図	1/100				2308	**6階梁納まり詳細図（５）・R階梁納まり詳細図（１）～（３）**	1/20			
2009	構造鉄骨規準図（１）	N.S.	2109	R階伏図	1/100				2309	6階柱梁接合部詳細図	1/10			
2010	構造鉄骨規準図（２）	N.S.	2110	木質柱伏図	1/100				2310	木部柱脚詳細図・室内耐風ブレース詳細図	1/30,1/40,1/100			
2011	構造鉄骨規準図（３）	N.S.	2111	軸組図(Y1通り～Y4a通り)	1/200				2311	耐震パネル接合部詳細図	1/30			
2012	構造鉄骨規準図（４）	N.S.	2112	軸組図(Y4b通り～Y6通り)	1/200				2312	床合板割付要領図	1/50,1/250			
2013	構造鉄骨規準図（５）	N.S.	2113	軸組図(Y7通り～Y10通り)	1/200				2313	床合板釘配列要領図	1/10			
2014	構造鉄骨規準図（６）	N.S.	2114	軸組図(Y11通り～Y14通り)	1/200									
2015	露出型固定柱脚工法規準図	N.S.	2115	軸組図(Y15通り～Y17通り)	1/200									
2016	ボーリング柱状図	N.S.	2116	軸組図(X1a通り～X3通り)	1/200									
			2117	軸組図(X4通り～X7通り)	1/200									
			2118	軸組図(X8通り～X11通り)	1/200									
			2119	軸組図(X12通り～X15通り)	1/200									
			2120	軸組図(X16通り～X16a通り)	1/200									
			2121	木質耐震パネル軸組図（１）	1/100									
			2122	木質耐震パネル軸組図（２）	1/100									
			2123	木質耐震パネル軸組図（３）	1/100									

※A3版の縮尺は、表示縮尺の1/2倍とする。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課						春日部市都市整備部鉄道高架整備課					
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	課長					

特記・ 2010.4.7　見積用図面
・ （この図面で施工しないで下さい）
・
・
・

株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.

	資格/番号	記名	捺印	製図	検図	納品検査
代表設計者	一級建築士 第239114号	石井 靖人				
担当設計者	一級建築士 第238343号 構造設計一級建築士 第5144号	塩手 博道		一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号	丸谷 周平	

東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称)
建築工事

図面内容	図面番号
構造図　図面リスト	2000
縮尺 N.S.	区分 建築構造図

共通事項

1．設計図書の構成及び表示事項に不整合のある場合の優先順位は次による。
（1）現場説明に対する質問回答書
（2）現場説明書（見積要項書のある場合はそれを含む）
（3）特記仕様書
（4）設計図
（5）国土交通省大臣官房監修　公共建築工事標準仕様書　平成１９年版
したがって、本特記仕様書は設計図（建築一般図、建築構造図）全てに優先する。

2．項目の適用は、項目番号（各章１．２．３・・・の連番）に○印の付いたものを適用する。

3．特記事項の適用は次による。
（1）⊙印の付いたものを適用する。
（2）⊙印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
（3）⊙印と⑧印の付いた場合は、共に適用する。
（4）・印のものは、適用しない。

3章　土工事

①．地盤調査

⊙地盤調査資料（設計段階で、すでに行ったもの）
※有（※敷地内・近隣）
調査結果はボーリング柱状図（図示）及び調査報告書（別資料）による。
・無
・地盤調査計画（これから行うもの）
調査項目は下記により、その調査仕様は（※別紙仕様書　・図示
・4章3項（平板載荷試験））による。
・ボーリング　・標準貫入試験　・土質試験　・平板載荷試験
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
⊙地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。
・埋設物調査（埋設管類、既存障害物等の状況調査）を行う。
・隣接物調査（隣接する建物、道路、障害物等の状況調査）を行う。
⊙地盤調査、埋設物調査、隣接物調査については○印がなくても施工者の判断により行う。

2．障害物

・障害物に関する特記
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

③．排水　（3.2.2）

※排水は下記による。
・かま場工法　・ディープウェル工法
・ウェルポイント工法　※施工者の選定工法による

④．埋戻し・盛土（3.2.3）

※埋戻し・盛土の種別　（表3.2.1）
・A種　※B種・C種　・D種

⑤．建設発生土（3.2.5）

※建設発生土の処分は下記による。
・場内指示の場所へ堆積　・場内指示の場所へ敷き均し
※場外搬出適切処分　・現場説明による
※産業廃棄物とする表層土の下部にある土を搬出する前に地質調査（土壌汚染）を行うこと。良質土であれば松伏町内の埼玉県の施設内で無償にて受入可能。

⑥．山留め工法（3.3.1）

※山留め工法は下表による。

指定	山留め工法	備　考
・	オープンカット工法	
・	親杭横矢板工法	・打撃工法　※低騒音低振動工法
・	シートパイル工法	・打撃工法　※低騒音低振動工法
・	場所打ち鉄筋コンクリート連続地中壁工法	・仮設　・構造体
・	ソイルセメント柱列壁工法	・オーガー　・ロックオーガー　・CD
※	施工者の選定工法による	

※支保架構は下記による。
・切り梁工法　・アースアンカー工法（※除去式　・埋込み方法）
・アイランド工法　※施工者の選定工法による
※山留めは在置　※しない　・する

7．逆打ち工法

※逆打ち工法を採用する。
・逆打ち工法に関する特記（・図示による　・下記による）
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

4章　地業工事

①．工法の選定（4.1.1）

・直接基礎　（・ベタ基礎　・布基礎　・独立基礎）
支持地盤　（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
基礎底深さ　※図示による　・GL－（＿＿）m
長期許容支持力度（＿＿）kN／m²
試験堀　（※行う　・行わない）
⊙杭基礎
支持地盤　（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
試験杭　（※図示による　・最初の１本（場所打ちコンクリート杭））
杭径、杭長、コンクリート強度及び長期許容支持力
（・下表による　※図示による）

杭径（mm） 杭頭	杭径（mm） 杭先端	長期許容支持力	杭の先端レベル	備　考
＿＿	＿＿	＿＿kN／本	GL－＿＿m	
＿＿	＿＿	＿＿kN／本	GL－＿＿m	
＿＿	＿＿	＿＿kN／本	GL－＿＿m	
＿＿	＿＿	＿＿kN／本	GL－＿＿m	
＿＿	＿＿	＿＿kN／本	GL－＿＿m	
＿＿	＿＿	＿＿kN／本	GL－＿＿m	
＿＿	＿＿	＿＿kN／本	GL－＿＿m	

2．杭の載荷試験（4.2.3）

※杭の載荷試験を行う。
試験項目は下記により、その仕様は（※別紙仕様書　・図示）による。
・杭の鉛直載荷試験　・杭の水平載荷試験
・杭の引抜き試験　・＿＿＿＿＿＿＿＿

3．地盤の載荷試験（4.2.4）

※地盤の載荷試験（平板載荷試験）を行う。
試験仕様は（※別紙仕様書　・図示　・下表）による。

指定	支持地盤名	深　さ	長期許容支持力	箇　所	備　考
・	＿＿＿＿	GL－＿m	＿＿kN／m²	＿ヶ所	
・	＿＿＿＿	GL－＿m	＿＿kN／m²	＿ヶ所	

注）最大載荷荷重は、長期許容支持力の（※3倍　・＿倍）とする。

④．既製杭の材料（4.3.2）（4.4.2）

※既製杭の種別は下表による。

指定	種　類	種別等	備　考
⊙	PHC杭（高強度プレストレストコンクリート杭）	※種別は図示による ・A種　・B種　・C種	
⊙	SC杭（外殻鋼管付コンクリート杭）	※鋼管の材質・厚さは図示による ・材質（・SKK400・SKK490） ・鋼管厚（＿）mm	
・	PRC杭（鉄筋または平鋼を入れたコンクリート杭）	※種別は図示による ・Ⅰ種　・Ⅱ種　・Ⅲ種　・Ⅳ種	
・	ST杭（拡径断面を有する遠心力高強度プレストレストコンクリート杭）	※種別は図示による ・A種　・B種　・C種	
・	鋼管杭	※材質は図示による ・SKK400　・SKK490	
・	＿＿＿＿	＿＿＿＿	

※杭先端部の形状（・閉塞形　・開放型　※評定取得仕様による）
※杭の継手　⊙有（＿）ヶ所（・溶接継手　・無溶接継手　⊙図示　）
・無
※ネガティブフリクション対策　※無　・有

⑤．既製杭の打設工法（4.3.3）～（4.3.5）（4.4.3）

※既製杭の打設工法は下記による。
・打撃工法
※プレボーリング併用の有無
※併用する
掘削長　杭先端部（※1m・＿＿m）を残す。
掘削径　・杭径と同じ　（オーガー部分の摩擦力無視）
・杭径－50mm（オーガー部分の摩擦力考慮）
・併用しない（直打ち工法）
※ハンマーの種類（※油圧ハンマー　・ディーゼルハンマー　・＿＿＿）
※防音カバー　（※有・無）
※埋込み工法　・セメントミルク工法　・＿＿＿＿＿＿＿＿
※（財）日本建築センターの評定を取得した工法
・プレボーリング拡大根固め工法
⊙中堀り拡大根固め工法
・＿＿＿＿＿＿＿＿

6．場所打ちコンクリート杭の材料（4.5.3）

※コンクリートの種別は（・A種　※B種　・図示による）　（表4.5.1）
※コンクリートの基準強度及びスランプは（※6章による・図示による）
※鉄筋の材料は（※5章による　・図示による）
※フープは　（・スパイラルフープ　※普通フープ）とする。

7．場所打ちコンクリート杭の打設工法（4.5.4）（4.5.5）

※場所打コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭の打設工法は
（・下表による ※図示による）

指定	工法	拡底の有無	鋼管の有無	備　考
・	アースドリル工法	・有　・無	・有　※無	
・	リバースサーキュレーション工法	・有　・無	・有　※無	
・	オールケーシング工法	・有　・無	・有　※無	
・	CD工法	・有　・無	・有　※無	
・	深礎工法	・有　・無	・有　※無	・人力・機械堀り併用
・	連続地中壁			

※オールケーシング工法と深礎工法及び無水掘工法以外は、超音波測定器による孔壁の測定を行う。検査の数量は（・全数　※各杭径毎に1本
・各杭径毎に（＿）%）とする。
※余盛りの高さ（※800mm　・0mm（深礎の場合）
・500mm（孔中の水が少ない場合））
※余盛りの除去（※低騒音低振動工法　・はつりによる）

⑧．砂・砂利・割り石・捨コンクリート地業（4.6.2）～（4.6.4）

※使用する地業名及び厚さ（mm）は下表による。

指定	種　類	材　料	基礎下	地中梁下	底版下	土間コンクリート下	1階床下空ピット
⊙	砂利地業	※再生クラッシャラン ・砂利・砕石	※50 ⊙60	※50 ⊙60	※50 ⊙60	※50 ⊙60	※50 ⊙60
⊙	捨コンクリート	※普通コンクリート	※50 ・＿＿	※50 ・＿＿	※50 ・＿＿	※50 ・＿＿	・無し ※50 ⊙100
・	ラップルコンクリート	※普通コンクリート	※図示				
・							

注）ラップルコンクリートの調合は捨コンクリートと同じとする。

⑨．床下防湿層（4.6.5）

※床下防湿層の施工箇所は①階スラブ直下（ピット部分を除く）及び土間コンクリート直下とする。ただし、捨コンクリートがある場合は捨コンクリートの直下とする。また、断熱材がある場合は断熱材の直下とする。

⑩．地盤改良

※地盤改良の工法は下表による。

指定	分　類	工法名	改良材
・	強制圧密工法	・サンドドレーン工法 ・ペーパードレーン工法 ・バックドレーン工法 ・プレロード工法 ・＿＿＿＿＿＿	
・	液状化対策工法	・サンドコンパクション工法 ・バイブロフロテーション工法 ・グラベルドレーン工法 ・プラスチックドレーン工法 ・＿＿＿＿＿＿	
・	深層混合処理工法	※ソイルセメントコラム工法 ・＿＿＿＿＿＿工法	※セメント系 ・＿＿系
⊙	表層混合処理工法	・＿＿＿＿＿＿工法 ※バックホウ等による攪拌	※セメント系 ・＿＿系 ※混入量 100 kg／m³
・	＿＿＿＿	・＿＿＿＿	・＿＿＿＿
・	＿＿＿＿	・＿＿＿＿	・＿＿＿＿

・表層混合処理工法による転圧は30cm以下ごとに行う。
・表層混合処理工法を行う部位
1）西側市道部通信引込線下
2）地熱利用配管側溝
3）道路内配管工事部分
4）車両出入口部分

5章　鉄筋工事

①．鉄筋（5.2.1）

※使用する鉄筋はJIS　G3112の規格品とし下表による。

指定	鉄筋の種類	使用径	継　手	備　考
⑧	SD295A	D16以下	※重ね継手　・＿＿＿	
・	SD295B		※重ね継手　・＿＿＿	
⑧	SD345	D19以上	※ガス圧接　・＿＿＿	
⊙	SD390	D29以上	※ガス圧接　・＿＿＿	
・	KSS785	D16以下		SD295Aとの使いわけは図示による
・	＿＿＿	＿＿＿	＿＿＿	

※壁、耐圧版、杭等でD19以上の鉄筋を使用する場合の継手は重ね継手とする。
・柱の帯筋（フープ）は閉鎖型フープ（スパイラルフープ等）とする。

②．溶接金網（5.2.2）

※使用する溶接金網はJIS　G3551（溶融金網）の規格品とし、
下表による。

指定	使用箇所	径・間隔	備　考
※	防水押えコンクリート	6φ@100	
※	機械室、厨房等の非構造用コンクリート	6φ@100	
・	＿＿＿＿＿＿＿＿	＿＿＿	

③．バーサポート・スペーサー（5.3.3）

※使用するバーサポート及びスペーサーの数量及び配置の標準は下表による。

部位	バーサポート及びスペーサーの数量と配置
基礎	基礎底面積が4m²程度では8個、16m²程度では20個とし、側面は1.5m程度に設ける
基礎梁	梁下面及び各側面に設け間隔は1.5m程度、端部は1.5m以内とする
スラブ	上端筋、下端筋のそれぞれ1.3個／m²程度に設ける
梁	梁下面及び各側面に設け間隔は1.5m程度、端部は1.5m以内とする
柱	上段は梁下から0.5m程度、中段は柱脚と上段の中間、柱幅方向は1.0m未満2個、1.0m以上3個
壁 地下外壁	縦は上段梁下から0.5m程度、中段上段から1.5m間隔程度とし、横間隔は1.5m程度、端部は1.5m以内に設ける

注1）バーサポート・スペーサーの種類は鋼製とし、被り厚さ範囲に防錆処理を施したものとする。
2）基礎、スラブ以外のスペーサーは、側面に限り強度と剛性を有するプラスチック製としてもよい。
3）断熱材打込み工法のスペーサーは、支持荷重に対してめり込まない程度の接触面積を有すること。

4．継手（5.3.4）

※特殊な鉄筋継手の採用
※（財）日本建築センターの評定を取得した工法とする。
・継手名称（・＿＿＿＿＿＿認定又は評価番号＿＿＿＿）
・継手性能（・SA級　・A級）
・使用個所（※図示　・柱　・大梁　・増築端　・＿＿＿＿＿）

⑤．ガス圧接工（5.4.2）

※ガス圧接業者は（社）日本圧接協会が認定する優良圧接業者より選定する。
※ガス圧接技能者の技量確認試験を（・行う　※行わない）
・行う場合の特記
試験場所（※製作所　・工事現場）
試験方法はJIS　Z　3881（ガス圧接技術検定における試験方法及び判定基準）に準ずる。

⑥．ガス圧接部検査（5.4.9）

※ガス圧接部検査は下表による。

指定	検査種別	抜取率	検査者	備　考
・	引張試験	※1ロットにつき1） （※3箇所・＿＿箇所）	※第三者機関2）	引張試験片抜取後の処理（※重ね継手・ガス圧接）
※	超音波探傷（UT）検査	※1ロットにつき1） （※30箇所・＿＿箇所）	※第三者機関2）	UT検査抜取り箇所については第三者機関による外観検査も行うこと
※	外観検査	※全数	※圧接作業者による自主検査 ・第三者機関	

注1）1ロットの大きさは、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所かつ200箇所以下とする。
※超音波探傷（UT）検査を行う場合の特記
・最初の3ロットは引張試験を併用する。
・引張試験を併用する必要はない。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課						
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査

春日部市都市整備部鉄道高架整備課					
課長					

特記・2010.4.7　見積用図面
・（この図面で施工しないで下さい）
・
・
・

株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.

	資格/番号	記名	捺印	製図	検図	納品検査
代表設計者	一級建築士 第239114号	石井　靖人				
担当設計者	一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第61444号	塩手　博道	一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第13149号	丸谷　周平		

東部地域振興ふれあい拠点施設（仮称）
建築工事

図面内容	図面番号
特記仕様書　1 構造関係（第3章～第5章）	2001
縮尺　N．S．	区分　建築構造図

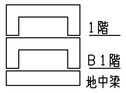
6章　コンクリート工事　　本章は JASS5（2003 年版）に準拠する。<　>内に JASS5 における項目番号を示す。

①. コンクリートの計画調合
<3.1> ～ <3.9>
<4.1> ～ <4.5>
<5.1> ～ <5.10>

※コンクリートの種類、品質基準強度、セメントの種類、スランプ、単位水量、混和剤等は下表による。

指定	使用箇所	使用骨材によるコンクリートの種類	セメントの種類	計画供用期間の級	設計基準強度 Fc（N/mm²）	品質基準強度 Fq（N/mm²）	スランプ（cm）	単位水量の最大値（kg/m3）	特殊なコンクリートの適用	強度管理の材齢	混和剤・混和材	気乾単位容積質量（t/m³）
・	場所打コンクリート杭	※普通・＿＿	※普通ポルトランドセメント・高炉セメントB種・＿＿		※＿＿	※＿＿	※18・＿＿	※185・＿＿	⊙水中コンクリート・＿＿	※28日・＿日	※AE減水剤・＿＿	2.3程度
⊙	基礎・地中梁杭中詰めコンクリート	※普通・＿＿	※普通ポルトランドセメント・中庸熱ポルトランドセメント・＿＿	⊙長期・標準・一般	※30	※33	※18	※170・＿＿	・＿＿・＿＿	※28日・＿日	※AE減水剤 ⊙高性能AE減水剤	2.3程度
⊙	＿1階～＿4階	※普通・＿＿	※普通ポルトランドセメント・＿＿	⊙長期・標準・一般	※30	※33	※18	※170・＿＿	・＿＿・＿＿	※28日・＿日	※高性能AE減水剤・AE減水剤	2.3程度
・	＿階～＿階	※普通・＿＿	※普通ポルトランドセメント・＿＿	・長期・標準・一般	※＿＿	※＿＿	※＿＿	※＿＿	・＿＿・＿＿	※28日・＿日	※高性能AE減水剤・AE減水剤	
・	＿階～＿階	※普通・＿＿	※普通ポルトランドセメント・＿＿	・長期・標準・一般	※＿＿	※＿＿	※＿＿	※＿＿	・＿＿・＿＿	※28日・＿日	※高性能AE減水剤・AE減水剤	
⊙	土間コンクリート	※普通・＿＿	※普通ポルトランドセメント・＿＿			※18	※12・＿＿	※170・＿＿	・＿＿・＿＿	※28日・＿日	※AE減水剤・＿＿	2.3程度
⊙	無筋コンクリート（捨コンクリート・押えコンクリート等）	※普通・＿＿	※普通ポルトランドセメント・＿＿			※18・＿＿	※15・＿＿	※185・＿＿	・＿＿・＿＿	※28日・＿日	※AE減水剤・＿＿	2.3程度
⊙	外構簡易コンクリート	※普通・＿＿	※普通ポルトランドセメント・＿＿	・長期・標準・一般	※18	※18	※15	※175・＿＿	・＿＿・＿＿	※28日・＿日	※AE減水剤・＿＿	2.3程度
・		※普通・軽量＿＿種	※普通ポルトランドセメント・＿＿	・長期・標準・一般	※＿＿	※＿＿	※＿＿	※＿＿	・＿＿・＿＿	※28日・＿日	・＿＿・＿＿	

※所定空気量の目標値は普通コンクリートで4.5%、軽量コンクリートで5%とする。
※コンクリートに含まれる塩化物量は塩化物イオン（Cl⁻）量で0.30kg/m³以下とする。
※骨材はアルカリ骨材反応を生じる恐れのないものとする。
※使用箇所の階表示は右図による。



※計画供用期間の級の水準は下表による。

級	大規模補修不要期間	供用限界期間	耐久設計基準強度 Fd	品質基準強度 Fq
長期	約100年	—	30N/mm²以上	33N/mm²以上
標準	約 65年	約100年	24N/mm²以上	27N/mm²以上
一般	約 30年	約 65年	18N/mm²以上	21N/mm²以上

②. コンクリートのひび割れ

※竣工後コンクリートに著しいひび割れが生じた場合は、施工業者により調査し、必要に応じて補修を行うこと。
※コンクリートのひび割れ対策は日本建築学会「鉄筋コンクリート造のひび割れ対策（設計・施工）指針・同解説」による他、下記による。
⊙地上部分のコンクリートの単位水量を（※170・＿＿）kg/m³以下とする。（本章1項の表参照）
⊙鉄筋規準図7－7による各階出隅入隅部の床版の補強を行う。
⊙（※鉄筋規準図8－7・図示）による外壁の補強を行う。
⊙鉄筋規準図11項による亀裂誘導目地を設ける。
・収縮帯を設ける。（位置・巾・後打コンクリートの仕様等は図示による）
・膨張材の使用。　（本章1項の表参照）
・外壁の型枠としてPC版等を使用する。　（仕様、納まり等は図示による）
・床にPC合成スラブを用いる。　（仕様、納まり等は図示による）
・土間コンクリートに所定の目地切、縁切を設ける。（位置、仕様は図示による）
⊙棒状の振動機、型枠振動機を用いて十分なコンクリートの締め固めを行う。
⊙打込後のコンクリートは7日以上、散水・噴霧・養生マット等による被覆等により湿潤養生を行う。
⊙外壁の型枠は6日間以上存置する。
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

③. コンクリートの打継ぎ　<7.3>

※地下室で土に接する部分の打継ぎ部分に止水板を用いる。
止水板の仕様（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
※水平打ち継部には凝結遅延材を散布の上、高圧洗浄しレイタンスを除去する。

④. コンクリートの打込み　<7.5>

※柱、壁のコンクリート打設は縦形フレキシブルシュート等を使用する。

⑤. レディミクストコンクリート

※Ⅰ類（JIS A 5308「レディミクストコンクリート」に適合）
（6.1.5）（6.4.1～2）（表6.1.1）
・Ⅱ類

⑥. 骨材の品質

※A（アルカリ骨材反応抑制対策（建築物）実施要領（営繕課）による）
（6.3.3）（6.5.4）
・B（※コンクリート中のアルカリ総量Rt＝3.0Kg/m³以上）

⑦. 打継ぎ目地の寸法位置及び形状

※打継ぎの深さ寸法は、鏝体外側の増打厚内に納めるよう定める。
なお、寸法、位置及び形状は意匠図による。

⑧. コンクリートの単位水量測定

※行う　実施要領＿＿＿＿＿＿

⑨. 気温によるコンクリート強度補正

※補正値　T＝3（3月 3日 ～ 7月10日，9月11日～11月18日）
T＝6（11月19日 ～ 3月 2日）

⑩. コンクリートの仕上がり　<9.3>

※タイル後張り面の処理
（1）一般部　（※1)コンクリート仕上がり面C種（6項参照）のまま
・MCR工法・高圧水洗工法併用MCR工法
※2)高圧水洗工法　・図示による）
注）11章タイル工事で、外装タイル躯体表面の処理を行わない場合は※1)を適用、行う場合は※2)を適用する（⊙印が無い場合）。
（2）梁下等の上向き施工個所　（・コンクリート仕上がり面C種（6項参照）のまま
・MCR工法・高圧水洗工法併用MCR工法
※高圧水洗工法　・図示による）
注）高圧水洗工法による目荒しは、水圧50N／mm²以上かつ、2.5分／m²以上とし、施工計画書を監理者に提出し、目荒しの状態は、事前に監督員の承諾を受けること。MCR工法は、型枠にMCR工法用気泡ポリエチレンシート張りとし、高圧水洗工法併用の場合の仕上がり面は、上記による高圧水洗工法により、目荒しを行うこと。

⑪. 型枠　<12節>（共通仕様書6.9.1～6.9.6）

※本項に限り、JASS5 12節の他、共通仕様書 6.9.1～6.9.6 を適用する。
※コンクリートの型枠等は下表による。

仕上面	適用	適用箇所	型枠の種別	板厚（mm）	図示のない場合の打増し厚（mm）
A種	・	一般部化粧打放し（打放し補修仕上剤併用）	※型枠用合板表面加工品・型枠用合板A－B，A－C・図示による・＿＿	・12 ※15	外部（※20・＿）内部（※10・＿）
	・	＿＿部化粧打放し（打放し補修仕上剤併用）	※型枠用合板A－B，A－C・図示による・＿＿	・12 ※15	外部（※20・＿）内部（※10・＿）
	⊙	上記を除く、下記注1）のA種仕上箇所	※型枠用合板表面加工品・図示による・＿＿	※12 ・15	外部（※20・＿）内部（※10・＿）
B種	⊙	下記　注1）のB種仕上箇所	※型枠用合板B－C・図示による・＿＿	※12 ・15	外部（※20・＿）内部（※10・＿）
C種	⊙	下記　注1）のC種仕上箇所	※型枠用合板B－C・図示による・＿＿	※12 ・15	外部（※20・＿）内部（※ 0・＿）
特殊	・	・＿＿＿＿	・＿＿＿＿	・＿	外部＿内部＿
	・	・＿＿＿＿	・＿＿＿＿	・＿	外部＿内部＿

注1）コンクリート仕上がり面の種別は下記による。
A種：目違い、不陸等の極めて少ない良好な面とし、化粧打放し、クロス張り、粘着剤付ビニルシート張り又は塗装仕上程度を施すコンクリート表面に適用する。
B種：目違い、不陸等の少ない良好な面で、グラインダー掛け等により平滑に調整されたものとし、仕上塗剤又は防水仕上程度を施すコンクリート表面に適用する。
C種：打放しのままで、目違い払いを行ったものとし、上記A種・B種以外の仕上個所に適用する。タイル仕上の場合は必ず〔種とする。
注2）断熱材兼用型枠の適用は19章内装工事による。

⑫. 受入時の試験・検査　<13.4>

※受入時の試験・検査は表13.3により行う。　<表13.3>

⑬. 寒中コンクリート　暑中コンクリート　<14節>　<15節>

※寒中コンクリート及び暑中コンクリートの適用期間等は下表による。

指定	コンクリートの種類	適用事項	混和剤
⊙	寒中コンクリート	12月 11日～1月 20日	※本章1項による 1)
⊙	暑中コンクリート	7月 14日～ 9月 6日	※本章1項による 1)

注1）気温の状態により、寒中時の混和剤は促進形、暑中時の混和剤は遅延形を用いる。

14. 軽量コンクリート　<16節>

※軽量コンクリートの使用箇所及び種別は本章1項による。
※単位容積重量（＿＿＿kN/m³）
※その他調合に関する特記（※本章1項による　・下記による　・図示による）
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

15. 流動化コンクリート　<17節>

※流動化コンクリートの使用箇所（※本章1項による　・＿＿＿＿）
※スランプの指定　（・本章1項による　※ベース＿cm、流動化後＿cm）
※流動化剤の投入場所　（※工事現場　・レディミクストコンクリート工場）
その他調合に関する特記（※本章1項による・下記による　・図示による）
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

16. 高流動コンクリート　<18節>

※本項で記載された内容は、本章1項に優先する。
※高流動コンクリートの使用箇所（※本章1項による　・＿＿＿＿＿＿）
※調合等は、各レディミクストコンクリート工場で取得した大臣認定仕様によるが、原則として下記条件を満足すること。
※スランプフロー値（※60cm・＿cm）
※セメントの種類（※中庸熱ポルトランドセメント　・低熱ポルトランドセメント
・高炉セメントB種　・＿＿＿＿＿＿＿＿）
※強度管理の材齢（※56日・＿日）
※水結合材比（混和材が無い場合は水セメント比）の最大値（※50%・＿%）
※単位水量の最大値（・本章1項による　※170kg／m³・　kg／m³）
※試練り時におけるコンクリートのヤング係数の測定（※行う　・行わない）
その他特記事項（・下記による　・図示による）
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

17. 高強度コンクリート　<19節>

※本項で記載された内容は、本章1項に優先する。
※高強度コンクリートは、呼び強度40N／mm²を超えるコンクリートに適用する。
※調合等は、各レディミクストコンクリート工場で取得した大臣認定仕様によるが、原則として下記条件を満足すること。
※セメントの種類（※中庸熱ポルトランドセメント　・低熱ポルトランドセメント
・高炉セメントB種　・＿＿＿＿＿＿＿＿）
※スランプまたはスランプフロー値の指定
36＜Fc≦50N／mm²の場合（※スランプ23cm以下またはスランプフロー50cm以下
・スランプ＿cm・スランプフロー＿cm）
50＜Fc≦60N／mm²の場合（※スランプフロー60cm以下・スランプフロー＿cm）
※強度管理の材齢（※56日・＿日）
※水結合材比（混和材が無い場合は水セメント比）の最大値（※50%・＿%）
※単位水量の最大値（・本章1項による　※170kg／m³・＿kg／m³）
※試練り時におけるコンクリートのヤング係数の測定　（※行う　・行わない）
※試練り時におけるコンクリートの単位容積重量の測定（※行う　・行わない）
その他特記事項（・下記による　・図示による）
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

18. マスコンクリート　<22節>

※本項で記載された内容は、本章1項に優先する。
※マスコンクリートの使用箇所（※本章1項による　・＿＿＿＿）
※セメントの種類（※中庸熱ポルトランドセメント　・低熱ポルトランドセメント
・高炉セメントB種　・＿＿＿＿＿＿＿＿）
※強度管理の材齢（※56日・＿日）
※本章1項で規定した混和剤の種類（※遅延形　・標準形）
※荷卸し時のコンクリートの温度（※35℃以下　・＿℃以下）
※打込後のコンクリートの表面温度、内部温度、外気温の測定を（※行わない
・行う）。
その他特記事項（・下記による　・図示による）
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

19. 水中コンクリート　<25節>

※水セメント比の最大値　（※55%　・＿%）
※単位セメント量の最小値は下記による。
※場所打コンクリート杭（※340kg／m³・＿kg／m³）
・地中連続壁　（※360kg／m³・＿kg／m³）
その他特記事項（※本章1項による・下記による　・図示による）
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

20. その他のコンクリート　<20節><21節><23節><24節><26節><27節>

※適用するコンクリート

適用	特殊なコンクリート	適用箇所	備　考
・	プレストレストコンクリート	※本章1項による・図示による	詳細は図示による。
・	プレキャスト複合コンクリート	※本章1項による・図示による	詳細は図示による。
・	水密コンクリート	・本章1項による ※水槽・プール・地下室等圧力水が作用するコンクリート	スランプ　18cm以下 空気量　4.5%以下 水セメント比　50%以下
・	海水の作用を受けるコンクリート	・本章1項による ※海水に接するコンクリート及び海岸から（※100m　・＿m）以内にある建物のコンクリート	水セメント比の最大値は、表24.2による。かぶり厚さの最小値は、表24.3による。特殊な鉄筋の使用は特記による。
・	凍結融解作用を受けるコンクリート	・本章1項による ※凍結融解作用に対する耐久性を特に必要とするコンクリート	性能区分（A～C）に応じた骨材の品質及び調合は、表26.2による。
・	遮蔽用コンクリート	・本章1項による ※ガンマ線や中性子線等の放射線を遮蔽するコンクリート	スランプ　18cm以下 水セメント比　55%以下 品質管理の検査項目 ＿＿＿＿ 放射線遮蔽検査 ・行う　・行わない

その他特記事項（※本章1項による・下記による　・図示による）
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

21. 耐震スリット

※耐震スリットの仕様及び使用個所は図示による。
※外壁における耐震スリットにはシーリング（※両面　・外壁面のみ）を施す。
※耐火性能

指定	使用部位	耐火性能
・	外壁	・＿分　・指定無し
・	防火区画壁	※防火区画壁の耐火性能に同じ
・	上記以外	※指定無し　・＿分

7章　鉄骨工事

①　鉄骨製作工場
（7.1.3）

※鉄骨製作工場の指定（※鉄骨規準図による　・下記による）
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

②　施工管理技術者
（7.1.4）

※施工管理技術者を置く　・施工管理技術者を置く必要はない

③　鋼材
（7.2.1）

※鋼材の種類は鉄骨規準図、その他図示による。

④　高力ボルト
（7.2.2）

※高力ボルトの種類は鉄骨規準図、その他図示による。

⑤　アンカーボルトの種類及び設置
（7.2.4）（7.10.3）

※アンカーボルトの種類・保持及び埋込工法は下表による。　（表7.10.1）

適用	種　別	適用個所	材　質	アンカーボルトの保持及び埋込工法
・	建方用アンカーボルト	※一般柱脚（間柱を除く） ・＿＿＿＿ ・＿＿＿＿	※ SS400 ・＿＿＿＿	・A種 ※B種 ・C種 ・図示による
⊙	非埋込型固定用柱脚（大臣認定工法） 工法名 ＿＿＿＿	※図示による	※図示による図示の無い場合はメーカー仕様による	※図示による図示の無い場合はメーカー仕様による
・	構造用アンカーボルト（柱脚等）	※一般柱脚（間柱を除く） ・＿＿＿＿ ・＿＿＿＿	※ SNR400 ・ SNR490 ・＿＿＿＿	※A種 ・B種 ・C種 ・図示による
⊙	構造用アンカーボルト（一般）	※上記以外の個所 ・全ての個所	※ SS400 ・＿＿＿＿	・A種 ※B種 ・C種 ・図示による

注1）構造用アンカーボルトの場合、台直しは不可とする（鉄骨製品の方で寸法調整すること）。
※アンカーボルト及びナットのねじの種類の規格、ねじの等級の規格及び仕上げ
・構造用　※JSSⅡ13-2004　「（社）日本鋼構造協会規格/建築構造用転造ねじアンカーボルト・ナット・座金のセット」
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
・建て方　※普通ボルトによる。

⑥　柱底均しモルタル

※モルタルの種別　（7.2.9）
※無収縮モルタル　・＿＿＿＿＿＿
※無収縮モルタルの材料及び調合
※票仕　7.2.9（b）（1）～（3）による。
※無収縮モルタルの品質及び試験方法
※票仕　表7.2.6による。
※工法の種別　（7.10.3）（表7.10.2）
※票仕　表7.10.2
（※A種［モルタル厚さ50］・B種［モルタル厚さ30］）による。

⑦　デッキプレート
（7.2.7）

※デッキプレートの材質は（※下表による　・図示による）

指定	使用法	形　状	厚　さ	亜鉛めっき	種　類
⊙	合成スラブ用	※図示 ・h=75㎜ ・h=50㎜	※図示 ・t=1.2㎜ ・t=＿㎜	※有	※SDP2GA（Z12）・SDP2GB（Z27）
				・無	・SDP1T・SDP2
⊙	型枠用	※図示 ・フラット型 ・＿＿＿＿	※図示 ・t=1.2㎜ ・t=＿㎜	※有	※SDP1GA（Z12）・SDP1GB（Z27） ・SDP2GA（Z12）・SDP2GB（Z27）
				・無	・SDP1・SDP1T・SDP2

注）h：デッキプレートの山高

⑧　各種検査・試験
（7.2.10）（7.4.8）
（7.6.3）（7.6.10）
（7.6.11）（7.7.5）

※鉄骨に関する検査・試験は鉄骨規準図による。
⊙その他検査・試験に関する特記（・図示による　⊙下記による）
※その他の試験及び検査
⊙完全溶込み溶接部の超音波深傷試験
（7.6.11）（表7.6.2）（表7.6.3）（表7.6.4）
※行う　・行わない
⊙工事溶接部の場合
AOQL　※4.0%　⊙2.5%

節	・全て	・	・	・	・
検査水準	・第4水準	・	・	・	・

⊙工事現場の場合
AOQL　※4.0%　⊙全数行う。

・割れの疑いのある表面欠陥においては、浸透深傷試験及び磁粉深傷試験を行う。
（7.6.11）

試験の種別		試験方法
・超音波深傷試験	完全溶け込み溶接部	※（7.6.11（b））による ・図示
・放射線試験		
・マクロ試験		

⊙突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査
独立行政法人建築研究所監修
「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。
・抜き取り検査①　※抜き取り検査②

⊙入熱パス間温度の溶接条件
鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱（KJ/cm）	パス間温度（℃）
400N級鋼	JIS Z 3211,3212	40以下	350以下
	YGW-11,15		
	YGW-18,19		
	JIS Z 3214		
	YGA-50W,50P		
490N級鋼	JIS Z 3212	40以下	350以下
	YGW-11,15	30以下	250以下
	YGW-18,19	40以下	350以下
	JIS Z 3214		
	YGA-50W,50P		
520N級鋼	YGW-18,19	30以下	250以下
400N級STKR,BCR及びBCP	YGW-11,15	30以下	250以下
	YGW-18,19	40以下	350以下
490N級STKR,及びBCP	YGW-18,19	30以下	250以下

適用箇所
※柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部
・図示

⑨　錆止め塗装
（7.8.3）（7.8.4）

※鉄骨の素地ごしらえの種別（・A種　・B種　※C種）　（表18.2.2）
※錆止め塗料の種類は下表による。　（表18.3.1）

指定	使用箇所	錆止め塗料の種類
⊙	屋内及び屋外遮蔽部	※A種［JIS K5625 2回］（+K5516 2回） ・B種［JIS　K　5621］・＿＿＿＿
⊙	屋外露出部	※溶融亜鉛めっき　・＿＿＿＿ ・A種［JIS K（・5622・5623・5624・5625）
・	※図示による指定箇所 ・＿＿＿＿	※溶融亜鉛めっき ・＿＿＿＿

※鉄骨部の劣化対策のため、吹付けを行わない場合は、一般的なK5625に加えて、合成樹脂調合ペイントK5616を塗装する。LVLパネル鋼製枠組みも同様とする。
※劣化対策のため、耐火被覆（吹付工法）を行う部分の錆止め塗装も全面に行う。

⑩．溶融亜鉛めっき
（7.12.3）（7.12.4）

※溶融亜鉛めっきの適用箇所は本章8項の表による。
※溶融亜鉛めっきは表14.2.2により、種別は下記による（t：板厚）。
※A種（t≧6㎜）　（表14.2.2）
※B種（6㎜＞t≧3.2㎜）
※C種（3.2㎜＞t≧1.6㎜）
※溶融亜鉛めっきの素地ごしらえはJIS　H　9124溶融亜鉛めっき作業標準による。
※溶融亜鉛めっきの高力ボルト（亜鉛めっきボルトF8T）摩擦面の処理
（※ブラスト処理　・りん酸塩処理）

⑪．スタッドボルト

※図示による

12．仮組み

※行わない　・行う

⑬．高力ボルト接合

※スプライスプレートの材質
※鋼材の鋼種はSN－Bとし、引張強さによる。区分は母材と同等とする。
※フィラープレートの材質
※SS400とする。

施工者による品質管理

①　ISO品質管理責任者

※施工者は自社のISO900システム等を活用し、品質管理責任者の指導により、一度指摘された事項が発生しないようにすること。

②　専門技術者による作業所への支援

※以下の項目について、作業所スタッフ以外の専門技術者が、施工計画の立案を作業所と協力して行い、施工計画書に確認印を押印する。
⊙杭工事施工計画（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
※コンクリート打設計画、ジャンカ・コールドジョイント・ひび割れ等の補修要領（基礎梁及び柱壁立上りの打設第一回目に立会いする）
・マスコンクリート温度ひび割れ解析、施工計画、温度測定計画
⊙鉄骨溶接部（工場・現場共）の品質管理（工場中間検査、製品検査及び現場溶接開始時に立会う）
⊙特殊工法の施工計画・品質管理
（　木質構造部建方計画、耐震パネル精度管理　）

③　現場キックオフミーティング

※躯体の品質管理の関わるキックオフミーティングを（※行う　・行わない）
※出席者は、監督員、構造設計者、監理者、現場品質管理責任者、作業所スタッフ、上記専門技術支援者とする。
※監理者もしくは構造設計者より、品質管理上の注意事項の伝達、提出書類リスト・立会い検査項目リストの運用方法の説明を行う。
※施工者より、自社ISOシステムによる品質管理方法及び不具合再発防止策の説明を行う。施工者名技術支援者より、今回物件に対応した重点品質管理項目及びその方法について説明を行う。

4．　その他特記事項

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

設備との取合い

①　機械基礎

※建築工事施工者は、設備工事業者と打合せの上、機械基礎の位置・寸法・機器運転重量・設計水平震度等を施工図に反映して監理者を経由して監督員の承諾を得ること。

②　設備貫通孔

※建築工事施工者は、設備工事業者と打合せの上、梁・壁・スラブの貫通孔の位置・径・レベル等を施工図に反映して監理者を経由して監督員の承諾を得ること。
※伏図・軸組図・平面図・立面図等の図示に無い設備による大開口（ガラリ・ダクト等）や、多数の開口が並ぶ箇所が発生した場合は、監督員及び監理者と協議の上、補強等対策を行うこと。

③　埋込み配管

※スラブ内に埋込む配管・ケーブル類の径はスラブ厚の1／4以下とし、間隔は径の3倍以上のピッチかつ、5㎝以上のあきを確保すること。特に、EPS廻り等で、埋込む配管・ケーブル類が集中する箇所は、監督員及び監理者と協議の上、スラブを下げて打しコンクリート内に埋込む等の処置を行うこと。

④　設備業者による工事に関する注意事項

※設備工事業者が鉄筋コンクリート造部分の貫通孔補強工事を施工する場合は、必ず建築工事施工者が検査し、補強方法・かぶり等不具合があった場合は是正を行うこと（費用等は各業者間で調整のこと）。
※設備工事業者が鉄骨に設備機器・配管・ラック類を取付けるため、やむを得ず現場で溶接を行う必要が生じた場合は、監理者を経由して監督員の承諾を得た上で溶接すること。溶接後は必ず建築工事施工者が検査し、溶接等不具合があった場合は是正し、かつ、錆止塗装・仕上塗装タッチアップは全て建築工事施工者が行うこと（費用等は各業者間で調整のこと）。

5．　その他特記事項

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

諸官庁との対応

①　諸官庁への届出

※諸官庁への提出書類は遅滞なく提出すること。

2．　その他特記事項

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

諸試験・諸検査

①　第三者試験・検査機関

1　試験機関は、正確かつ公正な試験を実施するために必要な次に掲げる条件を備えるものとする。
（1）試験の対象となる工事に関して公正な立場にあること。
（2）試験の業務に関する専任の管理者を置いていること。
（3）試験の業務に関する資格等を有する専任の試験技術者及び試験実務担当者を置いていること。
（4）試験を実施するために必要な人員、機器及び設備を備えていること。
（5）試験を正確かつ公正に実施するため、適切に定められた試験業務管理基準によって試験業務をを運営していること。
2　普通コンクリートの場合で、設計基準強度（Fc）が36N／㎜²を超える高強度コンクリート（以下「高強度コンクリート」という。）の試験を実施する試験機関に必要な条件は、前項によるほか次に掲げる条件を備えるものとする。
（1）試験する高強度コンクリートに必要な試験の業務に関する資格を有する専任の技術者を置いていること。
（2）高強度コンクリートに対して充分な性能をもつ試験機及び必要な設備機器を備えていること。
（3）試験の信頼性を確保するため、試験に係わる供試体の作成、養生及び運搬等の業務を行う代行業者に対する審査基準を定めており、試験を受託する場合は、その審査基準に適合する代行業者の供試体以外は受託しないこと。
※鉄骨工事における第三者試験・検査機関は上記条件を満足する他、鉄骨規準図による条件を満足すること。

3．　その他特記事項

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

埼玉県産業労働部産業拠点整備課						
課　長	副課長	主　幹	主　査	主　査	主　査	主　査

春日部市都市整備部鉄道高架整備課					
課　長					

特記・2010.4.7　見積用図面
・（この図面で施工しないで下さい）

株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.

	資格/番号	記名	捺印	製　図	検　図	納品検査
代表設計者	一級建築士 第239114号	石井　靖人				
担当設計者	一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号	塩手　博道		一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第1314号	丸谷　周平	

東部地域振興ふれあい拠点施設（仮称）
建築工事

図面内容	図面番号
特記仕様書　3 構造関係（第7章他）	2003
縮尺　N．S．	区分　建築構造図

その他工事全般に関する特記事項

※構造等

※工事種別

⊙新築　・増築　・改築　・移転

※増築計画

・有り　⊙無し

※架構型式

・X方向　ラーメン　構造（鉄骨造部），耐震壁構造（木質構造部）

・Y方向　ラーメン　構造（鉄骨造部），耐震壁構造（木質構造部）

※耐震構造方式

⊙耐震構造　・免震構造　・制振構造

※耐震安全性の分類

・Ⅰ類（1=1.50）　⊙Ⅱ類（1=1.25）　・Ⅲ類（1=1.00）

※構造計算条件

a　耐震設計条件

地震荷重	建築一次固有周期		（　0.7　）秒
	地盤種別		第（　2　）種地盤
	地域係数		Z＝1.0
計算ルート	X方向		※許容応力度計算　（ルート　3　）
			・その他
			・
	Y方向		※許容応力度計算　（ルート　3　）
			・その他
			・
設計層間変形角	X方向	一次設計	1/200
		二次設計	1/75（鉄骨造部），1/50（木質構造部）
	Y方向	一次設計	1/200
		二次設計	1/75（鉄骨造部），1/50（木質構造部）

b　耐風設計条件

基準風速（Vo）	（　34　）m／秒
地表面粗度区分	・Ⅰ　・Ⅱ　⊙Ⅲ　・Ⅳ

c　耐積雪設計条件

建設地の標高	（　6.496　）m
多雪区域の指定	・有り　⊙無し
設計垂直積雪量	（　30　）cm

※施行令第１２９条の２の４の事項　　☑のある項目を適用する。

・建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

☑ 建築設備（昇降機を除く。）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽の恐れの無いものとすること。

□ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、構造耐力上主要な部分に、緊結すること。

□ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。

□ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

☑ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、

☑ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

☑ 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。

☑ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。

☑ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

□ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上からの突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあっては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。

☑ 設備機器の固定等は、「国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修(建築設備耐震設計・施工指針　2005年版)」により行う。ただし、設計用地震力(水平及び鉛直)は次の設計用水平震度KH及び設計用鉛直震度Kv（KH/2）を用いて計算する。設計用水平地震力と設計用鉛直地震力は同時に作用するものとする。

設計用標準水平震度

設置場所	機器種別	⊙ 特定の施設		・ 一般の施設	
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階 屋上及び塔屋	機器	2.0	1.5	1.5	1.0
	防振支持の機器	（2.0）	2.0	（2.0）	（1.5）
	水槽類　（※１）	〈2.0〉	〈1.5〉	〈1.5〉	1.0
中間階	機器	1.5	1.0	1.0	0.6
	防振支持の機器	（1.5）	（1.5）	（1.5）	（1.0）
	水槽類　（※１）	〈1.5〉	〈1.0〉	〈1.0〉	〈0.6〉
地下・１階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4
	防振支持の機器	（1.0）	（1.0）	（1.0）	（0.6）
	水槽類　（※１）	〈1.5〉	〈1.0〉	〈1.0〉	〈0.6〉

（注）　（　）内の数値は防震支持の機器の場合に適用する。
〈　〉内の数値は水槽類に適用する。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記・2010.4.7　見積用図面 ・（この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人	製図	検図	納品検査
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査 主査	課長			担当設計者 一級建築士 第233543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道	一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号 丸谷 周平		

東部地域振興ふれあい拠点施設（仮称）
建築工事

図面内容	特記仕様書　4 構造関係（第７章他）
縮尺	Ｎ．Ｓ．
図面番号	2004
区分	建築構造図

構造用木材工事共通仕様書

共通事項

1．　適用範囲

本仕様書は、構造用木材を構造上主要な部分に用いた木質構造工事に適用する。

2．　一般事項

a. 木材や接合金物などの製作にあたっては、製作要領書を作成し監理者を経由して監督員の承諾を受けること。

b. 建方に先立ち、必要な製作図とともに建方要領書を作成し、監理者を経由して監督員の承諾を受けること。

c. 構造用木材工事を請負うものは、「ISO9000シリーズ」による品質システムを審査登録していること。

1　エンジニアリングウッドや接合金物などの部材の品質

①. 一般事項

日本農林規格による構造用集成材、構造用単板積層材及び構造用製材と同等以上とする。

②. 構造用集成材

a．集成材の品質は、平成８年農林水産省告示第111号「構造用集成材の日本農林規格」による。

b．樹種　・ベイマツ　※国産カラマツ　※国産スギ　・他（　　　）

c．等級　※対称異等級構成集成材
- ※E105-F300（国産カラマツ）
- ※E 65-F220（国産スギ）

※同一等級構成集成材
- ※E105-F345（国産カラマツ）
- ※E 65-F255（国産スギ）

d．材面の品質　※２種　・３種

e．ラミナの縦継ぎは、フィンガージョイント,またはこれと同等以上の接合性能を有するものとする。

f. 接着剤　※レゾルシノール系樹脂接着剤とする。

g. 使用環境　・Ⅰ　⊙Ⅱ　※Ⅲ

③. 構造用単板積層材

a．単板積層材（以下LVL）は、平成３年農林水産省告示第１４９４号「構造用単板積層材の日本農林規格」による。

b．樹種　※国産カラマツ　※国産スギ

C．等級
- 曲げ　※100E-375F（国産カラマツ）　※ 60E-225F（国産スギ）
- せん断　※ 50V- 43H（国産カラマツ）　※ 30V- 35H（国産スギ）

d．材面の品質　・等級　※１級　・２級

e．使用環境　・Ⅰ　⊙Ⅱ　※Ⅲ

④. 構造用製材

a．構造用製材は、平成３年農林水産省告示第１４３号「針葉樹の構造用製材の日本農林規格」による。

b．樹種　※国産スギ

c．等級　※甲種３級

⑤. 接合金物

品質　※JIS G 3101（一般構造用圧延鋼材）　※SS400　・他（　　　）

⑥. 普通ボルト・ナット

特記ない限り、下記に示す規格品とする。

⊙JIS B 1180（六角ボルト）、JIS B 1181（六角ナット）　4Tとする。

7．高力ボルトセット

特記ない限り、下記に示す規格品とする。

⊙トルシア形　高力ボルト
JSSⅡ09（構造用トルシア形高力ボルト・六角ナット・平座金のセット）S10Tとする。

⊙JIS形　高力ボルト
JIS B 1186 2種（摩擦接合用高力六角ボルト:F10T・六角ナット:F10・平座金:F35のセット）とする。

⊙溶融亜鉛メッキ高力ボルト
溶融亜鉛メッキ高力ボルト 1種（高力ボルト:F8T・六角ナット:F10・平座金:F35のセット）とする。

⑧. 木用座金

⊙特記なき限り、普通ボルトに使用する座金の寸法・厚さは下記による。（単位：mm）

ボルト径	12	16	20	24
座金の厚さ	3.2	4.5	6	6
角座金の一辺	35	50	60	70
丸座金の直径	40	60	70	80

引張りボルトに使用される座金の寸法および厚さは、下記による。（単位：mm）

ボルト径	12	16	20	24
座金の厚さ	6	9	9	13
角座金の一辺	60	80	105	125
丸座金の直径	70	90	120	140

⑨. ラグスクリュー

⊙材質 JIS G 3507（冷間圧延用炭素鋼線材SWRCH10R）と同等以上とする。
⊙形状、寸法は特記による。

⑩. ドリフトピン

⊙特記なき限り、品質はJIS G 3191の丸鋼と同等以上とする。
⊙形状、寸法は特記による。

2　接着接合

1．適用範囲

・構造用集成材に構造用接着剤を用いて、二次接着により制作される接合部材に適用する。

2．接着剤

・構造用接着剤はJIS K 6802（フェノール樹脂木材接着剤）又はこれと同等以上の性能を有する接着剤とする。

3．被着材

⊙被着材は１．２構造用集成材とする。

4．圧締等

⊙圧締方法、養生方法及び接着確認方法については、季節、現場の状況等によって異なる為、予め組立（接着）要領書を作成し管理者を経由して監督員の承諾を受ける。

3　製作（以下「集成材」は「集成材、単板積層材及び製材」に置き換える。）

①. 製作図

⊙製作図は、設計図書をもとに全体の納まりや詳細などについて十分検討した上で作成し監理者を経由して監督員の承諾をうける。

②. 鋼製巻尺の確認

⊙鋼製巻尺は、JIS B 7512（鋼製巻尺）による１級品を用いる。
⊙同一工事に用いる巻尺は、それらの相互の誤差の少ないものを使用する。

③. 工作図、現寸図

⊙製作図だけで部材作成が困難な場合は工作図を作成する。
⊙必要に応じ現寸図を作成し、型板・定規を作成する。
もしくは、ＣＡＤによる現寸シートを型板・定規とする。

④. 墨付け

⊙墨付けは工作図にしたがって、定規・型板および鋼製巻尺を用いて行なう。

⑤. 集成材部材の寸法精度

⊙製品の寸法精度は下記による。
- a．短辺　製作図寸法の±1.5mm以内
- b．長辺　製作図寸法の±1.5%以内（ただし±5mm以内）
- c．材長　材長6m未満の場合　製作図寸法の±3mm以内
  材長6m以上の場合　製作図寸法の±5mm以内かつ±1/2000以内
- d．断面直角度　±1/100以内

⑥. 集成材部材のボルト ラグスクリュー ドリフトピン穴

⊙穴径

ボルトの公称軸径ｄに対する集成材の穴径は下記による。
- ボルト　ｄ＋1　mm　（12mm未満）
- ｄ＋1.5　mm　（12mm）
- ｄ＋2　mm　（16mm以上）
- ドリフトピン　ｄ±0
- ラグスクリュー　ｄ±0mm（胴部穴、ｄ>=20、またはｄ>=16かつＬ>150の場合）
  ｄ×（0.6～0.7）mm（ネジ部先穴）

⊙精度

穴あけの許容差は下記による。
- 穴の芯ずれ　±2　mm　以内
- 穴間隔ずれ　±2　mm　以内

⑦. 集成材の面取り

特記なき限り大梁等の面取りは下記とする
- ※角面取り　3mm（下記以外）
- ※Ｒ面取り　9mm（梁せい　1000mm以上）
- ・糸面取り

⑨. 集成材部材の養生塗装

⊙素地調整
塗装前に塗装面のよごれ、付着物等を除去する。
⊙塗装の種類により定められた量を下塗りし、塗布後十分に乾燥するまで養生する 。
⊙工場塗布
- ・無塗装
- ※木材保護塗料 １回塗り
- ・他（　　　）回塗り

⑩. 接合金物の寸法精度

製品の寸法精度はJASS 6（建築工事標準仕様書　鉄骨工事）による。

⑪. 接合金物のボルト ドリフトピン穴

⊙穴径

公称軸径ｄに対する接合金物の穴径は下記による。
ボルト、ドリフトピン
ｄ＋0.5 mm

⊙精度

穴あけの許容差は下記による。
- 穴の芯ずれ　±0.5 mm　以内
- 穴間隔ずれ　±0.5 mm　以内

⑫. 接合金物の溶接

⊙溶接工は、下記によるいずれかの者とする。
JIS Z 3801（手溶接技術検定における試験方法及び判定基準）の有資格者
JIS Z 3841（半自動溶接技術検定における試験方法及び判定基準）の有資格者
⊙溶接工の技量に疑いを生じた場合は工事に相応した試験をおこない、その適否を決める。

⑬. 接合金物等の防錆処理（塗装については、工場塗装範囲を記す。）

(1) 接合部

ⓐ．屋内
- ※JIS K 5625（シアナミド鉛錆止めペイント）２種　1回
- ・JIS H 8641（溶融亜鉛メッキ）２種
- ・HDZ35
- ・HDZ55
- ⊙他（ JIS　K 5674 ）

b．屋外
- ・JIS K 5625（シアナミド鉛錆止めペイント）２種　回
- ※JIS H 8641（溶融亜鉛メッキ）２種
- ・HDZ35
- ※HDZ55
- ・他（　　　）

(2) ボルト

ⓐ．屋内
- ※JIS H 8610（電気亜鉛メッキ）
- ・JIS H 8641（溶融亜鉛メッキ）２種
- ・他（　　　）
  （　　　）

b. 屋外
- ・JIS H 8610（電気亜鉛メッキ）
- ※JIS H 8641（溶融亜鉛メッキ）２種
- ・他（　　　）
  （　　　）

4　検査

①. 一般事項

⊙検査は、あらかじめ定められた項目、方法により行う。
⊙検査の結果、発見された不良箇所は速やかに補正を行う。但し、重大な不良箇所の処置については監督員及び監理者と協議する。
⊙係員の要請があった場合、検査記録を提出して監理者を経由して監督員の承諾を受ける。

②. 検査の項目

⊙外観
部材表面のきず、接合金物の外観などを確認する。
⊙形状、寸法
部材長さ、部材寸法を計測し、断面直角度を確認する。
⊙取合い部
主要部材については現場建方に支障がないよう、ボルト穴径、ボルト穴間隔を確認する。

5　発送

①. 輸送計画

⊙製品の輸送にあたっては、建方計画に支障の生じないように道路状況、現場の作業手順などを考慮し、十分な検討を行う。

②. 合番記号

⊙部材にはすべて、合番図（部材番号、取合い符号などを記入）に従い記号をつける。

③. 輸送

⊙積込み、積降しまたは輸送中に、製品がひずみ・変形などを生じないように荷台を調整し長尺物、異形物などは適切な養生方法を施す。

6　建方

①. 一般事項

⊙建方計画にあたっては、建方精度に規定する諸寸法を保持するよう部材の組立て順序を立案しあわせて作業期間中の安全を考慮する。
⊙建方に用いる機械は、最大吊荷重、作業半径および建物の規模・形状により最適機種を選定しその機械の特性に適した使用法を計画するとともに、不慮の衝撃などに対しても安全であるようにする。
⊙建方作業中における仮設用の機械、資材の仮置きおよび強風時に各部材・接合部に生ずる応力に対しては、短期許容応力度を超えないようにし、倒壊防止に有効な措置を施す。

②. 搬入および仕分け

⊙製品の受入れにあたっては、工場からの送り状と照合し、数量を確認する。
⊙製品は、建方順序に従い仕分けして集積する。
⊙集積の際、部材は適当な受台の上置き、材に曲り、ねじれなどの損傷を与えないように注意する。

③. 地組

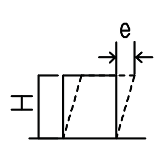
⊙建方に先立って地組を行う場合は、寸法精度を保持するために有効な荷台・治具などを用いて行う。

④. 建方

⊙建方計画に基づき、順次建方を行う。この際原則として、筋かい、方づえなどの斜材を同時に取付けながら進める。
⊙必要に応じて仮設支柱を立てて架構を保持する。この仮設支柱は本接合が完了するまで存置する。
⊙建方完了後または定められた工程の建方完了時に、建入の確認を行い、本締を行う。
⊙建方の精度基準は特記による。特記がない場合は下記による。

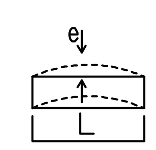
① 建物の倒れ

$e \le \frac{H}{2,500} + 10$ mm
かつ
$e \le 15$ mm

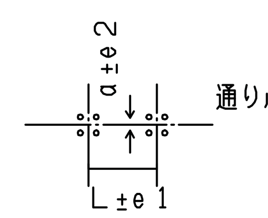


② 建物のわん曲

$e \le \frac{L}{2,500}$
かつ
$e \le 20$ mm



③ 柱据付け面の高さおよびアンカーボルトの位置
- ・柱据付け面の基準高さからの誤差は±２ mm以下
- ・柱隣接間中心距離の誤差ｅ１は±１ mm以下
- ・通り芯からの誤差ｅ２は±２ mm以下



7　測定

①. 測定の項目

⊙合板施工後の木造階床の振動測定を行う。
⊙合板施工後の木造階床の重量衝撃音の測定を行う。
⊙木造階のEV鉄骨枠を仮設で木造床に接続した場合のEV振動測定を行う。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記
課長 / 副課長 / 主幹 / 主査 / 主査 / 主査	課長	・2010. 4. 7　見積用図面（この図面で施工しないで下さい）

株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.

	資格/番号 記名 捺印	製図	検図	納品検査
代表設計者	一級建築士 第239114号 石井 靖人			
担当設計者	一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道 / 一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号 丸谷 周平			

東部地域振興ふれあい拠点施設（仮称）
建築工事

図面内容	図面番号
木工事特記仕様書	2005
縮尺 N.S	区分 建築構造図

1. 総則及び一般事項

1-1 目 的　本鉄筋規準図は、建築設計図に示す鉄筋の加工・組立て、標準配筋要領等を規定する。

1-2 適用範囲　本規準図の適用範囲は、地階の無い鉄骨造（S造）の鉄筋コンクリート造の部分に適用する。

1-3 優先順位　設計図書中の構造関係の優先順位は、次の通りとする。
（1）現場説明書（見積要項書含む）及び質問回答書
（2）基本仕様書
（3）特記仕様書
（4）設計図（本鉄筋規準図以外）
（5）鉄筋規準図
（6）適用共通仕様書・標準仕様書

1-4 材 料
（1）鉄筋は JIS G3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）の規格品とする。
（2）溶接金網は JIS G3551（溶接金網）の規格品とする。

1-5 鉄筋の表示

表1-5 鉄筋の断面表示

異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
記　号	●	×	⌀	●	○	⊙	⊗	◎	⌀	⌀	◇

1-6 鉄筋の折曲げ

表1-6-1 鉄筋の折曲げ（末端部）

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D) SD295A SD295B SD345 D16以下	D19～D38	SD390 D10～D38	使用箇所
180°	4d以上	3d以上	4d以上	5d以上	柱・梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以下の鉄筋
135°	6d以上	3d以上	4d以上	5d以上	あばら筋、帯筋、スパイラル筋 D13以下の鉄筋
90°	10d以上	3d以上	4d以上	5d以上	t形及びL形の梁のあばら筋
135°及び90°	4d以上	3d以上	4d以上	5d以上	90° 135° 幅止め筋 壁及び片持床版の末端部 壁及び床版の開口部により切断される鉄筋

表1-6-2 鉄筋の折曲げ（中間部）

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D) SD295A,SD295B SD345,SD390 D16以下	D19～D25	D29～D38	使用箇所
90°以下		3d以上	4d以上	－	あばら筋、帯筋 スパイラル筋
90°以下		4d以上	6d以上	8d以上	その他の鉄筋

注1）dは鉄筋の径（呼び名の数値）とする。

1-7 末端部にフックを必要とする鉄筋
（1）基礎部柱型の四隅にある主筋（図1.7の●印）
（2）根巻きコンクリート立上り主筋全て
（3）あばら筋及び帯筋
（4）煙突の鉄筋
（5）その他本規準図で示した箇所

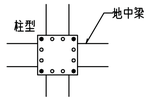


図1-7

1-8 鉄筋の定着及び継手の長さ

表1-8-1 鉄筋の定着及び継手長さ（Fc：コンクリートの設計基準強度）
18＜Fc≦27N/mm²の場合

	鉄筋の種類	L1	L2	L3 小梁	L3 床版
フックなし	SD295A SD295B SD345	40d	35d	25d	10d かつ 150mm 以上
フックなし	SD390	45d	40d	25d	10d かつ 150mm 以上
フックあり	SD295A SD295B SD345	30d	25d	15d	－
フックあり	SD390	35d	30d	15d	－

注1）dは鉄筋の径（呼び名の数値）とする。
2）L1：重ね継手及び下記L2,L3以外の定着長さ。
L2：割裂破壊のおそれのない箇所への定着長さ。
L3：小梁及びスラブの下端筋の定着長さ。ただし、べた基礎の耐圧版及びこれを受ける地中小梁の下端筋の定着長さは2-1及び3-1による。
3）フック部分は定着及び重ね継手の長さに含まない（図1-8-2）。
4）直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは細い方の鉄筋の径による。
5）重ね継手及びガス圧接の適用範囲は、表1-8-2による。
6）隣合う継手の位置は、表1-8-3による。ただし壁・床版の場合を除く。
7）溶接金網の継手及び定着は図1-8-1 による。
8）Fc=18N/mm²の場合の場合、左表のL1,L2に5dを加えるを加える。また、Fc>27N/mm²の場合の場合、左表のL1,L2に5dを減じてもよい。
9）地中梁主筋の柱型への定着方法は、図1-8-3による。

表1-8-2 鉄筋の種類に応じた継手工法

鉄筋の種類	適用径の範囲 重ね継手	ガス圧接継手	溶接継手
SD295A	D16以下	—	1-9による
SD295B SD345 SD390	原則として、D16以下とする。ただし、基礎・耐圧版・床版・壁等の場合はD25以下とする。	D19以上	

表1-8-3 隣合う継手の位置（壁・床版を除く）

フックのある場合	a=0.5L	a≧0.5L
フックのない場合	a=0.5L	a≧0.5L
圧接継手及び機械式継手	圧接継手 a≧400mm	カップラー（機械式継手） a≧400mmかつ a≧(b+40)mm

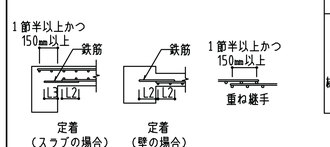


図1-8-1 溶接金網の継手及び定着

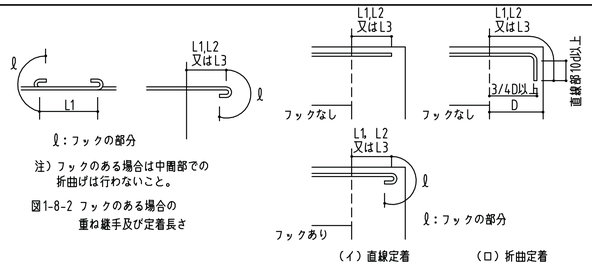
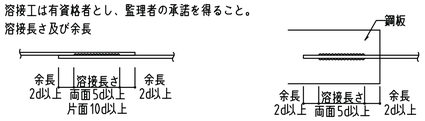


図1-8-2 フックのある場合の重ね継手及び定着長さ
図1-8-3 地中梁主筋定着方法

1-9 溶接継手
（1）適用範囲
SD295A,SD295B,SD345のD16以下に適用する。
（2）溶接材料及び施工
鉄骨工事の項に準ずる。
（3）溶接工
溶接工は有資格者とし、監理者の承諾を得ること。
（4）溶接長さ及び余長



注）溶接要領は鉄骨規準図による。
図1-9 溶接長さ及び余長

1-10 特殊継手及び定着
1-8,1-9以外の継手及び定着を用いる場合は、建築センター評価を取得した工法（継手の場合A級以上）とし、監督員の承諾を得ること。

1-11 鉄筋及び溶接金網の標準かぶり厚さ

表1-11 標準かぶり厚さ

部位		かぶり厚さ(mm)
土に接しない部分	床スラブ 非耐力壁（立上り壁）	30
	根巻きコンクリート	40
	擁壁	50
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・壁・布基礎の立上り部分	50
	基礎・擁壁	70
煙突等高熱を受ける部分		60

注1）かぶり厚さの許容差は、左表の値に対して-10mm +15mmとする。
2）直接土に接する部分のかぶり厚さには捨コンクリートの厚さを含まない。
3）杭基礎のベース筋のかぶり厚さは杭天端からとする。
4）塩害を受ける恐れのある部分等、耐久性上不利な箇所のかぶり厚さは特記による。
5）左表による値の他、鉄筋径（呼び名の数値）の1.5倍以上のかぶりを確保すること（特に太物鉄筋を用いる場合注意する）。

1-12 鉄筋の周隔　鉄筋相互のあきは図1.10により次の値のうち最大のもの以上とする。
（1）粗骨材の最大寸法の1.25倍
（2）25mm
（3）鉄筋の径（呼び名の数値）の1.5倍

図1-12

1-13 その他鉄筋の加工・組立てに関する特記
・鉄筋には点付け溶接、アークストライクを行ってはならない。
・鉄筋の台直しは鉄筋の付け根で急に曲げないで勾配1/6以下のできるだけ長い距離で修正を行うこと（監督員の承諾を得ること）。

2. 基礎

2-1 基礎の配筋要領
（1）直接基礎

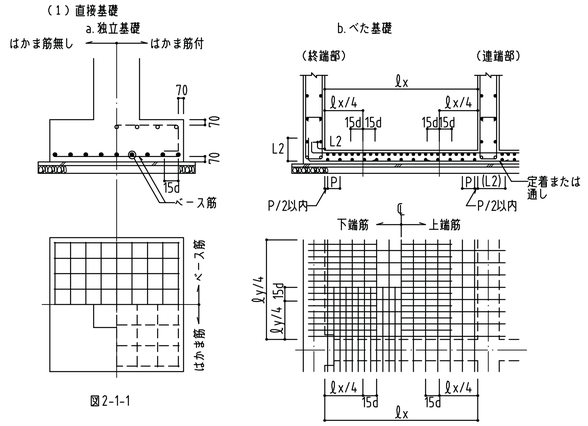


図2-1-1
図2-1-2

c. 連続基礎（布基礎）

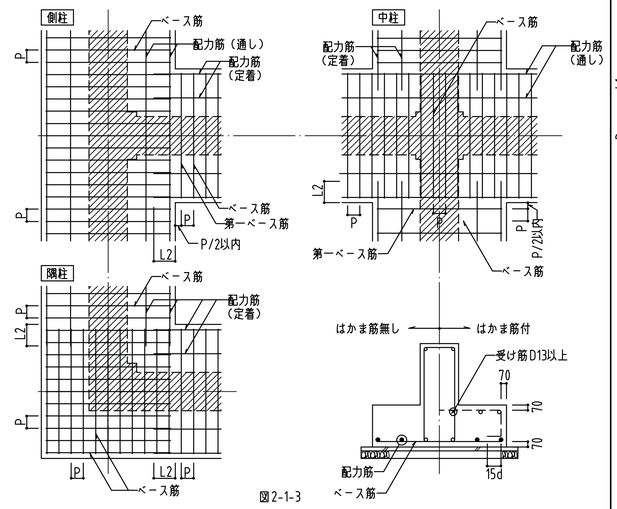


図2-1-3

注1）連続基礎の中柱交差部及び側柱交差部においては、一方向のベース筋を連続して（設定ピッチPで）配置する。隅柱交差部においては、両方向のベース筋を連続して（設計ピッチPで）配置する。

（2）杭基礎
a. 既製杭（2本杭以上）
※1本杭の場合はbに準ずる
b. 場所打コンクリート杭

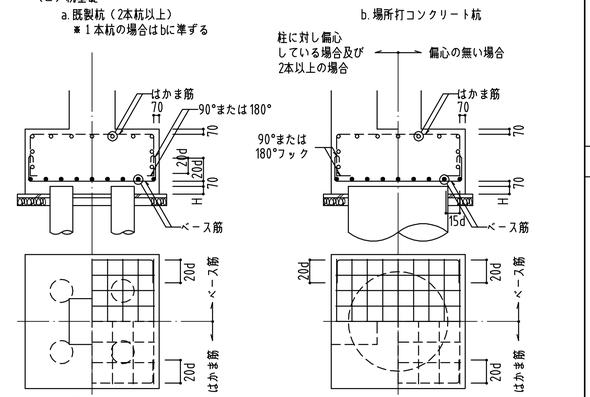


図2-1-4
図2-1-5

注1）ベース筋の径・本数は図示による。原則としてベース筋は継手を設けず、通し筋とする。
2）はかま筋及び布基礎の配力筋の径・本数は図示による。図示の無い場合はD13-@300以内とする。
3）ベース筋端部の立上り(20d)の有無及びはかま筋の有無は図示による。
4）捨コンクリート及び地業の厚さは図示による。図示のない場合は捨コンクリート・地業共50mmとする。
5）杭頭のフーチング内への埋め込み深さ(H)は図示による。図示の無い場合はH=100mmとする。

2-2 杭頭の補強
杭頭の補強要領は図示による。図示の無い場合は下記による。
（1）PHC杭（H：杭の埋め込み深さ、D：杭径）

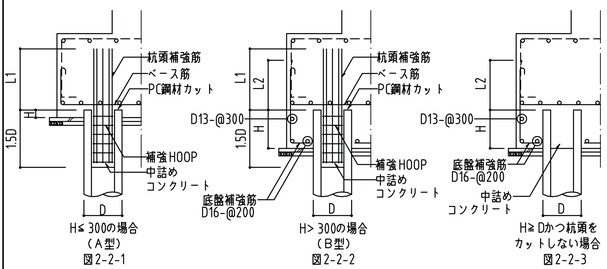


図2-2-1
図2-2-2
図2-2-3

注1）杭頭補強筋及び補強HOOPは図示による。図示の無い場合は表2-2による。

表2-2 杭頭補強筋及び補強HOOP（PHC杭B種、軸力N=0t、杭頭固定の場合）

杭径	杭頭補強筋	補強HOOP	杭径	杭頭補強筋	補強HOOP
300φ	6-D13	D10-○@100	600φ	8-D25	D10-○@100
350φ	6-D19		700φ	10-D25	
400φ	6-D22		800φ	13-D25	
450φ	7-D22		900φ	16-D25	D13-○@100
500φ	8-D22		1000φ	20-D25	

（2）SC杭（H：杭の埋め込み深さ、D：杭径）

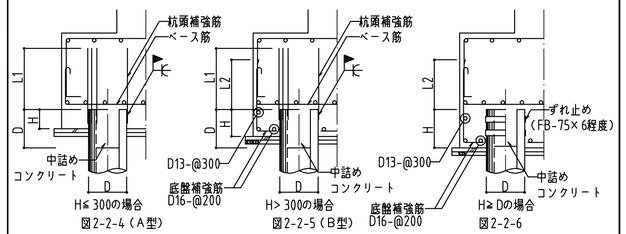


図2-2-4（A型）
図2-2-5（B型）
図2-2-6

注1）杭頭補強筋の径及び本数は図示による。
2）杭頭補強筋の溶接は両面フレアーグルーブ溶接とし、溶接長は図示による。図示の無い場合両面5dかつ100mm以上とする（1-9参照）。
（3）鋼管杭の杭頭補強要領は図示による。

2-3 杭が所定の位置より深く止まった場合の処理
杭が所定の位置より深く止まった場合の処理は監督員の指示による（下記を参考にする）。
（H：杭の埋め込み深さ、D：杭径、h：杭の下がり量）

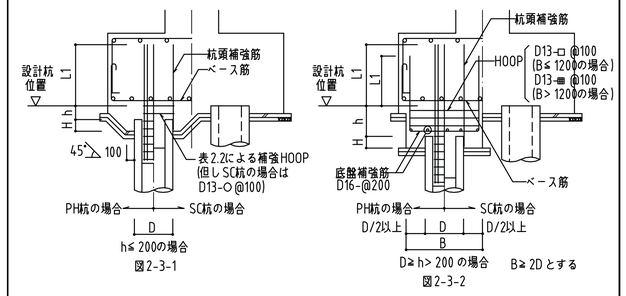


図2-3-1
図2-3-2

3. 地中梁

3-1 主筋の定着及び継手（主筋の柱への定着は本図の他、図1-8-3参照）
（1）独立基礎の場合
（2）連続基礎及びべた基礎の場合

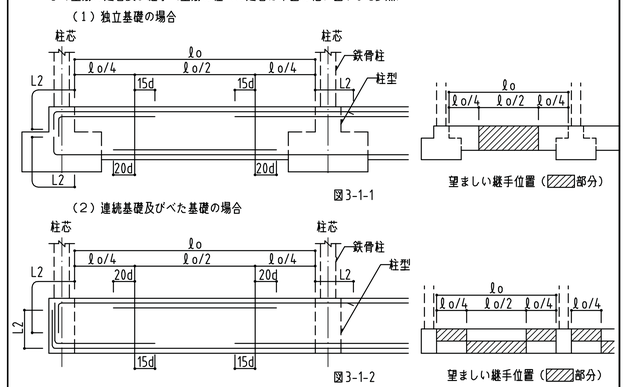


図3-1-1
図3-1-2

3-2 あばら筋、腹筋、巾止筋の割付

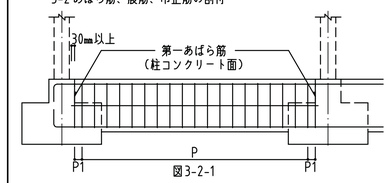


図3-2-1

注1）P1≦Pとする（P：あばら筋ピッチ）。
2）腹筋の割付は本数は図示による。図示の無い場合は表3-2による。
3）巾止筋は図示の無い限りD10-@1,000以下とする。

表3-2 地中梁腹筋の割付け本数

梁成	腹筋
D＜600	不要
600≦D＜900	1段-2-D13(2-D13)
900≦D＜1200	2段-2-D13(4-D13)
1200≦D＜1500	3段-2-D13(6-D13)
1500≦D＜1800	4段-2-D13(8-D13)

以後、梁成が300増す毎に1段増やす。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記・2010.4.7 見積用図面（この図面で施工しないで下さい）
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査	課長	

株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.

	資格/番号	記名	捺印	製図	検図	納品検査
代表設計者	一級建築士 第239114号	石井 靖人				
担当設計者	一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第61449号	塩手 博道		一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第13149号	丸谷 周平	

東部地域振興ふれあい拠点施設（仮称）建築工事

図面内容	図面番号
構造鉄筋規準図（1）	2006
縮尺 N.S.	区分 建築構造図

3-3 あばら筋、巾止筋の加工

（1）あばら筋

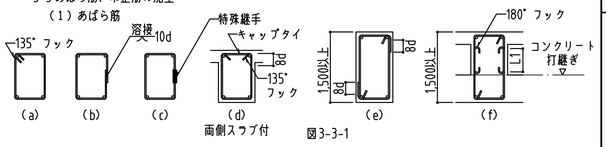


図3-3-1

注1）両側スラブ付きの場合のあばら筋は（d）タイプとしてよい。

2）梁成が1500㎜を超える場合のあばら筋は（a）～（d）によるほか、（e）、（f）とすることができる。

（2）副あばら筋

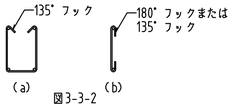
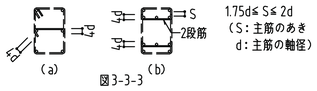


図3-3-2

（3）巾止筋 2段筋受用巾止筋



1.75d≦S≦2d
（S：主筋のあき
d：主筋の軸径）

図3-3-3

3-4 梁成が一定でない場合の主筋の配置・定着及びあばら筋の割付

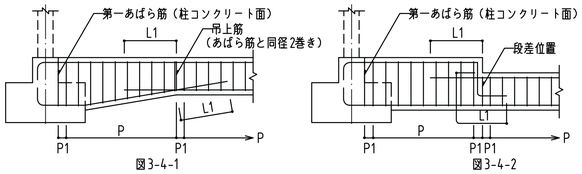
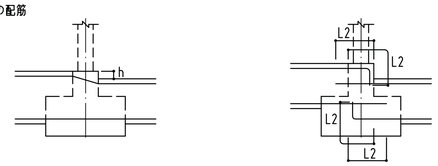


図3-4-1　図3-4-2

注1）P1≦Pとする（P：あばら筋ピッチ）。

3-5 段違い梁の配筋



（1）h/D≦ /6の場合
図3-5-1

（1）h/D> 1/6の場合
図3-5-2

注1）h/D≦ 1/6の場合でも、図3-5-2としてよい。

3-6 片持梁の配筋

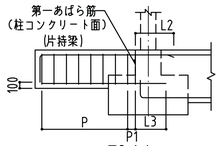


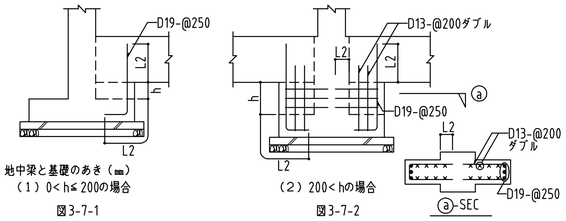
図3-6-1

注1）P1≦Pとする（P：あばら筋ピッチ）。

2）片持梁と地中梁は互いに引き通して定着してもよい。

3）上端主筋は片持梁先端部において、梁底から10㎜程度の位置まで垂直におろす。

3-7 基礎・地中梁接合部の補強



h：地中梁と基礎のあき（㎜）

（1）0< h≦ 200の場合
図3-7-1

（2）200< hの場合
図3-7-2

注1）補強部の厚さは原則として梁巾と同厚とし、縦補強筋は□型加工とする。

4. 基礎部柱型

4-1 主筋、帯筋の配筋

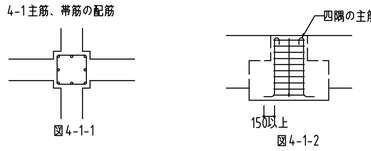


図4-1-1　図4-1-2

注1）柱型の断面寸法は図示による。

図示の無い場合は、取り付く地中梁幅+100㎜以上として監督員の承諾を得ること。

2）主筋、帯筋の径・本数・ピッチは図示による。

図示の無い場合は、主筋D19-@200以内、帯筋D13-□@150とする。

4-2 帯筋の加工

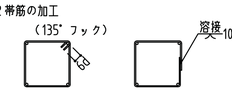


図4-2

5. 柱脚部（間柱を除く）

5-1 根巻き形式柱脚

D：柱幅

H：根巻き高さ

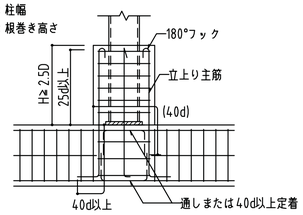


図5-1-1

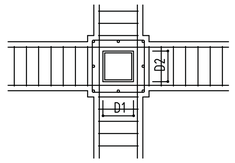


図5-1-2

注1）柱幅DはD1、D2のうち大きい方の値とする。

2）根巻きコンクリートの寸法、主筋、あばら筋等は図示による（根巻き高さについては、上図で規定された高さ以上であることを確認すること）。

5-2 埋込み形式柱脚

D：柱幅

h：埋込み深さ

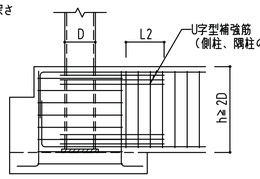
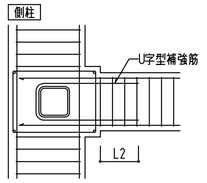


図5-2-1



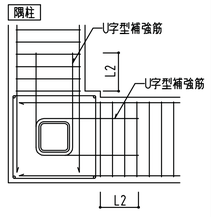


図5-2-2

注1）鉄筋工事に先立ち、配筋要領詳細図を作成し、地中梁主筋、U字型補強筋等の納まりを検討した上で監理者の承認を得ること。

2）柱の埋込み深さ・かぶり厚さ等は図示による。

（埋込み深さについては上図で規定された深さ以上であることを確認すること）。

3）U字型補強筋の径及び本数は図示による。

図示の無い場合は下記による（⊙印で示す）。

上端筋位置・主筋と同径（　）本

・（　）本-（D　）

下端筋位置・主筋と同径（　）本

・（　）本-（D　）

4）U字型補強筋は極力地中梁主筋上端及び下端位置附近に設けること。

5）地中梁主筋径がU字型補強筋の径よりも太い場合、主筋をU字型定着としてU字型補強筋の本数に加算してもよい。

6. 小梁

6-1 小梁主筋の継手及び定着

（1）小梁主筋の端部、中央の配筋（連続梁、単純梁共通）

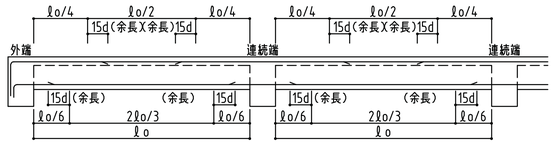


図6-1-1

（2）小梁主筋の定着

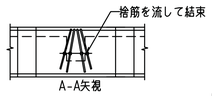
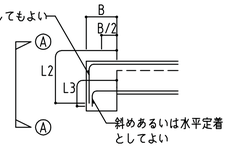
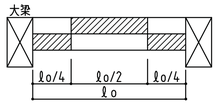


図6-1-2



（3）主筋の継手位置



望ましい継手位置（▨部分）

図6-1-3

6-2 あばら筋、腹筋、巾止筋の割付

（1）あばら筋の割付は地中梁の項（3-2）に準ずる。

（2）腹筋の割付け本数は図示による。図示の無い場合は表6-2による。

（3）巾止筋は図示の無い限りD10-@1,000以下とする。

表6-2 小梁、地中小梁腹筋の割付け本数

梁　成	腹　筋
D< 600	不　要
600≦ D< 900	1段-2-D10(2-D10)
900≦ D< 1200	2段-2-D10(4-D10)
1200≦ D< 1500	3段-2-D10(6-D10)

以後、梁成が300増す毎に1段増やす。

7. 床版　（鉄骨梁と取り合う床版は 9鉄骨との取り合いによる）

7-1 一般事項

（1）配筋可能な限り、継手は設けない加工とする。

（2）主力筋は上下端筋共、配力筋の外側に配筋する。

（3）この章を通して、図中の記号は下記による。

ℓx：主力筋方向有効内法スパン

ℓy：配力筋方向有効内法スパン

P：スラブ配筋間隔

<D13>：D13かつ受けるスラブの主筋径以上

（4）スラブ内に継手を設ける場合は、図7-1に示す。

上端筋（主力筋方向-Ⓑ、Ⓓ配力筋方向-Ⓐ、Ⓑ

下端筋（主・配力筋共-Ⓐ、Ⓒ、Ⓓ）の範囲内とする。

（5）受け筋<D13>でスラブ上端筋の受け筋はバーサポートを用いて位置を確保する。

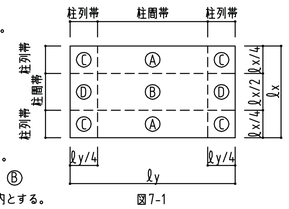


図7-1

7-2 主筋配筋要領

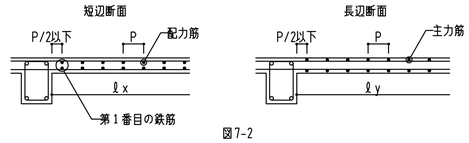


図7-2

7-3 定着長さ及び受け筋

定着長さ及び受け筋は、図7-3-1による。ただし、引通すことができない場合は図7-3-2により梁内に定着する。

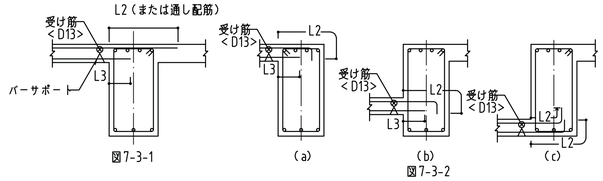


図7-3-1　図7-3-2

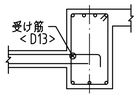


図7-3-3

注1）受け筋<D13>は梁内に設けてもよい。

7-4 段差のある床版

（1）段差（H）が150㎜以下の場合図7-4-1による。

（2）段差（H）が15㎜を越える場合は小梁を設ける。小梁断面は図示の無い場合は図7-4-2により、この場合の小梁への定着長さは上・下端筋共 L2とする。

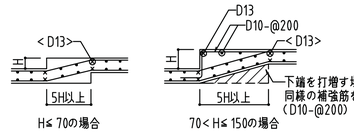


図7-4-1

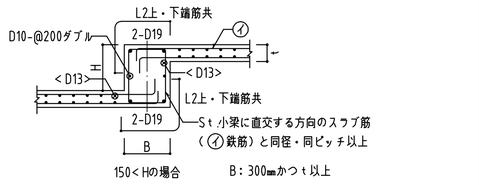


図7-4-2

7-5 両側の床版に高低差がある場合

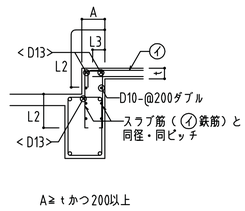


図7-5-1

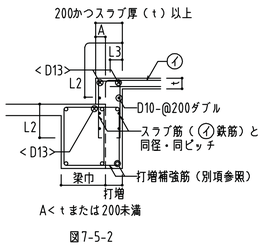
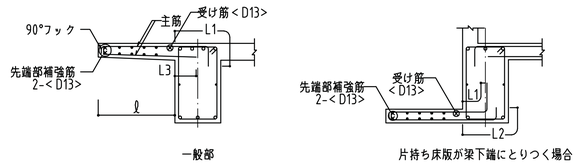


図7-5-2

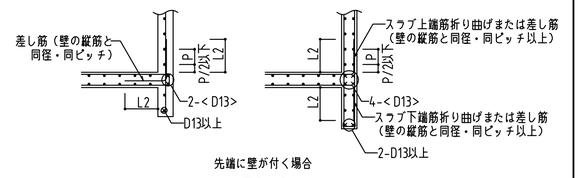
7-6 片持ち床版の基準配筋



一般部
図7-6-1

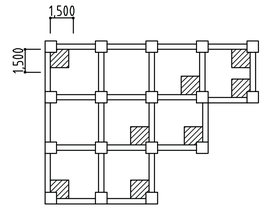
片持ち床版が梁下端にとりつく場合
図7-6-2

注1）スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。



先端に壁が付く場合
図7-6-3

7-7 出隅入隅部補強筋要領



▨部分の床版は、上端筋の間隔が@100以下となる様にD10を上端筋の間に割り付ける。その範囲は梁面より1500以上とする。

図7-7

7-8 床版開口部の補強

床版開口部の補強は、特記による。特記がなければ、下記による。

（1）床版開口の最大径が700㎜以下の場合は、図7-8-1により開口によって切られる鉄筋と同量かつ2-<D13>以上の鉄筋で周囲を補強し、隅角部斜め方向に<D13>シングルを上下筋の内側に配筋する。また、床版開口の最大径が両方向の配筋間隔以下の場合で図7-8-2により開口部を避けて配筋する場合は、補強を省略することができる。

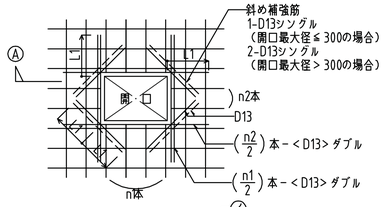


図7-8-1

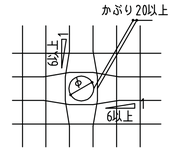


図7-8-2

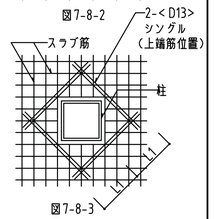


図7-8-3

（2）設備シャフト等開口が連続する場合は、

（1）による他、監督員及び監理者と協議のうえ補強方法を決定すること。

（3）鉄骨柱廻りの補強は、図7-8-3による。

（4）型枠撤去用等のダメ穴の補強は、図7-8-4による。

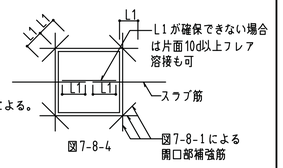
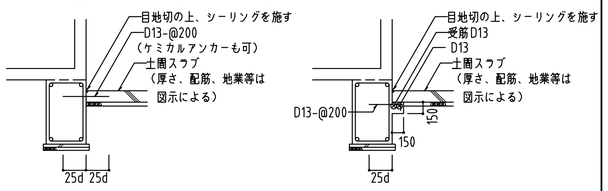


図7-8-4

7-9 外周土圏スラブと本体（地中梁等）との取合い



（a）一般の場合

（b）⊙印を附した個所の場合（下記）

⊙ ＿＿＿＿＿＿＿＿

⊙ ＿＿＿＿＿＿＿＿

図7-9

埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記・2010.4.7　見積用図面 ・（この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号　記名　捺印	製図	検図	納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 構造鉄筋規準図（2）	図面番号 2007
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査	課長			代表設計者：一級建築士 第239114号 石井 靖人					縮尺 N.S.	区分 建築構造図
				担当設計者：一級建築士 第233543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道	一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号 丸谷 周平					

8. 壁（腰壁）

8-1 一般事項

（1）幅止め筋は、縦横ともにD10-@1000程度とする。

（2）この章を通して、図中の記号は右記による。P：壁主筋間隔＜D13＞：D13かつ壁主筋径以上

（3）地中梁と取り合う腰壁の配筋は図8-1による。

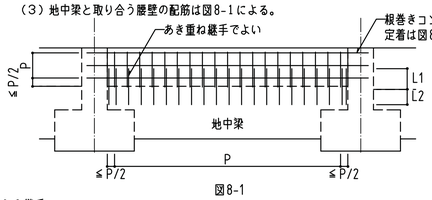


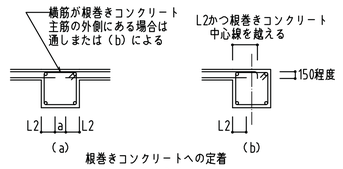
図8-1

8-2 継手

配筋可能な限り継手は設けない加工とする。コンクリート打継部の継手はあき重ね継手とし、無理に鉄筋を曲げない（図8-2）。

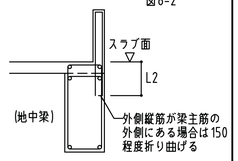
図8-2

8-3 定着



根巻きコンクリートへの定着

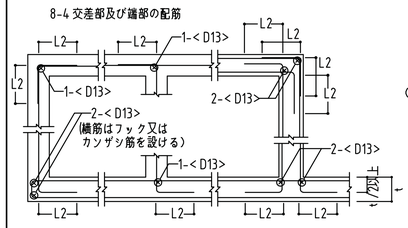
図8-3-1



地中梁への定着

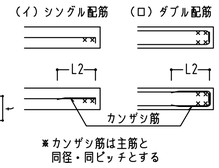
図8-3-2

8-4 交差部及び端部の配筋



交差部（水平断面）　図8-4

壁の末端部及び開口により切断される鉄筋にはフックを付けるか、カンザシ筋による補強を設ける。



※カンザシ筋は主筋と同径・同ピッチとする

8-5 床版と壁の交互部の補強

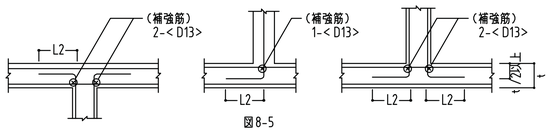


図8-5

8-6 壁開口部の補強

壁開口部の補強は縦・横の枠筋及び斜筋にて行う。ただし、壁開口の最大径が両方向の壁主筋間隔以下の場合で図8-6-2により開口部を避けて配筋する場合は、補強を省略することができる。

枠筋、斜筋、補強筋の径および本数は構造図による。

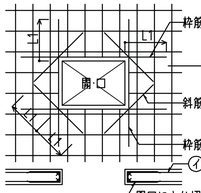


図8-6-1

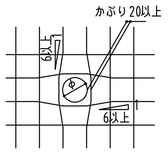
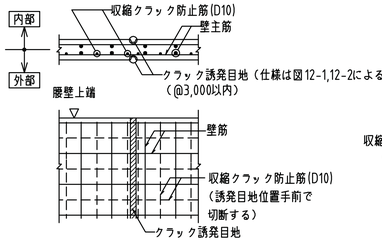


図8-6-2

開口により切断される鉄筋にはフック又はカンザシ筋を設ける（図8-4）。

8-7 外壁の補強筋（適用の有無は構造関係特記仕様書6章2項による）

地上外壁全般に適用する（土に接していない壁全面に適用する）



外壁の外部に接する側はタテ筋ヨコ筋共@100以下となる様に、収縮クラック防止筋としてD10を壁筋の間に配置すること。（壁筋が@125の場合は不要）

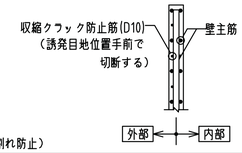


図8-7-1 外壁補強要領図（ひび割れ防止）

9. 鉄骨造との取合い

9-1 スタッドボルトの配置

（1）鉄骨梁とコンクリートスラブ

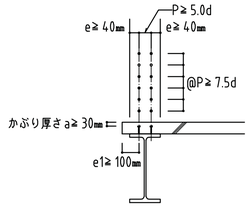


図9-1-1

（2）根巻きコンクリート

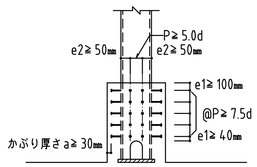


図9-1-2

注1）図中の記号は以下による。

d：スタッドボルトの軸径

p：ボルト軸心の間隔　≧7.5d

e：ボルト軸心と鉄骨縁との距離　≧40㎜

e1：ボルト軸心とコンクリート縁との距離　≧100㎜

e2：ボルト軸心と角形鋼管柱直交面との距離　≧50㎜

9-2 コンクリートスラブと鉄骨梁との取合い（図中＜D13＞はD13かつスラブ主筋径以上を示す）

（1）一般部

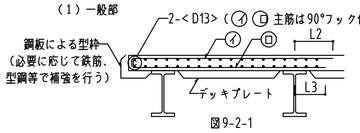
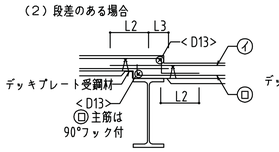


図9-2-1

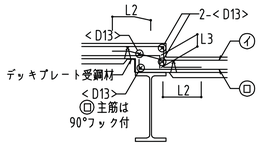
注1）主・配力筋共、鉄骨梁の位置にかかわらず床全面で設計ピッチ以内に配筋する。

（2）段差のある場合



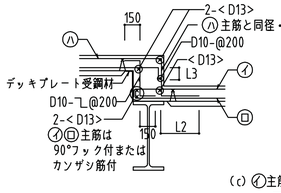
（a）（イ）主筋を引き通せる場合

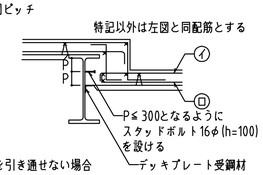
図9-2-2



（b）（イ）主筋を1/6勾配以下で引き通せる場合

図9-2-3





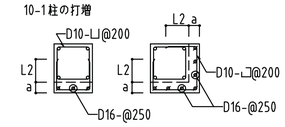
（c）（イ）主筋を引き通せない場合

図9-2-4

注）⅄は受筋＜D13＞とバーサポートを示す。

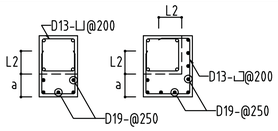
10. 打増補強

10-1 柱の打増



（1）70≦a≦200の場合

図10-1-1



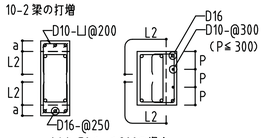
（2）200＜aの場合

図10-1-2

注1）200＜aの場合で図示の無い場合は監督員の承諾を得て（2）を適用すること。

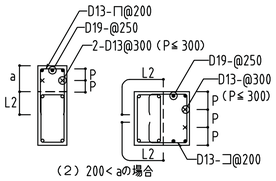
2）a＜70の場合は補強不要とする。

10-2 梁の打増



（1）70≦a≦200の場合

図10-2-1



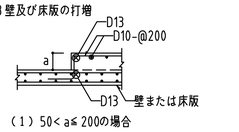
（2）200＜aの場合

図10-2-2

注1）200＜aの場合で図示の無い場合は監督員の承諾を得て（2）を適用すること。

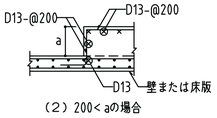
2）a＜70の場合は補強不要とする。

10-3 壁及び床版の打増



（1）50＜a≦200の場合

図10-3-1



（2）200＜aの場合

図10-3-2

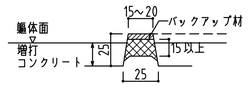
注1）50＜aの場合で図示の無い場合は監督員の承諾を得て（1）、（2）を適用すること。

2）a≦50の場合は補強不要とする。

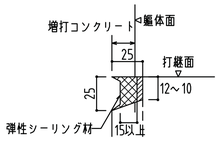
11. 亀裂誘導目地

（1）亀裂の誘導目地の位置・形状は意匠図による。意匠図に図示の無い場合は下図による。

（a）外壁の外部側



縦目地



横目地（各階床面）

図11-1

（b）外壁の室内側及び内壁

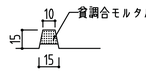


図11-2

（c）縦目地の位置

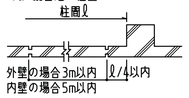


図11-3

注1）増打コンクリート厚は特記仕様所及び図示による。

2）庇、バルコニー等のはね出しスラブ及びパラペット、手摺壁等の立ち上り壁には縦目地（3m以内毎）及び横目地（を両面に設け、雨掛り部分には防水措置（シーリング等）を施す。

12. 梁貫通孔の補強

12-1 一般事項

（1）梁貫通孔の補強は特記による。特記がなければ下記による。梁貫通孔補強筋の名称などは、図12-1-1による。

（2）孔の径は、梁成の1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。

（3）孔の上下方向の位置は、図12-1-2による。

（4）孔の中心位置の限度は、柱及び直行する梁（小梁）の面から原則として1.2D（Dは、梁成）かつ1000㎜のうち、小さい方の値以上離す。（図12-1-3）

（5）孔が並列する場合は、その中心間隔は孔の径の平均値の3倍以上とする（図12-1-3）。

（6）孔の径が梁成の1/10以下かつ150㎜以下のものは、補強を省略することができる（孔両側のあばら筋が設計ピッチを越える場合は孔の両側にあばら筋を2巻き配筋する）。

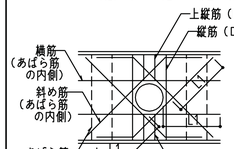


図12-1-1

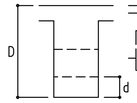


図12-1-2

500≦D＜700　d≧175

700≦D＜900　d≧200

900≦D　d≧250

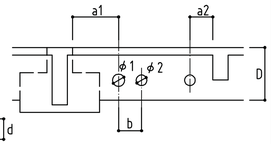


図12-1-3

a1,a2≧min(1.2D,1000㎜)

$b \geq 3\times\frac{\phi 1+\phi 2}{2}$

12-2 人通孔（600φ～800φ）の補強要領

人通孔補強は図示による。図示の無い場合は表12-2による。

表12-2 人通孔補強要領

補強筋	地中梁	地中小梁
斜筋	8-2-D25	4-2-D25
横筋	4-2-D25	2-2-D25
縦筋	2-4-D16	2-4-D16
上下縦筋	D16-□@100以内	D13-□@100以内

注）配筋の表示の凡例は、表12-3-3による。

12-3 一般の梁貫通孔（400φ以下）の補強要領

400φ以下の梁貫通孔の補強要領は表12-3-1、表12-3-2による。

表12-3-1 補強種別

梁成 cm	梁幅 cm / 径 cm	30					40					50					60					70					80				
		A	B	C	D	E,F	A	B	C	D	E,F	A	B	C	D	E,F	A	B	C	D	E,F	A	B	C	D	E,F	A	B	C	D	E,F
50	10	1	1	2	2	3	1	2	2	3	3	1	2	2	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
55	15	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3	2	2	3	3	3	2	2	3	3	3	2	3	3	4	3
60	10	1	2	2	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3	2	2	3	3	3	2	2	3	3	3	2	2	3	3	3
65	15	2	2	3	3	3	2	2	3	3	3	2	3	3	3	3	2	3	3	4	3	3	3	3	4	4	3	3	3	4	4
70	20	2	2	3	3	3	2	3	3	4	4	3	3	3	4	4	3	3	3	5	4	3	3	3	5	4	3	3	4	6	5
75	10	2	2	3	3	3	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	3	3	4	4	2	3	3	4	4	2	3	3	4	4
80	15	2	2	3	4	4	2	3	3	4	4	2	3	3	4	4	3	3	3	5	4	3	3	3	5	4	3	3	4	5	5
85	20	2	3	3	4	4	3	3	3	5	4	3	3	3	5	5	3	3	4	6	5	3	3	4	6	5	3	3	4	6	5
	25	3	3	3	5	5	3	3	3	5	5	3	3	4	5	5	3	3	5	6	5	3	4	5	6	6	3	4	5	7	6
90	10	2	3	3	4	4	2	3	3	4	4	2	3	3	4	4	2	3	3	5	4	2	3	3	5	4	2	3	3	5	5
95	15	2	3	3	5	5	3	3	3	5	5	3	3	3	5	5	3	3	3	6	5	3	3	3	6	5	3	3	4	6	5
100	20	3	3	3	5	5	3	3	3	5	5	3	3	4	5	5	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6	3	3	5	6	6
	25	3	3	3	5	5	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6	4	4	6	7	6
	30	3	3	4	6	6	3	4	5	6	6	3	4	5	7	6	4	4	6	7	6	4	5	6	8	7	5	5	6	8	7
105	10	2	3	3	4	4	2	3	3	4	4	2	3	3	5	4	2	3	3	5	5	2	3	3	5	5	2	3	3	6	5
110	15	3	3	3	5	5	3	3	3	5	5	3	3	3	5	5	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6
115	20	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6	3	3	5	7	6	3	3	5	7	6	3	4	5	7	6
	25	3	3	4	6	6	3	4	4	6	6	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6	3	4	6	7	7	4	5	6	8	7
	30	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6	3	5	5	7	7	4	5	6	8	8	4	5	6	8	7	5	5	6	8	7
	35	3	4	5	7	6	4	5	5	8	8	4	5	6	8	8	5	5	6	8	8	5	6	7	8	7	5	6	7	8	7
120以上	10	3	3	3	5	5	3	3	3	5	5	2	3	3	5	5	3	3	3	6	5	3	3	3	6	6	3	3	3	6	6
	15	3	3	3	6	6	3	3	3	6	6	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6
	20	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6	3	3	5	7	6	3	3	5	7	6	3	4	5	7	6
	25	3	3	4	6	6	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6	3	4	5	7	7	4	4	6	8	8	4	5	6	8	8
	30	3	4	5	7	6	3	4	5	7	7	4	5	5	8	8	4	5	6	8	8	4	5	6	8	8	5	5	6	8	8
	35	3	4	5	7	7	4	5	5	8	8	4	5	6	8	8	5	6	7	8	8	5	6	7	8	8	6	6	7	8	8
	40	4	5	5	8	8	4	5	6	8	8	5	6	7	8	8	5	6	7	8	8	6	6	8	8	8	6	7	8	8	8

注1）A～Fは表12-3-4の梁のあばら筋を示す。

2）1～7の数字は表12-3-2における補強種別を示す。数字が8の場合の補強は特記による。

3）梁成、梁幅、あばら筋、貫通孔径が上表の中間にある場合は補強量の多い方を採用する。

表12-3-2 補強要領

補強種別	斜め筋	縦筋	横筋	上・下縦筋	配筋図
1	2-2-D13	なし	なし	なし	
2		2-2-D13			
3	4-2-D13	A～D：2-2-D13 E　：2-3-D13 F　：2-4-D13	A～D：2-2-D13 E,F　：2-2-D16	A～D：2-2-D13 E　：2-3-D13 F　：2-4-D13	
4	4-2-D16				
5	4-2-D16	A～D：2-2-D13 E　：2-3-D13 F　：2-4-D13	A～D：2-2-D13 E,F　：2-2-D16	A～D：2-2-D13 E　：2-3-D13 F　：2-4-D13	
6	4-2-D19				
7	4-2-D22				

注1）A～Fは表12-3-4の梁のあばら筋を示す。

表12-3-3 配筋の表示

凡例		配筋
斜め筋	4-2-D22	4本のD22が2面入ることを示す
縦筋	2-4-D13	4本のD13があばら筋状に孔の両側に2本ずつ入ることを示す
上下縦筋	3-2-D13	孔の上下の部分にそれぞれD13のあばら筋が3本入ることを示す

表12-3-4 梁のあばら筋

A	D10-□@150,200	D	D13-□@100,125
B	D10-□@125 D13-□@200	E	D13-□@100
		F	D13-□@100
C	D10-□@100 D13-□@150		

12-4 既製品を用いる場合

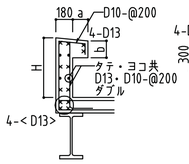
梁貫通孔補強材として、既製品を使う場合は（財）日本建築センターの評価を取得した 製品を用い、構造計算等を事前に監理者を経由して監督員に提出する。

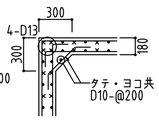
13. 雑配筋

（構造図に配筋詳細図の無い場合、当配筋図による）

共通事項：＜D13＞：D13かつスラブ・壁の主筋径以上

13-1 パラペット（H≦1200）





出隅部（水平断面）

図13-1

注1）H,a,b寸法は意匠図による。

13-2 屋上配管取出口（B≦1500,H≦2000）

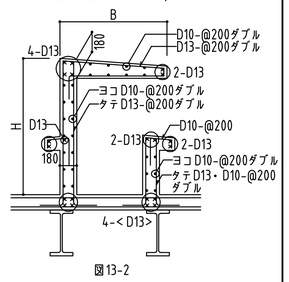
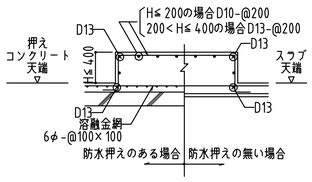


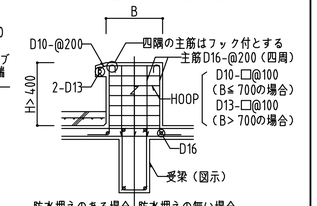
図13-2

13-3 機械基礎

（1）H≦400の場合（ベタ基礎）



（2）H＞400の独立基礎の場合



（3）H＞400の桁基礎の場合

(a)2本以上の直交方向受梁上にある場合

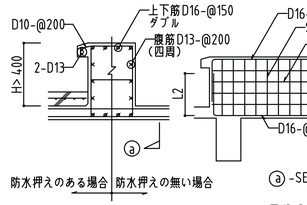
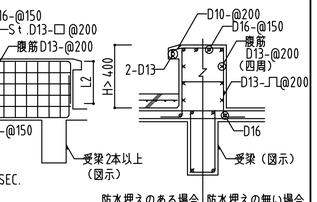


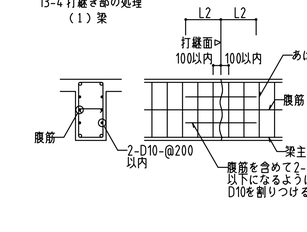
図13-3

(b)同方向の受梁上にある場合



13-4 打継ぎ部の処理

（1）梁



（2）床スラブ

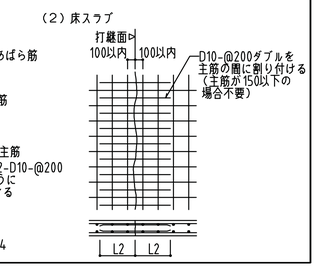


図13-4

埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記・2010.4.7 見積用図面 ・（この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号 記名 捺印	製図	検図	納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 構造鉄筋規準図（3）	図面番号 2008
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査	課長			代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人					縮尺 N.S.	区分 建築構造図
				担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第61444号 塩手 博道	一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第13149 丸谷 周平					

鉄骨工事一般事項

1. 目 的
本鉄骨規準図は、建築構造図に示す鉄骨の精度標準、高力ボルト接合規準、溶接接合規準等を規定したものである。設計図、特記仕様書に記載なきものは、本規準等によるものとする。

2. 適用範囲
本規準図の適用範囲は、鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨部分とする。
本規準図内で準拠する参考規準類は最新版による。
本規準図の適用範囲方法は以下のとおりとする。
⊙印のついたものを適用する。
⊙印のつかない場合は、※印のついたものを適用する。
⊙印と※のついた場合は、ともに適用する。

3. 優先順位
設計図書中の構造関係図書に於ける優先順位は次の通りとする。
（1）現場説明に対する質問回答書
（2）現場説明書(見積要領書のある場合はそれを含む)
（3）工事基本仕様書
（4）特記仕様書
（5）設計図（本基準図以外）
（6）鉄骨規準図
（7）適用共通仕様書・標準仕様書

4. 加工工場の選定
施工業者は下記の選定条件に基づき鉄骨加工工場を選定し、鉄骨加工工場の工事経歴書、設備能力、溶接技能者名簿（AW資格証を添付）を提出し、監督員の承諾を受ける。

鉄骨加工工場選定条件
⊙SグレードまたはHグレード
ただし、以下の条件を満たすこと。（兼務、外注者、非常勤者、出向者は不可）
（1）一級建築士　2人以上
（2）鉄骨製作管理技術者1級（（社）全国鐵構工業連合会）　3人以上
又は鉄骨製作管理技術者1級2人かつWES 8103 1級　1人以上
（（社）日本溶接協会）
（3）鉄骨製品検査技術者 （（社）日本鋼構造協会）　1人以上
（4）鉄骨超音波検査技術者（（社）日本鋼構造協会）　1人以上
（5）製品検査担当者　1人以上
（6）過去2年間において、本工事で使用する最大板厚の溶接の実績があること。
（同材質、同厚以上、突合せ溶接部に限る。実績表及び検査記録提出）

・SグレードまたはHグレード

・Sグレード、Hグレード、またはMグレード
ただし、以下の条件を満たすこと。（兼務、外注者、非常勤者、出向者は不可）
（1）一級建築士　1人以上
（2）鉄骨製作管理技術者1級（（社）全国鐵構工業連合会）　2人以上
又は鉄骨製作管理技術者1級1人かつWES 8103 1級　1人以上
（（社）日本溶接協会）
（3）鉄骨製品検査技術者 （（社）日本鋼構造協会）　1人以上
（4）鉄骨超音波検査技術者（（社）日本鋼構造協会）　1人以上
（5）製品検査担当者　1人以上
（6）過去2年間において、本工事で使用する最大板厚の溶接の実績があること。
（同材質、同厚以上、突合せ溶接部に限る。実績表及び検査記録提出）

5. 第三者検査機関の選定
施工業者は、下記の選定条件に基づき鉄骨第三者検査機関を選定し、経歴書、資格者数資格者名簿を提出し、監督員の承諾を得ること。ただし、当該建築工事の請負会社（施工者）と年間取引率が50%以上ある第三者検査機関は不可とする。

特記またはメーカーリストがない場合下記による。
第三者検査機関の選定条件
・CIW認定検査事業者　B種以上

※CIW認定検査事業者　C種以上

・CIW認定検査事業者　E種以上

6. 施工要領書の承諾
鉄骨加工工場は、以下の施工要領書を提出し、監督員の承諾を受けること。
（⊙をつけたもの）

⊙工作図及び現寸図作成要領書
⊙工場製作要領書
⊙製作時の品質管理要領書
・工場溶接技能者技量試験要領書
⊙工場超音波探傷検査要領書
・スタッドコネクタ-施工要領書（工場）
⊙防錆塗装施工要領書
・溶融亜鉛めっき施工要領書
⊙各種検査要領書
⊙輸送（陸、海上）計画書
⊙工事現場施工要領書
・高力ボルトすべり試験要領書
・現場溶接施工要領書
・現場溶接技能者技量試験要領書
・現場超音波探傷検査要領書
⊙スタッドコネクタ-施工要領書（現場）

7. 使用材料 （⊙をつけたものを使用する）
鋼材
⊙一般構造用圧延鋼材（SS材）
・溶接構造用圧延鋼材（SM材）
・溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材（SMA材）
⊙建築構造用圧延鋼材（SN材）
・建築構造用圧延棒鋼（SNR材）
・一般構造用炭素鋼鋼管（STK材）
・一般構造用角形鋼管（STKR材）
・建築構造用炭素鋼管（STKN材）
・一般構造用軽量形鋼（SSC材）
・一般構造用溶接軽量H型鋼（SWH材）
・溶接構造用遠心力鋳鋼管（SCW材）
⊙建築構造用冷間成形角型鋼管（BCP材）
（国土交通大臣認定品）
・建築構造用冷間成形角型鋼管（BCR材）
（国土交通大臣認定品）
・熱間成形角型鋼管（国土交通大臣認定品）
・建築構造用TMCP鋼（国土交通大臣認定品）
・
・
・
・
・
高力ボルト
⊙特殊高力ボルト　S10T
⊙JIS高力ボルト　F10T（特殊高力ボルトが使用不可能の場合）
・溶融亜鉛めっきボルト F8T（国土交通大臣認定品）

溶接ワイヤー
・　・
・　・
その他
・　・
・　・
・　・
製品の指定
⊙高炉製品⊙電炉製品
⊙スプライスプレート
⊙二次部材（小梁、間柱、母屋、胴縁等）
⊙大梁中間部のフランジ、ウェブ
・柱通しの場合の大梁フランジ
・梁通しの場合の柱フランジ
・使用制限無し注1)

注1）板厚方向に引張応力のかかる部位に電炉材を用いる場合は右表の制限を満足すること。

表-1　電炉材の制限値

板厚 t（mm）	硫黄含有量（%）
t < 20	0.018 以下
20≦ t < 30	0.013 以下
30≦ t < 40	0.008 以下

諸試験、諸検査 （各項目番号に◯をつけたものについて実施する）

①材料検査
1-① 材料の受入れ検査
材料の受入れ検査を下記の要領で行う。
※鉄骨材料のミルメーカ-から加工工場までのルート及び、ミルシート、ステンシルによる材質確認の社内自主検査結果を監理者を経由して監督員に報告し、承諾を得ること。
・（・監理者 ・指定された第三者検査機関）立会いにより、ミルシート及びステンシルによる確認を行う。（立会い頻度は・各節1回・各節全数 ・ 節（ 回））
1-2 材料試験
・材料試験を行う。仕様については別に定める。

② 高力ボルトの軸力、トルク係数値の確認試験
※使用に先立ち、JIS高力ボルトはトルク係数値確認試験を、トルシア形高力ボルトは締付け軸力試験を行う。

③ 高力ボルトすべり試験
※摩擦処理面を薬剤処理する場合。
・特殊高力ボルト　S10T
・特殊高力ボルト　S10Tにおいて摩擦面の処理をブラスト処理にて行う場合
・溶融亜鉛めっきボルト F8T

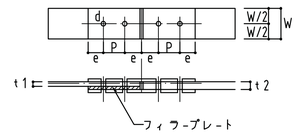


表-2　すべり係数標準試験体寸法　（mm）

ボルトの等級	呼び	穴径 d	部材厚(mm) t1	部材厚(mm) t2	フィラープレート t	添板厚 t	板幅 w	はしあき e	ピッチ p
S10T F8T	M20	22.0	19	22	3.0	12	95	50	70

・摩擦面は現場の実状にあわせる。

④ 高力ボルト締め付け検査（報告書を提出）
現場受入時： 摩擦面（錆等）の確認
（スプライスプレートが仮留めされている場合は、必ずはずして確認のこと）
締め付け前： はだずき状況、ボルト穴応のずれ、締め付け施工姿勢
締め付け後： ねじ山の突出量（3山程度）、はだずき状況、マーキングの回転量、共回りがないか、異物が挟まれていないか

⑤ 溶接技能者技量検定試験
⊙ AW検定合格者以外が完全溶込み溶接部の溶接作業を行う場合に実施する。
試験方法は、AW検定協議会「建築鉄骨溶接技量検定（AW検定）試験要領書」による。
・ AW検定オペレーター資格合格者以外が溶接ロボットを使用する場合に実施する。
試験方法は、AW検定協議会「建築鉄骨溶接技量検定（AW検定）試験要領書」による。

⑥ 現寸検査
（1）検査立会いは原則、監督員及び監理者による。
（2）施工者は現寸検査までに必要書類（工場製作要領書、溶接規準、工作図）を監理者を経由して監督員に提出し、承諾を得ること。
（3）検査項目
a）テ-ブ合わせ
b）床書きまたはフィルムによる基本寸法及び納まり（開先、裏当て金、スカラップ等）の確認。（床書きする位置については係員から指示する）
c）その他（　　）

⑦ 溶接施工試験
※省略する。ただし、信頼できる試験データ-が無い場合は、表－3の内容について（※監理者 ※指定された第三者検査機関）立会いのもと実施する。
・表－3の内容について（※監理者 ※指定された第三者検査機関）立会いのもと実施する。

表-3　溶接施工試験概要

試験種目	溶接姿勢	試験頻度	試験項目
※工場溶接（※突合せ ・隅肉） ※現場溶接（※突合せ ・隅肉） ・ ・	※下向き ※横向き ・ ・ ・	※板厚毎 ※板巾毎 ※姿勢毎 ※継手形状毎 ・	※バス間温度 ※入熱量 ※予熱 ※溶接外観 ・引張試験 ・シャルピー衝撃試験 ・マクロ試験 ・硬さ試験 ・ ・

⑧ 中間検査（溶接前検査、溶接中検査）
（1）検査方法及び管理許容差は以下による。
※鉄骨精度検査規準（JASS6）及び建築基準法、同施行令、同告示
・本規準内鉄骨精度基準
（2）検査立会い者
検査の立会い者は（※監理者 ※指定された第三者検査機関）とする。
（3）検査頻度は、以下による。
※監理者の指定する節（各節 ※1回 ・　　）
・
（4）検査項目
a）開先面、開先角度、ルート間隔、突合せ継手の食違い、仕口のずれ、板厚、材質確認
b）裏当て金とエンドタブの取付状態、組立溶接の位置及び状況
c）溶接技能者、溶接材料、溶接条件、パス間温度、予熱、スカラップのまわし溶接
d）溶接外観、社内自主検査状況
e）材質確認試験（切粉による化学成分分析試験）を（・実施する ※行なわない）。
試験の頻度及び資料数は（※各節資料 ・各節 資料 ・ 資料）とする。
測定する元素は、C,Si,Mn,P,S,Ni,Cr,Mo,Vとする。
（SS、SM材の場合はNi,Cr,Mo,V除く）
合否の判定はミルシートとの照合を行ない、その信頼性を判定する。
（5）鉄骨加工工場は、社内自主検査を全数行う。
（6）書類検査
寸法精度
※検査記録には管理許容差を超えた箇所を明記し、是正状況を記録すること。
・全数寸法記録を提出する。
溶接部
※社内自主検査記録を提出する。 ・

（7）対物検査
a）施工の実態を把握し、社内自主検査の信頼性を確認する。

⑨ 製品検査
施工者は、監理者の立会いに先立ち自主管理報告結果を監理者に提出し、監督員の承諾を得なければならない。

9-① 溶接部の検査
（1）工場溶接部の外観検査及び超音波探傷検査の内容は表-4による。

表-4　溶接部の検査要領

検査箇所	検査方法	検査率または検査数 鉄骨加工工場の社内自主検査	検査率または検査数 第三者検査機関による受入検査
突合せ溶接部	超音波探傷検査	※100% ・	※9-1-（2）項による。 ・
	外観検査	※100% ・	※超音波探傷検査の頻度に同じ ・
突合せ溶接部以外	外観検査	※100% ・	※行う（9-1-（8）項による） ・行わない

（2）第三者検査機関の超音波探傷検査は、建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」による。超音波探傷検査及び外観検査のロット構成及び合否判定は下記による。ただし、国土交通大臣認定範囲外を製作する場合においては全数検査とする。
a）工場溶接

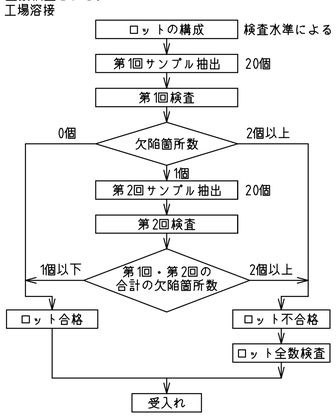


図-1　超音波探傷検査による抜粋検査の手順

表-5　ロットの大きさ

・第1水準	・第2水準	・第3水準	※第4水準	・第5水準	・第6水準
60	70	80	100	130	190

b）現場溶接については100%検査（外観検査含む）とする。
（4）現場突合せ溶接部は、（※全数 ・ %）について示温材等によるパス間温度管理を行ない、報告書及び写真を監理者に提出し、監督員の承諾を得ること。
（5）提出書類
a）鉄骨加工工場の社内自主検査報告書（以下による。）
※鉄骨精度検査記録（全数）
※超音波探傷検査記録（全数）及び外観検査記録（全数）
※バス間温度及び入熱量管理記録
（・全数 ※突合せ溶接部に対して（※10% ・ %））
・
b）第三者検査機関の検査報告書

（6） 各検査の途中結果報告（速報）及び検査終了時の正式報告書は、下記のルートで監理者・監督員に提出すること。

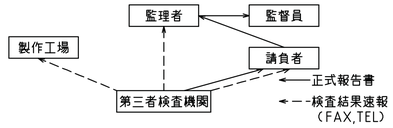


図-2 報告書の流れ

（7） 溶接部外観の検査項目は（脚長、アンダ-カット、食違い、仕口のずれ、余盛り高さ、ピット、ピット不整、割れ、オ-バ-ラップ、アークストライク、エンドタブの切断）とする。
（8） 隅肉溶接の外観検査の方法
柱、梁30体それぞれを1ロットとし、そのうち3体を検査部材とし、検査対象は下記の①～④とする。
①柱本体（仕口部を含む）の部分溶込み溶接または隅肉溶接
②梁本体の部分溶込み溶接または隅肉溶接
③ガセットプレートの部分溶込み溶接または隅肉溶接
④その他附属金物の部分溶込み溶接または隅肉溶接
a）不合格溶接率が5%以下の時、ロットを合格とする。
b）不合格溶接率が5%を越え10%以下の場合、さらに3台抜き取り同様の検査を適用する。その結果、6体における不合格溶接率が5%以下の場合ロットを合格とする。
c）6体の不合格箇所率が5%を越える場合、ロットを不合格とし、残り全数検査する。
（9） 製品検査時に監理者の指定する任意の部分につき、超音波探傷検査による確認を行う。
（10） その他（　　）

9-② 寸法精度の受入検査
（1）検査方法及び管理許容差は以下による。
※鉄骨精度検査規準（JASS6）及び建築基準法、同施行令、同告示
・本規準内鉄骨精度基準
（2）検査項目
a）柱の長さ、階高、柱せい、仕口部の長さ、仕口部のせい、梁の長さ、梁せい、フランジ幅、板厚、仕口のずれ、突合せ継手部食違い
b）梁・柱の曲がり、ウェブの曲がり、柱のねじれ、仕口部の角度
c）部材表面、切断面、高力ボルト接合面、摩擦面の処理等
（3）鉄骨加工工場は社内自主検査を全数行う。
・上記a）,b）とも全数寸法記録を提出し、c）は良否判定記録を提出する。
※上記a）については全数寸法記録を提出し、b）,c）については良否判定記録を提出する。
（4）書類検査
※建築学会「鉄骨精度測定指針」の「書類検査1」による。（下記に示す）
イ.検査項目ごとに計測箇所数300個以上で1検査ロットを構成する。
ロ.検査項目ごとの全計測数に対して、管理許容差を超える割合が5%以下でかつ限界許容差を超える割合が0%のときロットを合格とする。
・（　　）による。
（5）対物検査
a）検査の立会いは、（※監理者 ※指定された第三者検査機関）による。
b）検査方法は
※建築学会「鉄骨精度測定指針」の「対物検査2」（下記に示す）による。
イ.検査項目ごとに計測箇所数300個以下で1検査ロットを構成する。
ロ.各検査ロットごとに合理的な方法で大きさ5個のサンプリングを行う。
ハ.サンプリングした製品の測定値と同一の製品の社内検査記録の差が、通常の測定で生じる誤差範囲内かどうかを判定する。
ニ.判定の結果、通常の測定で生じる誤差範囲を越えている場合は、さらに各検査ロットごとに合理的な方法で大きさ5個のサンプリングを行い、合計10個の測定値を得る。
ホ.サンプリングした製品の10個の測定値と、同一の製品の社内検査記録の差が、通常の測定で生じる誤差範囲内かどうかを再度判定する。
・（監理者の指示する箇所　　）による。
9-③ その他の検査
⊙サムチェッカーによる材質検査 ・
⊙スタッド溶接の試験及び検査
建築学会「JASS6スタッド溶接」に準じておこなう。

10. その他の試験及び検査

⑪ LVL耐震パネルの枠組み鉄骨を製作するファブリケーターは、寸法精度確保のための課題を抽出でき、施工精度の確保や施工誤差の吸収の方法について、十分な経験を有すること。類似工法の実績を提出し、監理者を経由して監督員の承諾を得ること。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記・ 2010.4.7 見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号 記名 捺印 製図 検図 納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 構造鉄骨規準図（1）	図面番号 2009
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査 主査	課長			代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人 担当設計者 一級建築士 第233543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道 / 一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号 丸谷 周平		縮尺 N.S.	区分 建築構造図

溶接接合

1. 溶接継手標準

表-1 溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類別記号

分類			記号
溶接方法	アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接		H
	セルフシールドアーク半自動溶接		
	サブマージアーク自動溶接		A
	エレクトロスラグ溶接		E
溶接継手	完全溶込み溶接	突合わせ継手	B
		T形継手	T
		かど継手	L
	隅肉溶接		F
	部分溶込み溶接		P
	フレア溶接		FL
溶接面	片面溶接		1
	両面溶接		2

表-2 溶接の補助記号

区分	補助記号
現場溶接	⚑
全周溶接	○
全周現場溶接	⚑○
断続溶接の長さ及び間隔	L-P

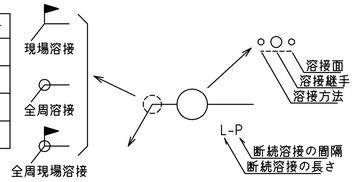


表-3 余盛り高さの限度

（単位：mm）

溶接継手	溶接方法	余盛り高さの限度
突合わせ継手かど溶接	手溶接	3
	半自動溶接	4
	自動溶接	4
隅肉溶接フレア溶接	手溶接	3
	半自動溶接	3

補強隅肉溶接

T型継手、かど継手（両面溶接）及び部分溶込み溶接の場合には、補強隅肉を付加し、そのサイズは、突合わせる板厚の1/4以上かつ10mm以下とする。

（単位：mm）

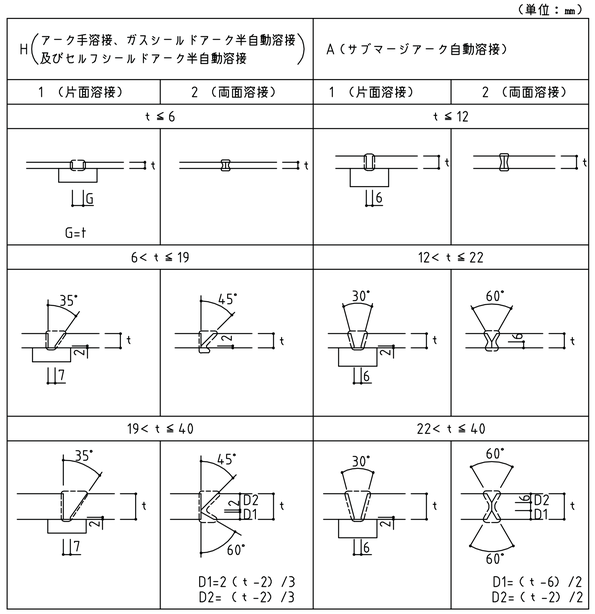


図-1 突合せ継手の開先標準（B）

（単位：mm）

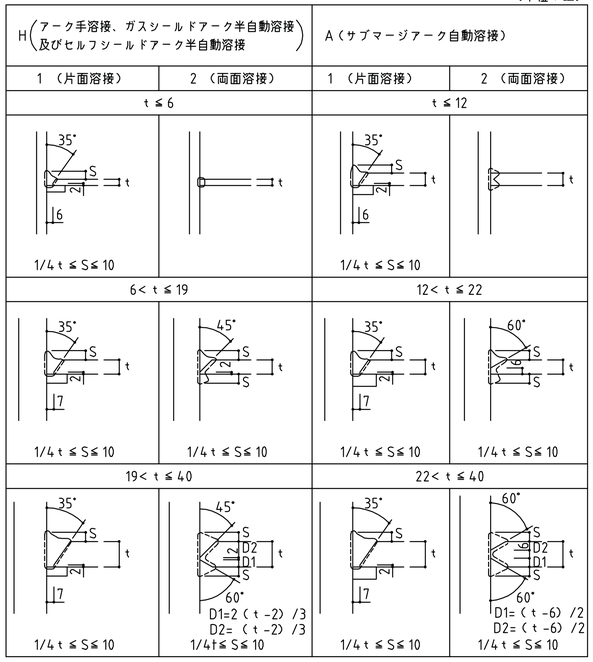


図-2 T型継手の開先標準（T）

（単位：mm）

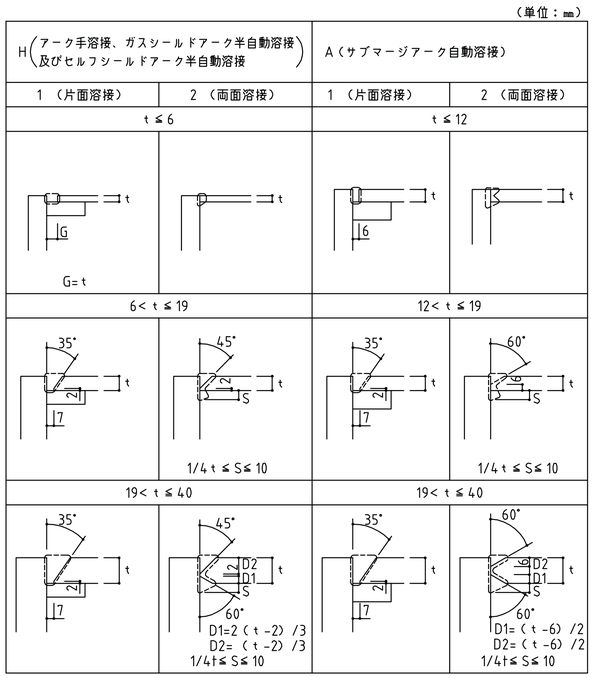


図-3 かど継手の開先標準（L）

（単位：mm）

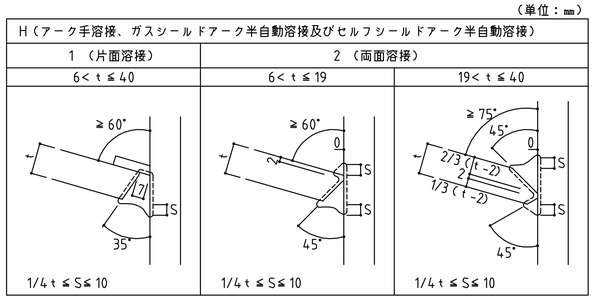


図-4 部材が直行しない場合の開先標準（T）

（単位：mm）

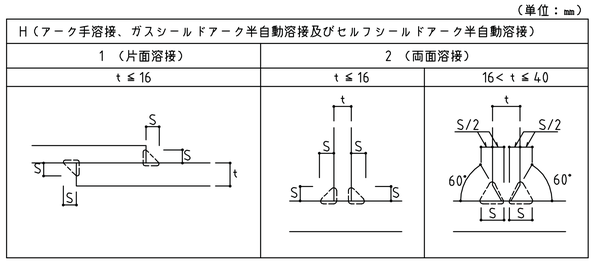


図-5 隅肉溶接の開先標準（F）

表-4 隅肉溶接サイズ

（単位：mm）

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
s	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	12	13	15	17	19	21	24

（単位：mm）

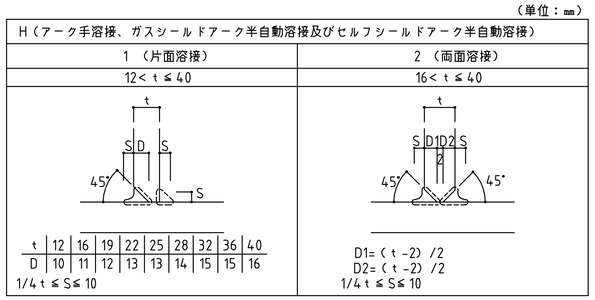


図-6 部分溶込み溶接の開先標準（P）

（単位：mm）

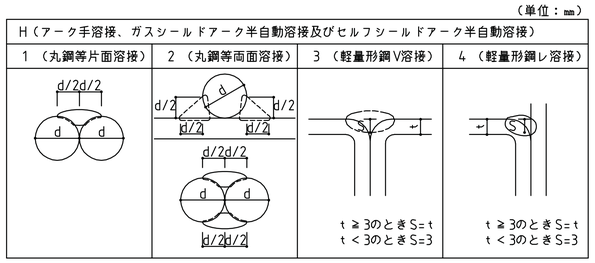
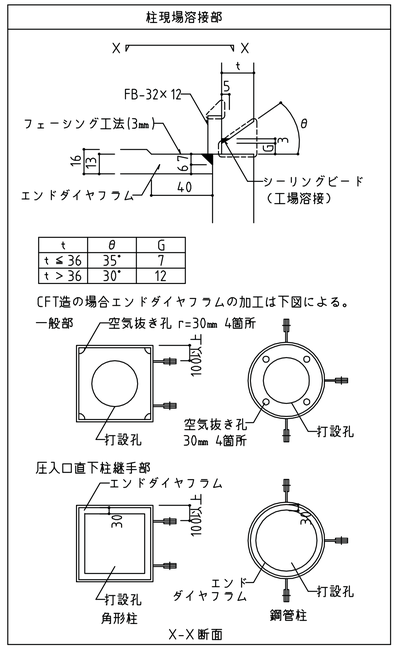


図-7 フレア溶接の開先標準（FL）



t	θ	G
t ≦ 36	35°	7
t > 36	30°	12

図-8 柱現場溶接部継手標準図

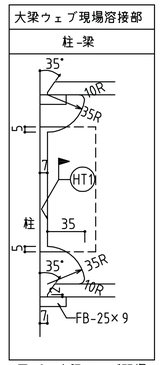


図-9 大梁ウェブ現場溶接部継手標準図

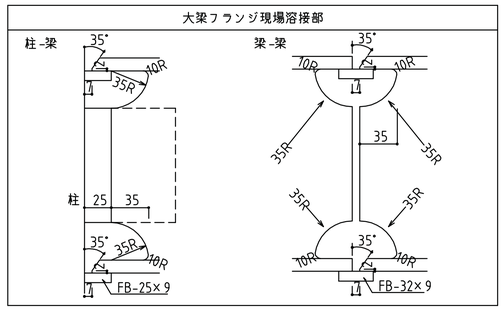


図-10 大梁フランジ現場溶接部継手標準図

現場溶接の特記事項

1. 溶接部は可能な限り連続して行う様にする。
2. スカーラップ加工はフランジ部にノッチを与えない様、充分に注意しフランジの交差部にはRを付けグラインダー仕上を施す。改良スカラップの複合円は滑らかに仕上げる。
3. 開先部は溶接の支障のない塗料等による防錆処理を行う。開先の仕上は自動ガス切断仕上以上とする
4. エンドタブの仮付は原則として溶接直前にする。
5. 裏当ての鋼鈑は表面に損耗が生じた時には再研磨し裏波にビート形状の不整を防ぐ。
6. 原則としてエンドタブはノッチの生じない様に5m/m残してガス切断し、平滑に仕上げる。
7. 溶接部には氏名、溶接日時等を記入、責任の所在を明らかにしておく。

・BOX柱ダイアフラム

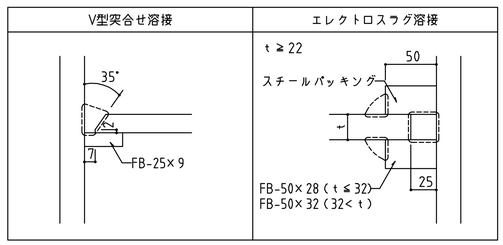


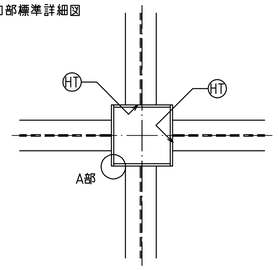
図-11 BOX柱ダイヤフラム溶接部標準図

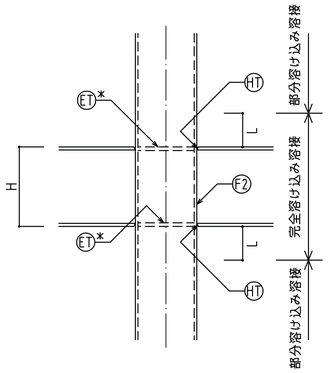
埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記・2010.4.7 見積用図面（この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.	代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人	担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第61449号 塩手 博道 / 一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第1319号 丸谷 周平	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 構造鉄骨規準図（2）	図面番号 2010
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査	課長			資格/番号 記名 捺印 製図 検図 納品検査			縮尺 N.S.	区分 建築構造図

2. 各部標準詳細

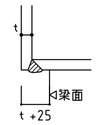
（１）溶接組み立て箱型断面柱

a）仕口部標準詳細図





*ETもしくはHTとする。



A部詳細

t：スキンプレートの板厚

イ．ダイアフラムの板厚は原則として22㎜以上とし、取り付く梁フランジ最大板厚の1サイズUPとする。

ロ．ダイアフラムの材質は取り付く梁フランジの材質のうち高強度のものと同等以上とする。

ハ．スキンプレートの材質はSN鋼材C鋼種とする。

ニ．角継手の溶接は仕口部およびその上下Lの範囲は完全溶け込み溶接とし、それ以外は部分溶け込み溶接とする。ただしLは、（＊300㎜かつ柱せい/2・　　）とする。

ホ．上下柱の板厚は同厚とし、柱板厚の変化は現場溶接継手部の位置とする。

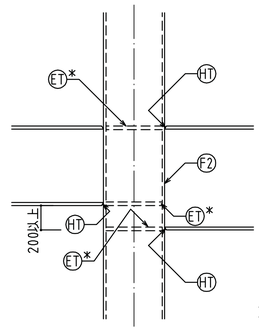
ヘ．梁フランジ取り付け位置はスキンプレート板厚+25㎜の範囲を避ける。

ト．エレクトロスラグ溶接部の検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査」に準じて垂直探傷法にて行う。

チ．付属金物は、原則として溶接部のビードに干渉しないように取り付ける。

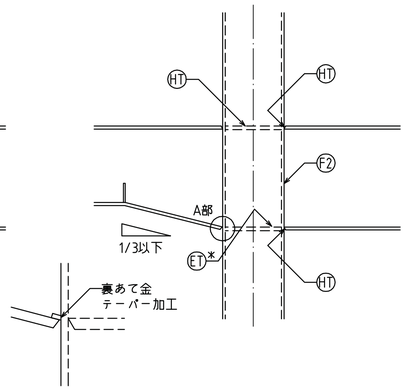
b）梁段差部標準詳細図

（A）ダイアフラムが多段になる場合



*ETもしくはHTとする。

（B）鉛直ハンチ形式



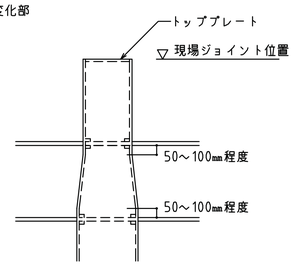
A部詳細

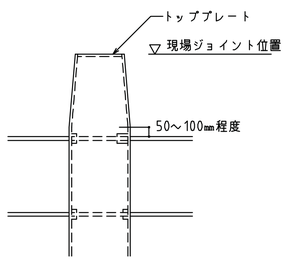
イ．梁段差によるダイアフラム圏の寸法は200㎜以上とする。

ロ．梁フランジの段差が200未満となる場合は垂直ハンチ形式とし、ダイアフラムに取り付く梁ハンチ端部は裏あて金をテーパー加工する。

ハ．鉛直ハンチを形式とする場合、梁ハンチ勾配は1/3以下とする。

c）断面変化部

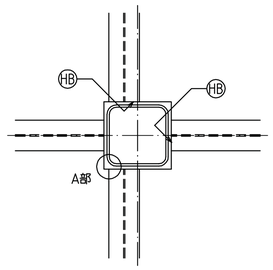


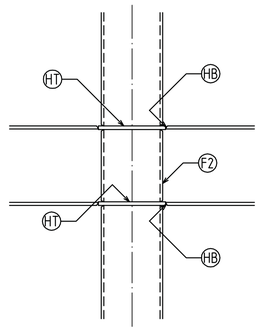


・柱外径を絞る場合はテーパー部分がエレクトロスラグ溶接部およびその裏あて金にかからないこととする。

（２）角形鋼管柱詳細図（通しダイアフラム形式）

a）仕口部標準詳細図





イ．ダイアフラムの板厚は取り付く梁フランジ最大板厚の2サイズUP、かつ柱板厚以上とする。

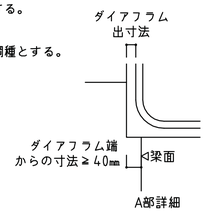
ロ．ダイアフラムの出寸法は25㎜（柱板厚28㎜未満）、30㎜（柱板厚28㎜以上）とする。

ハ．ダイアフラムの材質は柱、梁フランジの材質のうち高強度のもの以上とし、SN鋼材C鋼種とする。

ニ．仕口パネルの板厚は上下の柱の板厚以上とする。

ホ．仕口パネルの材質は上下柱の材質のうち高強度のものと同等以上とする。

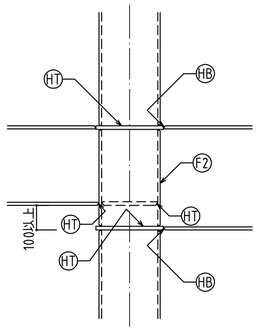
ヘ．梁の偏心はダイアフラムの端より40㎜までとする。



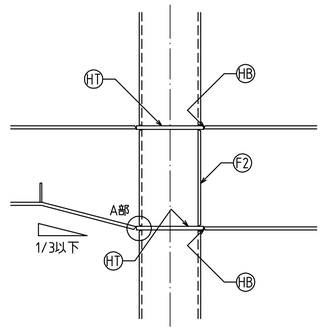
A部詳細

b）梁段差部標準詳細図

（A）内ダイアフラム形式



（B）鉛直ハンチ形式



イ．梁段差によるダイアフラム圏の寸法は100㎜以上とする。

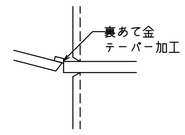
ロ．ダイアフラムが3枚以上の場合、中段にセットされるダイアフラムは内ダイアフラム形式とする。

ハ．内ダイヤフラム形式とする場合、ダイアフラム材質は上下柱および取り付く梁の材質のうち高強度のものと同等以上、板厚は取付く大梁フランジ最大板厚の1サイズアップとする。

ニ．梁段差の仕口で梁が偏心する場合、鉛直ハンチを設けるか、段差部を通しダイアフラムとする。

ホ．ダイアフラムに取り付く梁ハンチ端部は裏あて金をテーパー加工する。

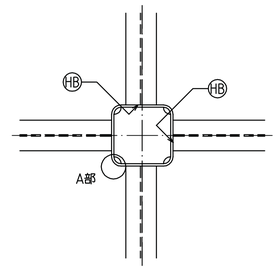
ヘ．鉛直ハンチ形式とする場合、梁ハンチ勾配は1/3以下とする。

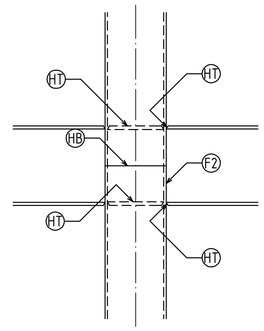


A部詳細

（３）角形鋼管柱詳細図（内ダイアフラム型）

a）仕口部標準詳細図





イ．ダイアフラムの板厚は取り付く梁フランジ最大板厚の1サイズUPとする。

ロ．ダイアフラムの角部はスカラップ加工とする。

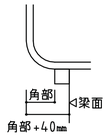
ハ．ダイアフラムの材質は取り付く梁フランジの材質のうち高強度のものと同等以上とする。

ニ．柱板厚の変化は現場溶接継手部の位置とする。

ホ．梁の取り付く位置は、角部寸法とエンドタブ長さを確保し、角部には溶接を行わない。

ヘ．柱仕口部は同一部材を切断し、切断した方向と同方向で合わせて溶接する。

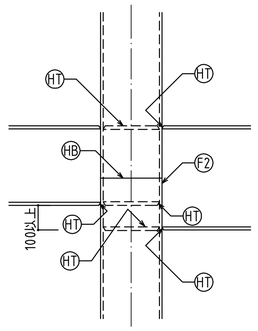
ト．ダイアフラムの位置および溶接は、原則として柱の溶接施工前に第三者検査機関による検査を行う。



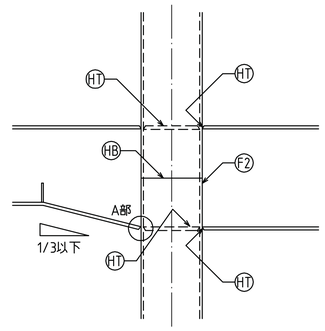
A部詳細

b）梁に段差が生じる場合

（A）内ダイアフラム形式



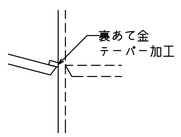
（B）鉛直ハンチ形式



イ．梁段差によるダイアフラム圏の寸法は100㎜以上とする。

ロ．ダイアフラムに取り付く梁ハンチ端部は裏あて金をテーパー加工する。

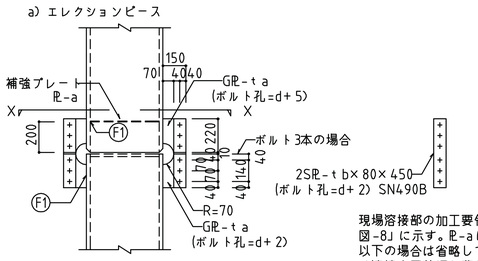
ハ．鉛直ハンチ形式とする場合、梁ハンチ勾配は1/3以下とする。



A部詳細

（４）各部詳細図

a）エレクトションピース



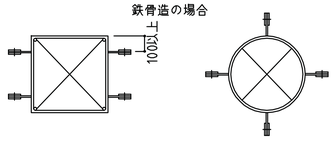
d：H.T.Bの呼び径

現場溶接部の加工要領は、「5-2溶接継手標準図-8」に示す。PL-aは厚さ9㎜とし、柱径400以下の場合は省略してよい。エレクションピースは溶接完了後切り落としグライインダーにて仕上げること。

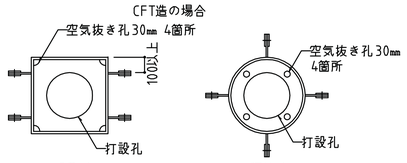
エレクションピースリスト

柱の最大板厚 t	GPL-ta	2SPL-tb	H.T.B
t ≦ 19	GPL-16	2SPL- 9	2-M20
19< t ≦ 40	GPL-19	2SPL-12	3-M20
40 < t	GPL-22	2SPL-16	3-M22

鉄骨造の場合



CFT造の場合



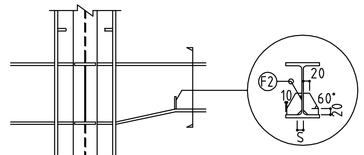
角形柱　　鋼管柱

コンクリートの打設が圧入工法で、圧入口直下の継手の場合はPL-aを省略する。

X-X断面

鋼管及び角形柱の継手

b）リブプレート



梁にハンチを設ける場合は左図に示すようなリブプレートを付け、板厚はウェブと同厚とする。

リブプレートの形状S=10とする。ただしウェブ厚16㎜の場合は、S=15とする。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課						
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査

春日部市都市整備部鉄道高架整備課						
課長						

特記・ 2010.4.7　見積用図面
・ （この図面で施工しないで下さい）
・
・
・

株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.

	資格/番号	記名	捺印	製図	検図	納品検査
代表設計者	一級建築士 第239114号	石井 靖人				
担当設計者	一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号	塩手 博道		一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第1314号	丸谷 周平	

東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称)
建築工事

図面内容：構造鉄骨規準図（３）

図面番号：2011

縮尺：N.S.

区分：建築構造図

3.溶接工作要領

（1）エンドタブ

エンドタブは、原則として母材と同厚のものを用い、長さは表-1による。

AW検定協議会代替エンドタブ試験合格者が溶接作業を行う場合は、代替エンドタブの使用可とする。ただしその場合試験に用いたエンドタブと同製品を使用すること。

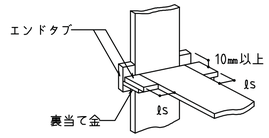


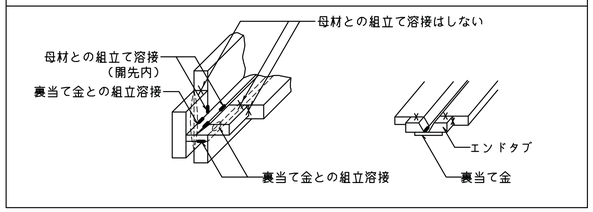
図-1　エンドタブ

表-1　エンドタブの長さ

（単位：㎜）

溶接方法	ℓs
手溶接	35 以上
半自動溶接	38 以上
自動溶接	70 以上

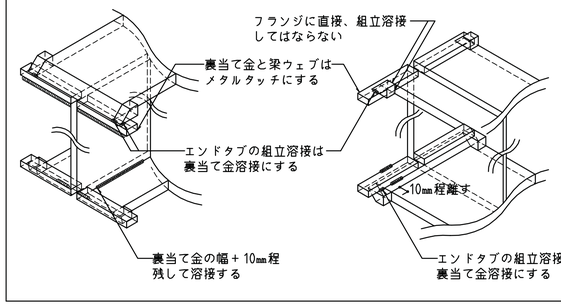
柱梁接合部エンドタブの組立溶接例



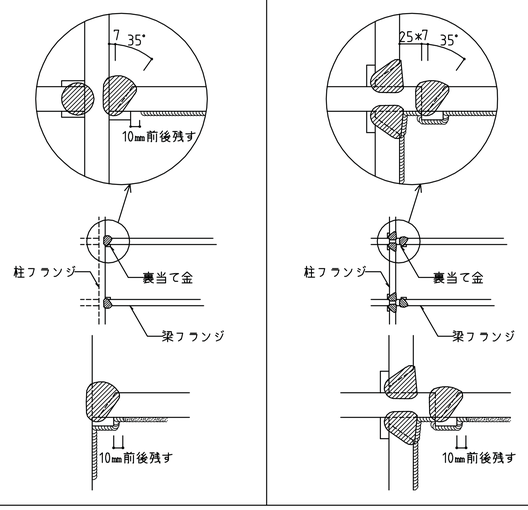
（2）スカラップ

原則としてノンスカラップ工法とする。

同時組みビルドH梁の場合



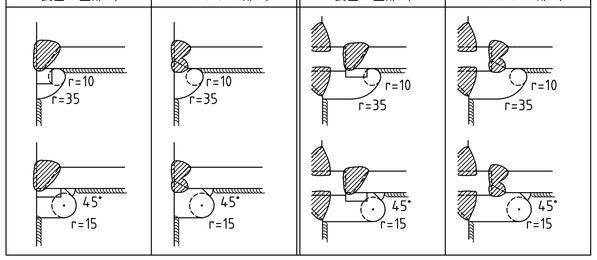
柱通し	梁通し



スカラップを設ける場合は、改良型スカラップとする。なお、BH梁のスカラップ端のまわし溶接は行わない。（スカラップ手前10㎜で溶接を止めておく）

工場溶接の場合

柱通し形式		梁通し形式	
裏当て金形式	ガウジング形式	裏当て金形式	ガウジング形式



（3）裏当て金

片面溶接に用いる裏当て金の溶接は、断続隅肉溶接とする。

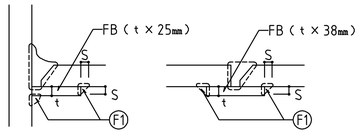


図-2　裏当て金の溶接

表-2　裏当て金の厚さ

（単位：㎜）

溶接方法	t
手溶接	6 以上
半自動溶接	9 以上
自動溶接	12 以上

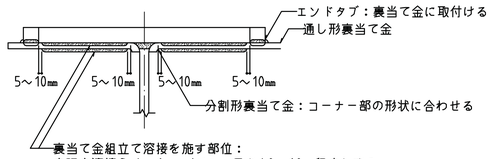
表-3　溶接のサイズ

（単位：㎜）

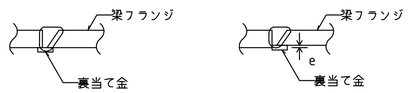
裏当て金の厚さ	S
t ≦ 9	5
t ＞ 9	9

エンドタブ、裏当て金の組立て溶接

分割形裏当て金（スカラップを設けない場合に適用する）



裏当て金の組立位置



同厚の場合　　段差がある場合

（4）スニップカット

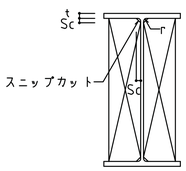


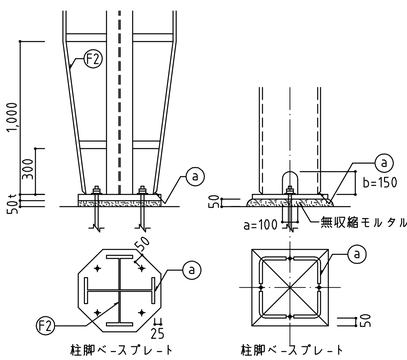
図-3　スニップカット

表-3　スニップカットの寸法

（単位：㎜）

t	6	9	12	16 以上
Sc	10	12	14	15

柱脚部標準詳細図



＜十字柱柱脚＞　　＜ボックス柱柱脚＞

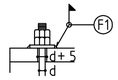
イ.十字柱柱脚部のしぼりは1/5以下とする。

ロ.ⓐ部の溶接は、（※Ⓟ1・Ⓣt）とする。

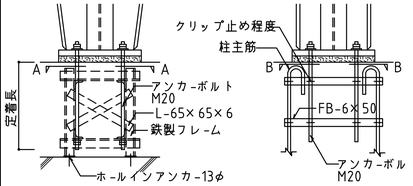
ハ.ベースプレートの材質は、柱の材質と同等以上とし板厚ｔは、取付くプレート最大板厚の１サイズアップ以上とする。

ニ.ベースプレートのアンカーボルト穴径は、d＋5㎜を標準とする。
d：アンカーボルト径

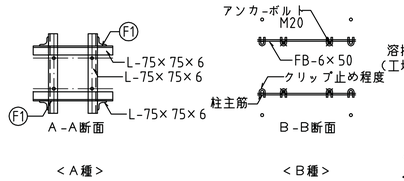
ホ.アンカーボルトは二重ナット締めとする。座金の全周溶接を（※行なわない、・行う）



座金とベースプレートの全周溶接

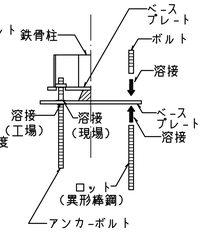


ヘ.柱脚アンカーボルトの保持及び埋込み方法は（※A種、・B種）とする。なお、アンカーボルト溶接工法（大臣認定取得工法）を使用する場合は監督員の承諾を得ること。

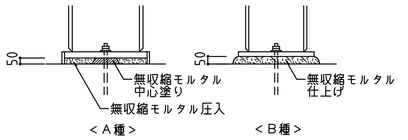


＜A種＞　　＜B種＞

アンカーボルトの保持及び埋込み方法



＜アンカーボルト溶接工法＞



＜A種＞　　＜B種＞

柱底均しモルタル工法

ト.アンカーボルト定着長さは（※25d・40d）とする。

チ.柱底均しモルタル工法はA種とする。なお監督員及び監理者と打ち合せの上B種でも可とする。

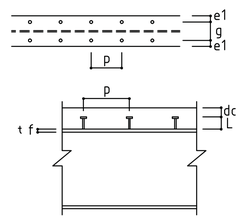
リ.アンカーボルト設置に際しては天プレートを使用すること。

頭付きスタッド溶接

イ.材料　　頭付きスタッドの材料はJIS B1198（頭付きスタッド）を使用する。

ロ.はしあき、かぶり等

項　目	寸　法
間　隔　（p）	呼び名の7.5倍以上かつ 600㎜ 以下
最小ゲージ（g）	呼び名の ５倍以上
へりあき　（e1）	40㎜ 以上
かぶり　（dc）	30㎜ 以上（あらゆる方向）
径　　（d）	2.5×ｔf以下（鉄骨はりウェブ直上に溶接される場合をのぞく）
長さ径比	L/d≧４



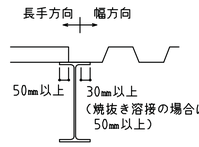
デッキプレート

（特記なき限り、鉄骨工事技術指針工事現場施工編（日本建築学会）による
適用範囲は、JIS系デッキ、フラットデッキとする。）

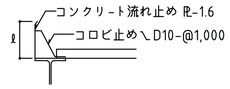
1.デッキプレート標準納まり（フラットデッキも同様とする）

（1）敷込み

a）デッキプレートの梁へのかかり代



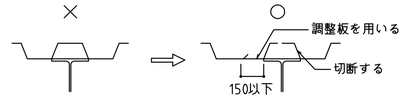
b）デッキ外端（長手、幅両方向とも）



デッキプレートの小口は小口ふさぎ又はエンドクローズ製品を使用すること。

ℓ ≧コンクリート打設厚さ

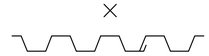
c）デッキプレート山部が大梁をまたぐ場合



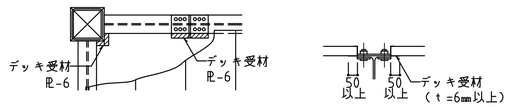
デッキプレートの山部が大梁をまたぐ敷込みは行わない　　役物を用いる

d）幅方向の寸法調整

下図の様なデッキプレート相互の接合部で寸法調整は行わず、必ず梁端部で調整プレート（役物）を用いる。



（2）柱及び梁継手部



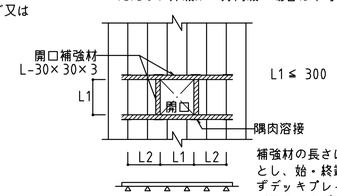
（3）開口補強

a）補強がない場合

デッキプレートのウェブ又はリブにかからない場合

補強なし

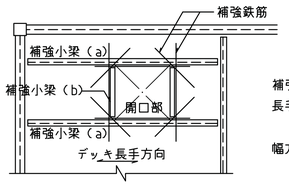
b）開口部の大きさが300㎜×300㎜以下の場合
ただし、床版が一方向版の場合は不可



補強材の長さはL2≧300とし、始・終端をかならずデッキプレートの山部（フラットデッキはリブ）にかかる様に長さを決めること

c）上記以外

下図の様に補強小梁を用い
開口部周辺は鉄筋で補強する



補強小梁の断面

長手方向(a)　H-200×100×5.5×8
GPL-6 H.t.B 2-M16

幅方向(b)　C-100×50×5×7.5
GPL-6 H.t.B 2-M16

2.梁との接合

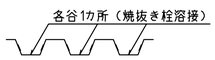
（1）梁の溶接面

赤錆、油脂、土砂等を十分に除去し、乾燥させること

（2）溶接位置

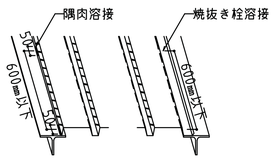
デッキプレート幅方向

（大梁・小梁）



デッキプレートを連続で敷込む場合、スタッドジベルはデッキプレートを貫通させ打設する。

デッキプレート長手方向



埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記・2010.4.7　見積用図面 ・（この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号　記名　捺印　製図　検図　納品検査 代表設計者　一級建築士 第239114号　石井 靖人 担当設計者　一級建築士 第233543号 構造設計一級建築士 第6144号　塩手 博道　一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号　丸谷 周平	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容　構造鉄骨規準図（4）	図面番号　2012
課長　副課長　主幹　主査　主査　主査　主査	課長					縮尺　N.S.	区分　建築構造図

梁貫通補強

1．補強プレート（※ 下記による ・構造図による）

（1）補強プレートの材質はウェブと同質とする。

（2）貫通径の適用範囲を超える場合は別途指示による。

（3）鋼管スリーブの材質はSTK400とする。

（4）鉄骨造の場合は、鋼管スリーブを（※ 不要 ・ 要 ）とする。

（5）表Bに特記がある場合は表Bを優先する。

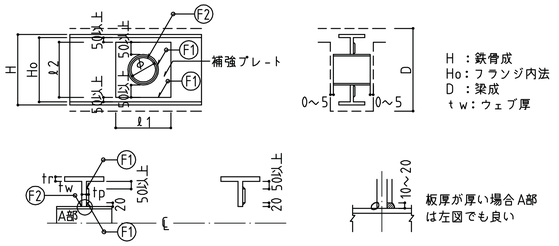
表 A

スリーブ径	鋼管スリーブ（内法径）	鉄骨成	tw≦6	6<tw≦9	9<tw≦12	12<tw≦16	16<tw≦19	19<tw≦22
100φ	—	350≦H< 400	R- 6	R- 9	R-12	R-16	R-19	2R-19
		400≦H< 500	R- 6	R- 9	R-12	R-16	R-19	2R-16
		500≦H	R- 6	R- 6	R- 9	R-12	R-12	R-16
125φ	139.8φ×4.5（130.8）	400≦H< 500	R- 9	R-12	R-16	2R-12	2R-12	2R-16
		500≦H< 600	R- 6	R- 9	R-12	R-16	R-16	2R- 9
		600≦H	R- 6	R- 6	R- 9	R-12	R-12	R-16
150φ	165.2φ×4.5（156.2）	400≦H< 450	R- 9	2R- 9	2R- 9	2R-12	2R-16	2R-19
		450≦H< 500	R- 9	2R- 9	2R- 9	2R-12	2R-16	2R-19
		500≦H< 600	R- 9	R-12	R-16	2R-12	2R-12	2R-16
		600≦H< 700	R- 6	R- 6	R- 9	R-12	R-16	R-16
		700≦H	R- 6	R- 6	R- 9	R-12	R-12	R-16
175φ	190.7φ×5.3（180.1）	450≦H< 500	2R- 6	2R- 9	2R-12	2R-16	2R-19	2R-22
		500≦H< 600	2R- 6	2R- 9	2R-12	2R-16	2R-16	2R-19
		600≦H< 700	R- 6	R- 9	R-12	R-16	2R- 9	2R-12
		700≦H< 800	R- 6	R- 6	R- 9	R-12	R-12	R-16
		800≦H	R- 6	R- 6	R- 9	R- 9	R-12	R-16
200φ	216.3φ×5.8（204.7）	500≦H< 550	2R- 6	2R- 9	2R-12	2R-16	2R-19	2R-22
		550≦H< 600	2R- 6	2R- 9	2R-12	2R-16	2R-16	2R-19
		600≦H< 700	R- 9	R-12	R-16	2R- 9	2R-12	2R-16
		700≦H< 800	R- 6	R- 9	R- 9	R-12	R-16	R-16
		800≦H	R- 6	R- 6	R- 9	R- 9	R-12	R-16
250φ	267.4φ×6.0（255.4）	550≦H< 600	2R- 9	2R-12	2R-16	—	—	—
		600≦H< 700	2R- 6	2R- 9	2R-12	2R-16	2R-19	2R-22
		700≦H< 800	R- 9	R-12	R-16	2R- 9	2R-12	2R-16
		800≦H< 900	R- 6	R- 9	R-12	R-16	R-16	2R- 9
		900≦H< 1000	R- 6	R- 6	R- 9	R-12	R-12	R-16
		1000≦H	R- 6	R- 6	R- 9	R- 9	R-12	R-12
300φ	318.5φ×6.0（306.5）	650≦H< 700	2R- 9	2R-12	2R-16	2R-19	2R-22	—
		700≦H< 800	2R- 6	2R- 9	2R-12	2R-16	2R-16	2R-19
		800≦H< 900	R- 9	R-12	R-16	2R- 9	2R-12	2R-12
		900≦H< 1000	R- 6	R- 9	R-12	R-16	R-16	2R- 9
		1000≦H< 1100	R- 6	R- 6	R- 9	R-12	R-12	R-16
		1100≦H	R- 6	R- 6	R- 9	R- 9	R-12	R-12
350φ	355.6φ×6.4（342.8）	700≦H< 750	2R- 9	2R-12	2R-16	—	—	—
		750≦H< 800	2R- 6	2R- 9	2R-12	2R-16	2R-19	2R-22
		800≦H< 900	R- 9	2R- 9	2R-12	2R-16	2R-16	2R-19
		900≦H< 1000	R- 9	R-12	R-16	2R- 9	2R-12	2R-12
		1000≦H< 1100	R- 6	R- 9	R-12	R-16	R-16	2R- 9
		1100≦H	R- 6	R- 6	R- 9	R-12	R-16	R-16
400φ	406.4φ×6.4（393.6）	800≦H< 900	2R- 9	2R-12	2R-16	2R-19	2R-22	2R-25
		900≦H< 1000	R- 9	R-12	2R- 9	2R-12	2R-16	2R-16
		1000≦H< 1100	R- 9	R-12	R-16	2R- 9	2R-12	2R-12
		1100≦H	R- 6	R- 9	R-12	R-16	R-16	2R-12
450φ	457.2φ×6.4（444.4）	900≦H< 1000	2R- 6	2R- 9	2R-12	2R-16	2R-19	2R-22
		1000≦H< 1100	R- 9	R-12	2R- 9	2R-12	2R-16	2R-16
		1100≦H	R- 9	R-12	R-16	2R- 9	2R-12	2R-12
500φ	508.0φ×6.4（495.2）	1000≦H< 1100	2R- 6	2R- 9	2R-12	2R-16	2R-19	2R-22
		1100≦H	R- 9	R-12	R-16	2R-12	2R-16	2R-16
550φ	558.8φ×6.4（546.0）	1100≦H	2R- 6	2R- 9	2R-12	2R-16	2R-16	2R-19
600φ	609.6φ×6.4（596.8）	1200≦H	2R- 6	2R- 9	2R-12	2R-16	2R-16	2R-19

表 B （鋼管スリーブがある場合、鋼管スリーブは表Aによる。）

H	φ	≦tw≦	<tw≦	<tw≦	<tw≦	<tw≦	備考
		R-					

2．標準詳細図



（鋼管スリーブがある場合） （鋼管スリーブがない場合）

（1）ℓ1、ℓ2は、3φまたはHo-100のうち小さい方とする。

（2）補強プレートは丸形としてもよい。

（3）上下フランジと補強プレートとのあきは、施工性を考慮した上で小さくすることができる。

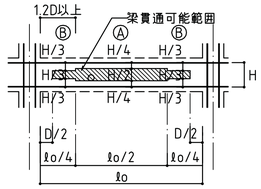
（4）梁貫通を設けることができる範囲及び最大径は下記による。

a）SRC梁の場合

最大径は以下による。但し、表Aまたは表Bの範囲内とする。

Ⓐ: φ≦D/3かつ φ≦H/2

Ⓑ: 150φ以下で φ≦D/6かつ φ≦H/4

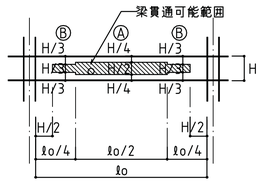


b）S梁の場合

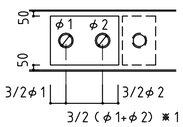
最大径は以下による。但し、表Aまたは表Bの範囲内とする。

Ⓐ: φ≦H/2

Ⓑ: 150φ以下で φ≦H/4



（5）貫通孔が2個以上並列する場合は、2個毎に1枚のプレートで補強する。

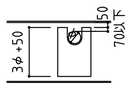


※1貫通孔の間隔

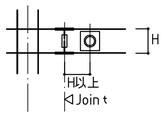
a）SRC梁の場合
径の平均の3倍以上

b）S梁の場合
原則として径の平均の3倍以上
但し監督員の指示により2倍以上とすることができる

（6）貫通孔が上下に偏っている場合（但しφ≦H/4とする）



（7）JOINt付近に貫通孔を設ける場合

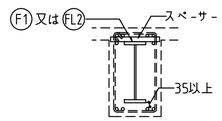


※フランジのボルト位置と鋼管スリーブが干渉しないように注意する。

鉄筋コンクリート部分とのとりあい

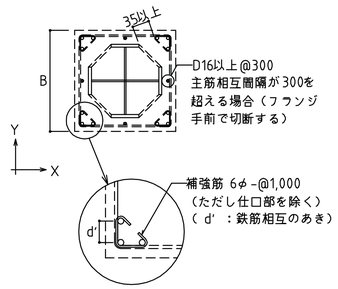
1．鉄骨のかぶり、スペーサー及び補強筋

（1）梁



スペーサー（平鋼又は鉄筋）は、約2m間隔に梁の接合部付近を避けて割付け、鉄骨製作工場において取り付ける。

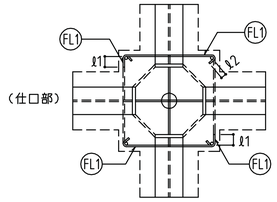
（2）柱



イ．柱の配筋において、X,Y方向に作用する主筋を用いる場合は、補強筋（6φ-@1,000）によって鉄筋の位置を確保する。

ロ．主筋相互間隔が300を超える場合、中間にて補助筋（D16上）を@300でいれる。

2．帯筋加工及び組立て



仕口部における帯筋の加工及び組立ては左図とする。
（溶接長さℓ1=10d）FL1によらない場合135°の折曲げまたは機械式継手（建築センター認定品）でも可とする。
（折曲げ長さℓ2=6Xフープの径）

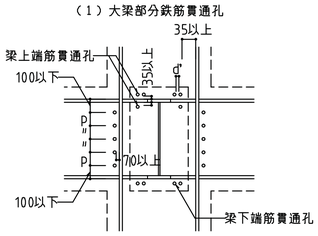
3．鉄筋貫通孔の径（φ）

表-1

鉄筋 異径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
貫通孔径（mm）	24	28	31	35	38	43	46	

梁筋の定着又は、引通しのため鉄骨にあける貫通孔は表-1とする。

（1）大梁部分鉄筋貫通孔

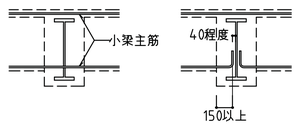


イ．梁筋貫通孔の位置は左図とする。

d' ：鉄筋貫通孔相互のあき
P ：フープのピッチ

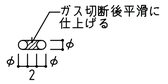
ロ．ハンチ梁下端筋用貫通孔、大梁が斜めに取付く柱の帯筋用貫通孔等、貫通孔をルーズにする必要のある場合下図とする。

（2）小梁部分鉄筋貫通孔



小梁下端筋が大梁鉄骨ウェブを貫通する場合

小梁下端筋が大梁鉄骨ウェブを貫通しない場合



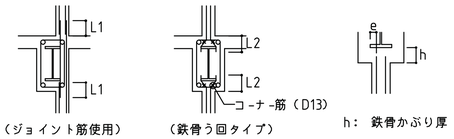
上端筋がウェブに当る場合はウェブを貫通させること。

4．壁筋の周辺部材への定着

（1）梁への定着方法

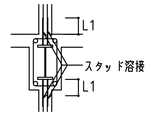
a）e/h≦1/6の場合

e,hは下図による。



（ジョイント筋使用） （鉄骨う回タイプ） h： 鉄骨かぶり厚

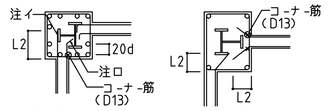
b）e/h>1/6の場合



（スタッド溶接タイプ）

（2）柱への定着方法

a）e/h≦1/6の場合



（折曲げタイプ） （鉄骨う回タイプ）

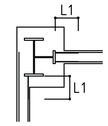
注）

イ．鉄骨に接触していてもよい。

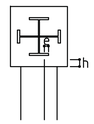
ロ．折り曲げタイプの場合は、鉄筋径の20倍以上定着後、ゆるやかに折り曲げる。

ハ．e・hは下図による。

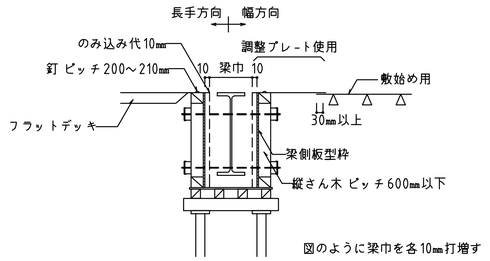
b）e/h>1/6の場合



（スタッド溶接タイプ）



5．デッキプレート標準納まり



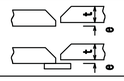
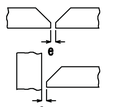
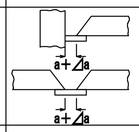
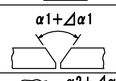
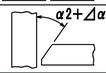
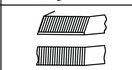
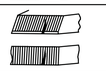
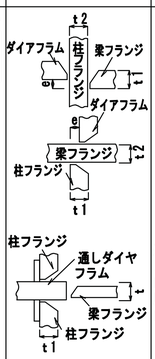
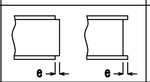
その他

下地金物取付用の捨てプレート及び溝型鋼等も、工場溶接を原則とする。

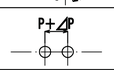
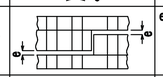
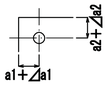
埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 構造鉄骨規準図（5）	図面番号 2013
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査	課長	2010.4.7 見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人 / 担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道 / 一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号 丸谷 周平	資格/番号 記名 捺印 製図 検図 納品検査	縮尺 N.S.	区分 建築構造図

3.　鉄骨工事精度標準（測定に用いる器具及び測定方法は鉄骨精度検査基準（JASS6）による

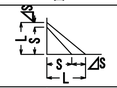
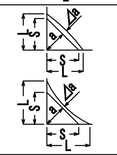
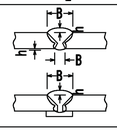
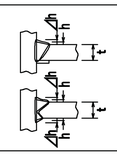
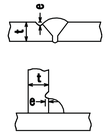
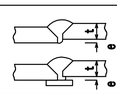
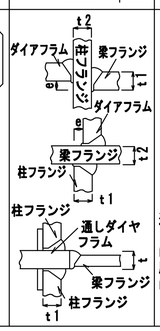
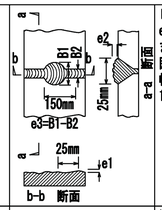
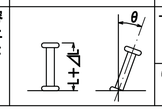
1. 工作および組立て

名称	図	管理許容差	限界許容差
(1) t継手のすきま（隅肉溶接） e		e≦2mm	e≦3mm ただし、eが2mmを越える場合はサイズをeだけ増加する。
(2) 重ね継手のすきま e		e≦2mm	e≦3mm ただし、eが2mmを越える場合はサイズをeだけ増加する。
(3) 突合せ継手の食違い e		t≦15mm　e≦1mm t＞15mm　e≦t／15 かつ e≦2mm	t≦15mm　e≦1.5mm t＞15mm　e≦t／10 かつ e≦3mm
(4) ルート間隔（裏はつり） e		アーク手溶接　0≦e≦2.5mm サブマージアーク自動溶接　0≦e≦1mm ガスシールドアーク半自動溶接　0≦e≦2mm セルフシールドアーク半自動溶接　0≦e≦2mm	アーク手溶接　0≦e≦4mm サブマージアーク自動溶接　0≦e≦2mm ガスシールドアーク半自動溶接　0≦e≦3mm セルフシールドアーク半自動溶接　0≦e≦3mm
(5) ルート間隔（裏当て金付き） ⊿a		アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフシールドアーク半自動溶接　⊿a≧-2mm サブマージアーク自動溶接　-2mm≦⊿a≦+2mm	アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフシールドアーク半自動溶接　⊿a≧-3mm サブマージアーク自動溶接　-3mm≦⊿a≦+3mm
(6) ルート面 ⊿a		アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフシールドアーク半自動溶接 裏当て金なし　⊿a≦2mm 裏当て金あり　⊿a≦1mm サブマージアーク自動溶接　⊿a≦2mm	アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフシールドアーク半自動溶接 裏当て金なし　⊿a≦3mm 裏当て金あり　⊿a≦2mm サブマージアーク自動溶接　⊿a≦3mm
(7) ベベル角度 ⊿α		⊿α≧-2.5°	⊿α≧-5°
(8) 開先角度 ⊿α		⊿α1≧-5°	⊿α1≧-10°
		⊿α2≧-2.5°	⊿α2≧-5°
(9) ガス切断面のあらさ		開先内　200μmRy 自由縁端　100μmRy	開先内　200μmRy 自由縁端　100μmRy
(10) ガス切断面のノッチ深さ d		開先内　d≦1mm 自由縁端　d≦0.5mm	開先内　d≦2mm 自由縁端　d≦1mm
(11) ガス切断による切断線の直角度 e		t≦20mm　e≦1mm t＞20mm　e＜t／20	t≦20mm　e≦2mm t＞20mm　e＜t／10
(12) 仕口のずれ（ダイアフラムとフランジのずれ） e		t1≧t2 e≦2t1／15かつe≦3mm t1＜t2 e≦ t1／ 6かつe≦4mm 通しダイヤフラムと梁フランジの溶接部の梁フランジは、通しダイヤフラムの板厚tの内部で溶接しなければならない。	t1≧t2 e≦t1／5かつe≦4mm t1＜t2 e≦t1／4かつe≦5mm 通しダイヤフラムと梁フランジの溶接部の梁フランジは、通しダイヤフラムの板厚tの内部で溶接しなければならない。
(13) 溶接組立材端部の不ぞろい e		e≦2mm	e≦3mm

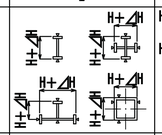
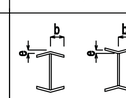
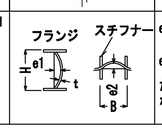
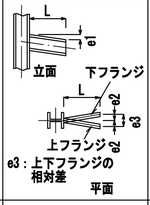
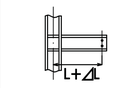
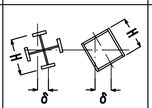
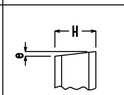
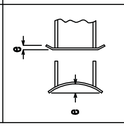
2. 高力ボルト

名称	図	管理許容差	限界許容差
(1) 孔の心ずれ e		e≦1mm	e≦1.5mm
(2) 孔相互の間隔 ⊿P		-1mm≦⊿P≦+1mm	-1.5mm≦⊿P≦+1.5mm
(3) 孔の食違い e		e≦1mm	e≦1.5mm
(4) 高力ボルト接合部の肌すき e		e≦1mm	e≦1mm
(5) 孔のはしあき・へりあき ⊿a		⊿a1≧-2mm ⊿a2≧-2mm かつ「高力ボルト接合設計施工指針」のはしあき・へりあきの最小値を満足すること。	⊿a1≧-3mm ⊿a2≧-3mm かつ「高力ボルト接合設計施工指針」のはしあき・へりあきの最小値を満足すること。

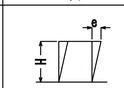
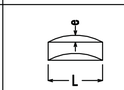
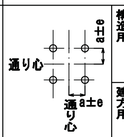
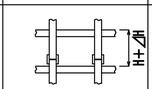
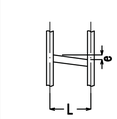
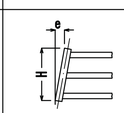
3. 溶接

名称	図	管理許容差	限界許容差
(1) 隅肉溶接のサイズ ⊿s		0≦⊿S≦0.5S かつ⊿S≦5mm	0≦⊿S≦0.8S かつ⊿S≦8mm
(2) 隅肉溶接の余盛の高さ ⊿a		0≦⊿a≦0.4S かつ⊿a≦4mm	0≦⊿a≦0.6S かつ⊿a≦6mm
(3) 完全溶込み溶接突合せ継手の余盛の高さ h		B＜15mm 0＜h≦3mm 15mm≦B＜25mm 0＜h≦4mm 25mm≦B 0＜h ≦（4／25）Bmm	B＜15mm 0＜h≦5mm 15mm≦B＜25mm 0＜h≦6mm 25mm≦B 0＜h ≦（6／25）Bmm
(4) 完全溶込み溶接t継手の余盛の高さ ⊿h		t≦40（h=t/4） 0≦⊿h≦7mm t＞40（h=10） 0≦⊿h≦t/4-3	t≦40（h=t/4） 0≦⊿h≦10mm t＞40（h=10） 0≦⊿h≦t/4
(5) アンダーカット e		完全溶込み溶接　e≦0.3mm 前面隅肉溶接　e≦0.3mm 側面隅肉溶接　e≦0.3mm ただし、アンダーカット部分の長さの総和が溶接部分全体の長さの10%以下であり、かつ、その断面が鋭角的でない場合は、アンダーカットの深さeを1mm以下とすることができる。	完全溶込み溶接　e≦0.3mm 前面隅肉溶接　e≦0.3mm 側面隅肉溶接　e≦0.3mm ただし、アンダーカット部分の長さの総和が溶接部分全体の長さの10%以下であり、かつ、その断面が鋭角的でない場合は、アンダーカットの深さeを1mm以下とすることができる。
(6) 突合せ継手の食違い e		t≦15mm e≦1mm t＞15mm e≦t／15かつe≦2mm	t≦15mm e≦1.5mm t＞15mm e≦t／10かつe≦3mm
(7) 仕口のずれ（ダイアフラムとフランジのずれ） e		t1≧t2 e≦2t1／15かつe≦3mm t1＜t2 e≦ t1／ 6かつe≦4mm 通しダイヤフラムと梁フランジの溶接部の梁フランジは、通しダイヤフラムの板厚tの内部で溶接しなければならない。	t1≧t2 e≦t1／5かつe≦4mm t1＜t2 e≦t1／4かつe≦5mm 通しダイヤフラムと梁フランジの溶接部の梁フランジは、通しダイヤフラムの板厚tの内部で溶接しなければならない。
(8) ビード表面の不整 e		ビード表面の凸凹の高低差e1, e2は溶接の長さ、またはビード幅25mmの範囲で2.5mm以下、ビード幅の不整e3は溶接の長さ150mmの範囲で5mm以下。	ビード表面の凸凹の高低差e1, e2は溶接の長さ、またはビード幅25mmの範囲で4mm以下、ビード幅の不整e3は溶接の長さ
(9) ピット		溶接長さ30cmあたり1個以下。ただし、ピットの大きさが1mm以下のものは3個を1個として計算する。	溶接長さ30cmあたり2個以下。ただし、ピットの大きさが1mm以下のものは3個を1個として計算する。
(10) スタッド溶接後の仕上がり高さと傾き ⊿L, θ		-1.5mm≦⊿L≦+1.5mm	-2mm≦⊿L≦+2mm
		θ≦3°	θ≦5°

4. 製品

名称	図	管理許容差	限界許容差
(1) 梁の長さ ⊿L		-3mm≦⊿L≦+3mm	-5mm≦⊿L≦+5mm
(2) 柱の長さ ⊿L		L＜10m -3mm≦⊿L≦+3mm L≧10m -4mm≦⊿L≦+4mm	L＜10m -5mm≦⊿L≦+5mm L≧10m -6mm≦⊿L≦+6mm
(3) 階高 ⊿L		-3mm≦⊿L≦+3mm	-5mm≦⊿L≦+5mm
(4) 梁の曲がり e		e≦ L／1000 かつe≦10mm	e≦ 1.5L／1000 かつe≦15mm
(5) 柱の曲がり e		e≦ L／1500 かつe≦5mm	e≦ L／1000 かつe≦8mm
(6) せい ⊿H		H＜800mm -2mm≦⊿H≦+2mm H≧800mm -3mm≦⊿H≦+3mm	H＜800mm -3mm≦⊿H≦+3mm H≧800mm -4mm≦⊿H≦+4mm
(7) 幅 ⊿B		-2mm≦⊿B≦+2mm	-3mm≦⊿B≦+3mm
(8) 箱形断面の直角度 e		接合部 e≦ H／100 かつe≦2mm 一般部 e≦ 2H／100 かつe≦4mm	接合部 e≦ 3H／200 かつe≦3mm 一般部 e≦ 3H／100 かつe≦6mm
(9) H形断面の直角度 e		接合部 e≦ b／100 かつe≦1.0mm 一般部 e≦ 2b／100 かつe≦2mm	接合部 e≦ 3b／200 かつe≦1.5mm 一般部 e≦ 3b／100 かつe≦3mm
(10) ウェブの心ずれ e		e≦2mm	e≦3mm
(11) ウェブの曲がり e		e1≦ H／150 かつe1≦4mm e2≦ B／150 かつe2≦4mm ただし、t≦6には適用しない。	e1≦ H／100 かつe1≦6mm e2≦ B／100 かつe2≦6mm ただし、t≦6には適用しない。
(12) 仕口部の角度 e		e1, e2≦ L／300 かつ e1, e2≦3mm e3≦4mm	e1, e2≦ L／200 かつ e1, e2≦5mm e3≦6mm
(13) 仕口部の長さ ⊿L		-3mm≦⊿L≦+3mm	-5mm≦⊿L≦+5mm
(14) 柱のねじれ δ		δ≦ 6H／1000 かつδ≦5mm	δ≦ 9H／1000 かつδ≦8mm
(15) メタルタッチ e		e≦ 1.5H／1000	e≦ 2.5H／1000
(16) ベースプレートの折れおよび凹凸 e		e≦2mm	e≦3mm

5. 工事現場

名称	図	管理許容差	限界許容差
(1) 建物の倒れ e		e≦ H／4000 +7mm かつe≦30mm	e≦ H／2500 +10mm かつe≦50mm
(2) 建物のわん曲 e		e≦ L／4000 かつe≦20mm	e≦ L／2500 かつe≦25mm
(3) 通り心とアンカーボルトの位置のずれ e		構造用アンカーボルト　-3mm≦e≦+3mm 建方用アンカーボルト　-5mm≦e≦+5mm	構造用アンカーボルト　-5mm≦e≦+5mm 建方用アンカーボルト　-8mm≦e≦+8mm
(4) 柱すえ付け面の高さ ⊿H		-3mm≦⊿H≦+3mm	-5mm≦⊿H≦+5mm
(5) 工事現場継手階の階高 ⊿H		-5mm≦⊿H≦+5mm	-8mm≦⊿H≦+8mm
(6) 梁の水平度 e		e≦ L／1000 +3mm かつe≦10mm	e≦ L／700 +5mm かつe≦15mm
(7) 柱の倒れ e		e≦ H／1000 かつe≦10mm	e≦ H／700 かつe≦15mm

埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記・2010.4.7　見積用図面 ・（この図面で施工しないでください） ・枠内は国土交通省告示第1464号（平成12年5月31日）の規定事項	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号　記名　捺印 代表設計者　一級建築士 第239114号　石井 靖人 担当設計者　一級建築士 第233543号 構造設計一級建築士 第6144号　塩手 博道 一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号　丸谷 周平	製図	検図	納品検査
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査	課長						

東部地域振興ふれあい拠点施設（仮称）
建築工事

図面内容	図面番号
構造鉄骨規準図（6）	2014
縮尺 N.S.	区分 建築構造図

露出型固定柱脚（大臣認定品）工法設計施工標準

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 ＪＡＳＳ６ 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説 ＪＡＳＳ５ 鉄筋コンクリート工事に準拠する。
アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、アンカーボルトの締付け、これらの施工は、認定業者が行うこと。

設　　計

１．材質

（１）ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

	ベースプレート	アンカーボルト	ナット	座　金	定着板
規　格	HCW490st 同等品 ※1（大臣認定取得材）	HAB 同等品 ※2（大臣認定取得材）	JIS B1181（六角ナット）※2	JIS G3106 ※2	JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）
ねじの種類	―	メートル並目 ※3	メートル並目 ※3	―	―
備　考	SN490B同等	降伏比 70%以下	強度区分5（二重ナット用） 強度区分8（一重ナット用）	SM490A	SS400

※1 国土交通大臣認定(MSTL-0180)　※2 国土交通大臣認定(MBLT-0042~0046)　※3 M72は第8ねじ

（２）ベースプレート下面のモルタル

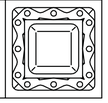
後詰めモルタル	ハイベースグラウト NX2000または、これらと同等以上の無収縮性モルタル。
中心塗部分モルタル	○普通モルタル，または無収縮性モルタル。 ○強度は基礎・基礎ばりの強度以上。

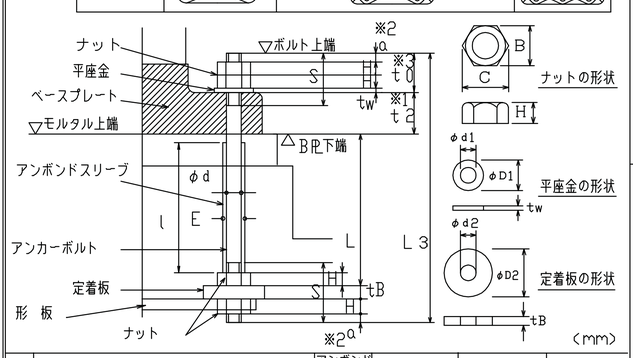
（３）基礎・基礎ばり

コンクリート	○日本建築学会「ＪＡＳＳ５ 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート。 ○設計基準強度は、Fc＝18 N／mm²以上
鉄　筋	ＪＩＳ Ｇ３１１２「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼

２．アンカーボルトのセット寸法

注意　ボルト本数はベースプレートの型式によって異なります。

型　式	C1・S1	S2・M2・L2・X2・WX2	S3・M3・L3
ボルト本数	4	8	12
形状例			

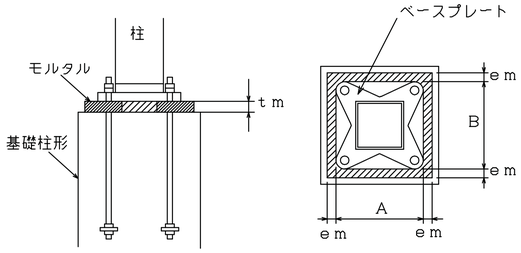


ねじの呼び	アンカーボルト 軸径	ねじ ピッチ	ねじ 長さ	余長※2	定着長さ	台座上長※3	全長※4	アンボンドスリーブ 長さ	外径	ナット(一種) 高さ	二面幅	対角距離	平座金 厚さ	内径	外径	定着板 厚さ	内径	外径
	φd	P	S1	α	L	t0	L3	l	E	H	B	C	tw	φd1	φD1	tB	φd2	φD2
M24	24	3	105	10	480	54	645	400	29	19	36	42	6	25	44	16	27	70
M30	30	3.5	130	13	600	67(48)	800	515	35	24	46	53	6	31	56	16	33	90
M36	36	4	150(130)	16	720	80(56)	955(925)	630	41	29	55	64	6	37	66	19	39	100
M42	42	4.5	165(145)	18	840	95(66)	1110(1080)	745	48	34	65	75	9	43	78	22	45	120
M48	48	5	190(165)	22	960	107(74)	1270(1225)	860	54	38	75	87	9	50	92	25	52	140
M56	56	5.5	210(185)	24	1120	123(83)	1470(1420)	1015	62	45	85	98	9	58	105	28	60	160
M64	64	6	230(200)	28	1280	142(96)	1660(1610)	1165	70	51	95	110	12	66	115	32	68	180
M72	72	6	250	30	1440	158	1850	1320	79	58	105	121	12	74	125	36	76	200

※1　t2 はベースプレート台座厚さを示し、ベースプレート型 式によって変わります。
※2　a 寸法は、ベースプレート台座の厚さによって多少変動しますが、本数値以上確保下さい。
※3　t0 は、ベースプレート台座上からボルト天端までの最小寸法を表します。
※4　（　）内は、BC型の数値を示します。　※ＢＣ型はシングルナット仕様とする。

注意　・アンカーボルトは二重ナットを標準とする。

３．基礎柱形部の標準納まり



各部名称	寸法制限	備　考
ベースプレート下面のモルタル厚さ（tm）	tm≧30mm	但し、標準はtm=50mm tm=30mmは柱断面が□300、○300、H300以下の時に可
ベースプレート周辺部のモルタル幅（em）	em≧tm	ベースプレート下面モルタルの高さと同等以上

工場加工

１．溶接材料

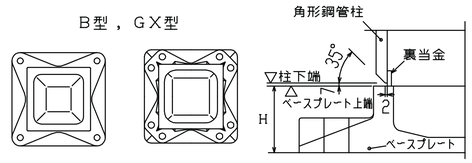
被覆アーク溶接	低水素系490N/mm²級高張力鋼用（JIS Z3212　D5016相当以上）
ガスシールドアーク溶接	軟鋼及び490N/mm²級高張力鋼マグ溶接用ソリッドワイヤ（JIS Z3312　YGW11相当）

２．ベースプレートの鉄骨柱への取付（柱端部に開先を設ける。）

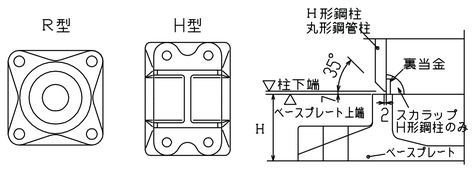
※　柱とベースプレートの溶接は、完全溶込み溶接
開先はMC−TL−B１、GC−TL−B１による

注意　開先形状は参考

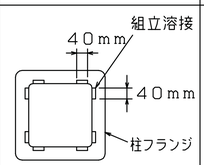
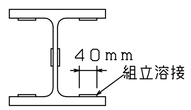
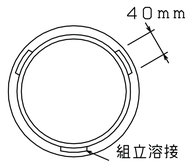
角形鋼管柱用



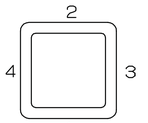
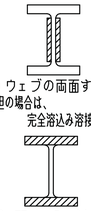
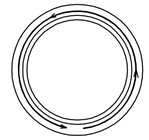
H形鋼柱用 円形鋼管柱用



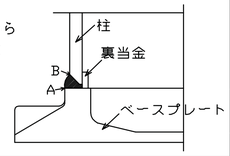
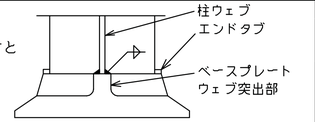
３．組立溶接

角形鋼管	H形鋼	円形鋼管
		

４．本溶接の手順

角形鋼管	H形鋼	円形鋼管
		
対辺ごとに溶接を行う。（自動ロボット溶接の場合はこれによらない）	（１）ウェブの両面すみ肉溶接（曲げ負担の場合は、完全溶込み溶接とする） （２）開先部の溶接	１パスごとに全周溶接を行う。

５．溶接施工一般

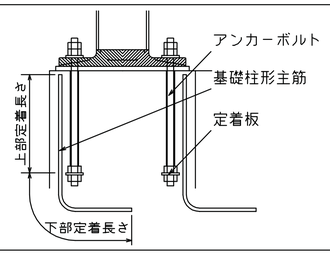
予　熱	鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
余　盛	溶接余盛はハイベース側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。 
H形鋼柱の溶接	エンドタブの取付とH形鋼柱ウェブのすみ肉溶接 

６．検　査

方　法	溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査によってよい。探傷は柱フランジ側から行う。
不良溶接部の補正	（１）有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。 （２）溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

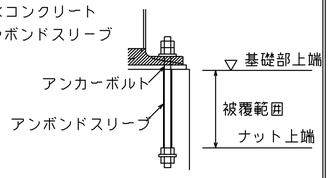
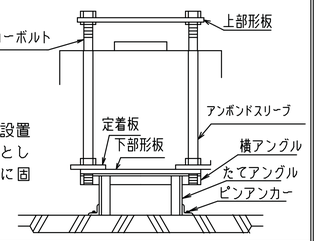
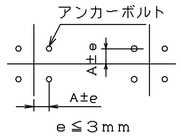
基礎柱形の設計

１．基礎柱形主筋の定着長さ



現　場　施　工

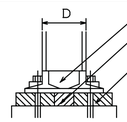
１．アンカーボルトの設置

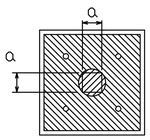
アンカーボルトのアンボンド処理	アンカーボルトはコンクリート埋め込み部をアンボンドスリーブで被覆する。 
アンカーボルトの設置	アンカーボルトの設置は自立できる形式とし捨てコンクリートに固定する。 
アンカーボルトの埋込み精度の目標値	平面：  e≦3mm レベル：基準高さよりの誤差eh　−3mm≦eh≦10mm

２．基礎・基礎ばりの配筋

３．コンクリートの打設

４．ベースプレート下面モルタルの施工





（イ）□350X350~700X700mmの角形鋼管柱、H形鋼柱、および φ200~700mmの円形鋼管柱の場合
150mm ≦ a ≦300mm　かつ柱寸法 D

（ロ）□750X750~1200X1200mmの角形鋼管柱および φ750~1000mmの円形鋼管柱の場合
300mm ≦ a ≦500mm

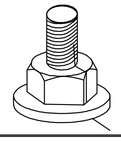
中心塗部分モルタルの養生	普通モルタル	4日以上
	無収縮モルタル	2日以上
後詰めモルタルの養生	無収縮モルタル	アンカーボルトの締め付けまで3日以上または、無収縮モルタルが基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上発現した後

５．アンカーボルトの締め付け

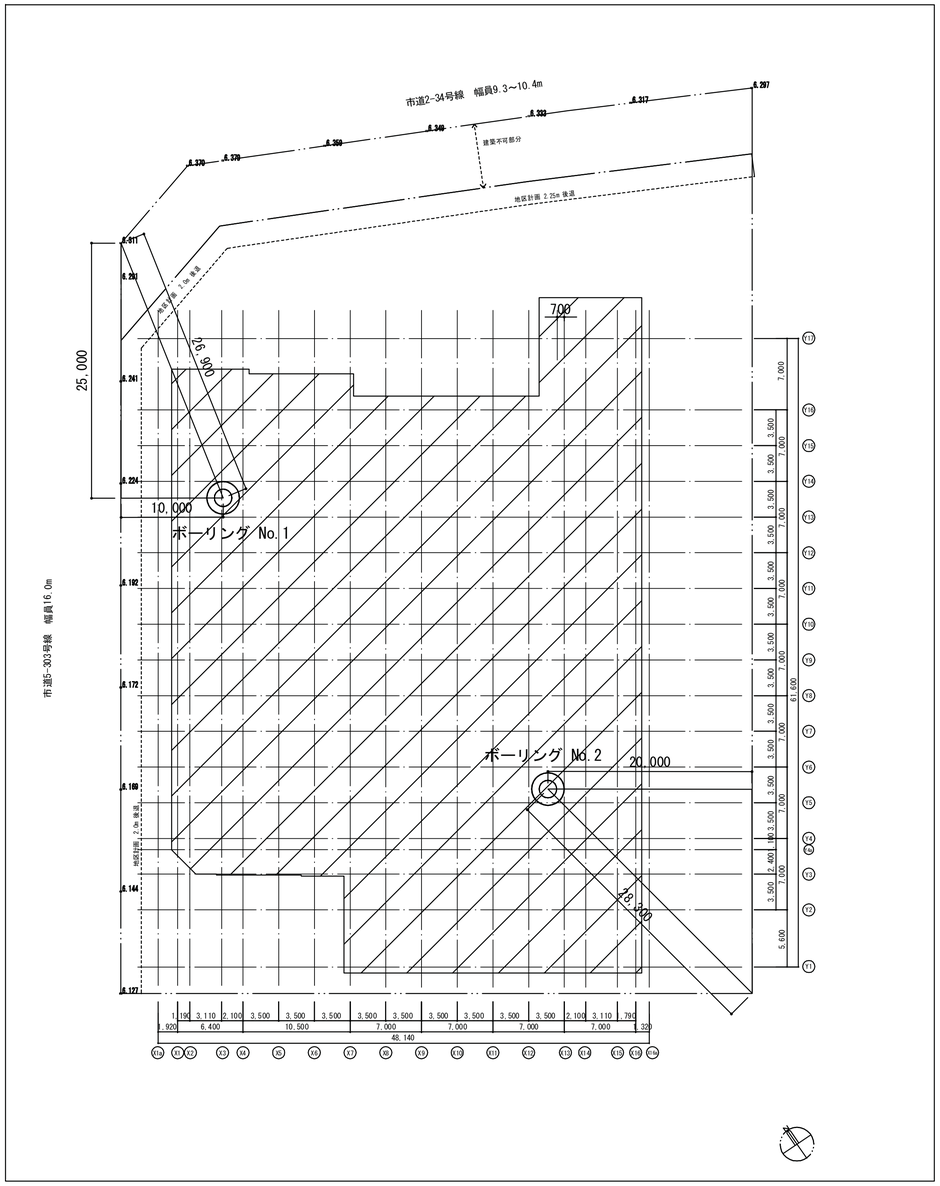
アンカーボルト	φ24	φ30	φ36	φ42	φ48	φ56	φ64	φ72
予備締め	20~30cmのレンチで400 N 程度の力で締め付ける。※ トルクの目安 100 N·m	40~50cmのレンチで400 N 程度の力で締め付ける。※ トルクの目安 200 N·m			70~80cmのレンチで400 N 程度の力で締め付ける。※ トルクの目安 300 N·m			
本締め	予備締めの状態からナットを、30°回転する。（許容差 +10°/0）							

予備締めが終了した段階で白ペンキ等にて、ボルト・ナット・ベースプレートにわたり図に示すようマーキングを施す。

上ナットは下ナットの本締めの後40~50cmのレンチで軽く締めつける。



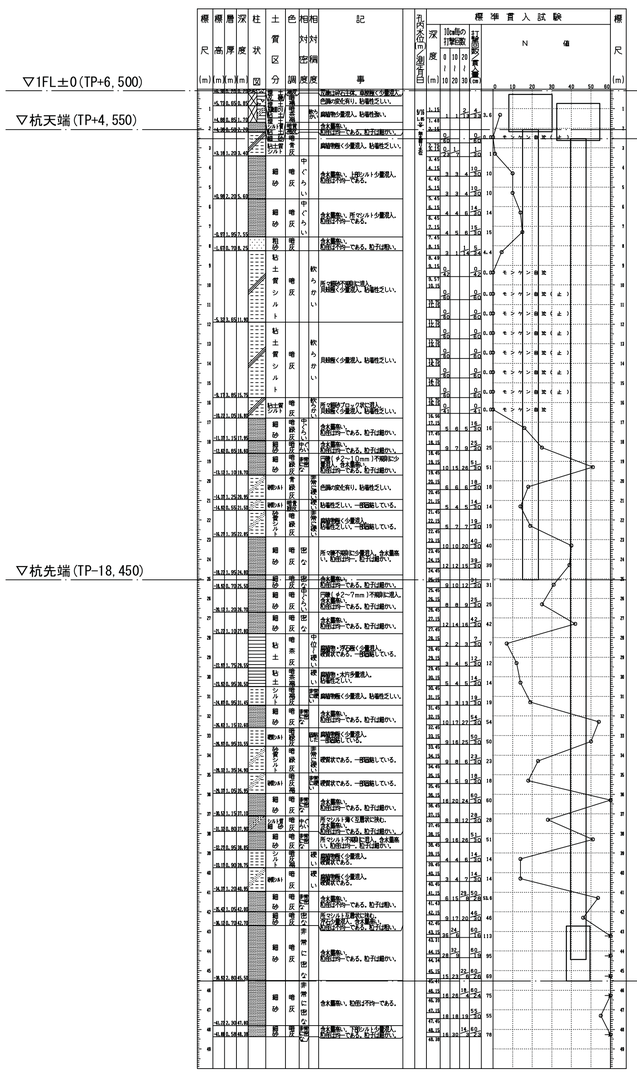
埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記・2010.4.7　見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	代表設計者：一級建築士 第239114号 石井 靖人	担当設計者：一級建築士 第233543号 塩手 博道；構造設計一級建築士 第6144号；一級建築士 第254056号 丸谷 周平；構造設計一級建築士 第131号	東部地域振興ふれあい拠点施設（仮称）建築工事	図面内容：露出型固定柱脚工法規準図	図面番号：2015	縮尺：N. S. / 区分：建築構造図



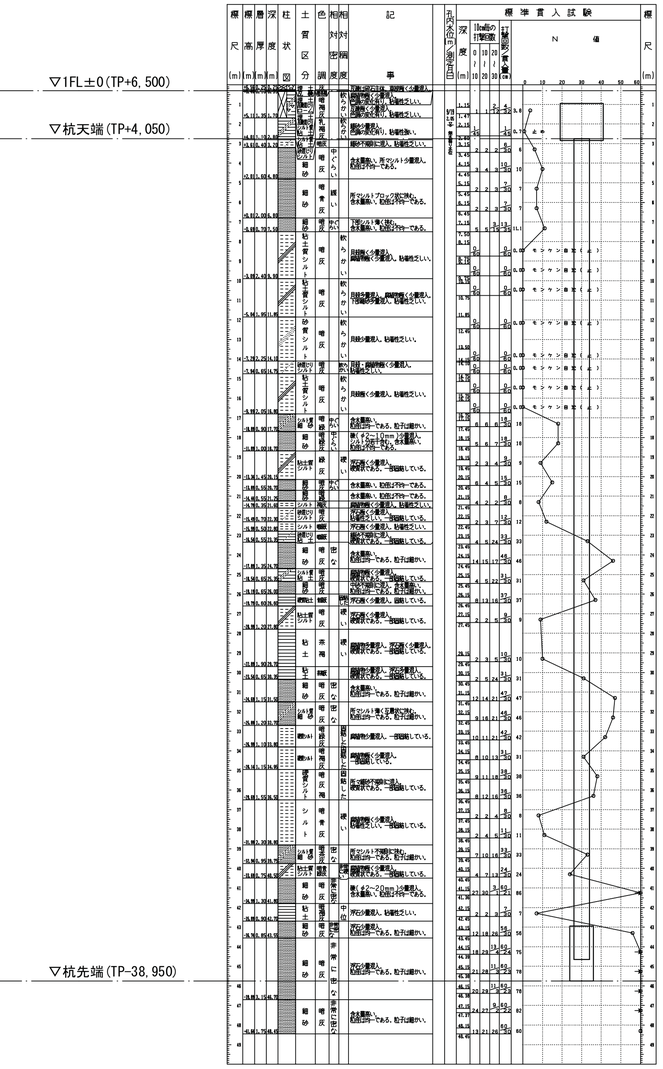
ボーリング位置図

共通事項（特記なき限り下記による）

1. ▨ は建物位置を示す。



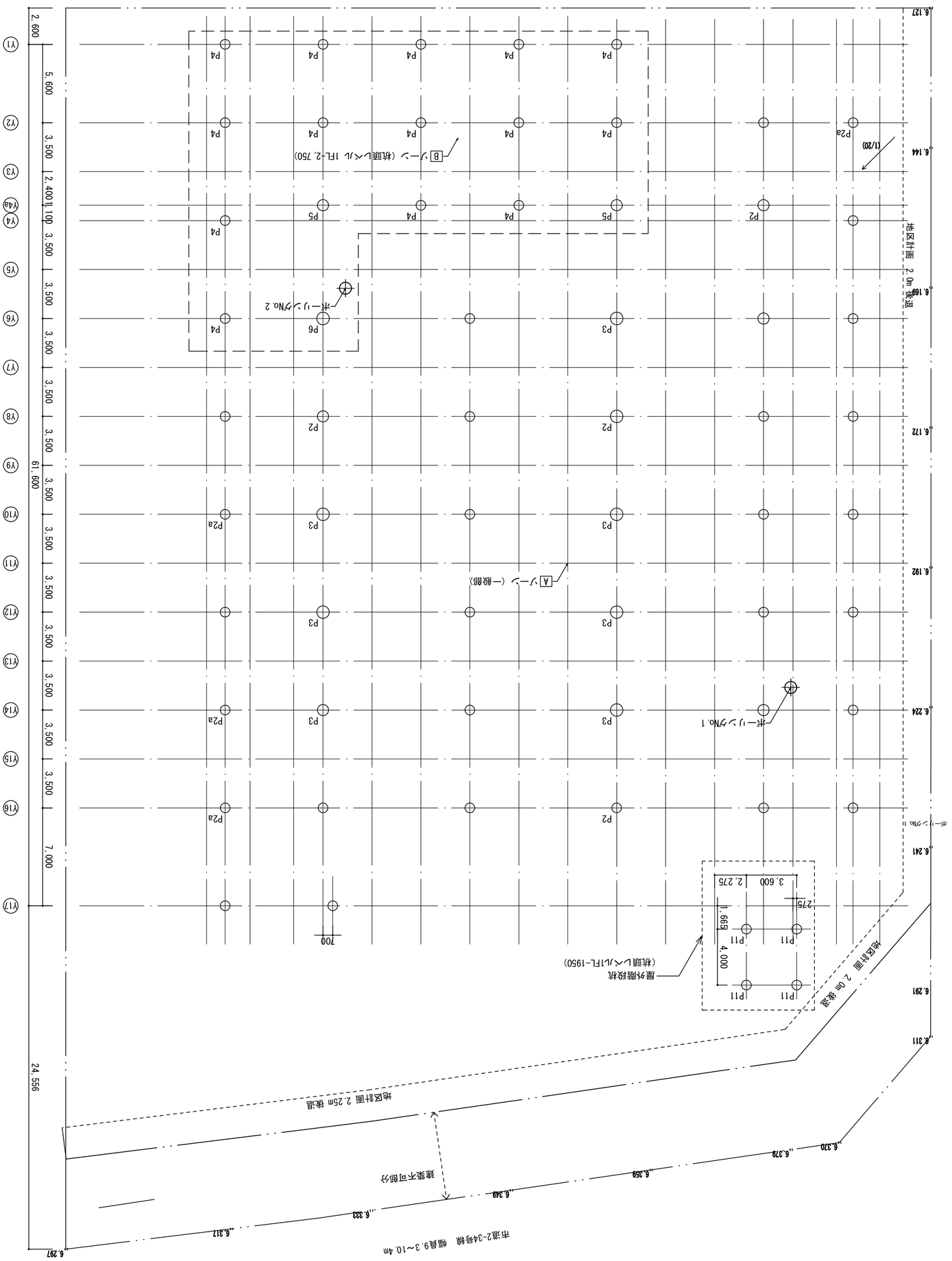
ボーリングNo.1



ボーリングNo.2

ボーリング柱状図

埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記：2010.4.7　見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	代表設計者：一級建築士 第239114号 石井 靖人 担当設計者：一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道 一級建築士 第254060号 構造設計一級建築士 第131号 丸谷 周平	製図	検図	納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容：ボーリング柱状図 縮尺：N.S.	図面番号：2016 区分：建築構造図
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査	課長									



杭伏図	A1:1/150 A3:1/300

共通事項 (特記なき限り下記による)

1. 杭芯=通り芯とする。
2. IFL=TP+6,500 とする。
3. 杭頭レベルはIFL-2,450 とする。
4. 杭符号は P1 とする。
5. 試験杭は本杭と別に2本実施する。
6. 杭の施工芯ずれは、±100mmとして設計している。

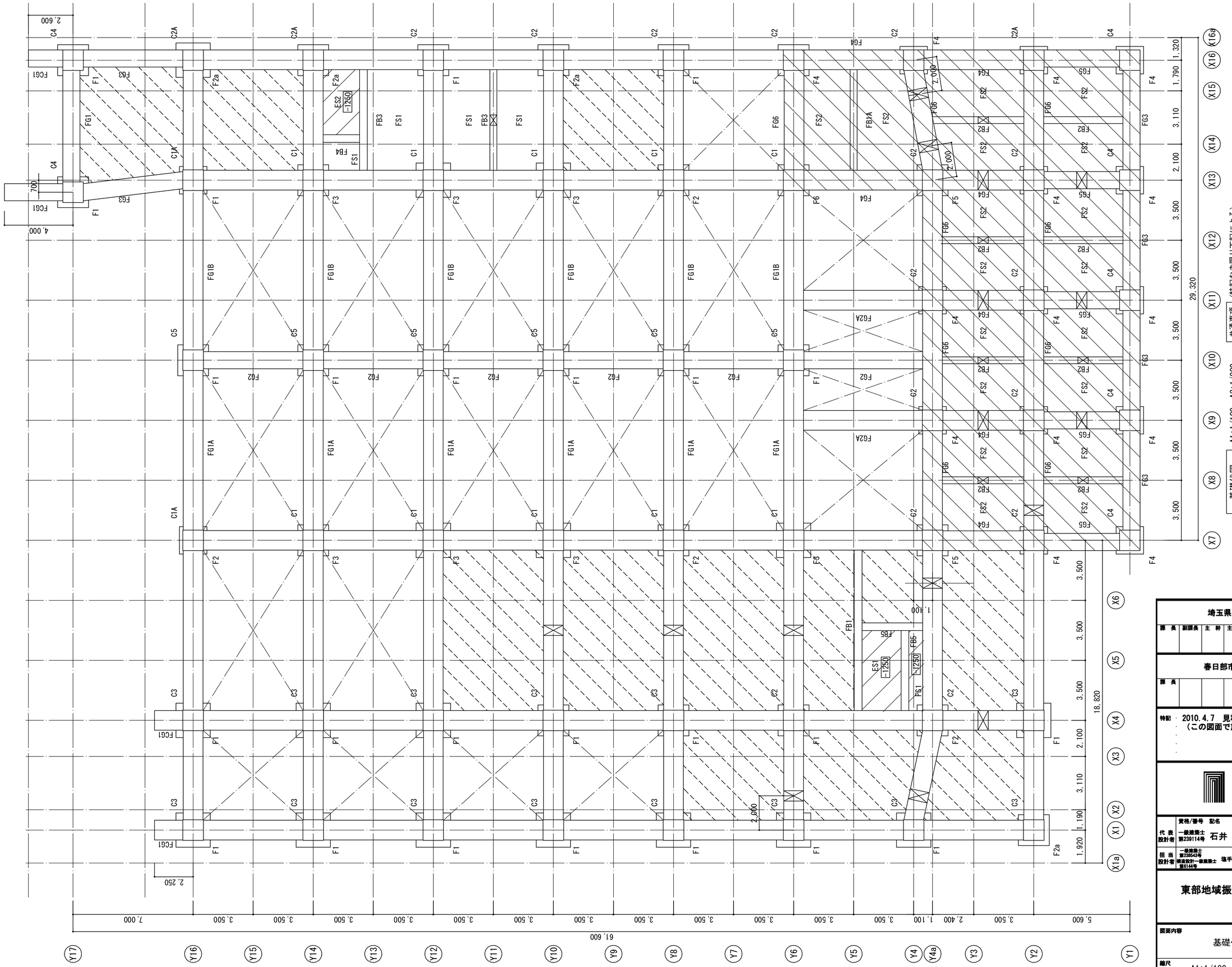
埼玉県産業労働部産業拠点整備課	
課長	副課長
主幹	主査
主査	主査
春日部市都市整備部鉄道高架整備課	
課長	
特記	2010.4.7 見積用図面 (この図面で施工しないで下さい)

株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.

代表 設計者	資格/番号 一級建築士 第239114号	記名 石井 靖人	捺印
担当 設計者	一級建築士 第235543号 構造設計一級建築士 第6144号	塩手 博道	一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号 丸谷 周平
製図	検図	納品検査	

東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称)
建築工事

図面内容	杭伏図
図面番号	2101
縮尺	A1:1/150 A3:1/300
区分	建築構造図



共通事項 (特記なき限り下記による)

1. 地中梁符号 FG1
2. 通り芯=柱芯とする。
3. ▨は埋め戻し範囲を示す。
4. ▨は捨てコンクリートを示し、レベルは 1FL-1,750 とする。
   仕様は、捨てコン t=100(6φ@100×100シングル)
   砕石地業 t=50 とする。
5. 基礎梁は置きスラブ形状とし、天端レベルは 1FL-350 とする。
   取り合うスラブ天端レベルまで、上端増打ちする。
6. 耐圧版下端レベルは 1FL-2,350、フーチング下端レベルは 1F-2,550とする。
7. ▨範囲は、耐圧版下端レベル 1F-2,650、フーチング下端レベルは 1F-2,850とする。
8. □内数値は耐圧版上端レベルを示す。
9. ⊠は人通孔600φを示し、レベルは基礎梁のせいの中央、
   位置は内法スパンの中央とする

埼玉県産業労働部産業拠点整備課

課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査

春日部市都市整備部鉄道高架整備課

課長					

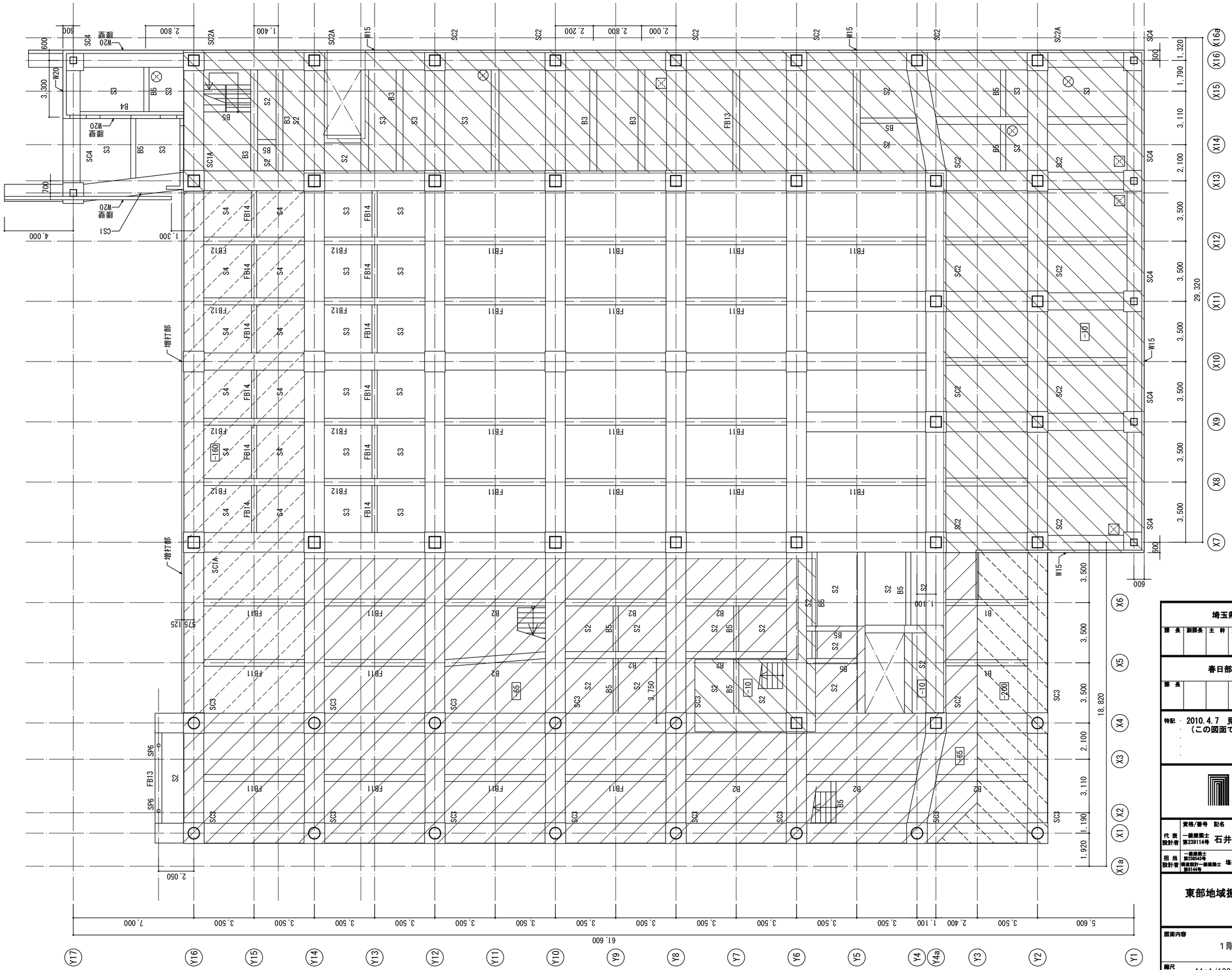
特記 · 2010.4.7 見積用図面
（この図面で施工しないで下さい）

株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.

	資格/番号	記名	捺印	製図	検図	納品検査
代表設計者	一級建築士 第239114号	石井 靖人				
担当設計者	一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号	塩手 博道		一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第13149号	丸谷 周平	

東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称)建築工事

図面内容	図面番号
基礎伏図	2102
縮尺 A1:1/100 A3:1/200	区分 建築構造図



1階伏図　A1:1/100　A3:1/200

共通事項（特記なき限り下記による）

1. スラブ符号　S1
2. 柱符号　SC1
3. 通り芯＝柱芯とする。
4. □内数値はスラブ上端レベルを示し、特記なき限りFL-100とする。
   FL-10　FL-65　FL-160　FL-200
5. 外周 W15 は、アスロック・サッシ受け擁壁を示す。
6. FB11シリーズの梁天端は取合うスラブ下端レベルとし、スラブ厚分上端増打ちとする。
7. B梁は、スラブと同時打設とし、レベルはスラブ天端と同じとする。
8. ⊗はマンホール開口を示す。
9. ベースプレート下端レベル FL-300とする。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課

課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査

春日部市都市整備部鉄道高架整備課

課長

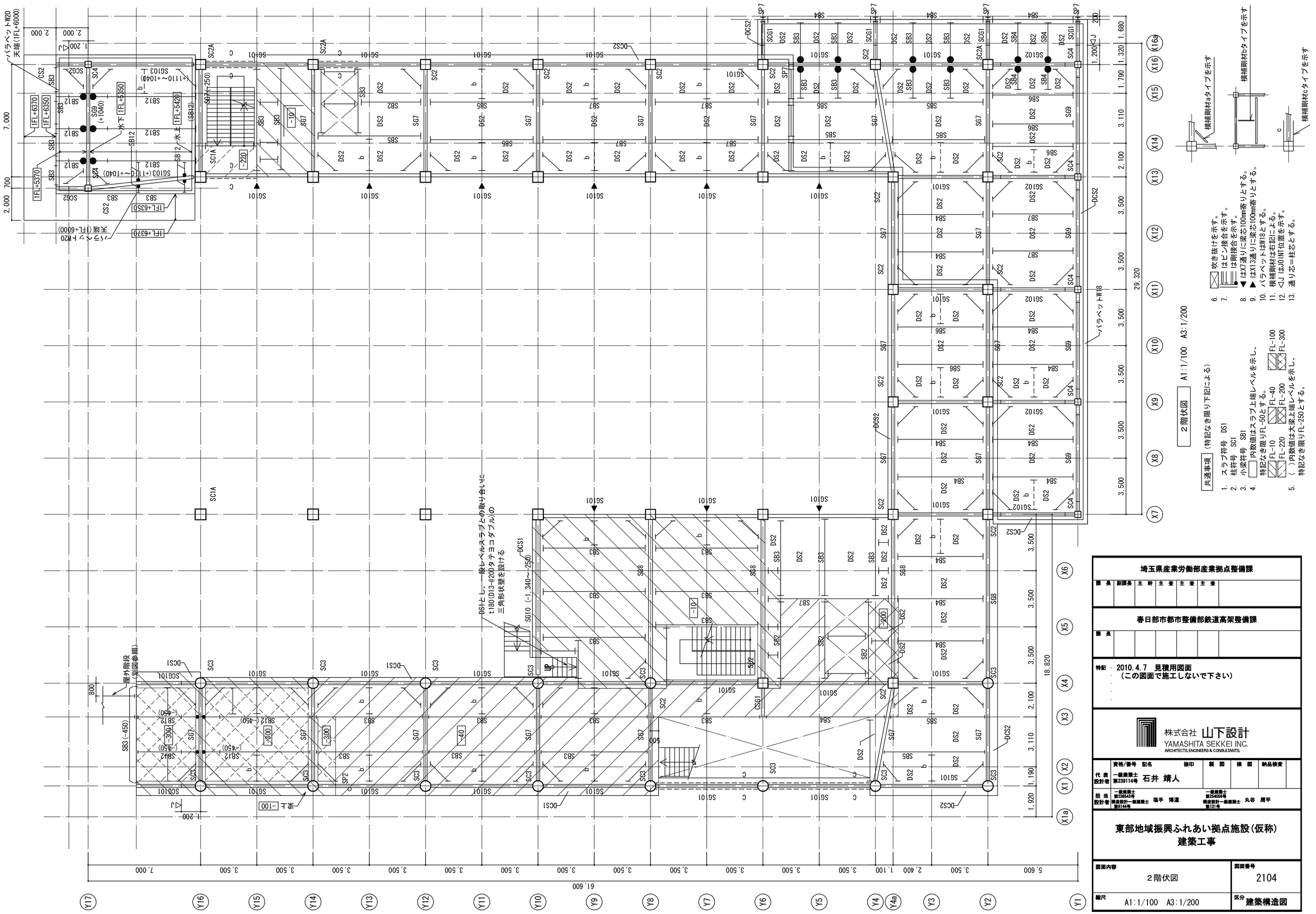
特記：2010.4.7　見積用図面
（この図面で施工しないで下さい）

株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.

	資格/番号	記名	捺印	製図	検図	納品検査
代表設計者	一級建築士 第239114号	石井 靖人				
担当設計者	一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号	塩手 博道		一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第13149	丸谷 周平	

東部地域振興ふれあい拠点施設（仮称）建築工事

図面内容	図面番号
1階伏図	2103
縮尺 A1:1/100　A3:1/200	区分 建築構造図



2階伏図　A1:1/100　A3:1/200

共通事項（特記なき限り下記による）

1. スラブ符号　DS1
2. 柱符号　SC1
3. 小梁符号　SB1
4. □内数値はスラブ上端レベルを示し、特記なき限りFL-50とする。
   FL-10　FL-40　FL-100
   FL-220　FL-200　FL-300
5. （ ）内数値は大梁上端レベルを示し、特記なき限りFL-250とする。
6. 吹き抜けを示す。
7. はピン接合を示す。
   は剛接合を示す。
8. ▼は X7通りに梁芯100mm寄りとする。
9. ▶は X13通りに梁芯100mm寄りとする。
10. パラペットはW18とする。
11. 横補剛材は右記による。
12. ◁J は JOINT位置を示す。
13. 通り芯＝柱芯とする。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課						
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査

春日部市都市整備部鉄道高架整備課
課長

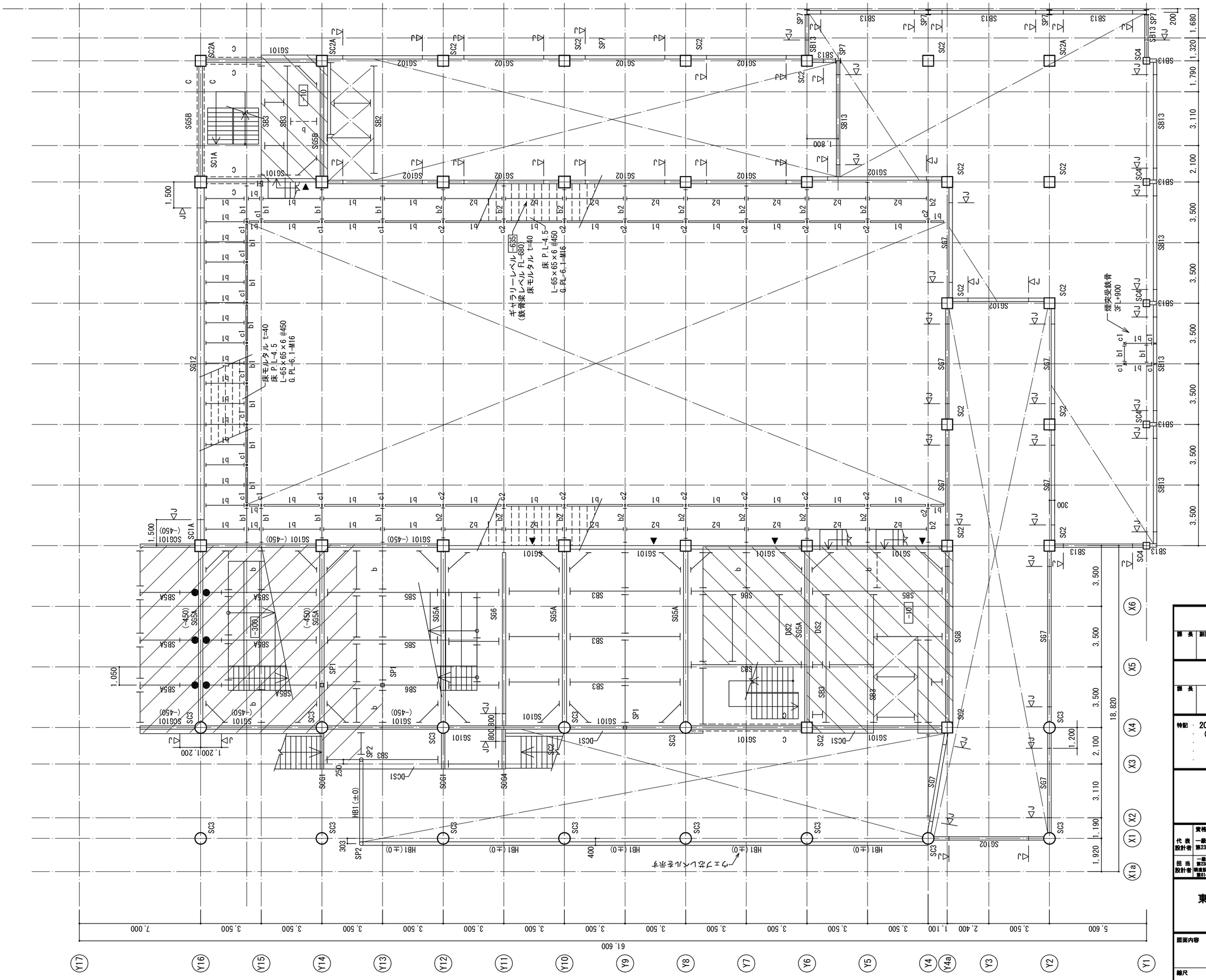
特記　2010.4.7　見積用図面
（この図面で施工しないで下さい）

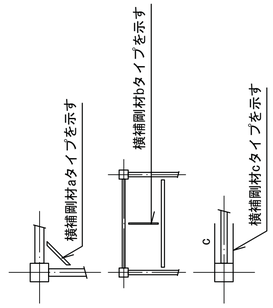
株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.

	資格/番号	記名	捺印	製図	検図	納品検査
代表設計者	一級建築士 第239114号	石井 靖人				
担当設計者	一級建築士 第28543号 構造設計一級建築士 第6144号	塩手 博道		一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第1319号	丸谷 周平	

東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称)建築工事

図面内容	図面番号
2階伏図	2104
縮尺 A1:1/100 A3:1/200	区分 建築構造図





3階伏図　A1:1/100　A3:1/200

共通事項（特記なき限り下記による）

1. スラブ符号　DS1
2. 柱符号　SC1
3. 小梁符号　SB1
4. 内数値はスラブ上端レベルを示し、特記なき限りFL-40とする。
   FL-10　FL-300
5. はピン接合を示す。
   は剛接合を示す。
6. ▼はX6通りに梁芯100mm寄りとする。
7. ▲はX14通りに梁芯100mm寄りとする。
8. （ ）内数値は大梁上端レベルを示し、特記なき限りFL-250とする。
9. 横補剛材は右記による。
10. 吹き抜けを示す。
11. ◁J はJOINT位置を示す。
12. 通り芯＝柱芯とする。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課						
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	

春日部市都市整備部鉄道高架整備課						
課長						

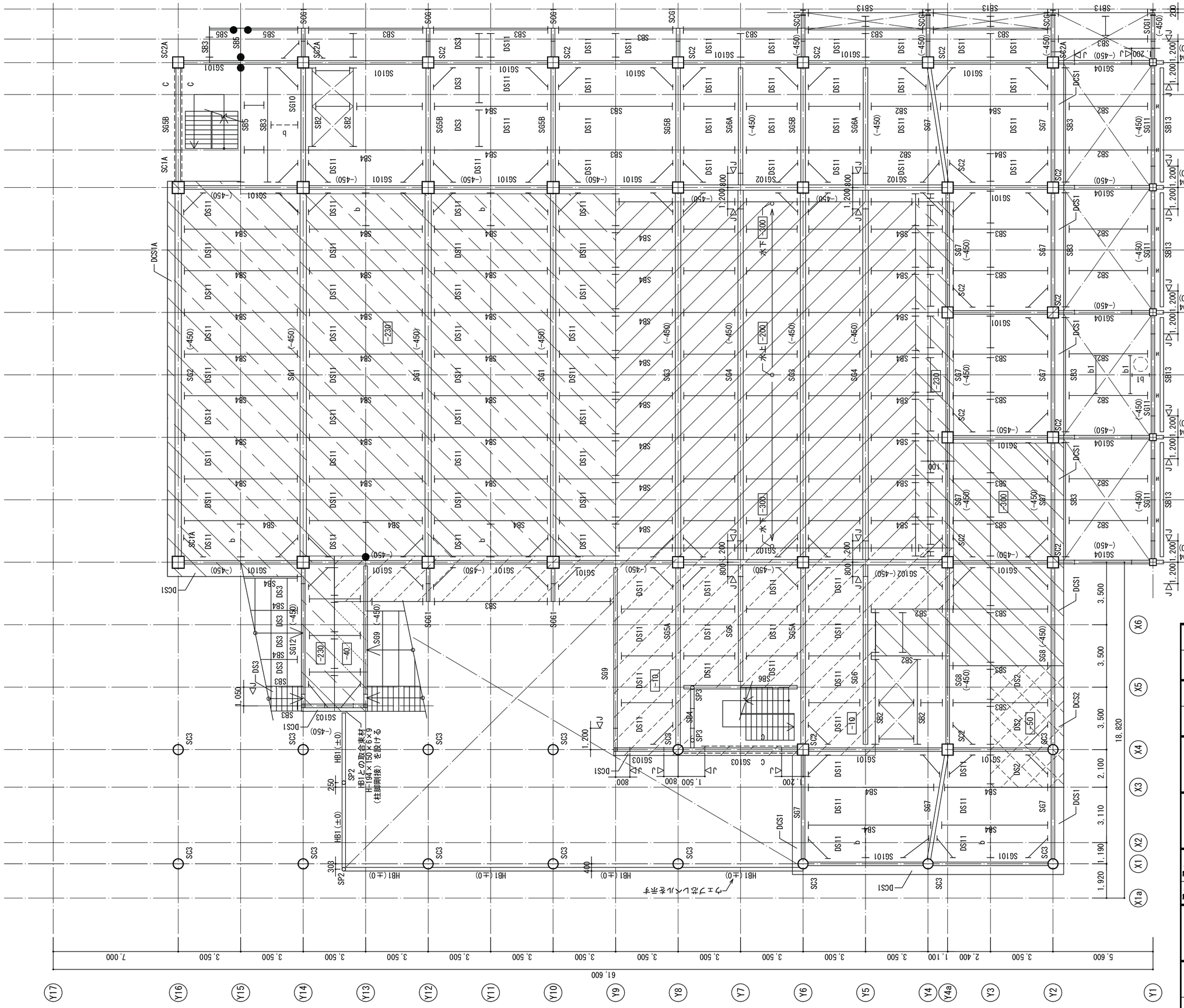
特記　2010.4.7　見積用図面
（この図面で施工しないで下さい）

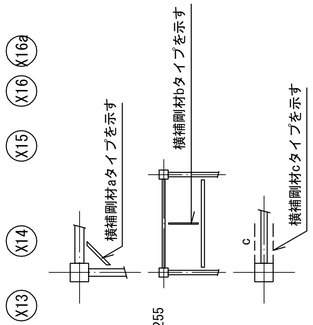
株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.

	資格/番号	記名	捺印	製図	検図	納品検査
代表設計者	一級建築士 第239114号	石井 靖人				
担当設計者	一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号	塩手 博道		一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号	丸谷 周平	

東部地域振興ふれあい拠点施設（仮称）建築工事

図面内容	図面番号
3階伏図	2105
縮尺 A1:1/100　A3:1/200	区分 建築構造図





4階伏図

A1:1/100　A3:1/200

共通事項（特記なき限り下記による）

1. スラブ符号　DS1
2. 柱符号　SC1
3. 小梁符号　SB1
4. □ 内数値はスラブ上端レベルを示し、特記なき限りFL-100とする。
   ▨ FL-10　▨ FL-40　▨ FL-50
   ▨ FL-230　▨ FL-300　▨ FL-300～-200
5. （　）内数値は鉄骨梁上端レベルを示し、特記無き限りFL-255とする。
6. ═ はピン接合を示す。
   ═● は剛接合を示す。
7. 大梁上端レベルは特記なき限りFL-255とする。
8. 横補剛材は右記による。
9. ▨ 吹き抜けを示す。
10. ◁J は JOINT位置を示す。
11. 通り芯＝柱芯とする。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課

課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査

春日部市都市整備部鉄道高架整備課

課長

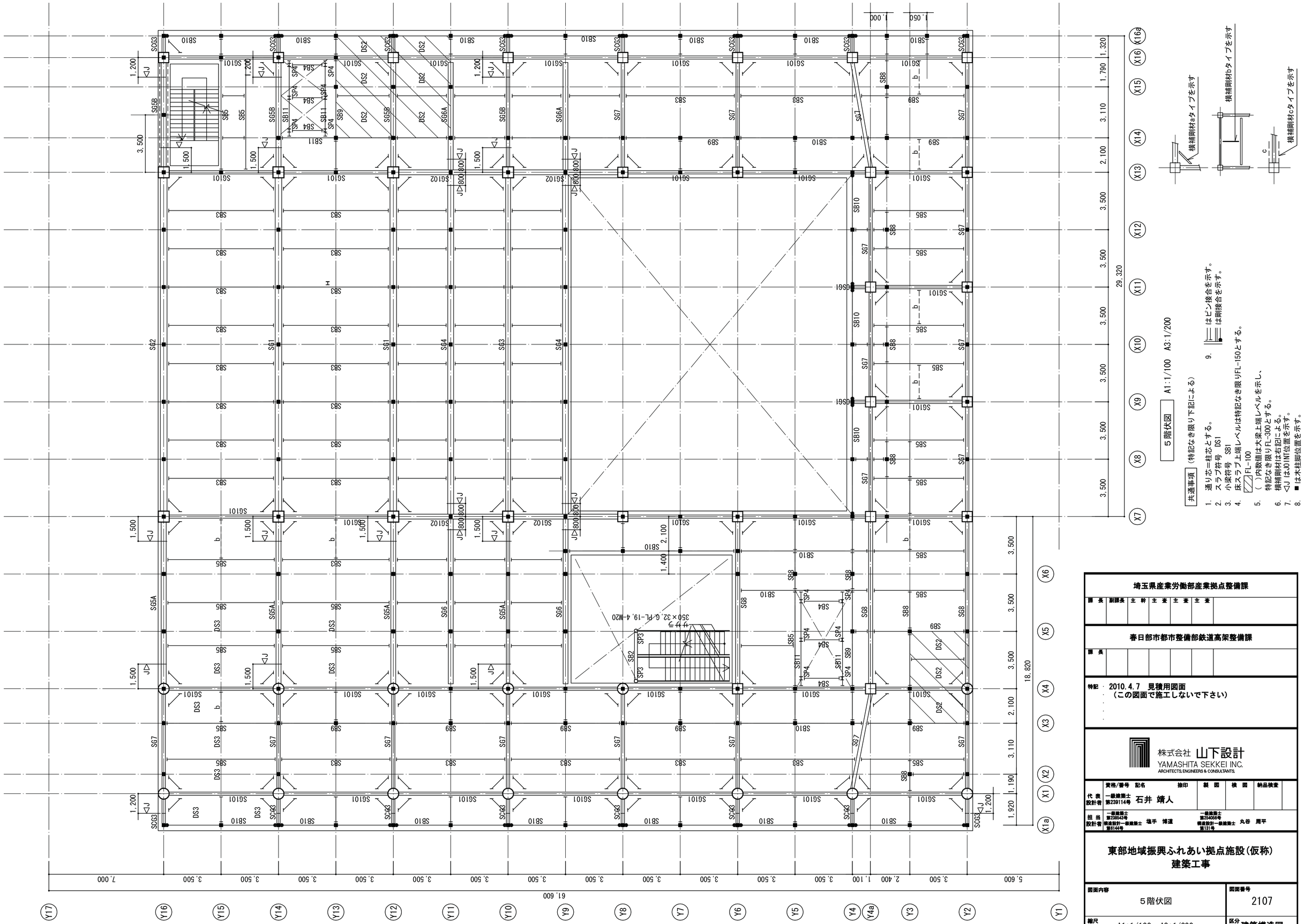
特記：2010.4.7　見積用図面
（この図面で施工しないで下さい）

株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.

	資格/番号	記名	捺印	製図	検図	納品検査
代表設計者	一級建築士 第239114号	石井 靖人				
担当設計者	一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号	塩手 博道		一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第1319号	丸谷 周平	

東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称)
建築工事

図面内容	図面番号
4階伏図	2106
縮尺 A1:1/100　A3:1/200	区分 建築構造図



5階伏図　A1:1/100　A3:1/200

共通事項（特記なき限り下記による）

1. 通り芯＝柱芯とする。
2. スラブ符号　DS1
3. 小梁符号　SB1
4. 床スラブ上端レベルは特記なき限りFL-150とする。
5. ▨FL-100
（ ）内数値は大梁上端レベルを示し、
特記なき限りFL-300とする。
6. 横補剛材は右記による。
7. ◁JはJOINT位置を示す。
8. ■は木柱脚位置を示す。
9. ═ はピン接合を示す。
═ は剛接合を示す。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課						
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査

春日部市都市整備部鉄道高架整備課						
課長						

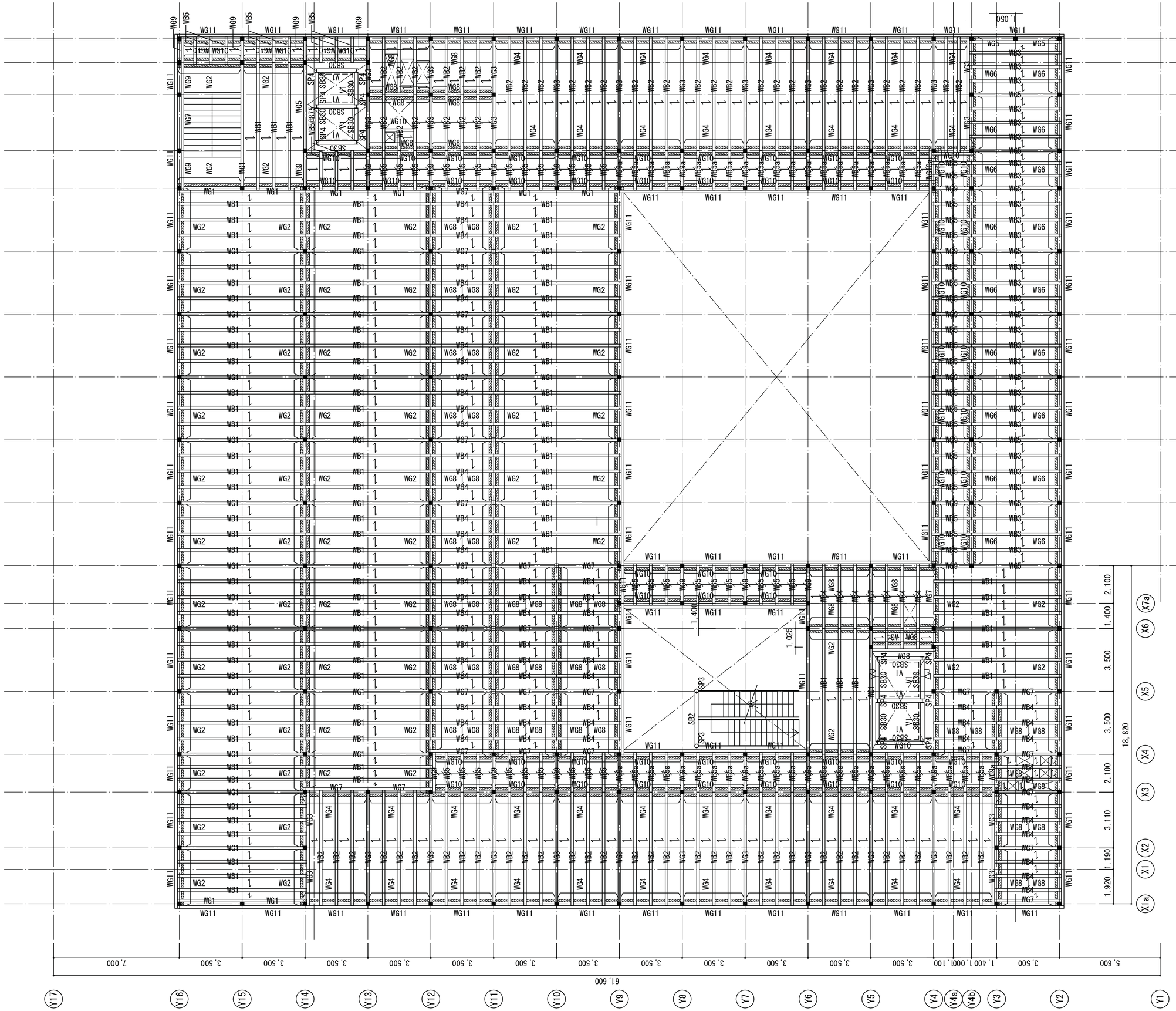
特記　2010.4.7　見積用図面
（この図面で施工しないで下さい）

株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.

	資格/番号	記名	捺印	製図	検図	納品検査
代表設計者	一級建築士 第239114号	石井 靖人				
担当設計者	一級建築士 第236543号 構造設計一級建築士 第6144号	塩手 博道		一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号	丸谷 周平	

東部地域振興ふれあい拠点施設（仮称）建築工事

図面内容	図面番号
5階伏図	2107
縮尺 A1:1/100　A3:1/200	区分 建築構造図



6階伏図　A1:1/100　A3:1/200

共通事項（特記なき限り下記による）

1. ⟷ は床根太配置方向を示し、@975以下、スパン内等割で配置する。
   部材寸法は構造図2313を参照
   (集成材 E65-F220 , LVL 60E-225F , 製材 甲種3類)
2. WG に乗るWB及びWG端部は折曲げ金物SF(6-ZN40)にて止める。
3. 梁と床根太上に構造用合板一級（カラマツ）24mmをCN90釘@60にて止める。
4. （ ）内数値は梁上端レベルを示し、特記無き限りFL-366とする。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課							
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査	
春日部市都市整備部鉄道高架整備課							
課長							

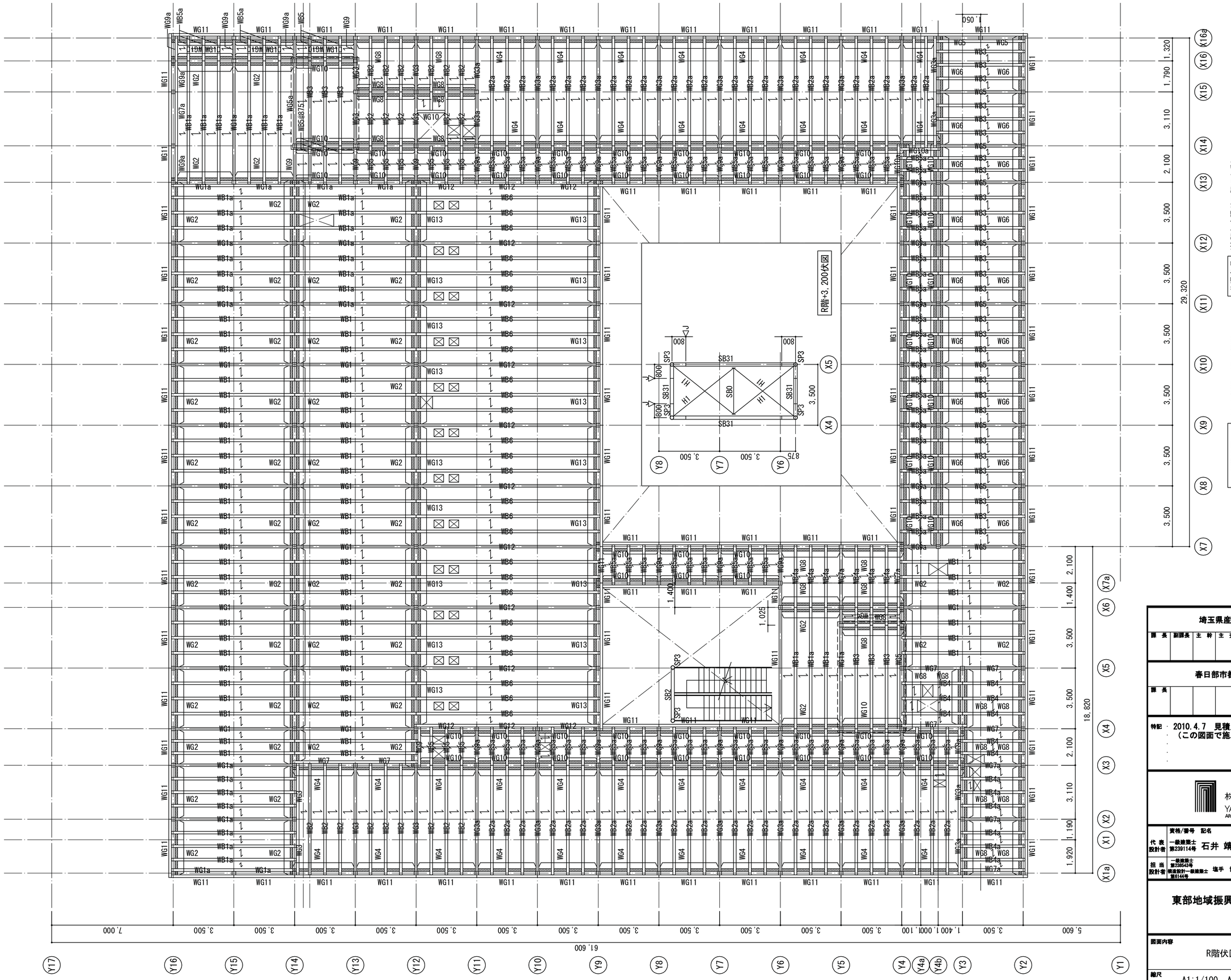
特記：2010.4.7　見積用図面
（この図面で施工しないで下さい）

株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.

	資格/番号	記名	捺印	製図	検図	納品検査
代表設計者	一級建築士 第239114号	石井 靖人				
担当設計者	一級建築士 第238543号 / 構造設計一級建築士 第6144号	塩手 博道		一級建築士 第254056号 / 構造設計一級建築士 第13149号	丸谷 周平	

東部地域振興ふれあい拠点施設（仮称）建築工事

図面内容：6階伏図	図面番号：2108
縮尺：A1:1/100　A3:1/200	区分：建築構造図



R階伏図　A1:1/100　A3:1/200

共通事項（特記なき限り下記による）

1. ⟶ は床根太配置方向を示し、@875以下、スパン内等割で配置する。
   部材寸法は構造図2313を参照
   （集成材 E65-F220 , LVL 60E-225F , 製材 甲種3類）
2. WGに乗るWB及びWG端部は折曲げ金物SF(6-ZN40)にて止める。
3. 梁と床根太上に構造用合板二級（カラマツ）24mmをCN90釘@60にて止める。
4. （ ）内数値は梁上端レベルを示し、特記無き限りFL-24とする。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課

課長	副課長	主幹	主査	主査	主査

春日部市都市整備部鉄道高架整備課

課長

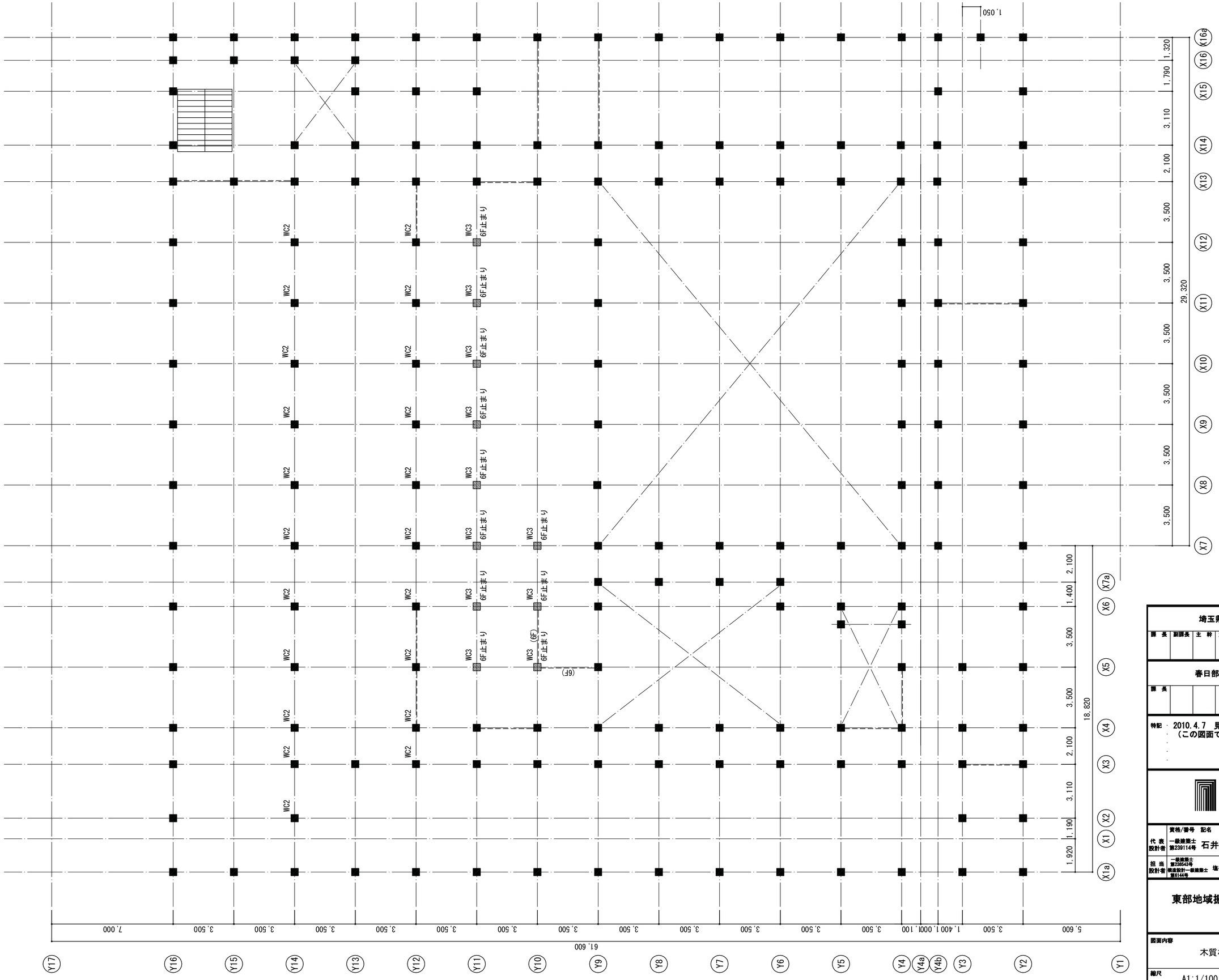
特記　2010.4.7　見積用図面
（この図面で施工しないで下さい）

株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.

	資格/番号	記名	捺印	製図	検図	納品検査
代表設計者	一級建築士 第239114号	石井 靖人				
担当設計者	一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号	塩手 博道		一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号	丸谷 周平	

東部地域振興ふれあい拠点施設（仮称）
建築工事

図面内容	図面番号
R階伏図	2109
縮尺 A1:1/100　A3:1/200	区分 建築構造図



木質柱伏図

通り芯 A1:1/100 A3:1/200
柱 A1:1/50 A3:1/100

共通事項 (特記なき限り下記による)

1. 柱符号 WC1
2. 通り芯 = 柱芯
3. ------ はブレース位置(5階、6階共)を示し、
   5階 M16 (ターンバックル付)
   6階 M12 (ターンバックル付) とする。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課

課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査

春日部市都市整備部鉄道高架整備課

課長						

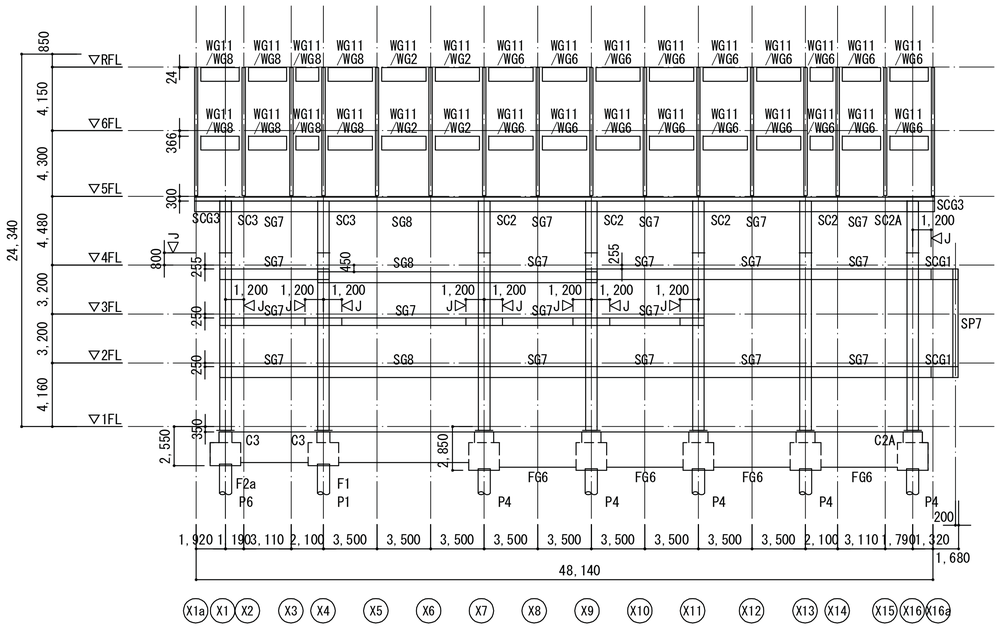
特記 · 2010.4.7 見積用図面
· (この図面で施工しないで下さい)

株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.

	資格/番号	記名	捺印	製図	検図	納品検査
代表設計者	一級建築士 第239114号	石井 靖人				
担当設計者	一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号	塩手 博道		一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第1311号	丸谷 周平	

東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事

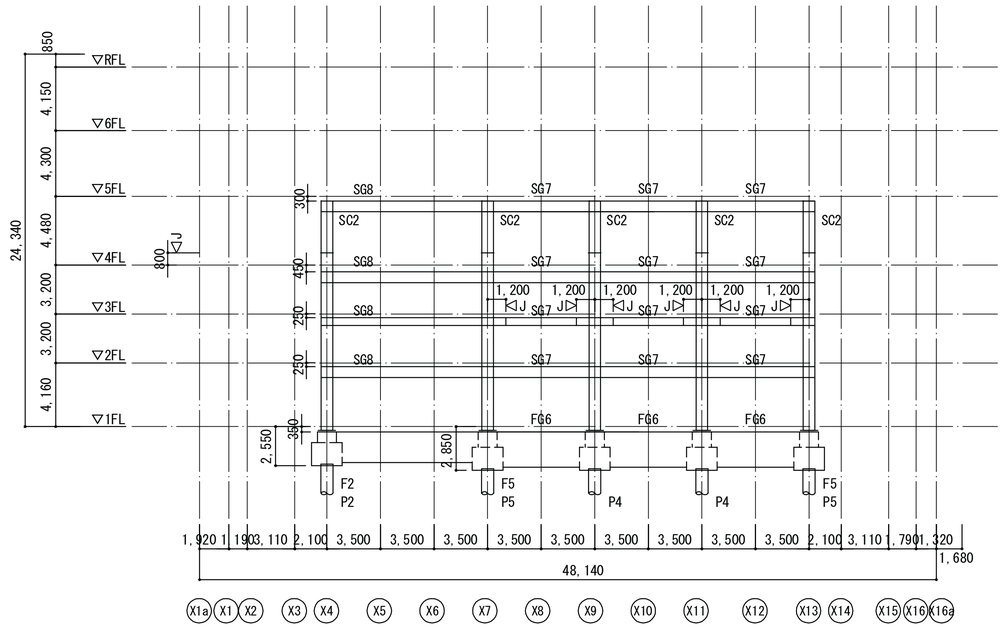
図面内容	図面番号
木質柱伏図	2110
縮尺 A1:1/100 A3:1/200	区分 建築構造図



Y2通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

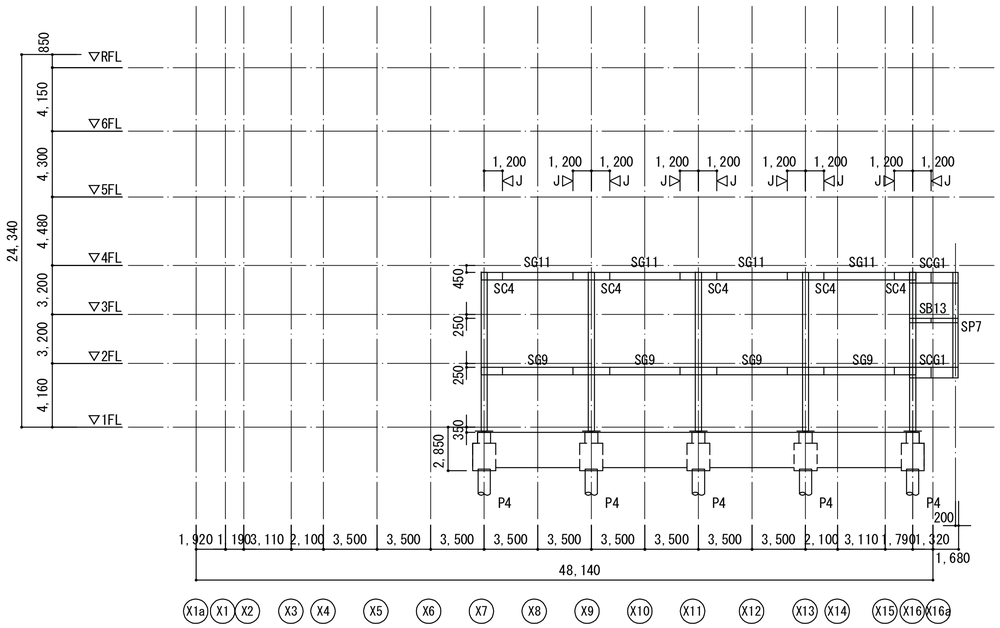
1. フーチング記号　F4
2. 地中梁符号　FG1
3. 基礎柱符号　C2
4. 木質柱符号　WC1
5. 合わせ梁の場合、Y1通り側梁/Y3通り側梁 を示す。



Y4a通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

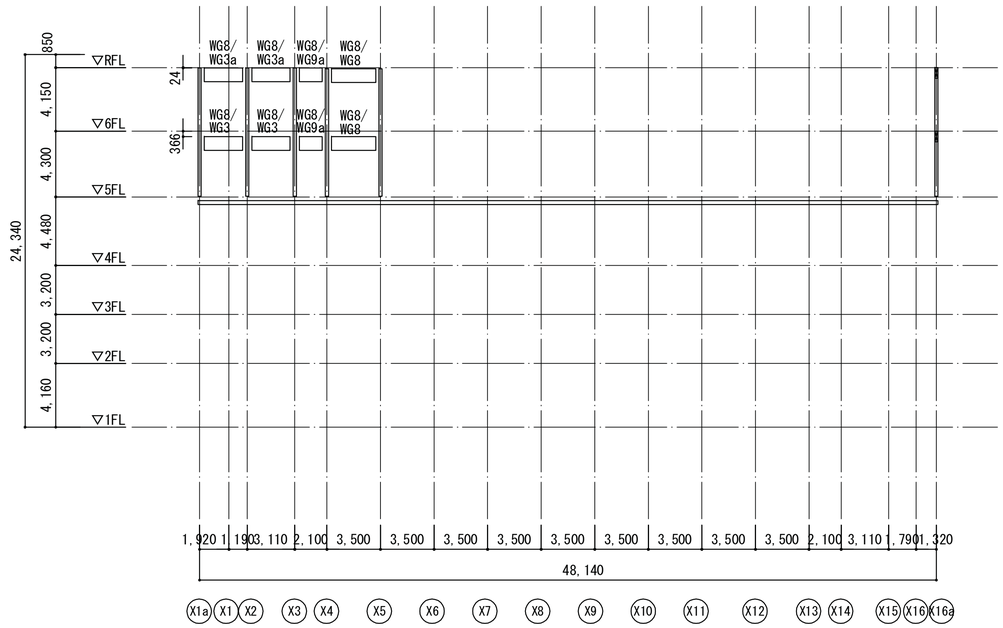
1. フーチング記号　F4
2. 地中梁符号　FG1
3. 基礎柱符号　C2
4. 合わせ梁の場合、Y3通り側梁/Y4通り側梁 を示す。



Y1通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

1. フーチング記号　F4
2. 地中梁符号　FG3
3. 基礎柱符号　C4

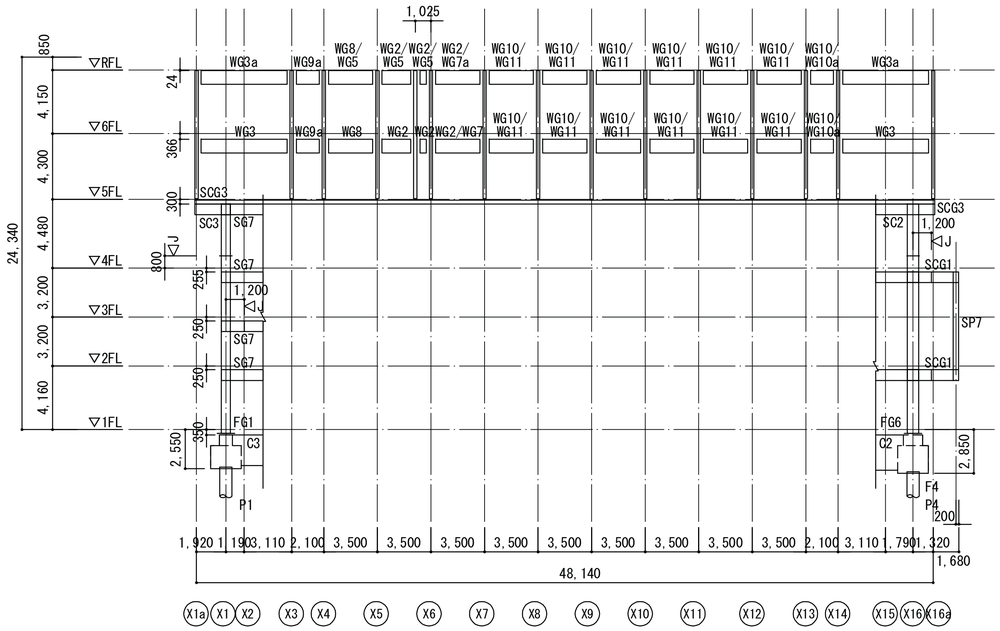


Y3通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

1. 木質柱符号　WC1
2. 合わせ梁の場合、
Y2通り側梁/Y4通り側梁 を示す。

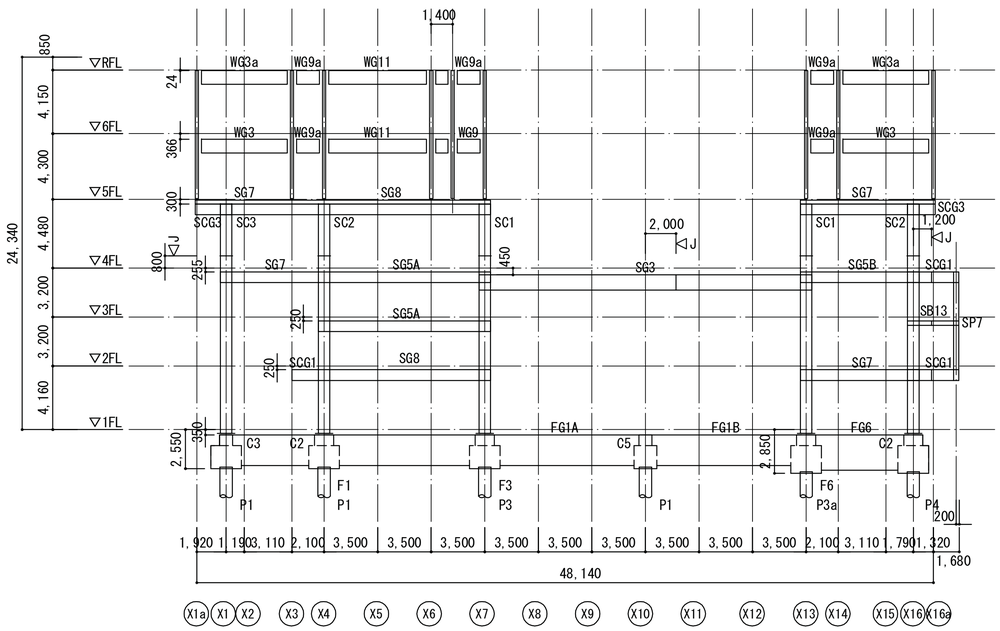
埼玉県産業労働部産業拠点整備課							春日部市都市整備部鉄道高架整備課						特記	2010.4.7　見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号　記名　捺印 代表設計者　一級建築士 第239114号　石井 靖人 担当設計者　一級建築士 第238543号　鉄道設計一級建築士 第6144号　塩手 博道 一級建築士 第254056号　鉄道設計一級建築士 第131号　丸谷 周平	製図	検図	納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 軸組図(Y1通り～Y4通り)	図面番号 2111
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査	課長														縮尺 A1:1/200　A3:1/400	区分 建築構造図



Y4通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

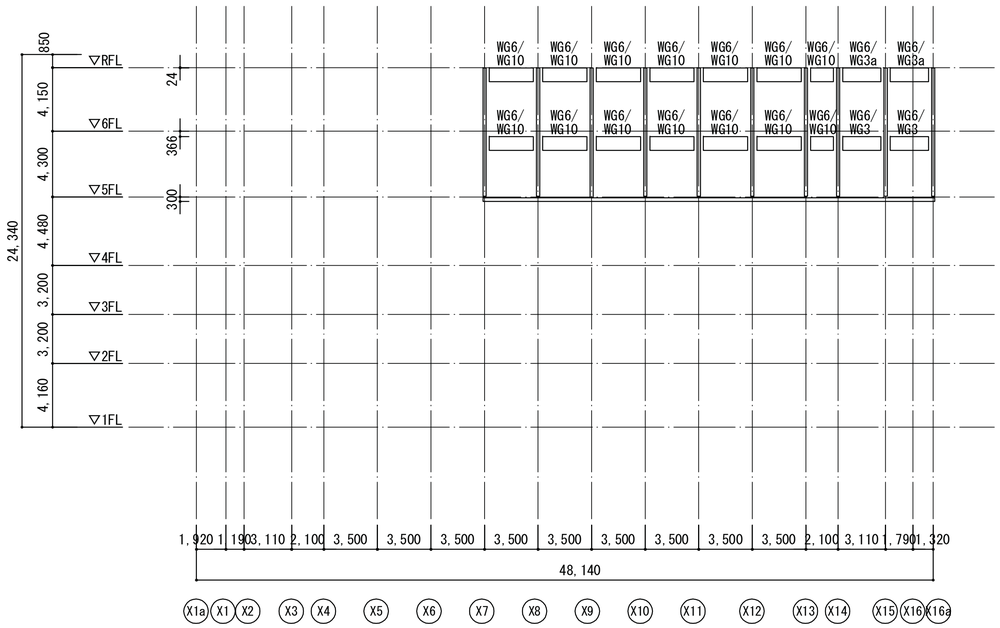
1. フーチング記号　F1
2. 合わせ柱の場合、
   Y3通り側梁/Y5通り側梁 を示す。
3. 木質柱符号　WC1



Y6通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

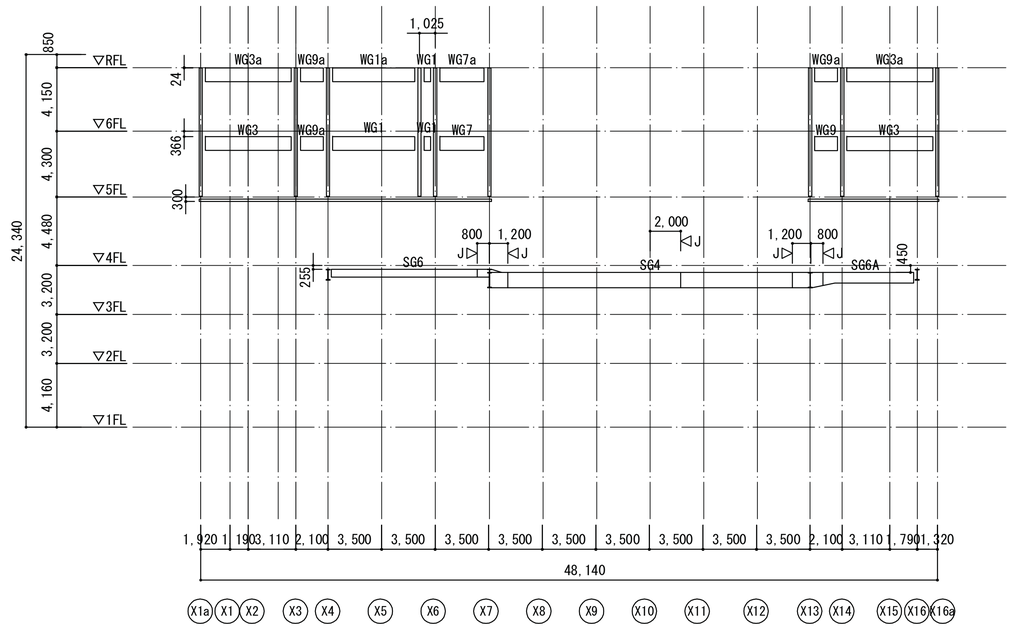
1. フーチング記号　F1
2. 地中梁符号　FG1
3. 基礎柱符号　C1
4. 木質柱符号　WC1



Y4b通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

1. フーチング記号　F1
2. 合わせ柱の場合、
   Y3通り側梁/Y5通り側梁 を示す。
3. 木質柱符号　WC1

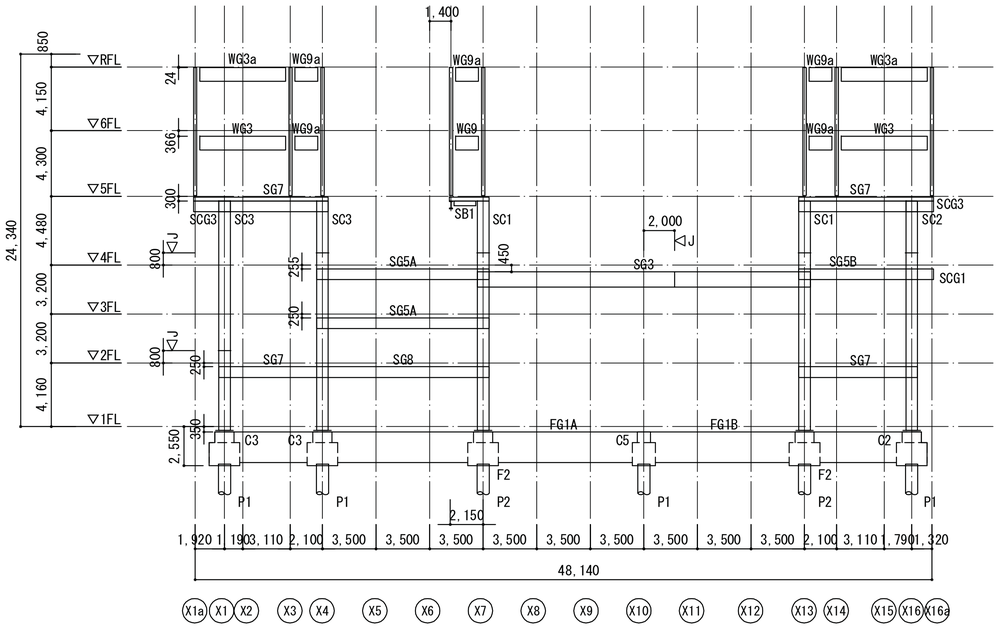


Y5通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

1. 木質柱符号　WC1

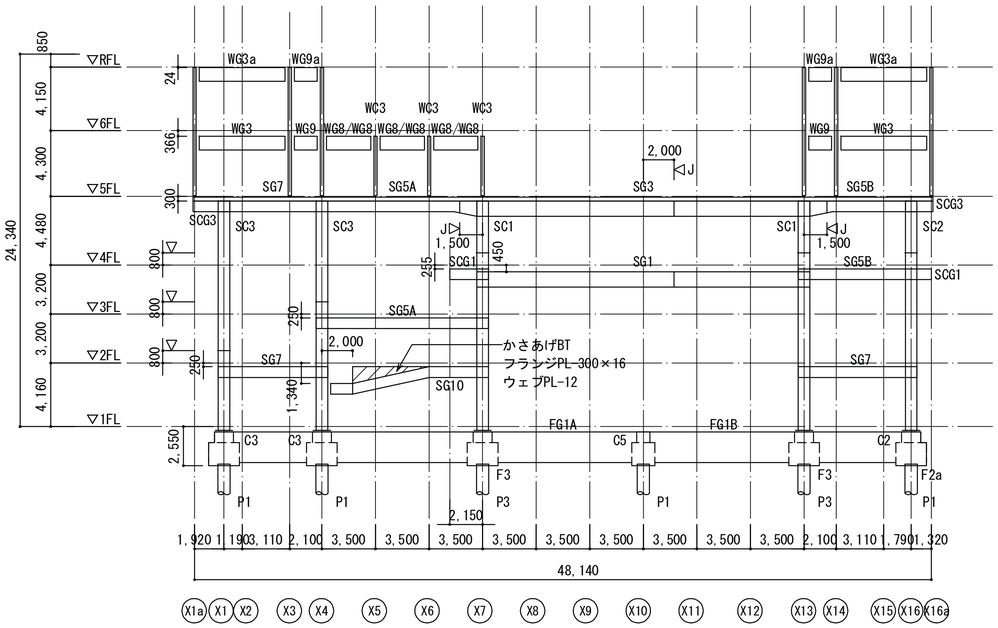
埼玉県産業労働部産業拠点整備課							春日部市都市整備部鉄道高架整備課						特記 2010.4.7 見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号 記名 代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人 / 担当設計者 一級建築士 第238543号 鉄道設計一級建築士 第6144号 塩手 博道 / 一級建築士 第254066号 鉄道設計一級建築士 第131号 丸谷 周平	線印 製図 検図 納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 軸組図(Y5通り～Y8通り) 縮尺 A1:1/200 A3:1/400	図面番号 2112 区分 建築構造図
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査	課長												



Y8通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

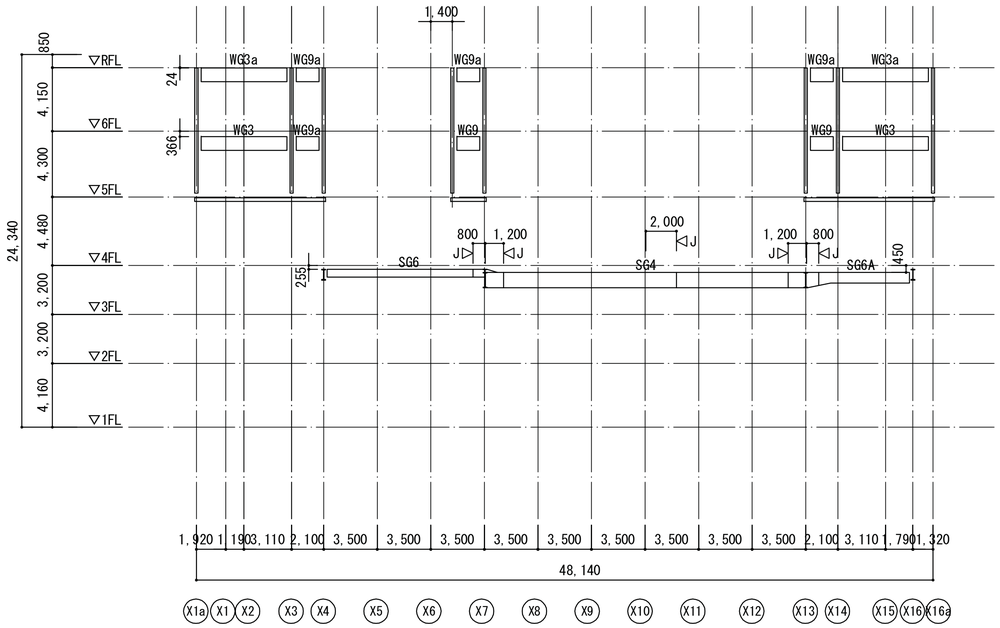
1. フーチング記号　F1
2. 地中梁符号　FG1
3. 基礎柱符号　C1
4. 木質柱符号　WC1



Y10通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

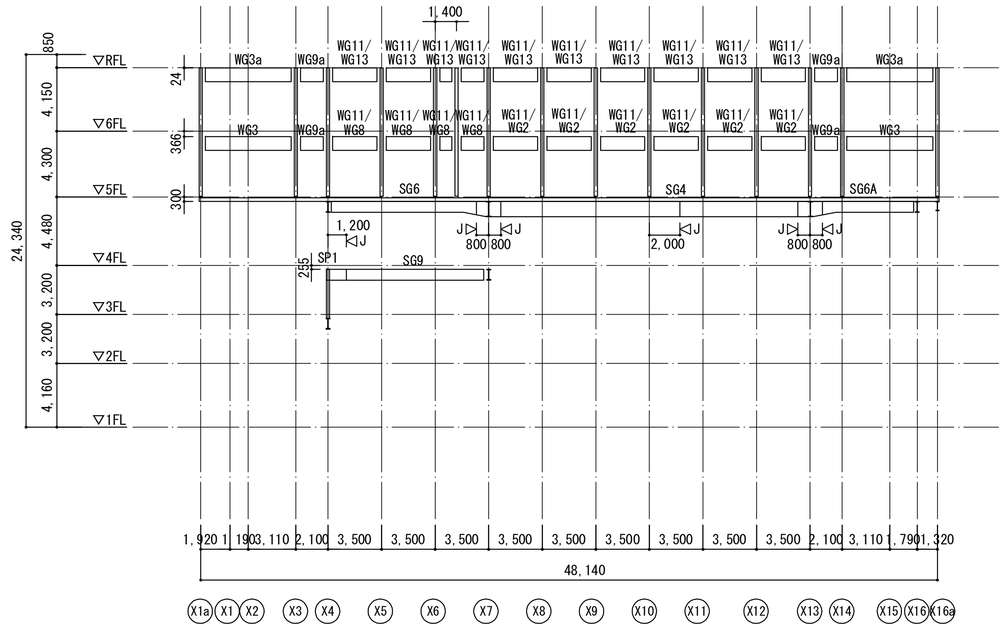
1. フーチング記号　F1
2. 地中梁符号　FG1
3. 礎柱符号　C1
4. 木質柱符号　WC1
5. 合わせ梁の場合、Y9通り側梁/Y11通り側梁 を示す。



Y7通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

1. 木質柱符号　WC1

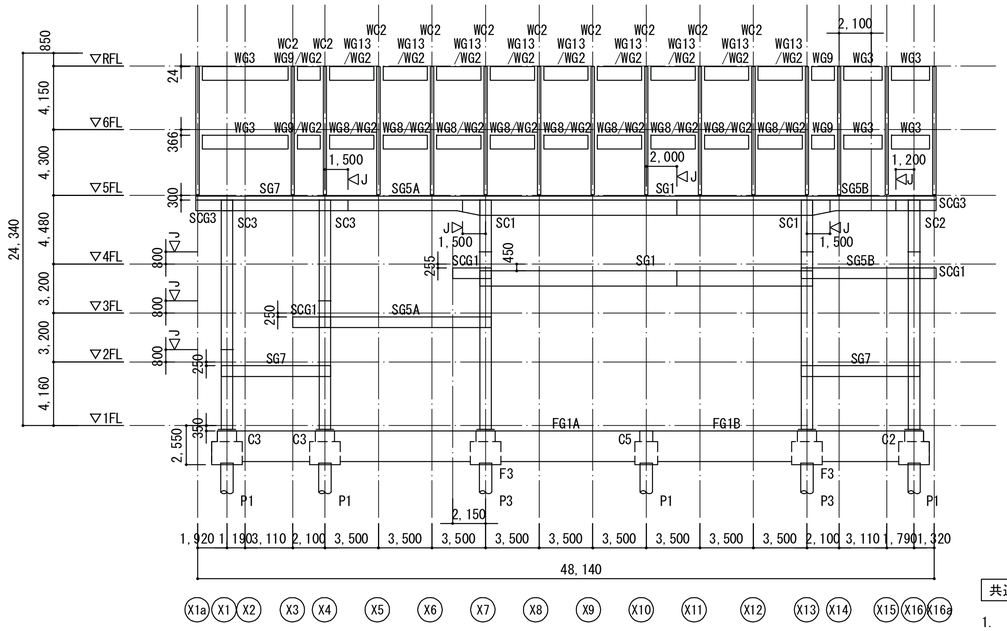


Y9通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

1. スラブ符号　S1
2. 木質柱符号　WC1
3. 合わせ梁の場合、Y8通り側梁/Y10通り側梁 を示す。

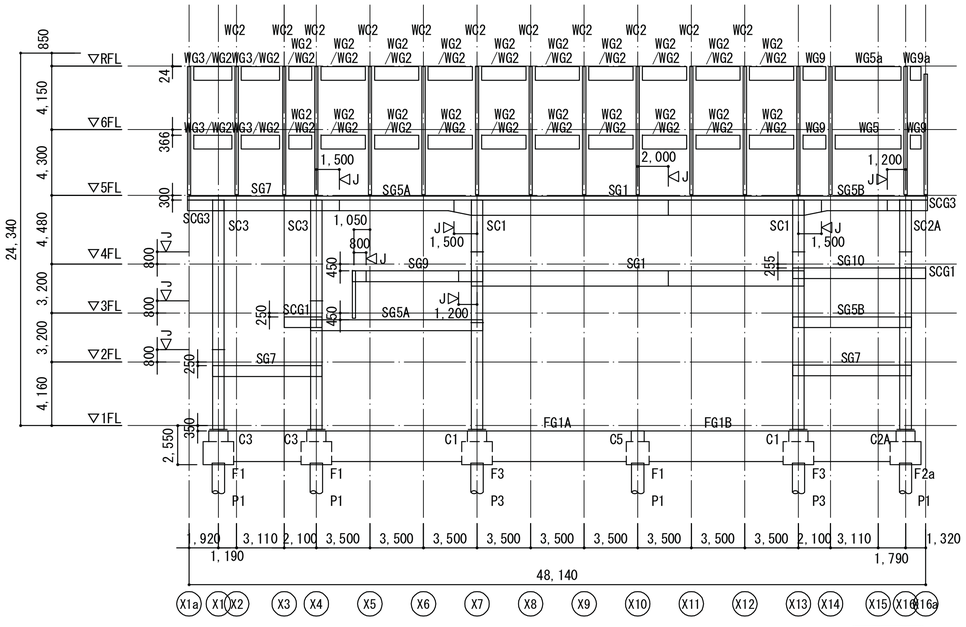
埼玉県産業労働部産業拠点整備課							春日部市都市整備部鉄道高架整備課							特記	2010.4.7　見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号	記名	捺印	製図	検図	納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 軸組図(Y7通り～Y10通り)	図面番号 2113
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査	課長										代表設計者	一級建築士 第239114号	石井 靖人					縮尺 A1:1/200　A3:1/400	区分 建築構造図
																	担当設計者	一級建築士 第238543号 鉄道設計一級建築士 第6144号	塩手 博道	一級建築士 第254056号 鉄道設計一級建築士 第131号	丸谷 周平				



Y12通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

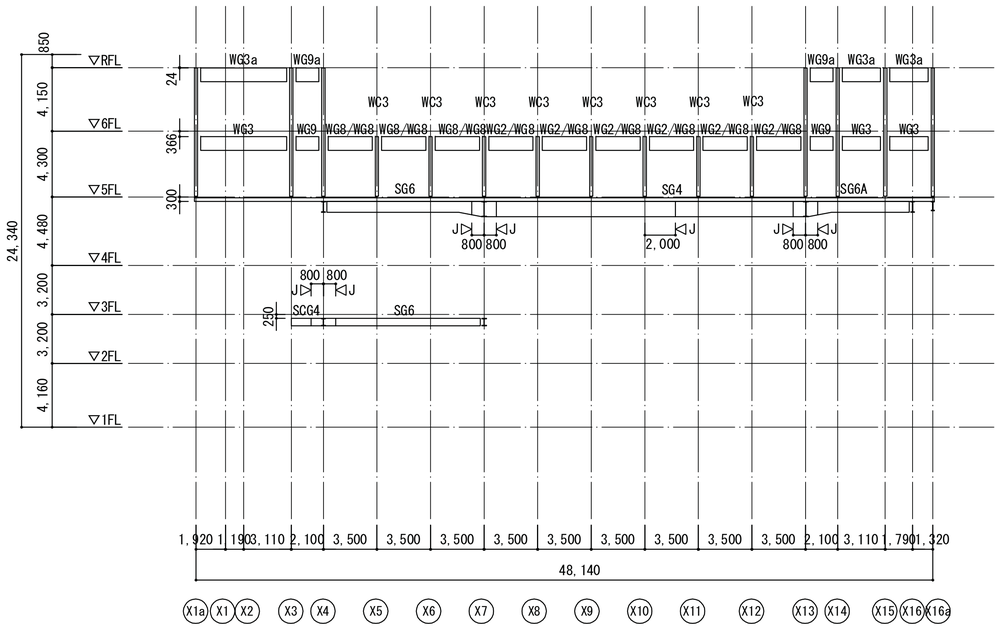
1. フーチング記号　F1
2. 地中梁符号　FG1
3. 基礎柱符号　C1
4. 木質柱符号　WC1
5. 合わせ梁の場合、
   Y11通り側梁/Y13通り側梁 を示す。



Y14通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

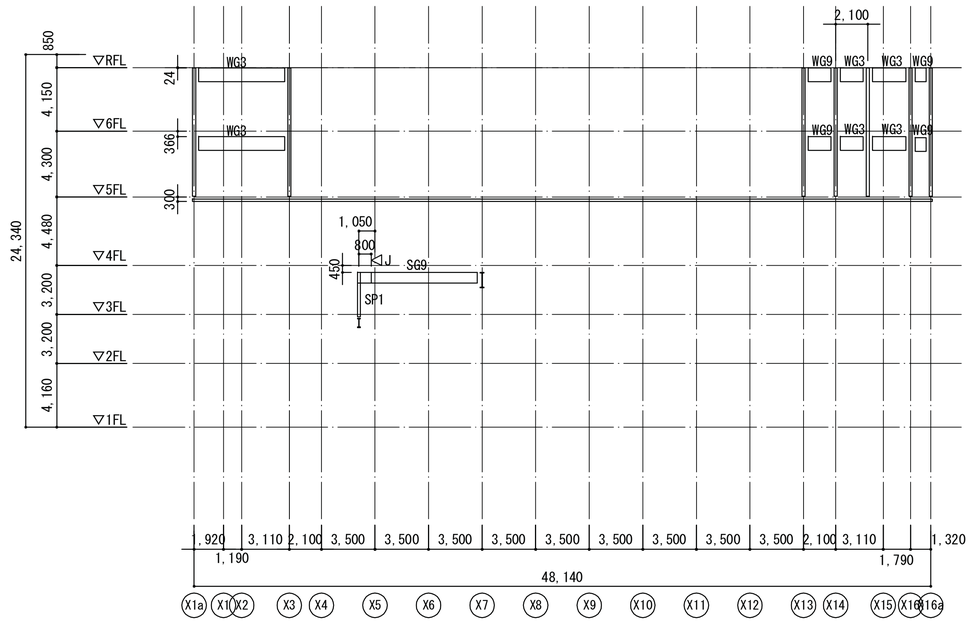
1. 地中大梁符号 FG1
2. 木質柱符号　WC1
3. 合わせ梁の場合、Y13通り側梁/Y15通り側梁 を示す。



Y11通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

1. 木質柱符号　WC1
2. 合わせ梁の場合、
   Y10通り側梁/Y12通り側梁 を示す。



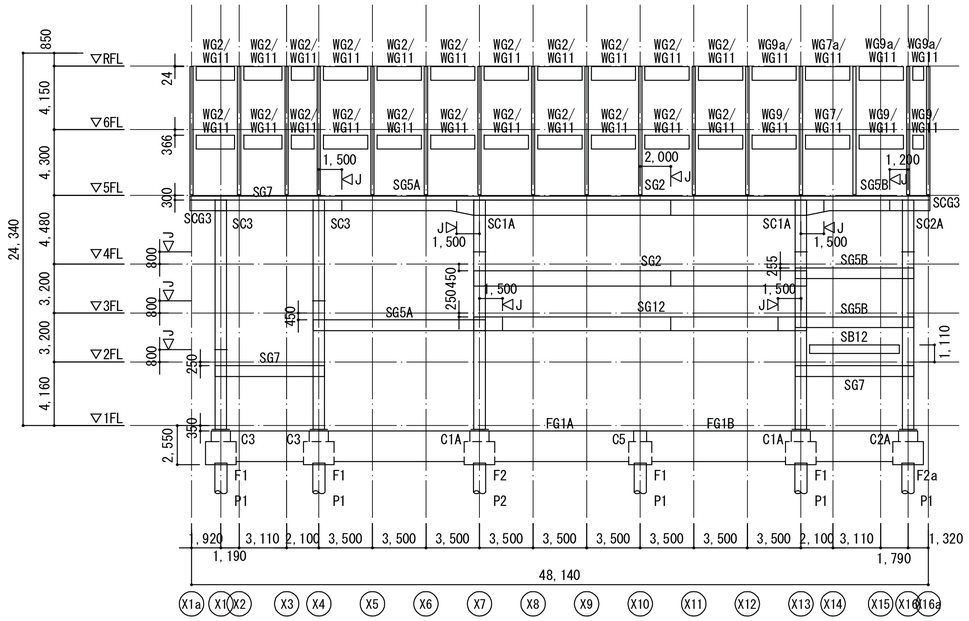
Y13通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

1. 木質柱符号　WC1

埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記 2010.4.7 見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 軸組図(Y11通り～Y14通り)	図面番号 2114
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査	課長		代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人 / 担当設計者 一級建築士 第238543号 鉄道設計一級建築士 第6144号 塩手 博道 / 一級建築士 第254056号 鉄道設計一級建築士 第131号 丸谷 周平		縮尺 A1:1/200 A3:1/400	区分 建築構造図

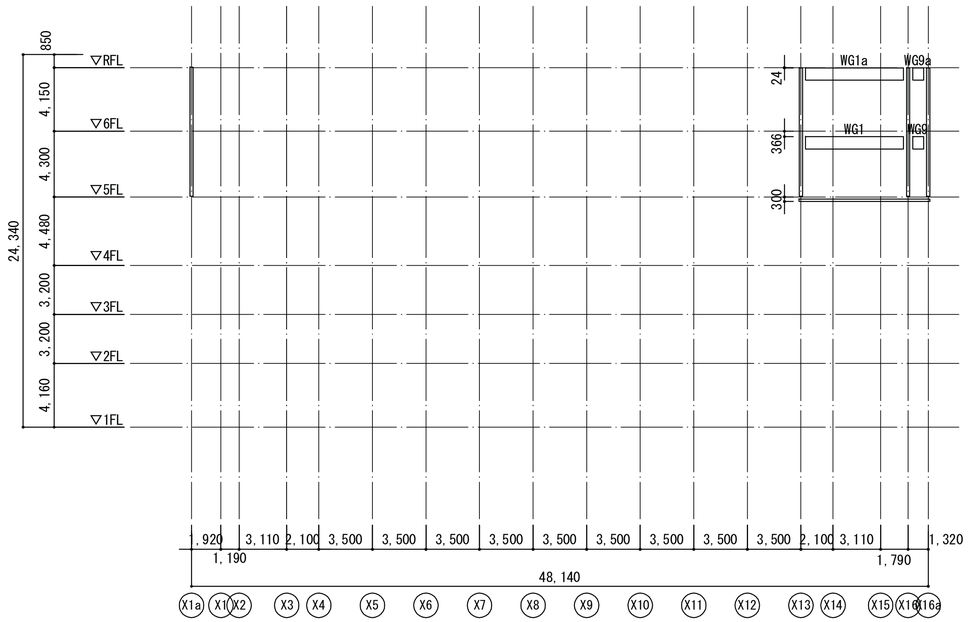
資格/番号　記名　捺印　製図　検図　納品検査



Y16通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

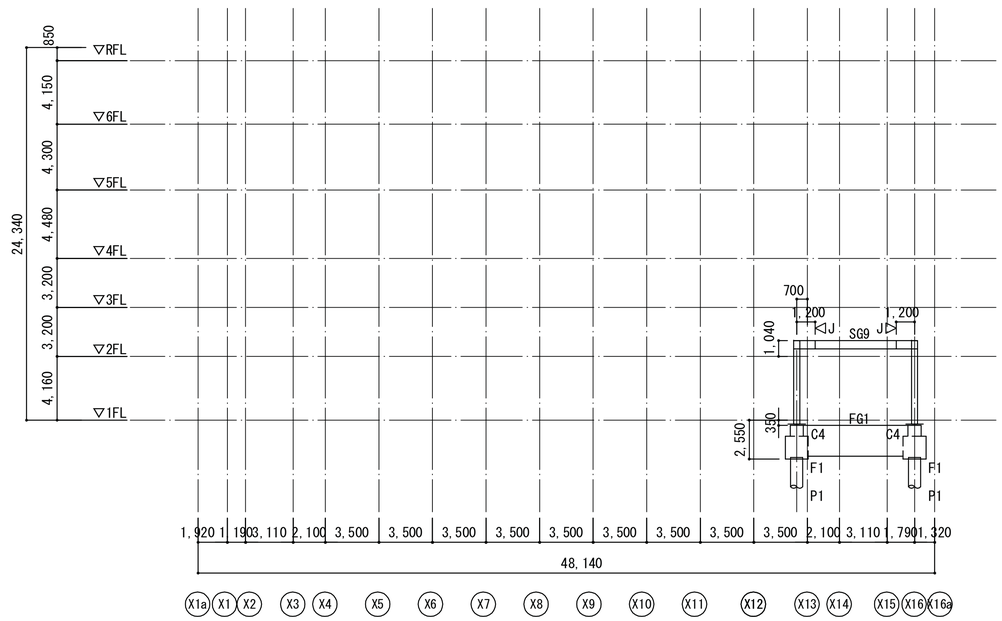
1. 地中大梁符号 FG1
2. 木質柱符号　WC1
3. 合わせ梁の場合、
   Y15通り側梁/Y17通り側梁 を示す。



Y15通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

1. 木質柱符号　WC1

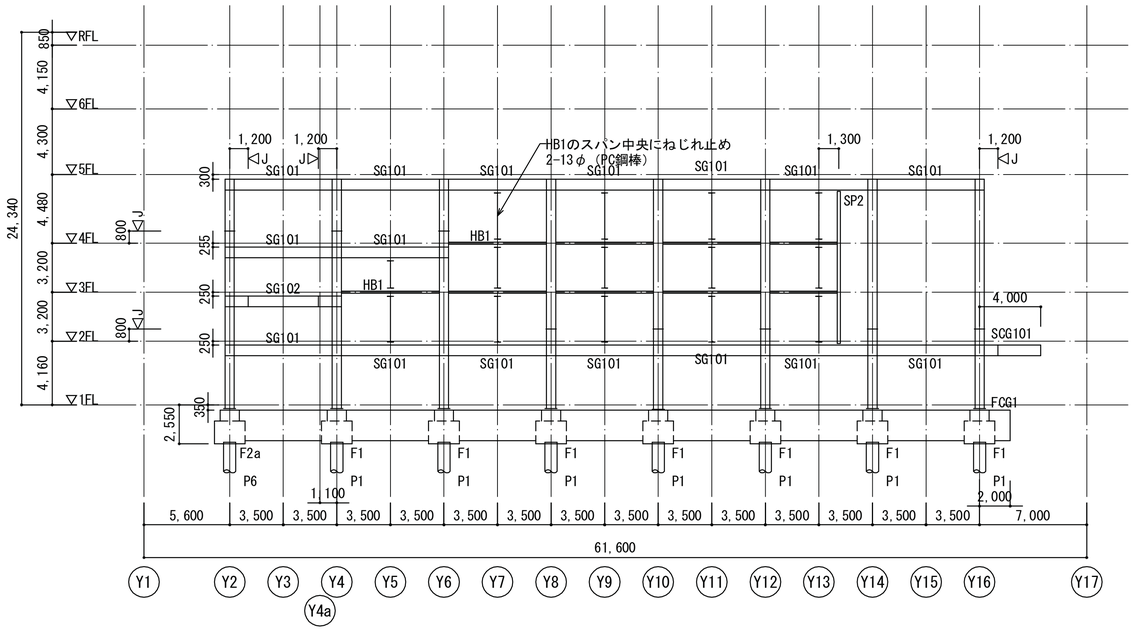


Y17通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による

1. 鉄骨柱符号 SC4

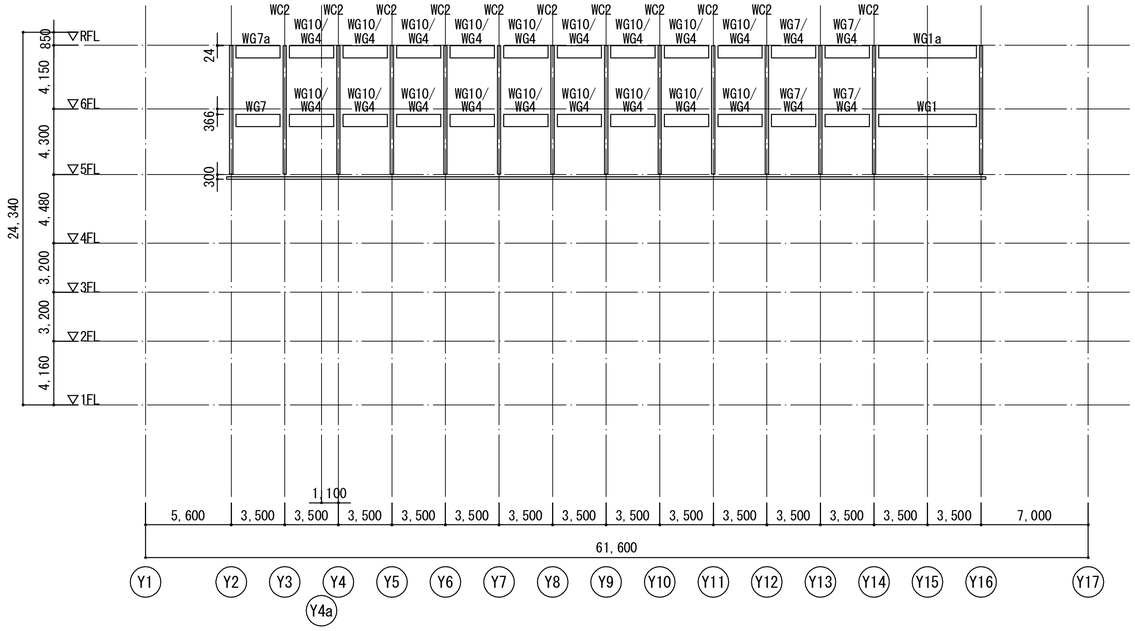
埼玉県産業労働部産業拠点整備課							春日部市都市整備部鉄道高架整備課						特記	2010.4.7　見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号　記名　捺印 代表設計者　一級建築士 第239114号　石井 靖人 担当設計者　一級建築士 第238543号 鉄道設計一級建築士 第6144号　塩手 博道 一級建築士 第254056号 鉄道設計一級建築士 第1131号　丸谷 周平	製図	検図	納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 軸組図(Y15～Y17通り)	図面番号 2115
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査	課長													縮尺 A1:1/200　A3:1/400	区分 建築構造図



X1通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

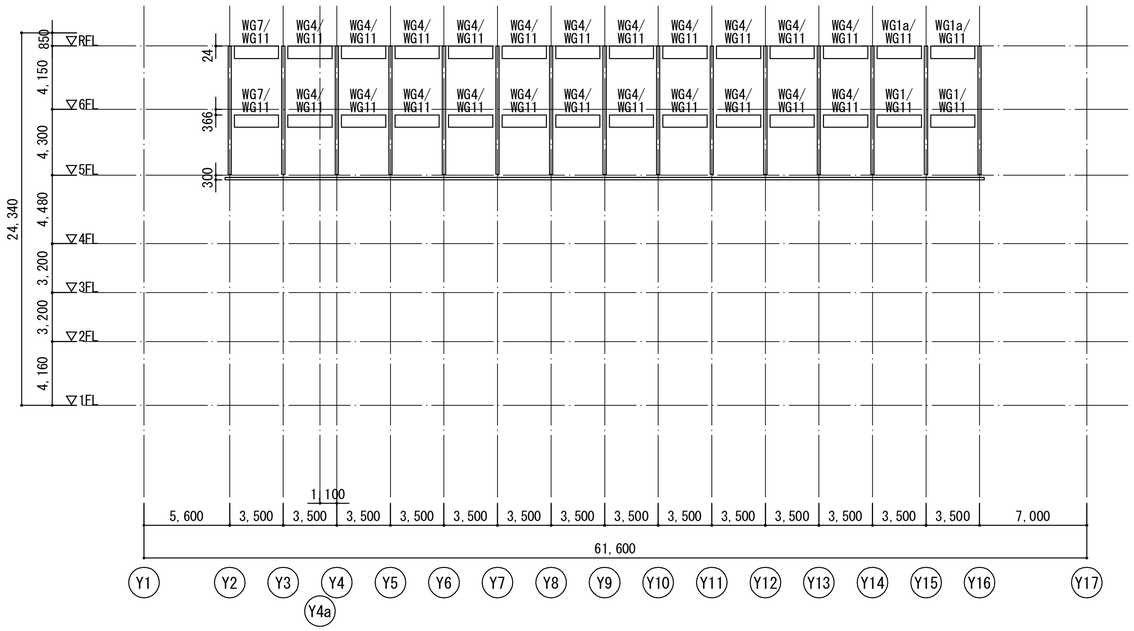
1. 地中大梁符号　FG1
2. 鉄骨柱符号　SC3
3. 基礎柱符号　C3



X3通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

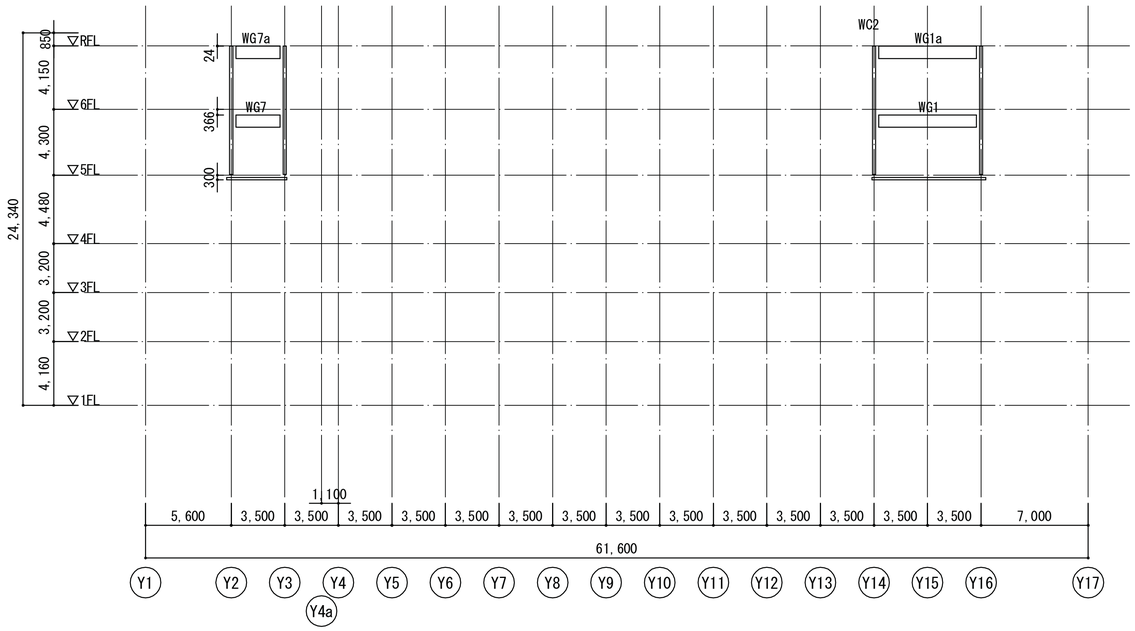
1. 木質柱記号　WC1
2. 合わせ梁の場合、
X4通り側梁/X2通り側梁 を示す。



X1a通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

1. 木質柱符号　WC1
2. 合わせ梁の場合、X2通り側梁/外周側梁 を示す。

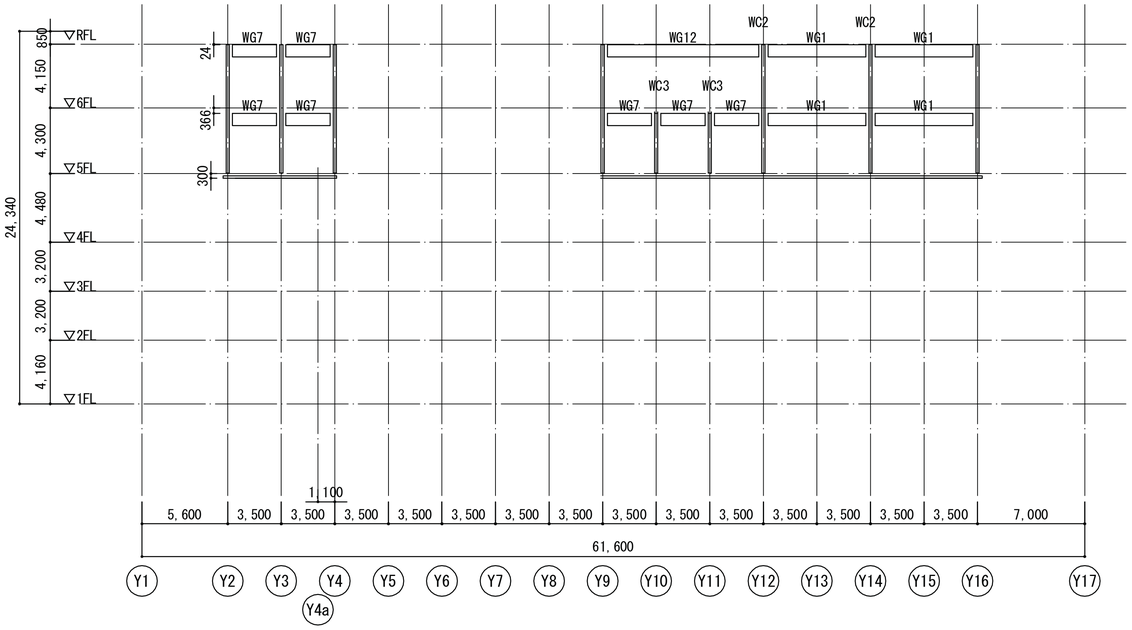


X2通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

1. 木質柱符号　WC1

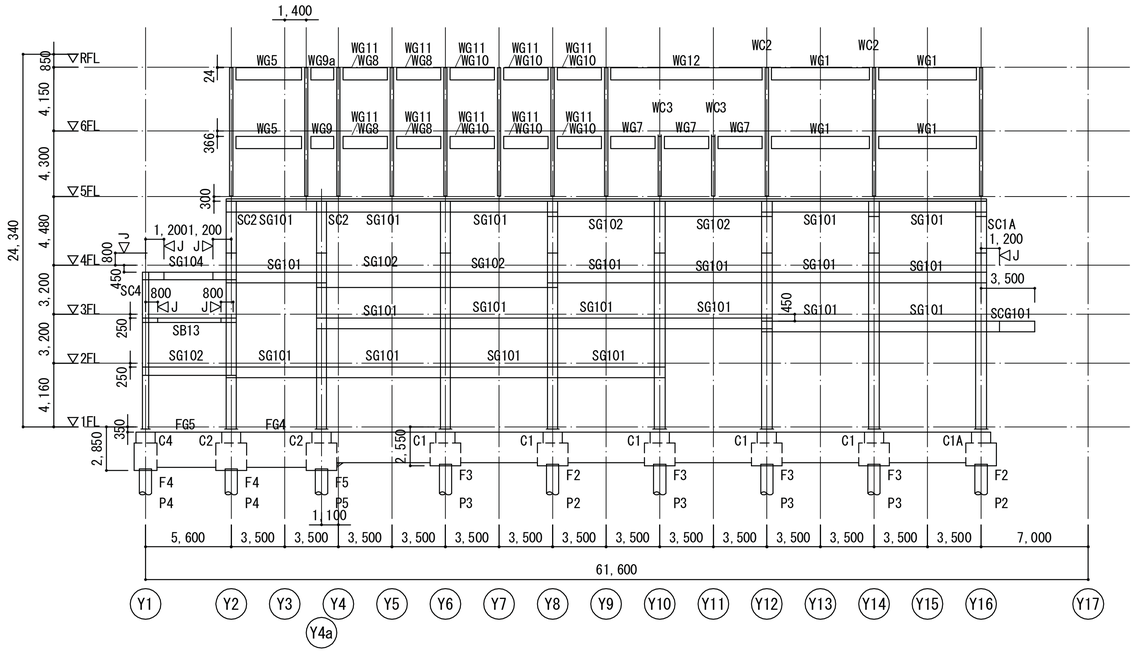
埼玉県産業労働部産業拠点整備課						春日部市都市整備部鉄道高架整備課						特記	2010.4.7　見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号　記名　捺印	製図	検図	納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 軸組図(X1a通り～X3通り)	図面番号 2116
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	課長									代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人					縮尺 A1:1/200　A3:1/400	区分 建築構造図
															担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道	一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第1319号 丸谷 周平					



X5通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

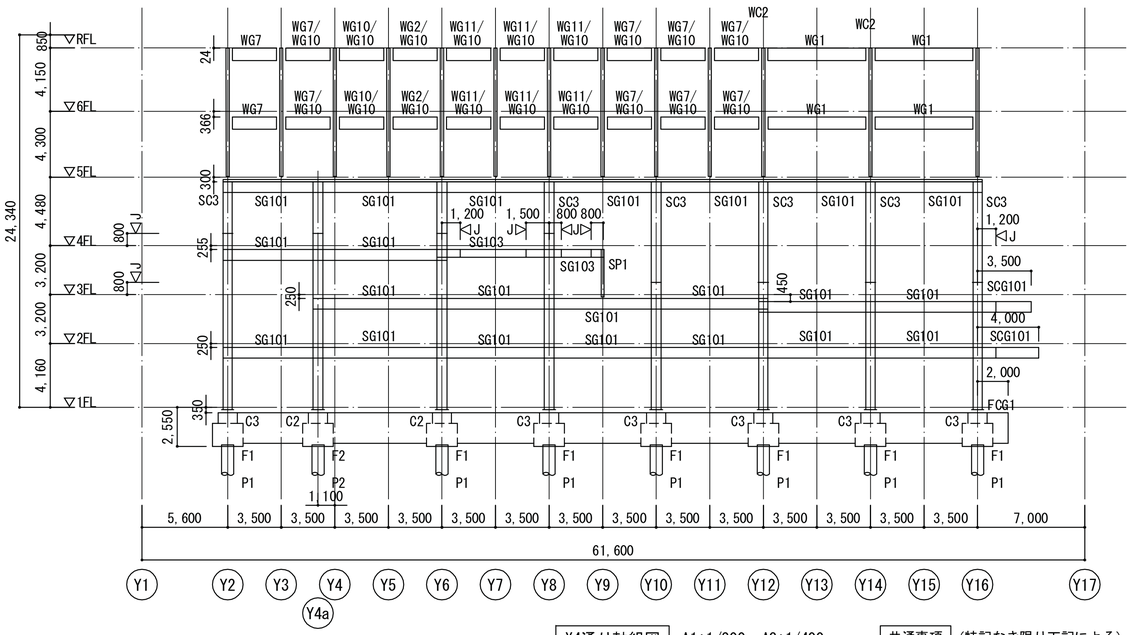
1. 木質柱符号　WC1



X7通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

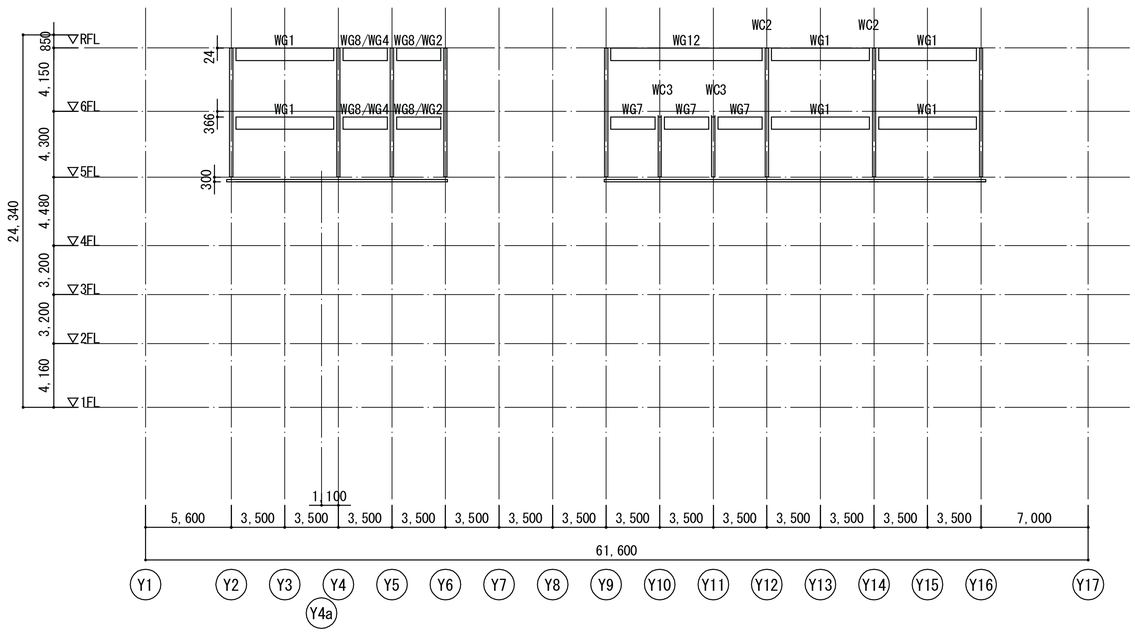
1. 地中大梁符号　FG1
2. 鉄骨柱符号　SC1
3. 木質柱符号　WC1
4. 合わせ梁の場合、
X8通り側梁/X6通り側梁 を示す。



X4通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

1. 地中大梁符号　FG1
2. 鉄骨柱符号　SC2
3. 木質柱符号　WC1
4. 合わせ梁の場合、X5通り側梁/X3通り側梁 を示す。

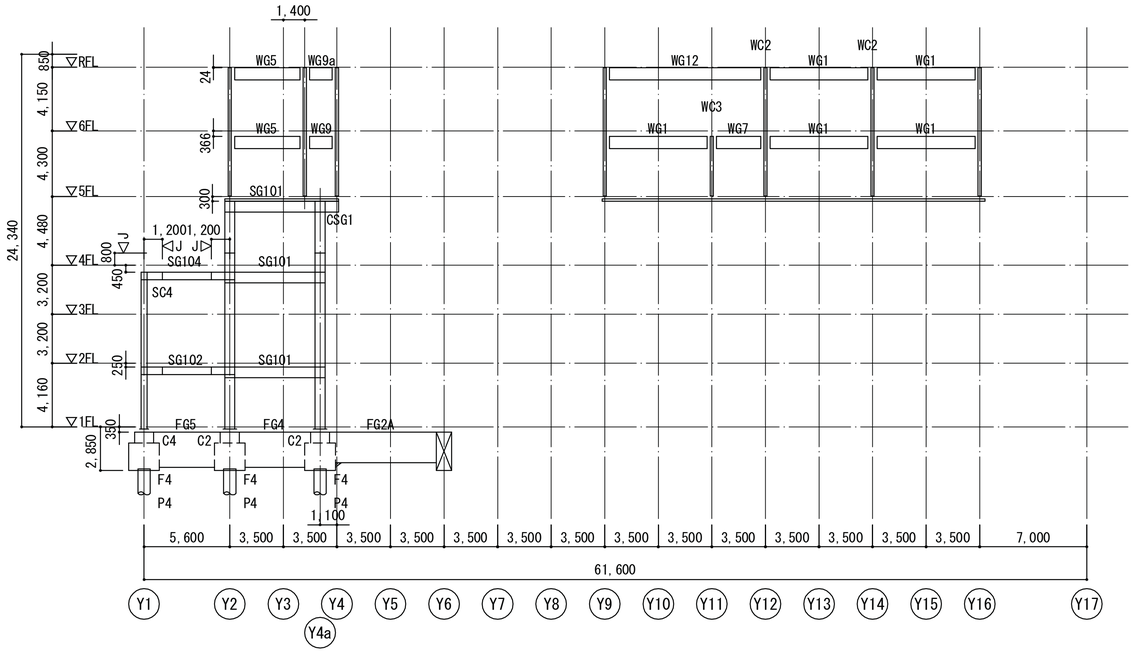


X6通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

1. 木質柱符号　WC1

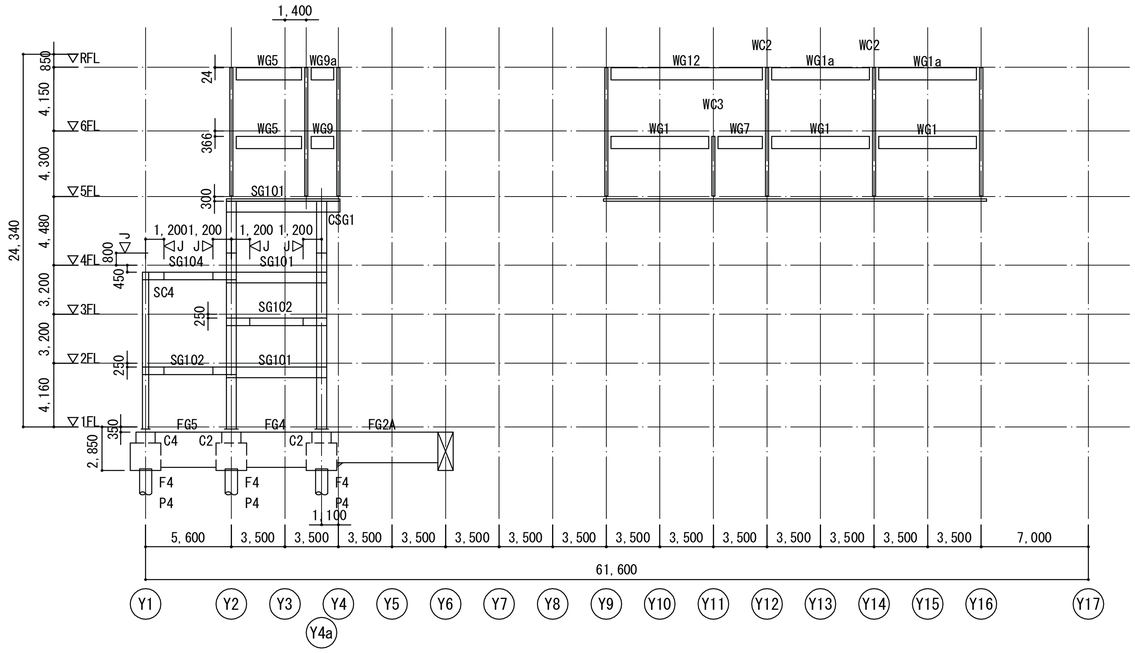
埼玉県産業労働部産業拠点整備課							春日部市都市整備部鉄道高架整備課						特記	2010.4.7　見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号　記名　捺印	製図	検図	納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 軸組図(X4通り～X7通り)	図面番号 2117
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査	課長									代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人					縮尺 A1:1/200　A3:1/400	区分 建築構造図
																担当設計者 一級建築士 第238543号 鉄道設計一級建築士 第6144号 塩手 博道	一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号 丸谷 周平					



X9通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

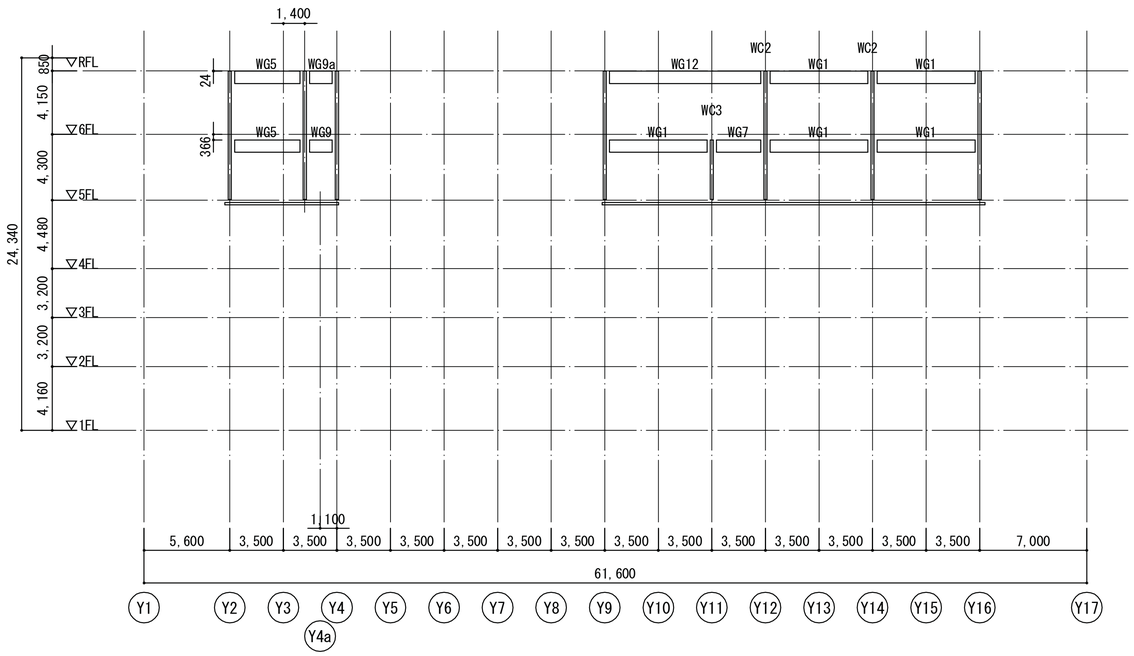
1. 鉄骨柱符号　SC2
2. 木質柱符号　WC1



X11通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

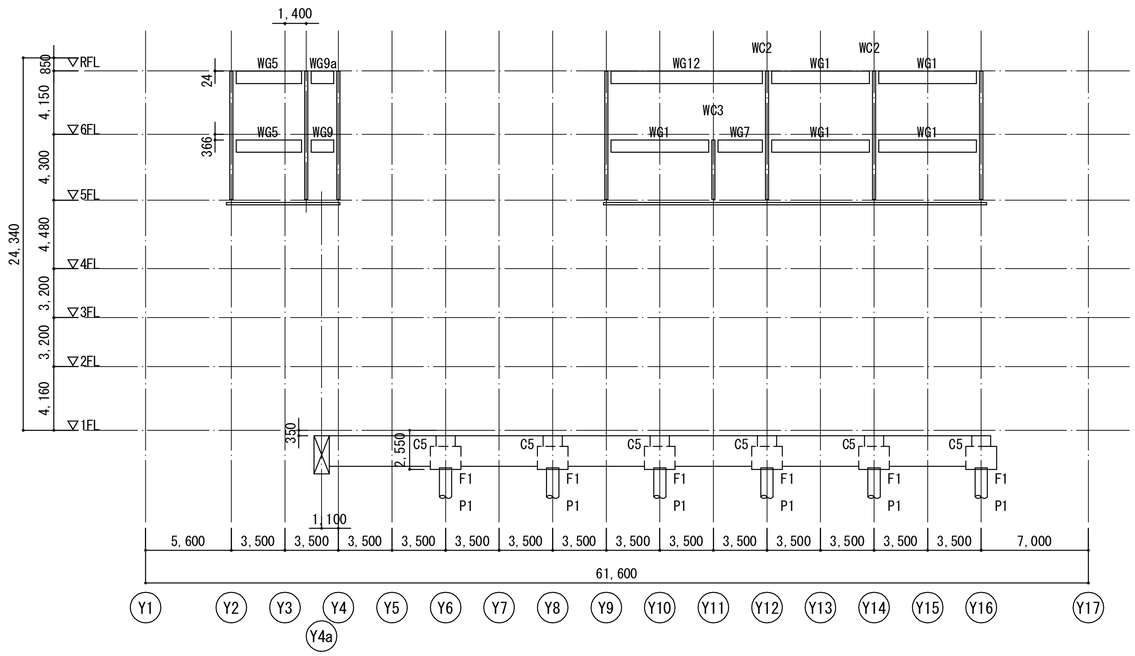
1. 鉄骨柱符号　SC2
2. 木質柱符号　WC1



X8通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

1. 木質柱符号　WC1

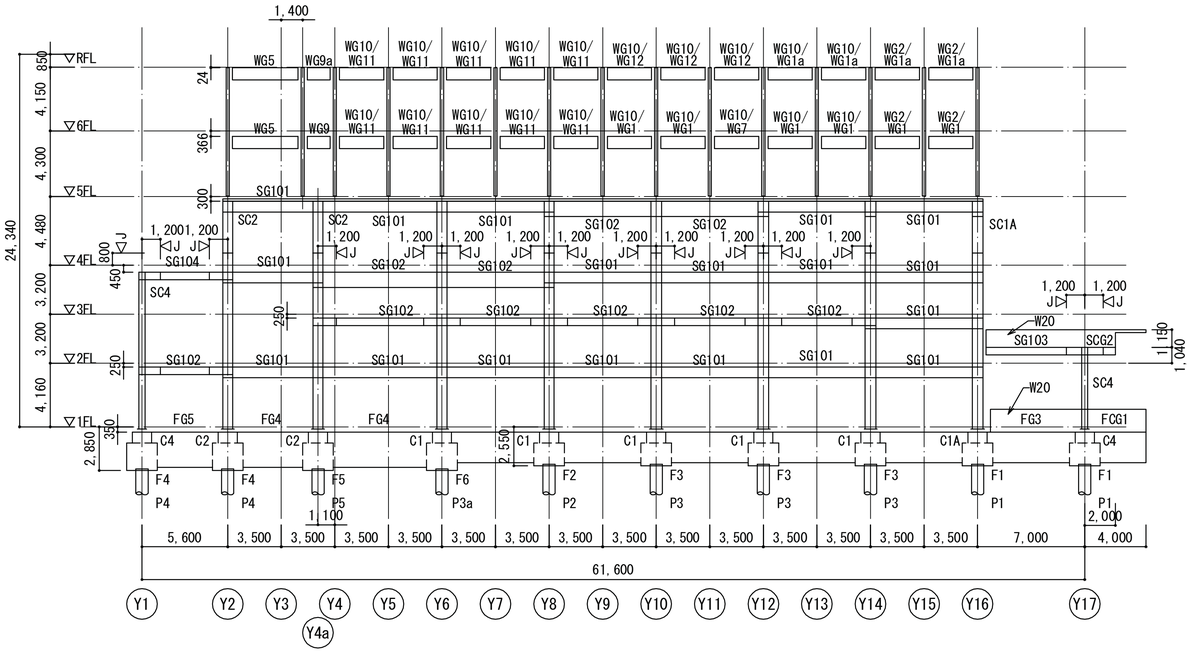


X10通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

1. 地中大梁符号　FG2
2. 木質柱符号　WC1

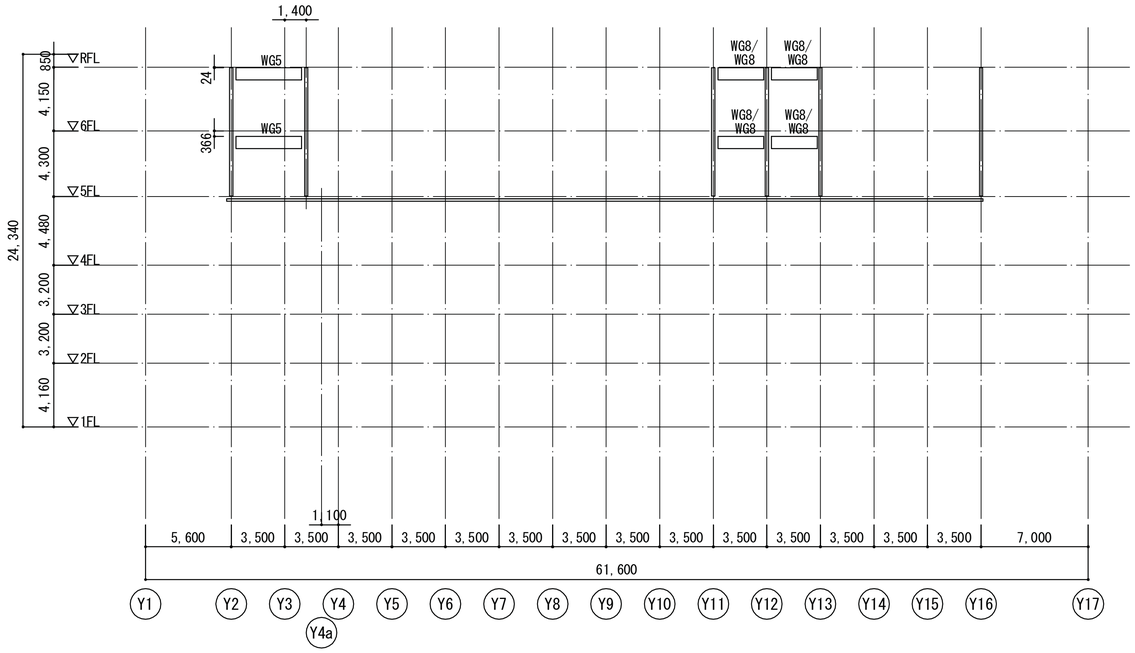
埼玉県産業労働部産業拠点整備課							春日部市都市整備部鉄道高架整備課						特記	2010.4.7　見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号　記名　捺印	製図	検図	納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 軸組図(X8通り～X11通り)	図面番号 2118
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査	課長									代表設計者　一級建築士 第239114号　石井 靖人					縮尺 A1:1/200　A3:1/400	区分 建築構造図
																担当設計者　一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号　塩手 博道	一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第1319号　丸谷 周平					



X13通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

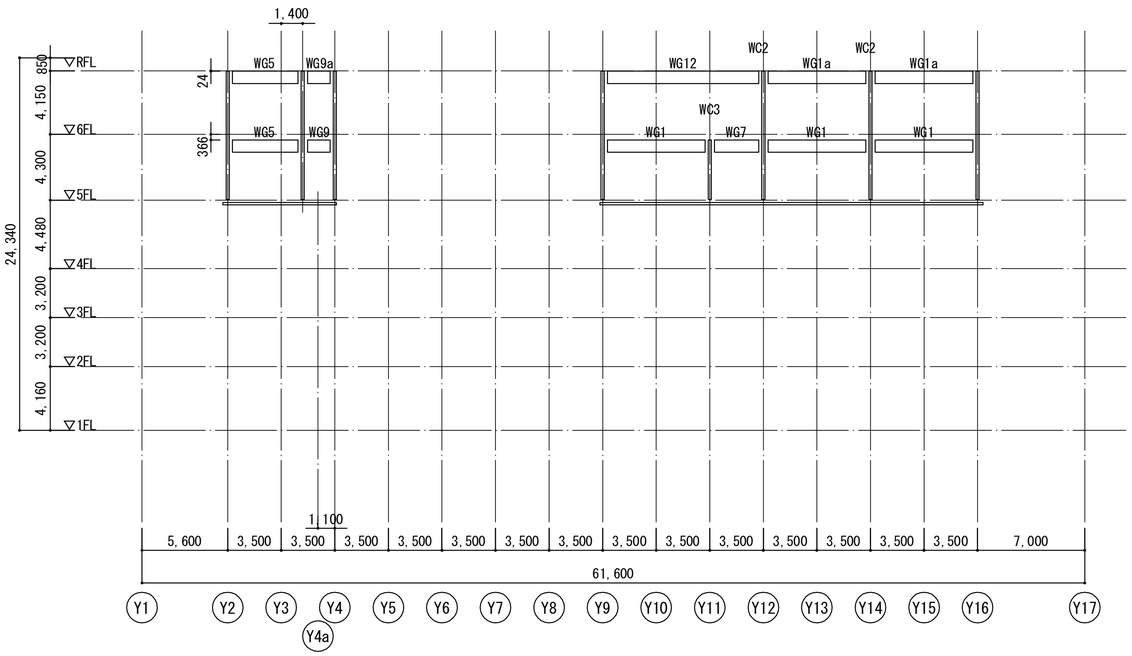
1. 地中大梁符号　FG1
2. 鉄骨柱符号　SC1
3. 木質柱符号　WC1
4. 合わせ梁の場合、X14通り側梁/X12通り側梁　を示す。



X15通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

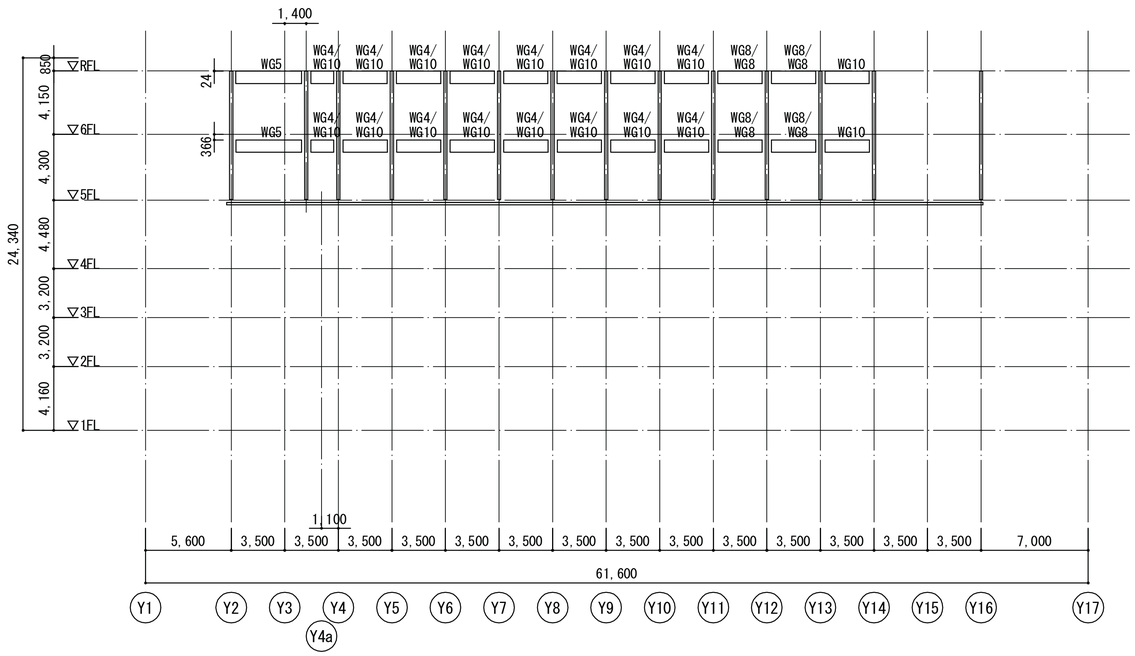
1. 木質柱符号　WC1
2. 合わせ梁の場合、X16通り側梁/X14通り側梁　を示す。



X12通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

1. 木質柱符号　WC1

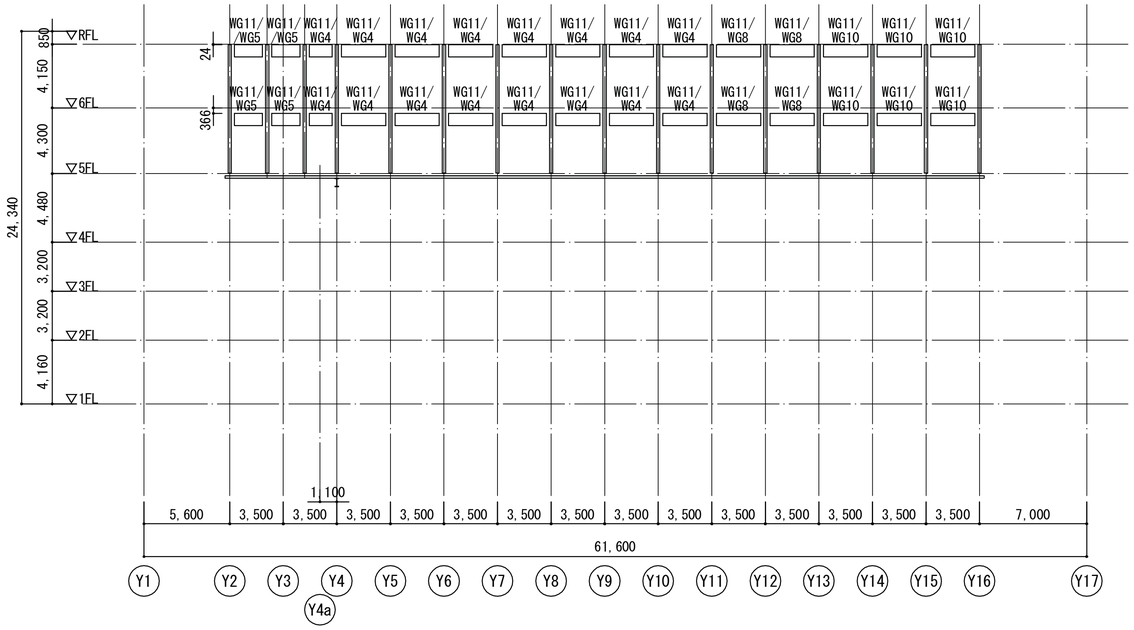


X14通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

1. 木質柱符号　WC1
2. 合わせ梁の場合、X15通り側梁/X13通り側梁　を示す。

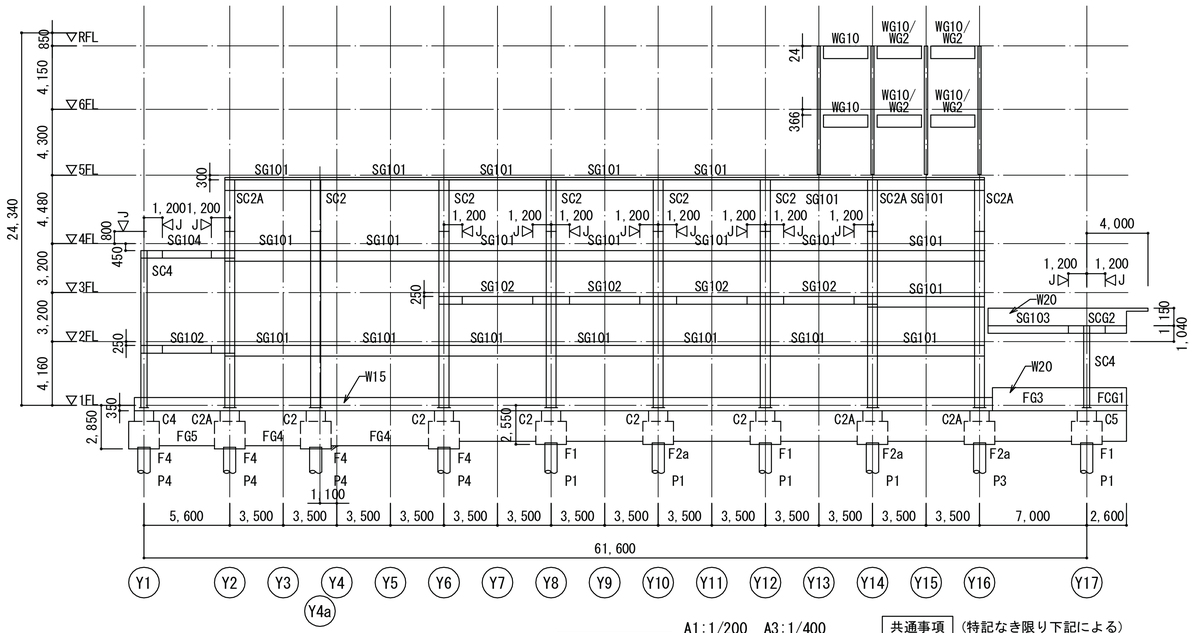
埼玉県産業労働部産業拠点整備課						春日部市都市整備部鉄道高架整備課						特記	2010.4.7　見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号　記名　捺印	製図	検図	納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 軸組図(X12通り～X15通り)	図面番号 2119
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	課長									代表設計者　一級建築士 第239114号　石井 靖人					縮尺 A1:1/200　A3:1/400	区分 建築構造図
															担当設計者　一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号　塩手 博道	一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第1319号　丸谷 周平					



X16a通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

1. 木質柱符号　WC1
2. 合わせ梁の場合、
外周側梁/X16通り側梁 を示す。

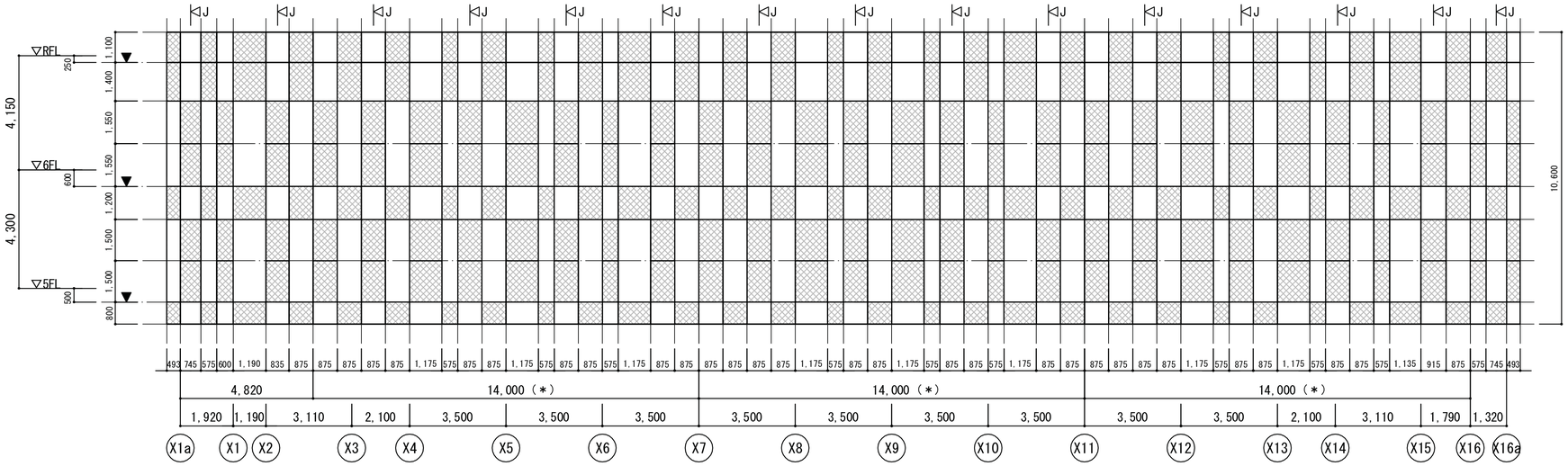


X16通り軸組図　A1:1/200　A3:1/400

共通事項（特記なき限り下記による）

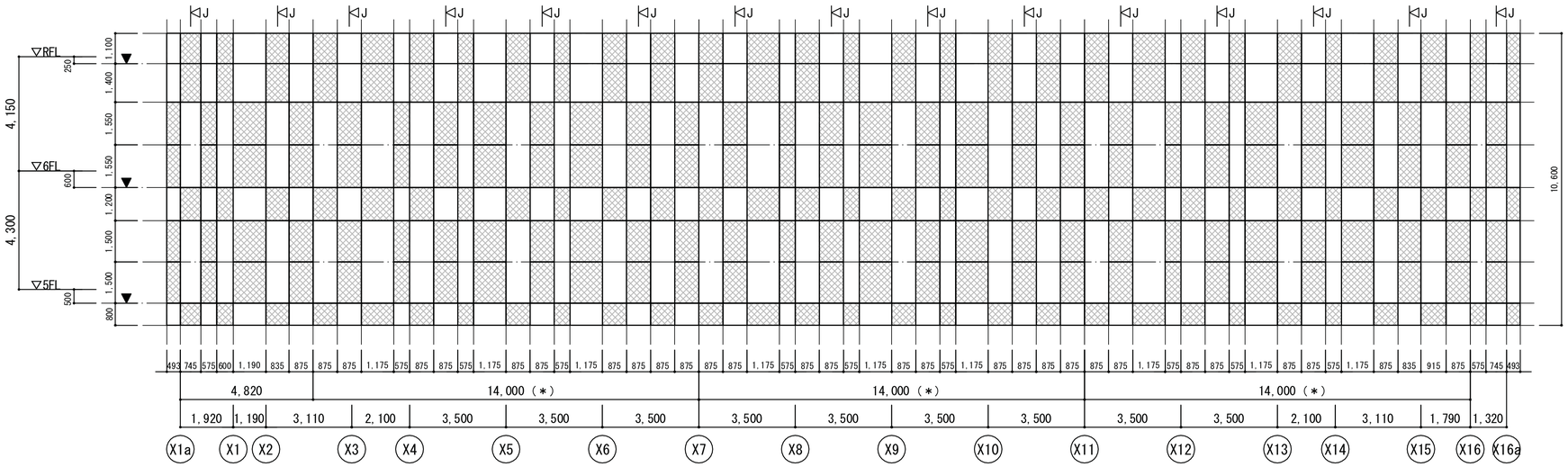
1. 木質柱符号　WC1
2. 合わせ梁の場合、
X16a通り側梁/X15通り側梁 を示す。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課							春日部市都市整備部鉄道高架整備課						特記	2010.4.7　見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号　記名　捺印	製図	検図	納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 軸組図(X16通り～X16a通り)	図面番号 2120
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査	課長									代表設計者　一級建築士 第239114号　石井 靖人					縮尺 A1:1/200　A3:1/400	区分 建築構造図
																担当設計者　一級建築士 第238543号 鉄道設計一級建築士 第6144号　塩手 博道　一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号　丸谷 周平						



Y2通り-501 軸組図　A1:1/100　A3:1/200

（南側・外観図）



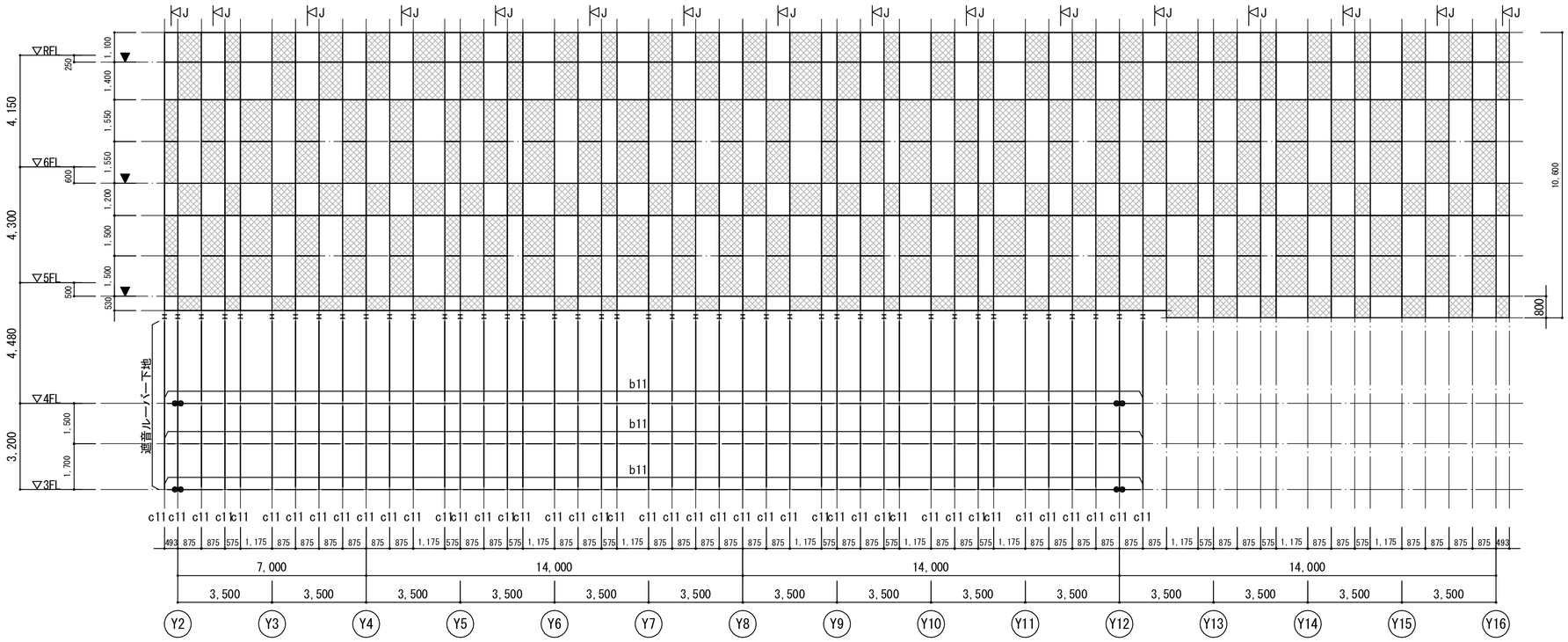
Y16通り+501 軸組図　A1:1/100　A3:1/200

（北側・内観図）

共通事項（特記なき限り下記による）

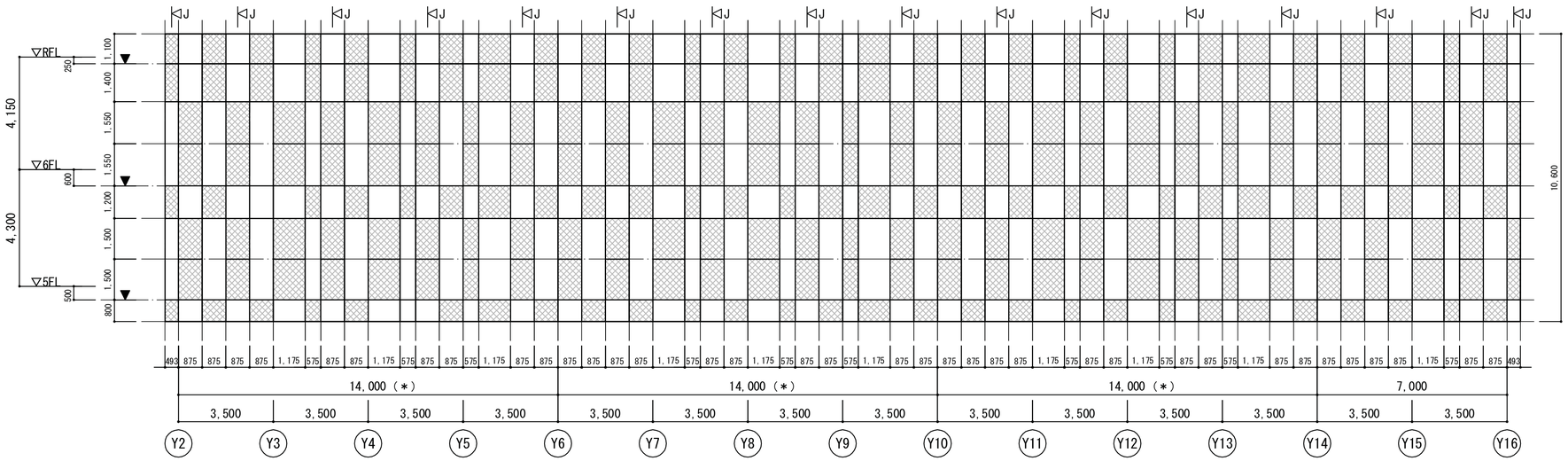
1. （＊）印は外壁パターンのモジュールを示す。
2. J は、枠組み鉄骨の現場継手位置を示す。
3. ▨ は、LVLパネル位置を示す。
4. 高さ方向は10.6mの一体としているが、
   精度確保の目的で継手を設けることは可能とする。
5. ▼ 印レベルにて縦材ごとに本体と接合する。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 木質耐震パネル軸組図(1)	図面番号 2121
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査 主査	課長	2010.4.7 見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	資格/番号 記名 捺印 製図 検図 納品検査 代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人 担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道 一級建築士 第254066号 構造設計一級建築士 第131号 丸谷 周平		縮尺 A1:1/100 A3:1/200	区分 建築構造図



X1a通り-501 軸組図　A1:1/100　A3:1/200

（西側・内観図）



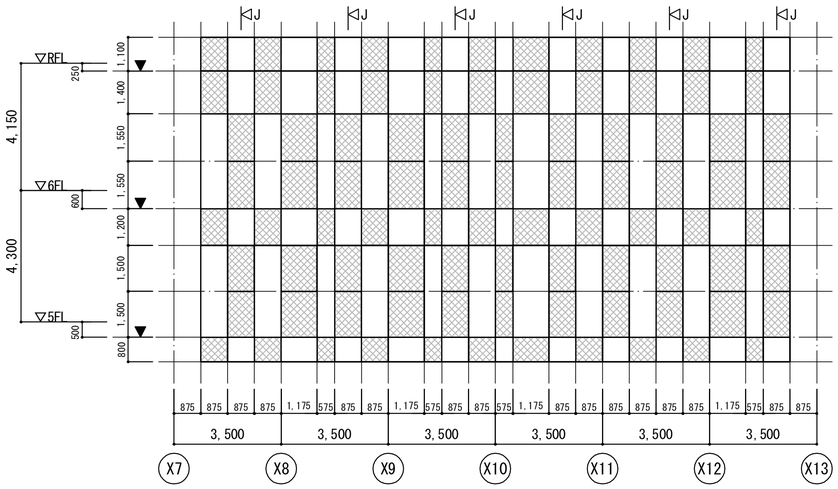
X16a通り+501 軸組図　A1:1/100　A3:1/200

（東側・外観図）

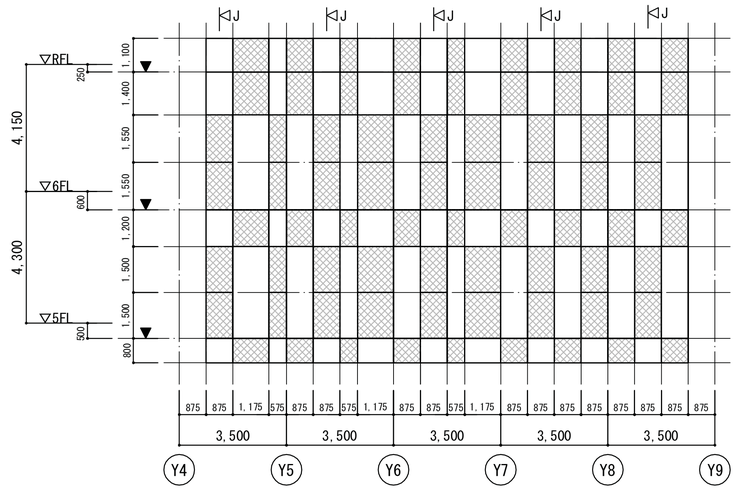
共通事項（特記なき限り下記による）

1. （＊）印は外壁パターンのモジュールを示す。
2. ◁J は、枠組み鉄骨の現場継手位置を示す。
3. ▨ は、LVLパネル位置を示す。
4. 高さ方向は10.6mの一体としているが、精度確保の目的で継手を設けることは可能とする。
5. ▼ 印レベルにて縦材ごとに本体と接合する。
6. ||— は剛接合を示す。

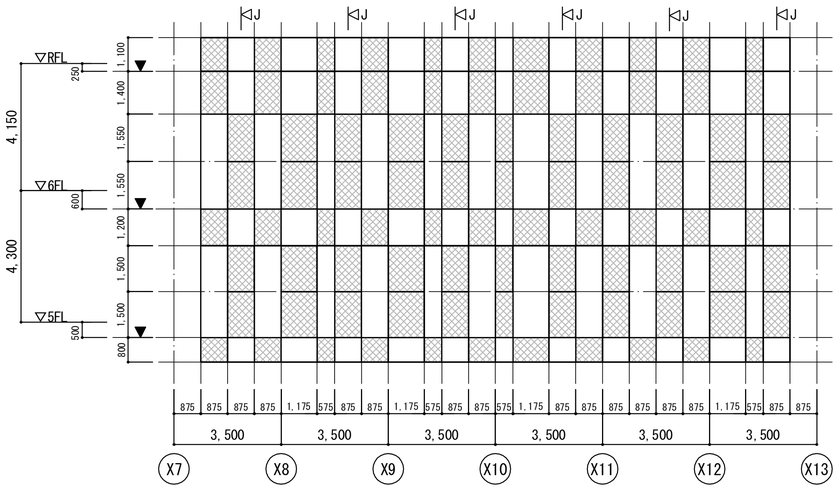
埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 木質耐震パネル軸組図(2)	図面番号 2122
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査 主査	課長	2010.4.7 見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人 / 担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道 / 一級建築士 第254066号 構造設計一級建築士 第131号 丸谷 周平	実格/番号 記名 捺印 製図 検図 納品検査	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	区分 建築構造図



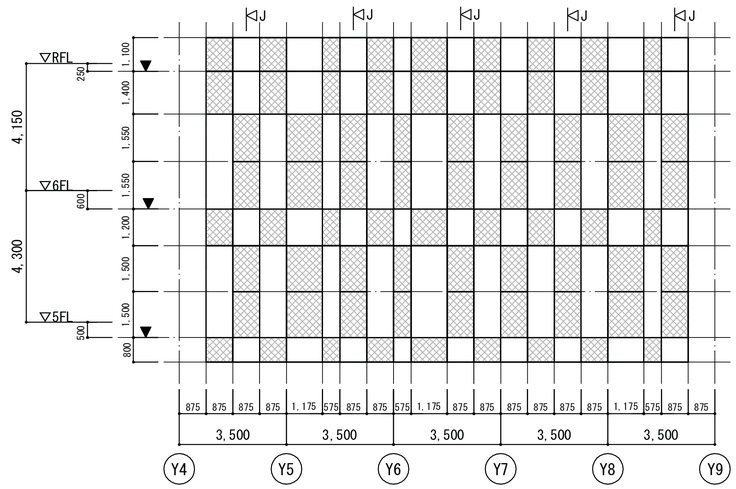
Y9通り-510 軸組図　A1:1/100　A3:1/200
（中庭北側・外観図）



X13通り-510 軸組図　A1:1/100　A3:1/200
（中庭東側・内観図）



Y4通り+501 軸組図　A1:1/100　A3:1/200
（中庭南側・内観図）



X7通り+501 軸組図　A1:1/100　A3:1/200
（中庭西側・外観図）

共通事項（特記なき限り下記による）

1. （＊）印は外壁パターンのモジュールを示す。
2. ◁J は、枠組み鉄骨の現場継手位置を示す。
3. ▨ は、LVLパネル位置を示す。
4. 高さ方向は10.6mの一体としているが、
   精度確保の目的で継手を設けることは可能とする。
5. ▼ 印レベルにて縦材ごとに本体と接合する。

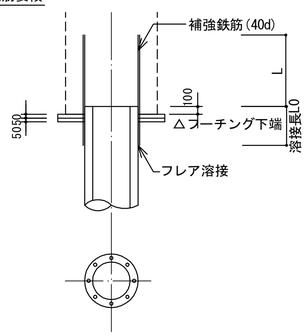
埼玉県産業労働部産業拠点整備課							春日部市都市整備部鉄道高架整備課						特記	2010.4.7　見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号　記名　捺印 代表 設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人 担当 設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道 一級建築士 第254066号 構造設計一級建築士 第131号 丸谷 周平	製図	検図	納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 木質耐震パネル軸組図(3)	図面番号 2123
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査	課長														縮尺 A1:1/100　A3:1/200	区分 建築構造図

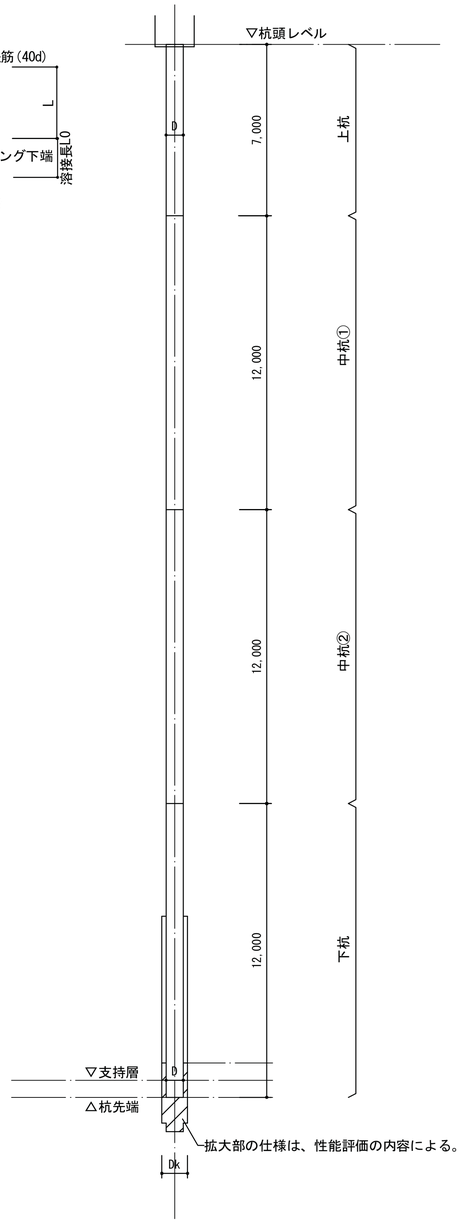
杭種　既製コンクリート杭

1. 工法:中堀拡大根固め工法、高支持工法α＝400以上（大臣認定工法）　2. コンクリート強度Fc=105N/mm2とする。　3. 杭頭補強筋はSD390とする。

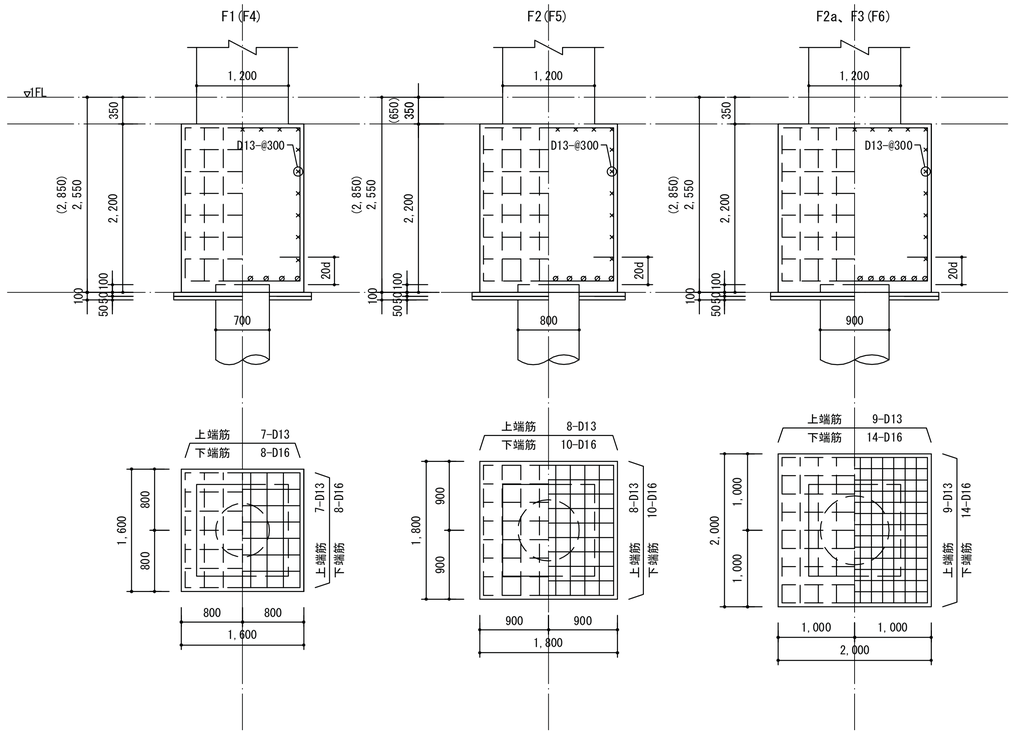
杭符号	杭径(mm)	上杭(7m)		中杭①(12m)		中杭②(12m)		下杭(12m)		杭頭補強筋	溶接部	溶接長
	軸径D	肉厚	材種	肉厚	材種	肉厚	材種	肉厚	材種		脚長(mm)	L0(mm)
P1	700	100	SC(490)t19	100	PHC C種	100	PHC B種	100	PHC B種	25-D38 (L=1520)	19	150
P2	800	110	SC(490)t15	110	PHC A種	110	PHC A種	110	PHC A種	25-D38 (L=1520)	15	150
P2a	800	110	SC(490)t19	110	PHC C種	110	PHC B種	110	PHC B種	29-D38 (L=1520)	19	150
P3	900	120	SC(490)t14	120	PHC A種	120	PHC A種	120	PHC A種	25-D38 (L=1520)	14	150
P4	700	100	SC(490)t19	100	PHC C種	100	PHC B種	100	PHC B種	25-D38 (L=1520)	19	150
P5	800	110	SC(490)t15	110	PHC A種	110	PHC A種	110	PHC A種	25-D38 (L=1520)	15	150
P6	900	120	SC(490)t14	120	PHC A種	120	PHC A種	120	PHC A種	25-D38 (L=1520)	14	150

杭頭補強筋要領





基礎リスト　1/40



共通事項（特記なき限り下記による）

1. コンクリート強度Fc=30N/mm2とする
2. 鉄筋材種：D13,D16 SD295A
　　D19～25 SD345

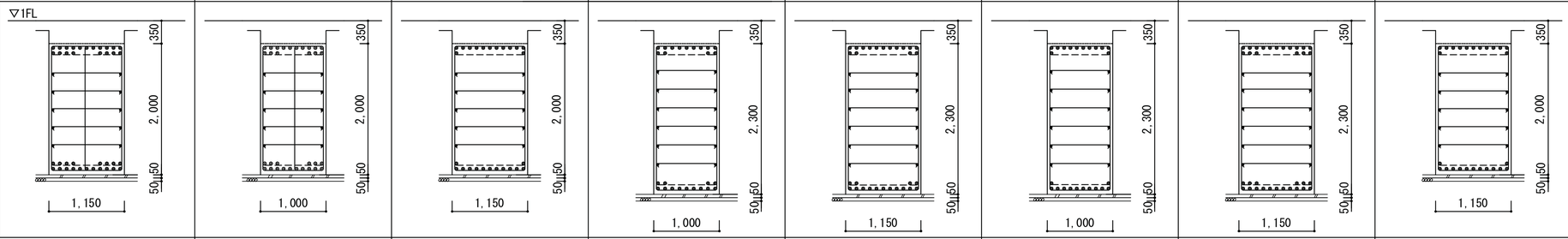
中掘り 拡大根固め工法（高支持力工法）特記事項

1. 一般事項
   - 工法は、中掘り拡大根固め工法（高支持力工法、大臣認定工法）とする。
   - 先端支持力係数α=400以上とする。
   - 鋼管の材質はSKK490とする。
   - 杭体のコンクリート強度はFc=105N/mm2とする。
   - 杭の施工は、大臣認定を受けた杭施工会社もしくは大臣認定を受けた施工会社が承認した施工会社の責任施工とし、地盤の支持力については大臣認定を受けた施工会社がすべて責任を負うものとする。
   - 支持層において、杭体先端より先端径程度深く拡大掘削を行う工法とする。深さは性能評価の内容による。
2. 材料
   - 材料・杭径は設計図による。杭仕様は、性能評価を受けた施工会社の仕様によって良い。ただし、設計と仕様が異なる場合は、支持力等の性能が設計値と同等以上であることを示す検討書を作成し、監督員の承諾を得ること。
3. 試験
   - 拡大根固め液の供試体はグラウトプラントより採取を行う。（採取方法及び管理強度は各工法の評定報告書施工指針の規定に従う）管理試験は「標準仕様書（H19年版）」4.3.4セメントミルク工法（f）（10）に準じて行う。試験成績書を監督員に提出し承諾を得ること。圧縮強度等の管理値は性能評価の条件による。
   - 本杭位置と別位置に試験杭2本（本杭と同じ長さの700φと900φ）を行う。杭材の強度は問わないが、PHC杭（A種）を基本とする。本杭と同一方式で先端根固め部のセメントミルクを施工した後、開閉装置（油圧式もしくは機械式）を伴った土砂採取装置にて、先端根固め部近傍のセメントミルクを直接採取し、管理試験を前項と同様に行う。ただし、強度試験試験体はモールドコアとしても良い。試験杭位置は、ボーリング調査位置の近傍とする。
4. 施工
   - 施工は、性能評価機関の評価を受けた評価条件に基づき施工する。
   - 施工中は、性能評価における施工管理項目に示す事項について管理を行う。
   - 根固め方法及び根固め液の配合・使用量については、各工法の施工要領書による。
   - 支持層の確認は、オーガー駆動装置の電流変化などで確認するが、すべての杭について電流変化を積分電流計で確認するものとする。
   - 隣接構造物、隣接杭に影響しないように掘削する。許容傾斜角度を考慮し杭先端部（杭先端拡底部）が互いに接触する可能性がある場合は、近接する杭の施工を8時間以上経てから行い、施工順序を考慮した施工計画をたてる。
5. 拡翼の管理
   - 支持層 での杭先端ビット拡翼径を確認すること。
     拡翼径の確認は以下の方法のいずれかとする。
     （1）油圧油量式拡翼ビットを使用する場合は、管理装置により拡翼していることを油量および油圧により全数確認する。
     （2）逆転型拡大ビットと高圧噴射式工法を併用する場合は、拡翼確認ピン等の変形により拡大したことを、オーガー引き上げ後、地上で全数目視確認する。確認ピンの脱落・損傷等で先端ビットの拡翼が確認できない場合は、直ちに杭体を引き上げ、再施工を行う。また、先端地盤強度の差異で球根径が標準寸法より大きくなり、セメントミルク量が不足することが考えられるので、杭中空部のセメントミルク充填長を測定し管理する。
   - 流量計等により根固め液の注入量の確認を行うこと。
   - 拡翼の確認方法は事前に監督員と協議すること。
   - 拡翼の確認結果は、速やかに記録を監督員に提出し、承諾を得ること。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記 2010.4.7 見積用図面（この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号 記名 捺印 製図 検図 納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 杭・基礎断面リスト	図面番号 2201
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査	課長			代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人		縮尺 A1:1/40 A3:1/80	区分 建築構造図
				担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道 / 一級建築士 第254059号 構造設計一級建築士 第131号 丸谷 周平			

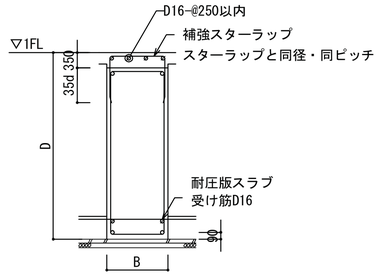
地中梁リスト　1/40

符号	FG1,FG1A,FG1B	FG2	FG2A	FG3	FG4	FG5	FG6	FCG1
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
上端筋	19-D32	16-D25	13-D32	13-D32	15-D32	12-D32	17-D32	17-D32
下端筋	19-D32	16-D25	13-D32	13-D32	15-D32	12-D32	17-D32	17-D32
S.T	D16-□-@150	D13-□-@150	D16-□-@150	D16-□-@150	D16-□-@150	D16-□-@150	D16-□-@150	D16-□-@150
腹筋	10-D16	10-D10	10-D10	12-D16	12-D16	12-D16	12-D16	10-D16
備考								



共通事項（特記なき限り下記による）

1. 鉄筋材種：　D16以下 SD295A
　　D22,D25 SD345
　　D32 SD390
2. 基礎梁天端は、取合うスラブまで増打する。
3. 地中梁増打要領は下図による。

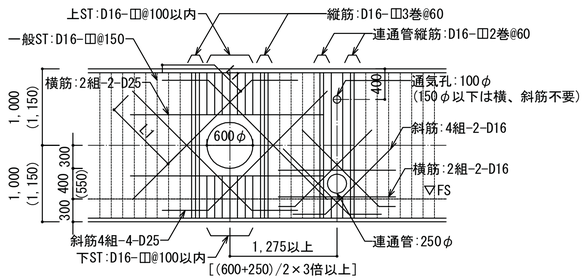


壁リスト

符号	壁厚		主筋 縦筋	主筋 横筋	備考
W20	200	D	D13-@100 ダブル	D10-@100 ダブル	パラペット・腰壁
W15	150	D	D10-@100 シングル	D10-@100 シングル	腰壁

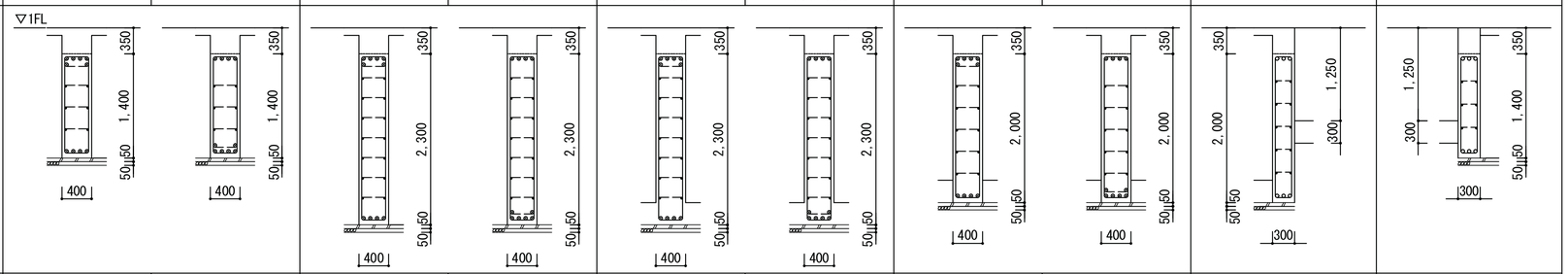
基礎梁貫通孔補強要領図

FG D16-□@150 の例



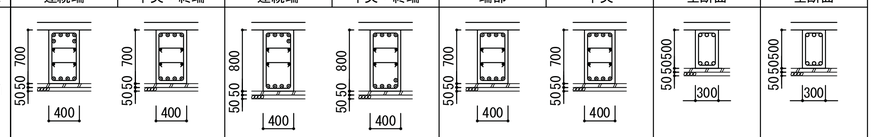
		FG	FB	FG	FB
貫通孔		600φ	600φ	250φ以下	250φ以下
補強筋	斜筋	4組-4-D25	4組-2-D25	4組-2-D16	4組-2-D16
	横筋	2組-2-D25	2組-2-D25	2組-2-D16	2組-2-D16
	縦筋	3巻-□-D16	2巻-□-D13	2巻-□-D16	2巻-□-D13
	上下ST	D16-□@100以内	D13-□@100以内	D16-□@150以内	D13-□@150以内
数量(ヵ所)		15	7	80 計上	50 計上

符号	FB1		FB1A		FB2		FB3		FB4	FB5
位置	端部	中央	端部	中央	連続端	中央・終端	端部	中央	全断面	全断面
上端筋	6-D25	4-D25	6-D25	4-D25	6-D25	4-D25	6-D25	4-D25	3-D22	3-D22
下端筋	4-D25	6-D25	4-D25	6-D25	4-D25	6-D25	4-D25	6-D25	3-D22	3-D22
S.T	D13-□-@200		D13-□-@200		D13-□-@200		D13-□-@200		D13-□-@200	D13-□-@200
腹筋	6-D10		14-D10		14-D10		10-D10		10-D10	6-D10
備考										



基礎小梁断面リスト　1/40

符号	FB11		FB12		FB13		FB14	FCB1
位置	連続端	中央・終端	連続端	中央・終端	端部	中央	全断面	全断面
上端筋	6-D25	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D22	3-D22
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	3-D22	3-D22
ST.	D13-□@200		D13-□@200		D13-□@200		D10-□@200	D10-□@200
腹筋	2×2-D10		2×2-D10		2×2-D10			
備考								

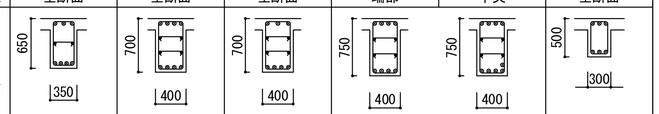


共通事項（特記なき限り下記による）

1. 鉄筋材種：　D13以下 SD295A
　　D22,D25 SD345

小梁断面リスト　1/40

符号	B1	B2	B3	B4		B5
位置	全断面	全断面	全断面	端部	中央	全断面
上端筋	3-D25	4-D25	3-D25	4-D25	4-D25	3-D22
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	3-D22
ST.	D13-□@200	D13-□@200	D13-□@200	D13-□@200		D10-□@200
腹筋	1×2-D10	2×2-D10	2×2-D10	2×2-D10		
備考						



共通事項（特記なき限り下記による）

1. 鉄筋材種：　D13以下 SD295A
　　D22,D25 SD345

埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記 2010.4.7 見積用図面 (この図面で施工しないで下さい)
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査 主査	課長	

株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.

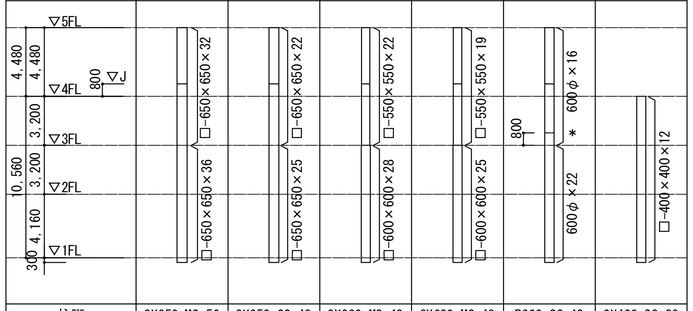
資格/番号	記名	捺印	製図	検図	納品検査
代表設計者 一級建築士 第239114号	石井 靖人				
担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第5144号	塩手 博道	一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号	丸谷 周平		

東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事

図面内容	図面番号
地中梁・RC小梁リスト	2202
縮尺 A1:1/40 A3:1/80	区分 建築構造図

鉄骨柱断面リスト　1/200

符号	SC1	SC1A	SC2	SC2A	SC3	SC4
柱脚	GX650-M2-56	GX650-S2-48	GX600-M2-48	GX600-M2-48	R600-S2-42	GX400-S2-30



共通事項（特記なき限り下記による）

1. 角型鋼管　材種　BCP325
   鋼管　材種　STKN490B
2. 通しダイヤフラム　SN490C(40mm以下)　TMCP325C(40mm以上)
   ダイヤフラム厚は、取合う大梁フランジの最大厚の
   ２サイズUP以上かつ柱板厚以上とする。
3. １階柱脚は、露出型固定柱脚工法（大臣認定品）とし、
   寸法・形状及びアンカーボルトの使用は、メーカー使用による。
4. BPL下端レベルは1FL-300とする。
5. SC3において、3SGが取り合わない場合は、
   ＊位置の現場継手にて板厚を切り換えること。

基礎柱リスト　1/40

符 号	C1,C1A	C2,C2A	C3	C4	C5
断 面	11 / 11 / 1,200 / 1,200	8 / 8 / 1,200 / 1,200	8 / 8 / 1,200 / 1,200	8 / 8 / 1,200 / 1,200	8 / 8 / 1,200 / 1,200
主 筋	40-D25	28-D25	28-D25	28-D22	28-D25
帯 筋	D16-□-@100	D16-□-@100	D13-□-@100	D13-□-@150	D13-□-@100
備 考	SC1,SC1Aに適用	SC2,SC2Aに適用	SC3に適用	SC4に適用	基礎のみ柱型に適用

共通事項（特記なき限り下記による）

1. 鉄筋材種：　D13 SD295A
   D25 SD345

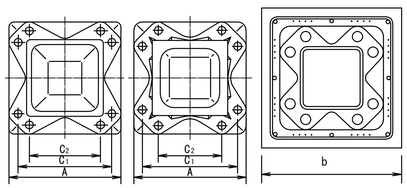
柱脚リスト

採用 柱符号	採用 数量	適用柱 サイズ	適用柱 板厚範囲	露出型固定柱脚型式 アンカーボルト8本	ばね定数 ×10³kNm/rad	A	C_1	C_2	E	F	H	t_2	質量(kg) ベースプレート	質量(kg) 部品	セット質量(kg)	L (mm)	L_1 (mm)	h (mm)	基礎柱型主筋定着長さ (mm)
SC4	7	□400×400	12	GX400-S2-30	207	580	500	350	408	320	65	32	104	58	162	600	99	820以上	500
SC2,SC2A	20	□600×600	25,28	GX600-M2-48	740	880	750	540	610	500	90	54	340	222	562	960	161	1190以上	800
SC1A	2	□650×650	25,36	GX650-S2-48	865	930	800	590	660	550	95	54	397	223	620	960	161	1190以上	790
SC1	10			GX650-M2-56	977	960	820	580				64	446	337	783	1120	187	1350以上	990

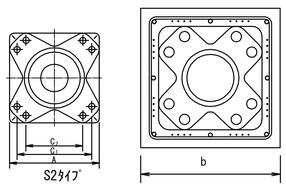
採用 柱符号	採用 数量	適用柱 外径	適用柱 最大板厚	露出型固定柱脚型式 アンカーボルト8本	ばね定数 ×10³kNm/rad	A	C_1	C_2	E	F	H	t_2	質量(kg) ベースプレート	質量(kg) 部品	セット質量(kg)	L	L_1	h (mm)	基礎柱型主筋定着長さ (mm)
SC3	12	φ600	22	R600-S2-42	452	770	650	440	620	480	100	80	313	159	472	840	175	1070以上	700

共通事項（特記なき限り下記による）

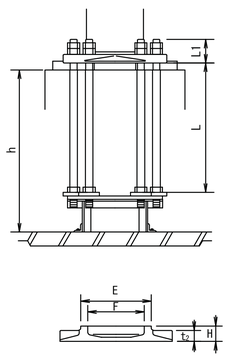
1. 部品の質量はアンカーボルト部品と形板の１セットの質量とする。
2. 表中のh寸法は杭がない場合とする。杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保する。
3. 各寸法の符号は下図凡例による。

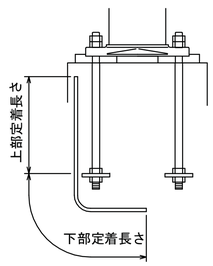


B型、GX型8本ボルトタイプ



R型式8本ボルトタイプ





基礎柱形主筋の定着長さ

埼玉県産業労働部産業拠点整備課						春日部市都市整備部鉄道高架整備課						特記	2010.4.7　見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.	代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人	製図	検図	納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 柱・柱脚リスト	図面番号 2203
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	課長									担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道	一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第1319号 丸谷 周平				縮尺 A1:1/40　A3:1/80	区分 建築構造図

鉄骨大梁断面リスト

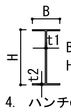
階	SG1		端部継手タイプ	SG2		端部継手タイプ	SG3		端部継手タイプ	SG4		端部継手タイプ	SG5A		端部継手タイプ	SG5B		端部継手タイプ
5	中央	H -1000×400×16×32	C1	中央	H -1000×300×16×28	C1	中央	H -1000×300×16×22	C1	全断面	H -1000×350×16×28	F	中央	BH -700×350×16×25	F	中央	BH-700×250×16×25	F
	左端	BH-1000×650～400×19×36		左端	BH-1000×600～300×19×32		左端	BH-1000×600～300×19×25					左端	同上		左端	BH-1000×250×19×25	
	右端	同上		右端	同上		右端	同上					右端	BH-1000×350×19×28		右端	BH-700×250×16×25	
	備考	Lh = 450 Le = 3000		備考	Lh = 450 Le = 3000		備考	Lh = 450 Le = 3000		備考			備考	ハンチ長さ = 1500		備考	ハンチ長さ = 1500	
4	中央	H -1000×350×16×32	C1	中央	H -1000×300×16×22	C1	中央	H -1000×300×16×22	C1	全断面	H -1000×350×19×28	F	中央	H -500×250×12×22	A1	中央	H-700×250×12×22	B2
	左端	BH-1000×600～350×19×36		左端	BH-1000×600～300×19×25		左端	BH-1000×600～300×19×25					左端	BH-500×500～250×12×25		左端	BH-700×550～250×16×25	
	右端	同上		右端	同上		右端	同上					右端	同上		右端	BH-700×550～250×16×22	
	備考	Lh = 450 Le = 3000		備考	Lh = 450 Le = 3000		備考	Lh = 450 Le = 3000		備考			備考	Lh = 350 Le = 1800		備考	Lh = 350 Le = 1400	
3	中央			中央			中央			中央			中央	BH -500×350×16×32	A1	中央	BH-500×300×16×28	A2
	左端			左端			左端			左端			左端	BH-500×600～350×16×36		左端	BH-500×600～300×16×32	
	右端			右端			右端			右端			右端	同上		右端	同上	
	備考			備考			備考			備考			備考	Lh = 350 Le = 1800		備考	Lh = 350 Le = 1400	
2	中央			中央			中央			中央			中央			中央		
	左端			左端			左端			左端			左端			左端		
	右端			右端			右端			右端			右端			右端		
	備考			備考			備考			備考			備考			備考		

階	SG6		端部継手タイプ	符号	SG6A		端部継手タイプ	符号	SG7		端部継手タイプ	符号	SG8		端部継手タイプ	符号	SG9		端部継手タイプ	符号	SG10		端部継手タイプ
5	中央	BH-700×350×16×28	F	中央	H -700×350×16×25	F	中央	H-700×200×12×22	B2	中央	H-700×200×12×22	B1	中央			中央				中央			
	左端	同上		左端	BH-1000×350×16×25		左端	BH-700×500～200×16×22		左端	BH-700×500～200×16×22		左端			左端				左端			
	右端	BH-1000×350×16×28		右端	H -700×350×16×25		右端	同上		右端	同上		右端			右端				右端			
	備考	ハンチ長さ = 1500		備考	ハンチ長さ1500		備考	Lh = 350 Le = 1400		備考	Lh = 350 Le = 1800		備考			備考				備考			
4	中央	BH-500×300×12×25	F	中央	H -700×300×12×25	F	中央	H-700×200×12×25	B2	中央	H-700×200×12×25	B1	中央	H-500×200×12×22	F	中央	H-500×250×12×25	A1					
	右端	同上		左端	BH-1000×300×16×25		左端	BH-700×500～200×16×25		左端	BH-700×500～200×16×25		左端	同上		左端	**BH-500×550～250×12×28 (X13)**						
	右端	BH-500×400×12×25		右端	H -700×300×12×25		右端	同上		右端	同上		右端	同上		右端	**BH-500×550～250×12×25 (X16)**						
	備考	ハンチ長さ600		備考	ハンチ長さ1500		備考	Lh = 350 Le = 1400		備考	Lh = 350 Le = 1800		備考			備考	Lh = 350 Le = 1200						
3	中央	H-500×250×12×25		中央			中央	H-500×250×12×28	F	中央	BH-500×350×16×28	A1	中央			中央							
	左端	同上		左端			左端	同上		左端	BH-500×550～350×16×32		左端			左端							
	右端	同上		右端			右端	同上		右端	同上		右端			右端							
	備考			備考			備考			備考	Lh = 350 Le = 1800		備考			備考							
2	中央			中央			中央	BH-750×350×16×32	D2	中央	BH-750×350×16×32	D1	中央	H-550×250×12×25	F	中央	BH-750×350×16×32	D1					
	左端			左端			左端	BH-750×600～350×16×36		左端	BH-750×600～350×16×36		左端	同上		左端	同上						
	右端			右端			右端	同上		右端	同上		右端	同上		右端	BH-750×500～350×16×36						
	備考			備考			備考	Lh = 350 Le = 1400		備考	Lh = 350 Le = 1800		備考			備考							

階	符号	SG11	端部継手タイプ	符号	SG12	端部継手タイプ	符号	SG101	端部継手タイプ	符号	SG102	端部継手タイプ	符号	SG103	端部継手タイプ	符号	SG104	端部継手タイプ
5	中央			中央			中央	H-700×200×12×22	B2	中央	H-1000×300×16×28	C2	中央			中央		
	左端			左端			左端	BH-700×500～200×16×22		左端	BH-1000×650～300×19×28		左端			左端		
	右端			右端			右端	同上		右端	同上		右端			右端		
	備考			備考			備考	Lh = 350 Le = 1400		備考	Lh = 350 Le = 1400		備考			備考		
4	全断面	H-500×250×12×25	G	中央	H -500×200×12×25	F	中央	H-700×200×12×22	B2	中央	H-1000×250×16×28	C2	中央	H -500×200×10×16	F	全断面	H-500×250×12×25	G
				左端	同上		左端	BH-700×500～200×16×25		左端	BH-1000×600～250×19×28		左端	同上				
				右端	H -500×300～200×12×25		右端	同上		右端	同上		右端	同上				
	備考	SN400B		備考	ハンチ長さ1000		備考	Lh = 350 Le = 1400		備考	Lh = 350 Le = 1400		備考			備考	SN400B	
3	中央			全断面	H -900×400×19×32	F	中央	BH-500×300×12×28	A2	中央	H-500×250×12×28	F	中央			中央		
	左端						左端	BH-500×600～300×12×32		左端	同上		左端			左端		
	右端						右端	同上		右端	同上		右端			右端		
	備考			備考			備考	Lh = 350 Le = 1400		備考			備考			備考		
2	中央			中央			中央	H-750×300×14×25	D2	中央	H-550×250×12×22	F	中央	H -550×250×12×22	F	中央		
	左端			左端			左端	BH-750×600～300×16×28		左端	同上		左端	同上		左端		
	右端			右端			右端	同上		右端	同上		右端	同上		右端		
	備考			備考			備考	Lh = 350 Le = 1400		備考			備考			備考		

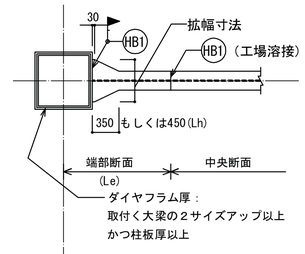
共通事項 （特記なき限り下記による）

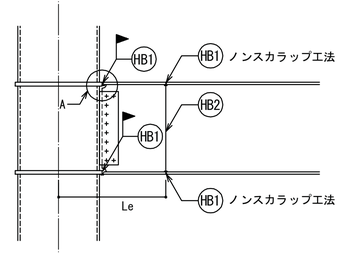
1. 鉄骨材種　無印：SN490B　□印：SN400B
2. スタットボルト　φ19 H=100mm @150 ダブル　(B≧250)
   φ19 H=100mm @150 シングル（B<250）
3. 鉄骨表示　BH：組立H型鋼
   H：外法一定H型鋼

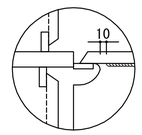


BH-H×B×t1×t2
H -H×B×t1×t2

4. ハンチの形状は以下による。







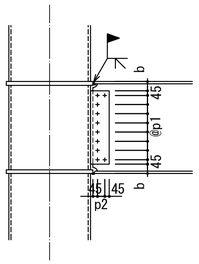
Sec. A

スカラップ端まわし溶接について

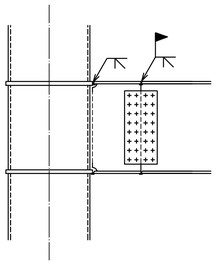
スカラップを設ける場合は、改良型スカラップとする。
なお、ＢＨ梁のスカラップ端のまわし溶接は行わず、
スカラップ手前10mmで溶接を止めておく。

大梁端部ウェブ継手リスト

継手タイプ	梁せい	p1	p2	b	G.PL	H.T.B	備　考
A1	500	90	70	70	PL-19×360×160	(4+4)-M22	
A2	500	90	70	70	PL-19×360×230	(4+4+4)-M22	
B1	700	90	70	80	PL-19×540×160	(6+4)-M22	
B2	700	90	70	80	PL-19×540×160	(6+6)-M22	
C1	1000	90	70	95	PL-19×810×160	(9+4)-M22	
C2	1000	90	70	95	PL-19×810×230	(9+9+9)-M22	
D1	750	70	70	85	PL-19×580×160	(8+8)-M22	
D2	750	70	70	85	PL-19×580×230	(8+8+8)-M22	
F	—	—	—	—			(ブラケットタイプ)フランジ現場溶接、ウェブHTB接合
G	—	—	—	—			(ブラケットタイプ)フランジ、ウェブともHTB接合



A～Dタイプ



Fタイプ
（工場溶接（ブラケットタイプ））

共通事項 （特記なき限り下記による）

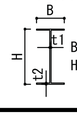
1. 鉄骨材質　SN490B
2. 高力ボルト　F10T
3. 1mmを超える肌すきが生じる場合は、
   フィラープレート（SS400）を挿入すること。

片持ち梁リスト

符号	部　材	径	フランジ			ウェブ		
			ボルト	外添板	内添板	ボルト		添板寸法
			nF×mF	厚×幅×長さ	厚×幅×長さ	mw×nw	Pc	厚×幅×長さ
SCG1	H-700x200x12x22	M22	4×2	16×200×530	16× 80×530	9×1	60	9×560×170
SCG2	H-550x200x12x22	M22	4×2	16×200×530	16× 80×530	6×2	60	12×380×290
SCG3	H-700x300x16x28	M22	8×2	19×300×800	22×110×800	6×2	90	12×530×290
SCG4	H-500x250x12x25	M22	6×2	16×250×770	19×100×770	4×2	90	9×350×290
SCG101	H-700x200x12x22	M22	4×2	16×200×530	16× 80×530	9×1	60	9×560×170

共通事項 （特記なき限り下記による）

1. 鉄骨材種　無印：SN490B
2. スタットボルト　φ19 H=100mm @150 ダブル
   (B≧250)
   φ19 H=100mm @150 シングル
   (B<250)
3. 鉄骨表示　BH：組立H型鋼
   H：外法一定H型鋼



BH-H×B×t1×t2
H -H×B×t1×t2

埼玉県産業労働部産業拠点整備課							春日部市都市整備部鉄道高架整備課						特記	2010.4.7 見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査	課長							

株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.

資格/番号	記名	捺印	製図	検図	納品検査
代表設計者 一級建築士 第239114号	石井 靖人				
担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号	塩手 博道	一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第1319号	丸谷 周平		

東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称)
建築工事

図面内容	図面番号
鉄骨部材リスト	2204
縮尺 A1:1/40 A3:1/80	区分 建築構造図

鉄骨継手リスト　鋼種:SN400B,SS400（Gタイプ）

符号	断面	径	フランジ			ウェブ		
			ボルト	外添板	内添板	ボルト		添板寸法
			nF×mF	厚x幅x長さ	厚x幅x長さ	mW×nW	Pc	厚x幅x長さ
SB1	H -300×150×6.5×9	M20	2x2	9x150x290	6x90x290	2x1	60	6x200x170
SB3	H -400×200× 8×13	M20	3x2	9x200x410	9x80x410	4x1	60	9x260x170
SB4	H -450×200× 9×14	M20	3x2	12x200x410	12x80x410	5x1	60	9x320x170
SB5	H -500×200×10×16	M20	3x2	12x200x410	12x80x410	5x1	60	9x320x170
SB5A	[H] -500×200×10×16	M20	3x2	12x200x410	12x80x410	5x1	60	9x320x170
SB7A	[H] -700×200× 9×19	M20	4x2	16x200x530	16x80x530	8x1	60	9x500x170
SB12	[H] -550×200×12×22	M20	4x2	16x200x530	16x80x530	4x2	90	12x350x290
SB31	H -294×200× 8×12	M20	3x2	9x200x410	9x80x410	3x1	60	9x200x170
SB13	H -294×200× 8×12	M20	3x2	9x200x410	9x80x410	3x1	60	9x200x170

共通事項　（特記なき限り下記による）

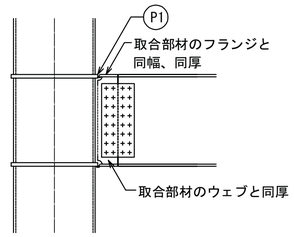
1. H.T.B　　F10T又はS10T
2. 鉄骨材質　　無印　SS400
   □印　SN400B
3. 継手におけるH.T.BおよびS.PLは、
   小さい方の部材断面により決定する。
4. 継手のクリアランスは、10mmとする。
5. S.PL、G.PLの材質は、母材と同じとする。
6. 継手部にて、1mm以上の板厚差又は段差が
   ある場合はフィラプレート(SS400)を用いる。
7. 継手ボルト本数は、片側についての必要本数を示す。

鉄骨継手リスト　鋼種:SN490B（Fタイプ）

符号	断面	径	フランジ			ウェブ		
			ボルト	外添板	内添板	ボルト		添板寸法
			nF×mF	厚x幅x長さ	厚x幅x長さ	mW×nW	Pc	厚x幅x長さ
4SG103	H-500×200×10×16	M22	—	—	—	6x1	60	9x380x170
4SG9	H-500×200×12×22	M22	—	—	—	4x2	90	9x350x290
4SG12	H-500×200×12×25	M22	—	—	—	4x2	90	9x350x290
3SG6	H-500×250×12×25	M22	—	—	—	4x2	90	9x350x290
3SG102	H-500×250×12×28	M22	—	—	—	4x2	90	9x350x290
2SG102,2SG103	H-550×250×12×22	M22	—	—	—	6x2	60	12x380x290
2SG9	H-550×250×12×25	M22	—	—	—	6x2	60	12x380x290
3SG7	H-500×250×12×28	M22	—	—	—	4x2	90	9x350x290
4SG6	H-500×300×12×25	M22	—	—	—	4x2	90	9x350x290
5SG5B	H-700×250×16×25	M22	—	—	—	5x3	90	16x440x410
4SG6A	H-700×300×12×25	M22	—	—	—	6x2	90	9x530x290
5SG5A,5SG6A	H-700×350×16×25	M22	—	—	—	7x2	60	16x440x290
5SG6	H-700×350×16×28	M22	—	—	—	6x2	90	12x530x290
3SG12	H-900×400×19×32	M22	—	—	—	8x3	90	12x710x410
5SG4	H-1000×350×16×28	M22	—	—	—	11x2	60	16x680x290
4SG4	H-1000×350×19×28	M22	—	—	—	8x3	90	16x710x410
5SG1	H-1000×400×16×32	M22	—	—	—	9x2	90	12x800x290
4SG1	H-1000×350×16×32	M22	—	—	—	9x2	90	12x800x290
5SG2	H-1000×300×16×28	M22	—	—	—	11x2	60	16x680x290
4SG2,4SG3,5SG3	H-1000×300×16×22	M22	—	—	—	11x2	60	16x680x290

共通事項　（特記なき限り下記による）

1. フランジは現場溶接接合とする。
2. H.T.B　　F10T又はS10T
3. 鉄骨材質　　無印　SN490B
4. 添板の材質は母材と同じとする。
5. 継手におけるH.T.BおよびS.PLは、
6. 小さい方の部材断面により決定する。
7. S.PL、G.PLの材質は、母材と同じとする。
8. 継手部にて、1mm以上の板厚差又は段差が
   ある場合はフィラプレート(SS400)を用いる。
9. 継手ボルト本数は、片側についての必要本数を示す。
10. ピン接合仕口は、本継手リストのウェブ部のみ採用する。
    ガセット部の形状は右図による。



大梁端部ピン接合の場合

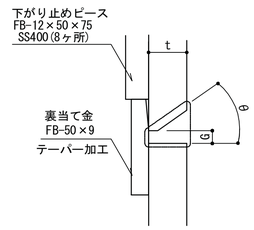
鉄骨継手リスト　鋼種:SN400B（Gタイプ）

符号	断面	径	フランジ			ウェブ		
			ボルト	外添板	内添板	ボルト		添板寸法
			nF×mF	厚x幅x長さ	厚x幅x長さ	mW×nW	Pc	厚x幅x長さ
4SG11,4SG104	H-500×250×12×25	M20	6x2	16x250x770	16x100x770	5x2	60	12x320x290

共通事項　（特記なき限り下記による）

1. 錆止めは、溶融亜鉛メッキとする。
2. H.T.B　　溶融亜鉛メッキボルト　F8T（大臣認定品）
3. 添板の材質は母材と同じとする。
4. 継手におけるH.T.BおよびS.PLは、
   小さい方の部材断面により決定する。
5. 継手のクリアランスは、10mmとする。
6. S.PL、G.PLの材質は、母材と同じとする。
7. 継手部にて、1mm以上の板厚差又は段差が
   ある場合はフィラプレート(SS400)を用いる。
8. 継手ボルト本数は、片側についての必要本数を示す。

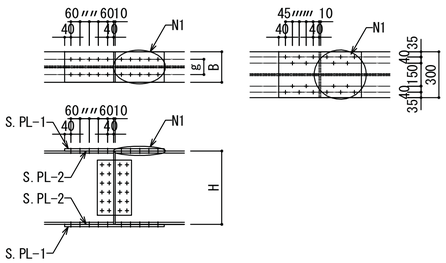
柱現場溶接部



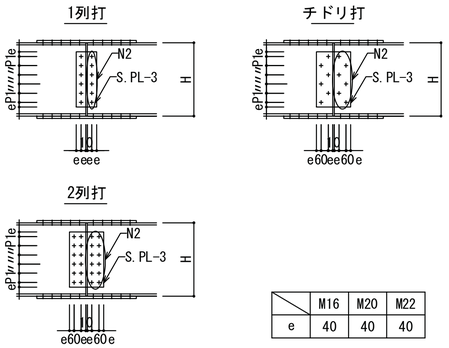
t	θ	G
t ≦36	35°	7

柱現場溶接部継手標準図

大梁継手基準図　（ブラケットタイプ）1/20

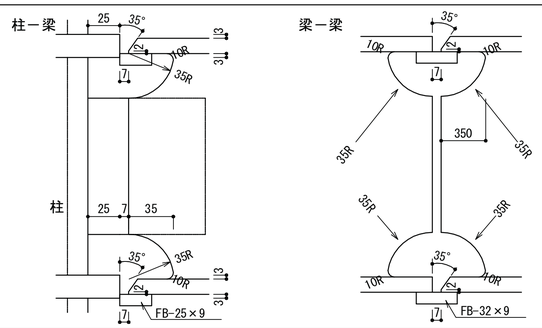


B	100	125	150	175	200	250
g	60	75	90	105	120	150



	M16	M20	M22
e	40	40	40

大梁フランジ現場溶接部



大梁フランジ現場溶接部継手標準図

現場溶接の特記事項

1. 溶接部は可能な限り連続して行う様にする。
2. スカーラップ加工はフランジ部にノッチを与えない様、充分に注意しフランジの交差部にはRを付けグラインダー仕上を施す。改良スカラップの複合円は滑らかに仕上げる。
3. 開先部は溶接の支障のない塗料等による防錆処理を行う。開先の仕上は自動ガス切断仕上以上とする。
4. エンドタブの仮付は原則として溶接直前にする。
5. 裏当ての鋼板は表面に損耗が生じた時には再研磨し裏波にビート形状の不整を防ぐ。
6. 原則として代替タブの溶接は、AW検定合格者が従事すること。
7. 溶接部には氏名、溶接日時等を記入、責任の所在を明らかにしておく。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課							春日部市都市整備部鉄道高架整備課					
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査	課長					

特記　2010.4.7　見積用図面
（この図面で施工しないで下さい）

株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.

	資格/番号	記名	捺印	製図	検図	納品検査
代表設計者	一級建築士 第239114号	石井 靖人				
担当設計者	一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号	塩手 博道		一級建築士 第254066号 構造設計一級建築士 第131号	丸谷 周平	

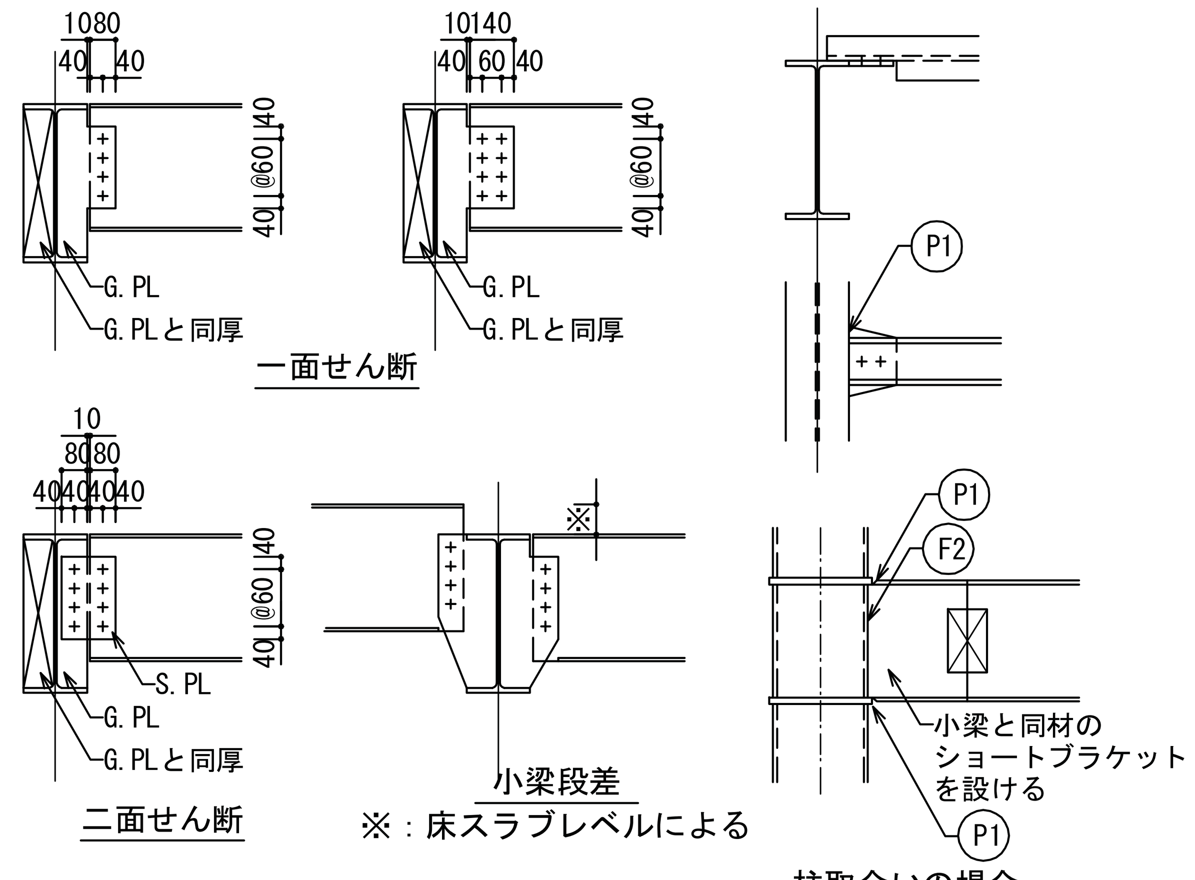
東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称)
建築工事

図面内容	図面番号
鉄骨継手リスト	2205
縮尺 A1:1/40　A3:1/80	区分 建築構造図

鉄骨部材断面リスト

符号	部　材	材質	ウェブ（2面せん断）			ウェブ（1面せん断）		備　考
			G.PL	S.PL	H.T.B	G.PL	H.T.B	
SB0	H -250×125× 6× 9	SS400	──	──	──	G.PL- 6	2-M20	
SB1	H -300×150×6.5×9	SS400	──	──	──	G.PL- 9	3-M20	
SB2	H -350×175× 7×11	SS400	──	──	──	G.PL- 9	4-M20	
SB3	H -400×200× 8×13	SS400	──	──	──	G.PL- 9	4-M20	
SB4	H -450×200× 9×14	SS400	──	──	──	G.PL- 9	5-M20	
SB5	H -500×200×10×16	SS400	G.PL-12	2PL- 9×350×170	2×4-M20	──	──	
SB5A	H -500×200×10×16	SN400B	G.PL-12	2PL- 9×350×170	2×4-M20	──	──	
SB6	H -600×200×11×17	SS400	G.PL-12	2PL- 9×450×170	2×6-M20	──	──	
SB7	H -700×200× 9×19	SS400	G.PL- 9	2PL- 9×560×170	2×7-M20	──	──	
SB7A	H -700×200× 9×19	SN400B	G.PL- 9	2PL- 9×560×170	2×7-M20	──	──	
SB8	H -340×250× 9×14	SS400	──	──	──	G.PL-12	4-M20	
SB9	H -440×300×11×18	SS400	G.PL-12	2PL- 9×320×170	2×5-M22	──	──	
SB10	H -588×300×12×20	SS400	G.PL-12	2PL- 9×440×170	2×7-M22	──	──	
SB11	H -488×300×11×18	SS400	G.PL-12	2PL-12×320×170	2×5-M22	──	──	
SB12	H -550×200×12×22	SN400B	G.PL-12	2PL-9×400×170	2×5-M20	──	──	
SB13	H -294×200× 8×12	SN400B	──	──	──	G.PL-9	3-M20	内部F10T, 外部F8T

符号	部　材	材質	ウェブ（1面せん断）		備　考
			G.PL	H.T.B	
SP1	□-250×250×16	BCR295			2403図参照
SP2	φ216.3×8.2	STK490			B.PL仕様はSP3と同じ
SP3	φ216.3×5.8	STK400	──	──	2403図参照
SP4	H-200×200×8×12	SS400			EVシャフト受鉄骨詳細図参照
SP5	H-150×150×7×10	SS400	G.PL- 9	2-M20	B.PL-16×180×250, A.BOLT2-M20 定着長500, フック付ダブルナット締め
SP6	190.7×5.3	STK400			2403図参照
SP7	H-340×250×9×14	SN400B			柱脚は剛接合とする。
HB1	H-194×150×6×9	SS400	──	──	現場溶接接合（横使い）
a	L- 90× 90×10	SS400	G.PL- 9	3-M20	横補剛材
b	[-150×75×6.5×10	SS400	G.PL- 9	2-M20	横補剛材
c	カバーPL-12	SS400			両面　横補剛材
SB30	H-200×200× 8×12	SN400B	──	──	
SB31	H-294×200× 8×12	SS400	G.PL-12	3-M20	
c1	H-100×100×6× 8	SS400	G.PL- 6	2-M16	吊柱
c2	H-150×150×7×10	SS400	G.PL- 9	2-M20	吊柱
b1	H-148×100×6× 9	SS400	G.PL- 6	2-M16	
b2	H-150×150×7×10	SS400	G.PL- 9	2-M20	
H1	L-65×65×6	SS400	G.PL- 9	5-M16	
H2, V1	L-90×90×10	SS400	G.PL- 9	5-M20	



小梁接合部タイプ

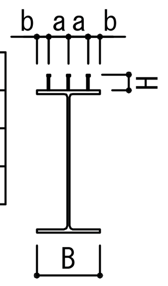
床板リスト

符号	板厚		主力筋	配力筋	備考
S1	150	上	D13@200	D10, D13@200	
		下	D10, D13@200	D10, D13@200	
S2	150	上	D10, D13@200	D10, D13@200	
		下	D10, D13@200	D10, D13@200	
S3	200	上	D13@200	D13@200	トラック搬出入エリア
		下	D13@200	D13@200	濾過機室
S4	200	上	D13@100	D13@100	トラック搬出入エリア
		下	D13@100	D13@100	濾過機室
ES1	300	上	D13, D16@100	D13, D16@100	エレベータピット
		下	D13@100	D13@100	(No.1, No.2)
ES2	300	上	D13@100	D13@100	エレベータピット
		下	D13@100	D13@100	(No.3, No.4)
DS1	150	上	D10, D13@200	D10@200	フラットデッキ
		下	D10, D13@200	D10@200	
DS2	200	上	D13@200	D13@200	フラットデッキ
		下	D13@200	D13@200	
DS3	150	上	D13@200	D10, 13@200	フラットデッキ
		下	D13@200	D10, 13@200	
DS4	150	上	D13@100	D10, 13@100	フラットデッキ
		下	D13@100	D10, 13@100	
DS11	155	上	D10@200	D10@200	合成スラブ
		下	──	──	
FS1	300	上	D16@200	D16@200	
		下	D16@200	D16@200	
FS2	300	上	D16@200	D16@200	
		下	D16@200	D16@200	
CS1	200	上	D13@100	D10@200	
		下	D13@100	D10@200	
CS2	200	上	D13@100	D10@100	
		下	D13@100	D10@100	
DCS1	150	上	D13@200	D10@200	
		下	D13@200	D10@200	
DCS2	200	上	D13@200	D13@200	
		下	D13@200	D13@200	
DCS1A	155	上	D13@200	D10@200	
		下	D13@200	D10@200	

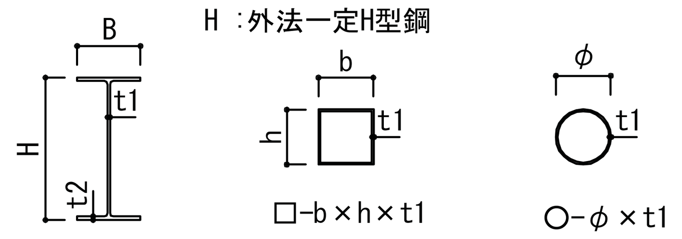
共通事項（特記なき限り下記による）

1. H.T.B　F10TまたはS10T
2. スタッドボルト

	B	a	b	本数・ピッチ	備考
小梁	200未満	100	50, 75	1-16φ@200	H=80
	200, 250	100	50, 75	2-16φ@200	H=80
	300, 350	100	50, 75	3-16φ@200	H=80



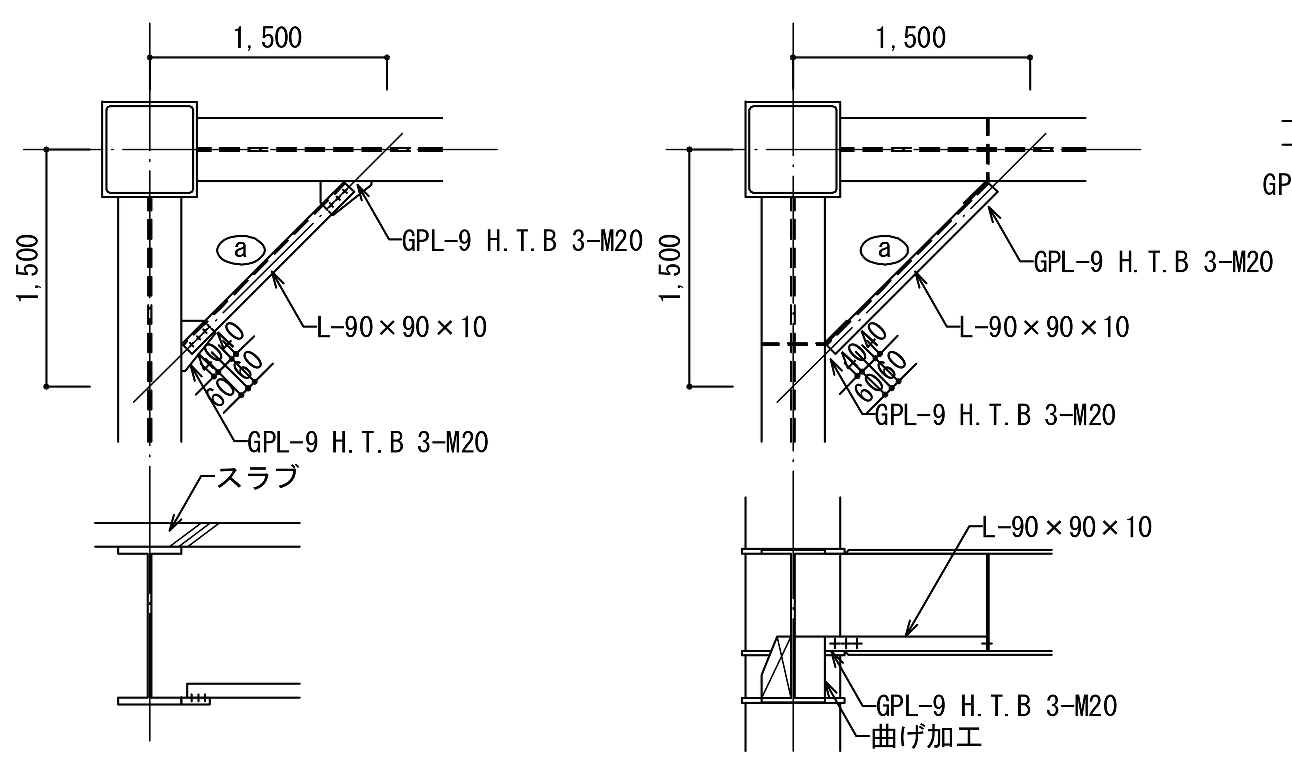
3. 鉄骨表示　BH:組立H型鋼
H :外法一定H型鋼



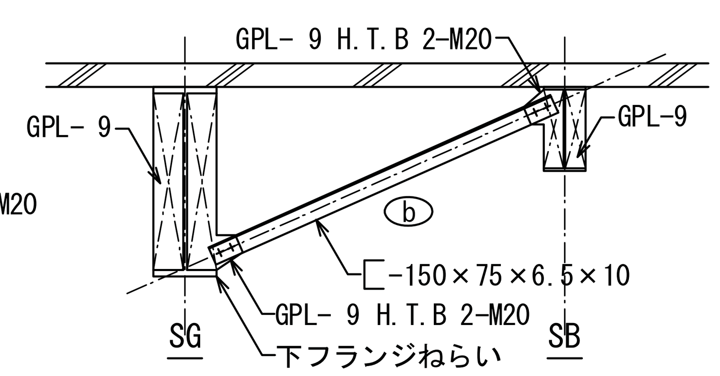
BH -H×B×t1×t2
H -H×B×t1×t2

3. スタットボルト　φ16 H=80mm @150 千鳥ダブル

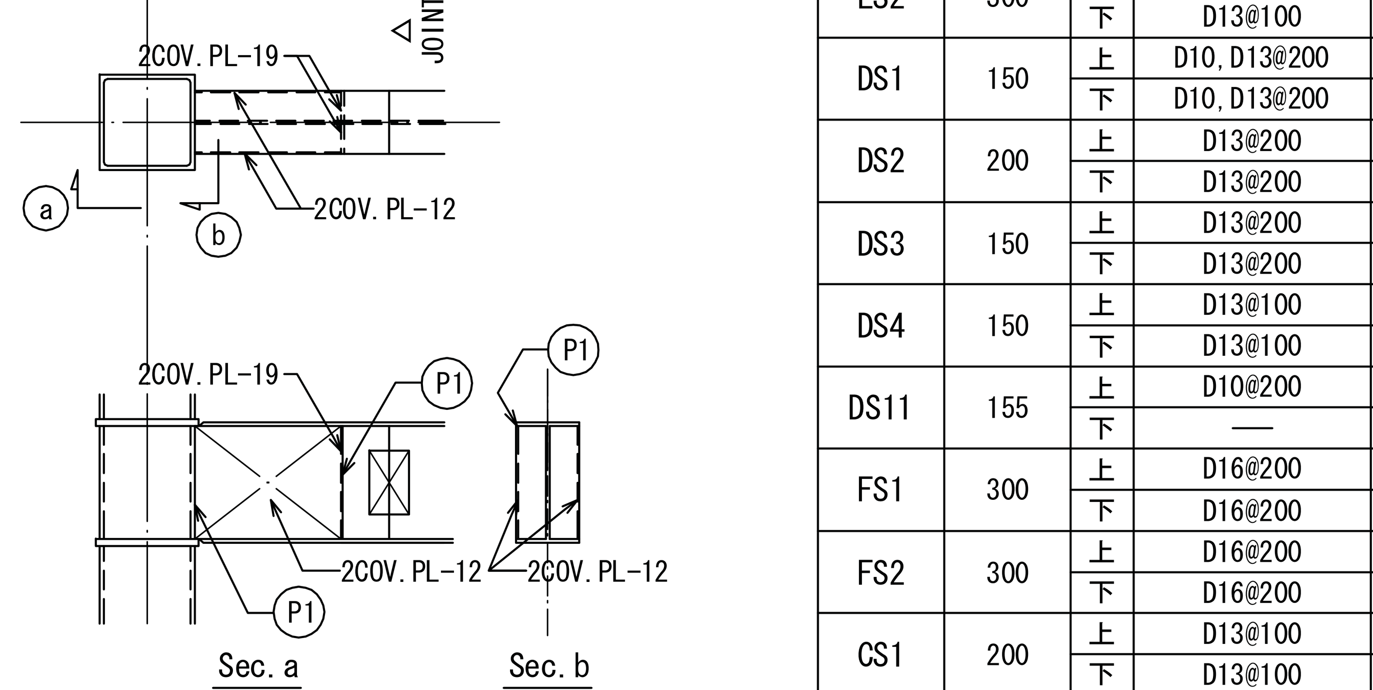
横補剛材詳細図　1/40



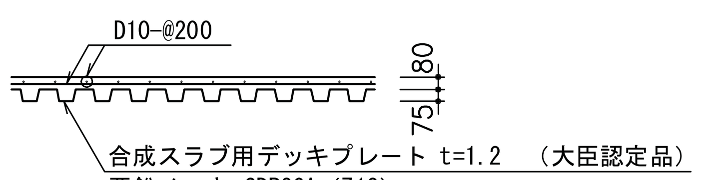
a タイプ



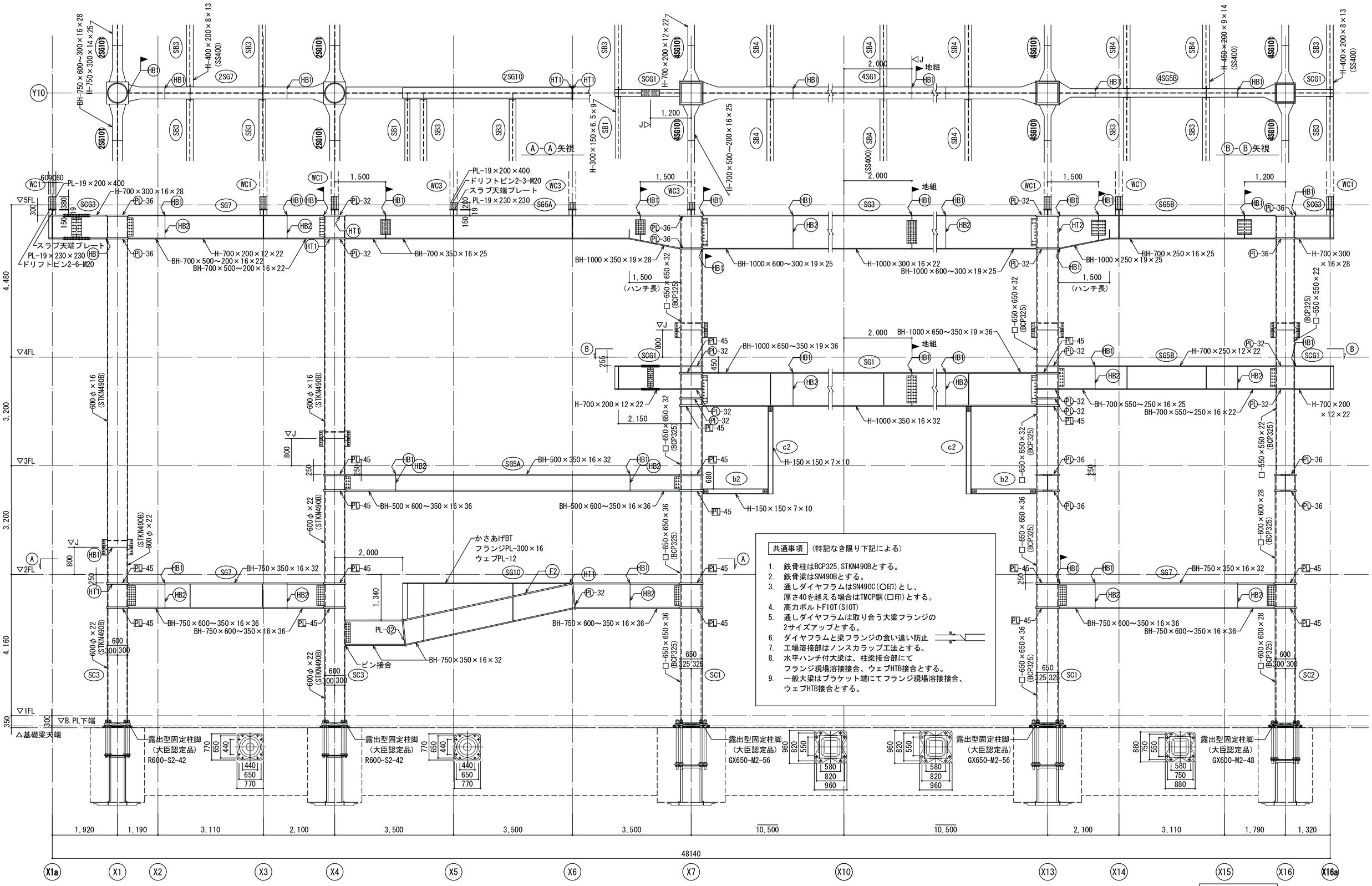
b タイプ



c タイプ

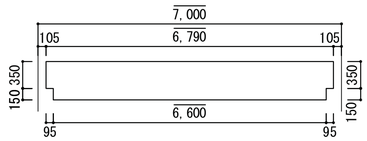
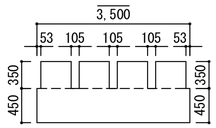
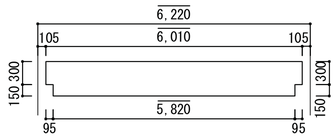
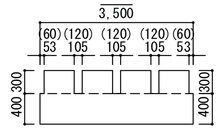
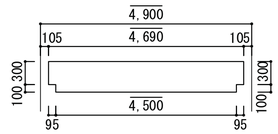
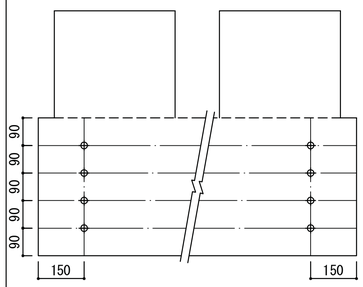
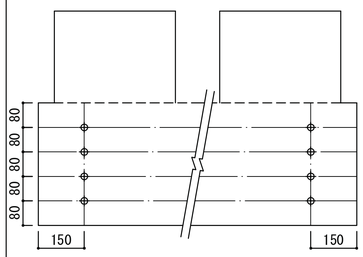
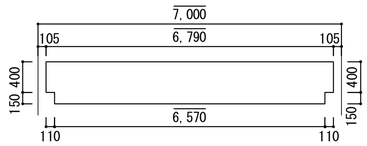
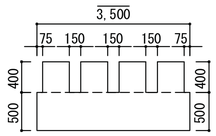
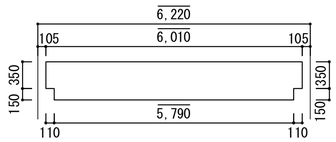
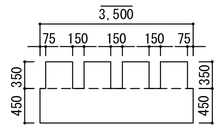
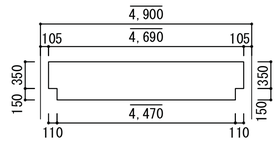
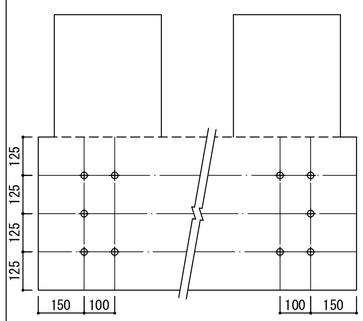
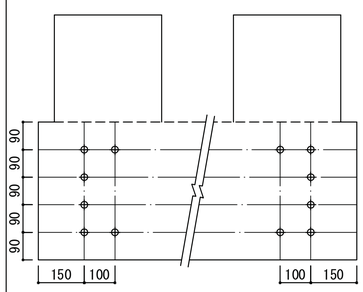
符　　号	長 辺 方 向 断 面
DS11	 付帯条件　デッキプレートは2スパン以上によって連続的に 小梁等によって、ほぼ等間隔に支持させるものとする。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容	図面番号
課長 / 副課長 / 主幹 / 主査 / 主査 / 主査	課長	2010.4.7　見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人 担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道 / 一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号 丸谷 周平		鉄骨小梁・スラブリスト 縮尺 A1:1/40　A3:1/80	2206 区分 建築構造図



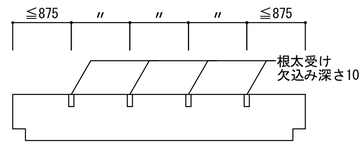
埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記 2010.4.7 見積用図面 (この図面で施工しないで下さい)	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号 記名 代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人	担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道	一級建築士 第254066号 構造設計一級建築士 第131号 丸谷 周平	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 Y10通り鉄骨詳細図	図面番号 2207
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査 主査	課長			検図 納品検査				縮尺 A1:1/50 A3:1/100	区分 建築構造図

木梁断面リスト　1/40

階	符号	WG1,WB1 (WG1a,WB1a)	WG2	WG3,WB2 (WG3a,WB2a)	WG4	WG5,WB3
R階	断面	105 x 500 (120 x 500)	90 x 450	105 x 450 (120 x 450)	90 x 400	120 x 400
	材種	カラマツ	カラマツ	カラマツ	カラマツ	スギ
	強度区分	E105-F300((100E-375F,50V-43H))	E105-F300((100E-375F,50V-43H))	E105-F300((100E-375F,50V-43H))	E105-F300((100E-375F,50V-43H))	E65-F220((60E-225F,35V-35H))
	寸法図				 ( ) 内はWG3a,WB2aの場合	
	ボルト配置図					
	ボルト		両端：1-4-0-M20		両端：1-4-0-M20	
	備考					
6階	断面	150 x 550	120 x 500	150 x 500	120 x 450	150 x 500
	材種	カラマツ	カラマツ	カラマツ	カラマツ	スギ
	強度区分	E105-F300((100E-375F,50V-43H))	E105-F300((100E-375F,50V-43H))	E105-F300((100E-375F,50V-43H))	E105-F300	E65-F220((60E-225F,35V-35H))
	寸法図					
	ボルト配置図					
	ボルト		両端：2-3-2-M20		両端：2-4-2-M20	
	備考					

共通事項　（特記なき限り下記による）

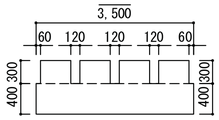
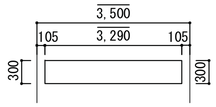
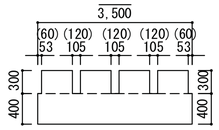
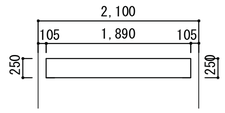
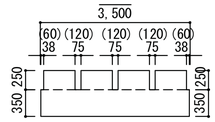
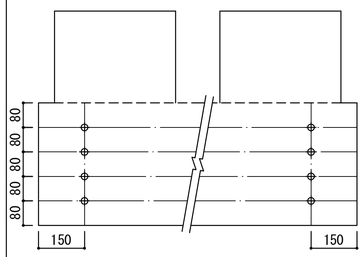
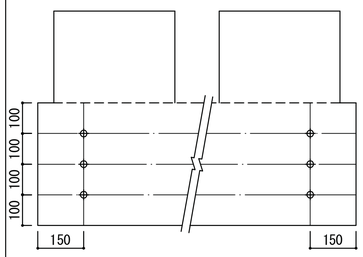
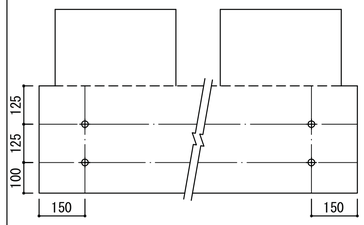
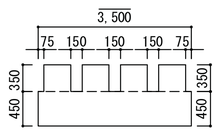
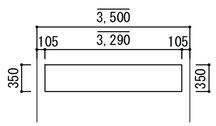
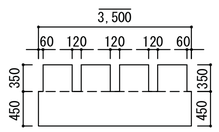
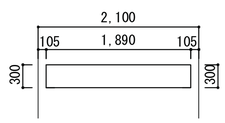
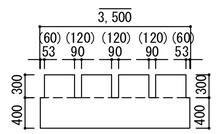
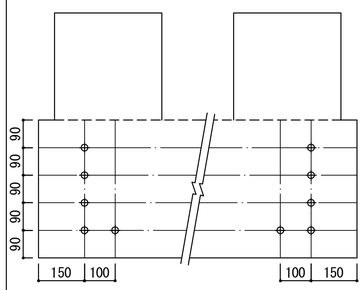
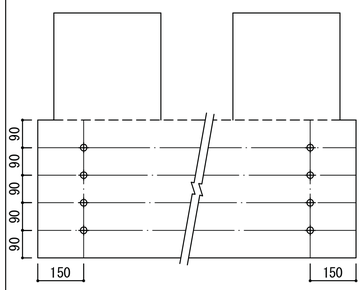
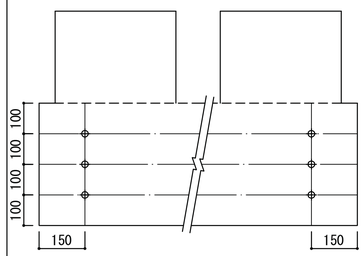
1. WG1,3,5,7,9,12,WB1,2,3,4,5,6には下図に示す根太受け欠込み深さ10を加工する。



2. 強度区分欄においては、カッコ外は集成材、(( ))内はLVLを示す。
   集成材とLVLはどちらを使用しても良い。
3. リスト図中の部材長は一般部を示す。
4. ボルトは、
   列－１列目の本数－２列目の本数－種を示す。
5. WBシリーズの切欠き部長さは通り芯までとする。

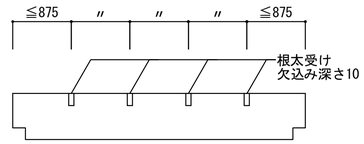
埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記 2010.4.7 見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 木質梁断面リスト（１）	図面番号 2301
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査 主査	課長		代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人 担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第5144号 塩手 博道 一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号 丸谷 周平	資格/番号 記名 捺印 製図 検図 納品検査	縮尺 A1:1/40 A3:1/80	区分 建築構造図

木梁断面リスト　1/40

階	符号	WG6	WG7,WB4 (WG7a,WB4a)	WG8	WG9,WB5 (WG9a,WB5a)	WG10 (WG10a)
R階	断面	105 x 400	105 x 300 (120 x 300)	90 x 400	75 x 250 (120 x 250)	75 x 350 (120 x 350)
	材種	スギ	スギ	スギ	スギ	スギ
	強度区分	E65-F220((60E-225F,35V-35H))	E65-F220((60E-225F,35V-35H))	E65-F220((60E-225F,35V-35H))	E65-F220((60E-225F,35V-35H))	E65-F220((60E-225F,35V-35H))
	寸法図			 (　) 内はWG7a,WB4aの場合		 (　) 内はWG9a,WB5aの場合
	ボルト配置図					
	ボルト	両端：1-4-0-M20		両端：1-3-0-M20		両端：1-2-0-M20
	備考					
6階	断面	120 x 450	120 x 350	120 x 450	90 x 300 (120 x 300)	90 x 400
	材種	スギ	スギ	スギ	スギ	スギ
	強度区分	E65-F220((60E-225F,35V-35H))	E65-F220((60E-225F,35V-35H))	E65-F220((60E-225F,35V-35H))	E65-F220((60E-225F,35V-35H))	E65-F220((60E-225F,35V-35H))
	寸法図					
	ボルト配置図					
	ボルト	両端：2-4-1-M20		両端：1-4-0-M20		両端：1-3-0-M20
	備考					

共通事項　(特記なき限り下記による)

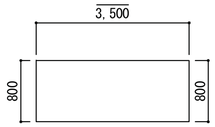
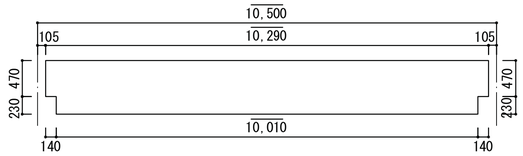
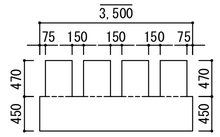
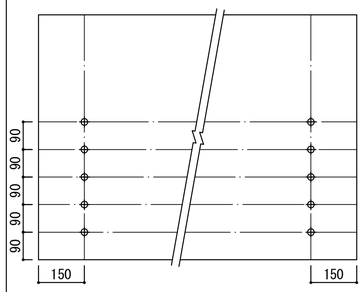
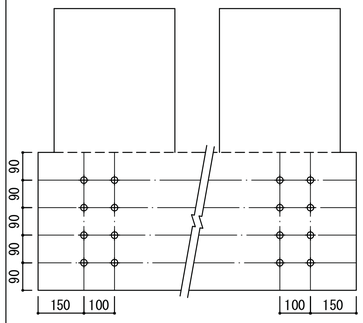
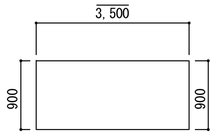
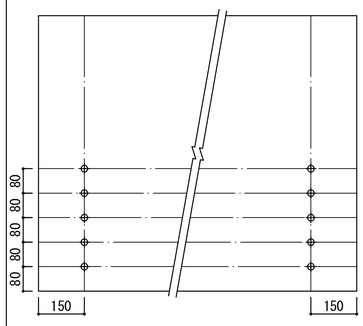
1. WG1,3,5,7,9,12,WB1,2,3,4,5,6には下図に示す根太受け欠込み深さ10を加工する。



2. 強度区分欄においては、カッコ外は集成材、(( ))内はLVLを示す。
   集成材とLVLはどちらを使用しても良い。
3. リスト図中の部材長は一般部を示す。
4. ボルトは、
   列－１列目の本数－２列目の本数－種を示す。
5. WBシリーズの切欠き部長さは通り芯までとする。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記 2010.4.7 見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 木質梁断面リスト（２）	図面番号 2302
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査 主査	課長		代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人 担当設計者 一級建築士 第238543号 塩手 博道 / 一級建築士 第254056号 丸谷 周平 構造設計一級建築士 第5144号 / 構造設計一級建築士 第131号		縮尺 A1:1/40 A3:1/80	区分 建築構造図

木梁断面リスト　1/40

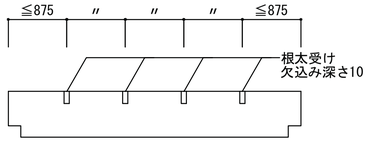
階	符号	WG11	WG12,WB6	WG13
R階	断面	120 x 800	150 x 700	120 x 450
	材種	カラマツ	カラマツ	カラマツ
	強度区分	E105-F300((100E-375F,50V-43H))	E105-F300((100E-375F,50V-43H))	E105-F300
	寸法図			
				
	ボルト	両端：1-5-0-M20		両端：2-4-4-M20
	備考			
6階	断面	120 x 900		
	材種	カラマツ		
	強度区分	E105-F300((100E-375F,50V-43H))		
	寸法図			
				
	ボルト	両端：1-5-0-M20		
	備考			

木質柱リスト

符号	WC1	WC2	WC3
断面	210 x 210	210 x 210	210 x 210
材種	スギ	カラマツ	スギ
強度区分	E65-F255	E105-F345	E65-F255
備考			

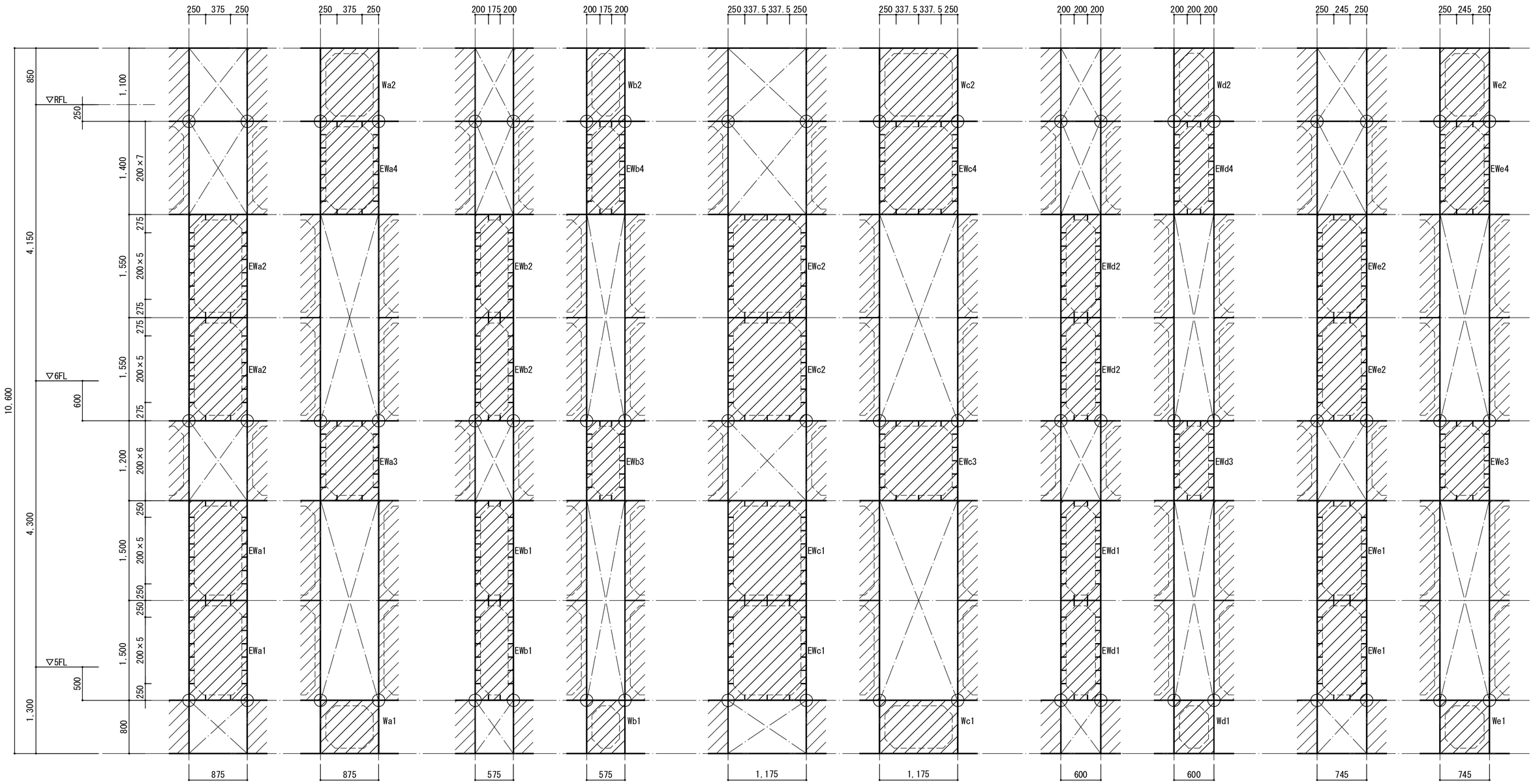
共通事項（特記なき限り下記による）

1. WG1,3,5,7,9,12,WB1,2,3,4,5,6には
   下図に示す根太受け欠込み深さ10を
   加工する。



2. 強度区分欄においては、カッコ外は
   集成材、(( ))内はLVLを示す。
   集成材とLVLはどちらを使用しても良い。
3. リスト図中の部材長は一般部を示す。
4. ボルトは、
   列－１列目の本数－２列目の本数－種を示す。
5. WBシリーズの切欠き部長さは通り芯までとする。

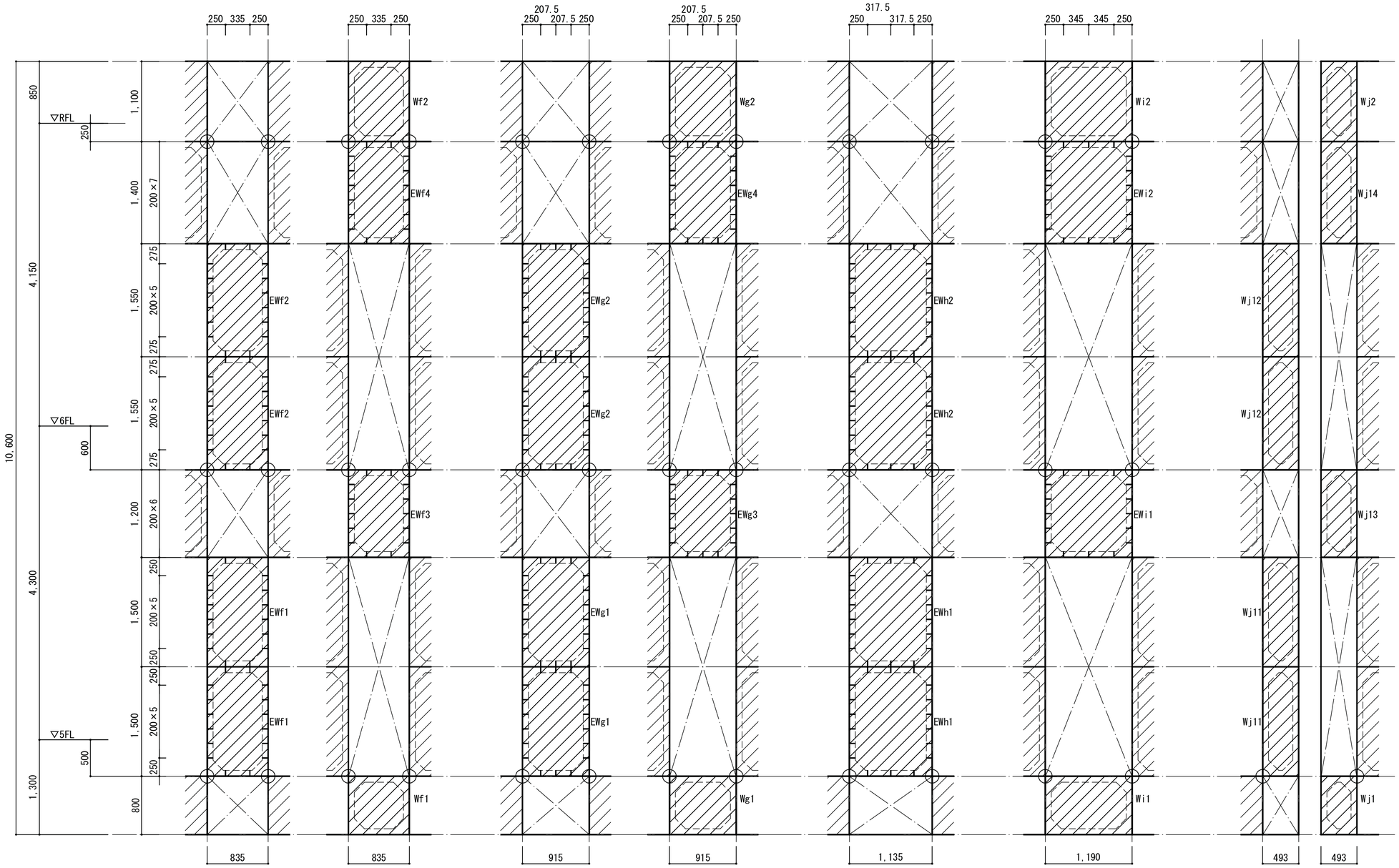
埼玉県産業労働部産業拠点整備課						春日部市都市整備部鉄道高架整備課						特記	2010.4.7　見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号　記名　捺印	製図	検図	納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 木質梁断面リスト（３） 木質柱リスト	図面番号 2303
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	課長									代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人					縮尺 A1:1/40　A3:1/80	区分 建築構造図
															担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道	一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号 丸谷 周平					



共通事項 （特記なき限り下記による）

1. ○は取り付けブラケット位置を示す。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課							春日部市都市整備部鉄道高架整備課						特記	2010.4.7 見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号 記名	検印	製図	検図	納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 木質耐震パネルリスト(1)	図面番号 2304
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査	課長									代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人						縮尺 A1:1/5, 1/10, 1/30 A3:1/10, 1/20, 1/60	区分 建築構造図
																担当設計者 一級建築士 第233543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道		一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号 丸谷 周平					

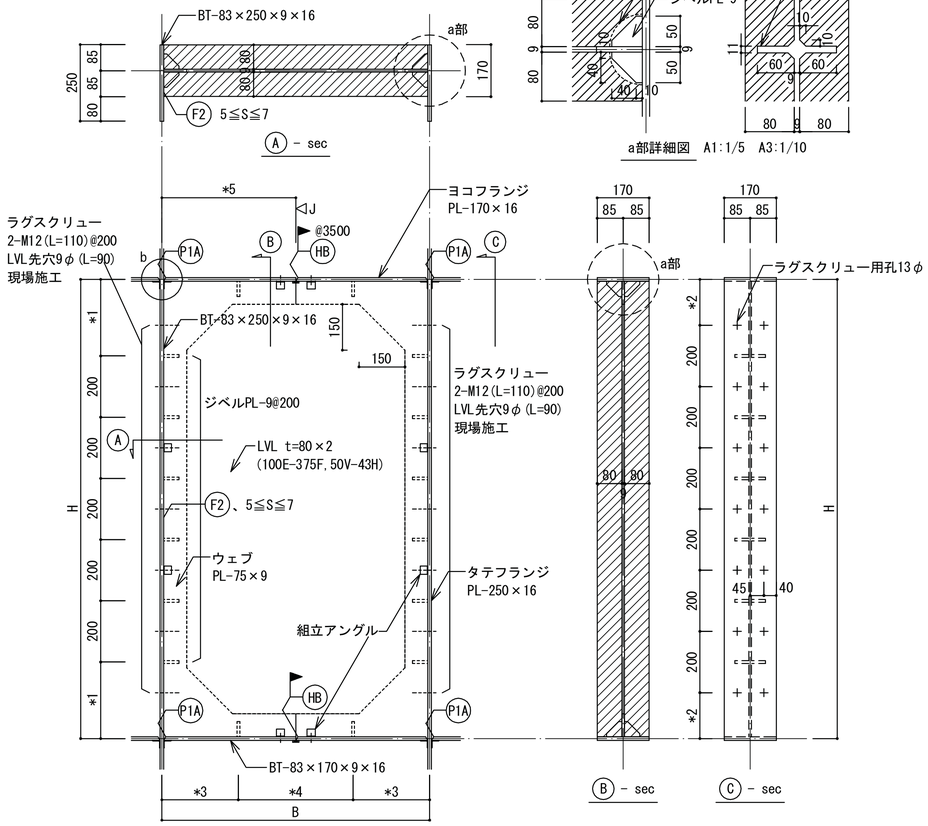


835mmモジュール　915mmモジュール　1,135mmモジュール　1,190mmモジュール　493mmコーナー部

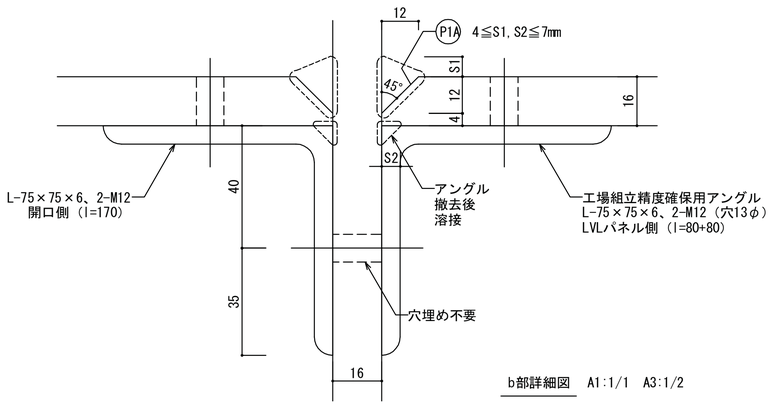
共通事項 （特記なき限り下記による）

1. ○は取り付けブラケット位置を示す。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課						春日部市都市整備部鉄道高架整備課						特記 2010.4.7 見積用図面（この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号 記名 捺印 製図 検図 納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設（仮称）建築工事	図面内容 木質耐震パネルリスト(2)	図面番号 2305
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	課長								代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人		縮尺 A1:1/5, 1/10, 1/30 A3:1/10, 1/20, 1/60	区分 建築構造図
														担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道 一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号 丸谷 周平			



基準詳細図(EW1) A1:1/10 A3:1/20



b部詳細図 A1:1/1 A3:1/2

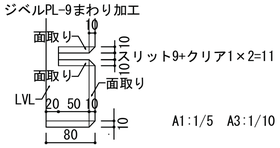
符号	各部寸法						
	B	H	*1	*2	*3	*4	*5
EWa1	875	1,500	250(6)	150(7)	250	375(2)	437.5
EWa2		1,550	275(6)	175(7)			
EWa3		1,200	200(5)	100(6)			
EWa4		1,400	200(6)	100(7)			
EWb1	575	1,500	250(6)	150(7)	200	175(2)	287.5
EWb2		1,550	275(6)	175(7)			
EWb3		1,200	200(5)	100(6)			
EWb4		1,400	200(6)	100(7)			
EWc1	1,175	1,500	250(6)	150(7)	250	337.5(3)	587.5
EWc2		1,550	275(6)	175(7)			
EWc3		1,200	200(5)	100(6)			
EWc4		1,400	200(6)	100(7)			
EWd1	600	1,500	250(6)	150(7)	200	200(2)	300
EWd2		1,550	275(6)	175(7)			
EWd3		1,200	200(5)	100(6)			
EWd4		1,400	200(6)	100(7)			
EWe1	745	1,500	250(6)	150(7)	250	245(2)	372.5
EWe2		1,550	275(6)	175(7)			
EWe3		1,200	200(5)	100(6)			
EWe4		1,400	200(6)	100(7)			
EWf1	835	1,500	250(6)	150(7)	250	335(2)	417.5
EWf2		1,550	275(6)	175(7)			
EWf3		1,200	200(5)	100(6)			
EWf4		1,400	200(6)	100(7)			
EWg1	915	1,500	250(6)	150(7)	250	207.5(3)	457.5
EWg2		1,550	275(6)	175(7)			
EWg3		1,200	200(5)	100(6)			
EWg4		1,400	200(6)	100(7)			
EWh1	1,135	1,500	250(6)	150(7)	250	317.5(3)	567.5
EWh2		1,550	275(6)	175(7)			
EWi1	1,190	1,200	200(5)	100(6)	250	345(3)	595
EWi2		1,400	200(6)	100(7)			
Wa1	875	800		200(3)			
Wa2		1,100		150(5)			
Wb1	575	800		200(3)			
Wb2		1,100		150(5)			
Wc1	1,175	800		200(3)			
Wc2		1,100		150(5)			
Wd1	600	800		200(3)			
Wd2		1,100		150(5)			
We1	745	800		200(3)			
We2		1,100		150(5)			
Wf1	835	800		200(3)			
Wf2		1,100		150(5)			
Wg1	900	800		200(3)			
Wg2		1,100		150(5)			
Wi1	1,190	800		200(3)			
Wi2		1,100		150(5)			
Wj1	493	800		200(3)			
Wj2		1,100		150(5)			
Wi11	493	1,500		150(7)			
Wi12		1,550		175(7)			
Wj13		1,200		100(6)			
Wj14		1,400		100(7)			

共通事項 (特記なき限り下記による)

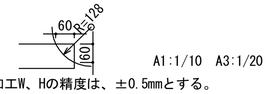
1. *1,*4の( )内の数値はリブPL設置箇所数を示す。
2. *2の( )内の数値はラグスクリュー設置タテ列数を示す。
3. 鉄骨Jointは、構造図2121図～2123図に示す箇所に設ける。
4. 枠組鉄骨の材質はSM490Aとする。

LVLパネル加工 共通事項 (特記なき限り下記による)

1. パネルの平面寸法は、鉄骨枠組み設計寸法より、1mmづつのクリアを設ける。
   EWa1の寸法例
   加工W=875-16-クリア1×2=857mm
   加工H=1500-16-クリア1×2=1482mm
2. 枠組み鉄骨の溶接ビード部は、LVLを面取り10×10mmとする。
   (パネル出隅、枠組みウェブPL-9、ジベルPL-9)
3. ジベルPL-9まわり加工



4. ジベルPL部 スリット加工



5. 加工W、Hの精度は、±0.5mmとする。
   ジベル部スリット芯位置精度は±0.5mmとする。
6. LVLt80は、t40を二次接着した製品とする。一次製品t40の外側から(両面から)2層目に繊維方向を直交させた層を設け、寸法性能安定性を確保する。

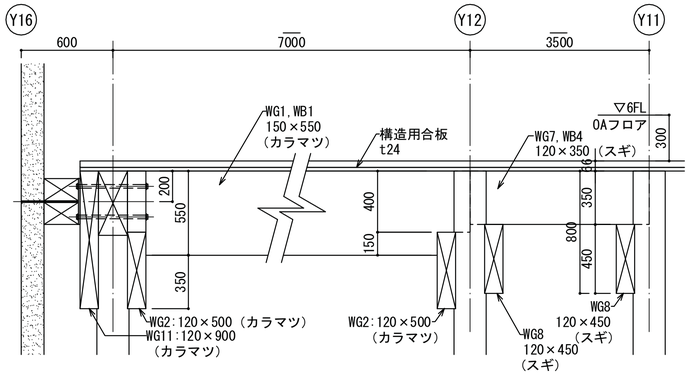
精度管理注意事項

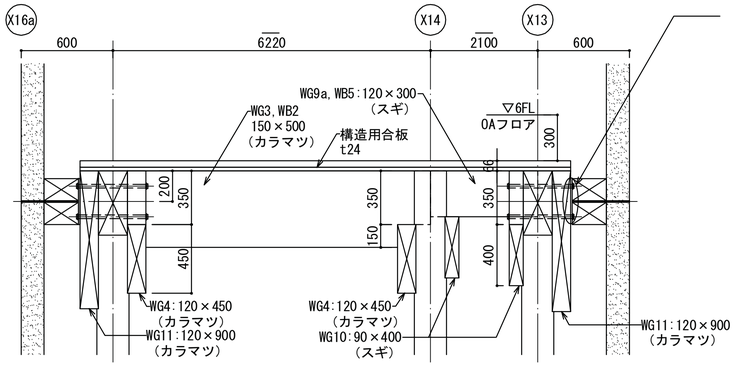
1. ウェブPL-9は、一枚ものをくり抜き、格子寸法の定規とすると共に、直角度等の精度を保つこと。
2. 工場組立時は、定盤の上で精度良く行うこと。
3. ウェブPL-9すみ肉溶接にともなうフランジの折れを防ぐため、b部詳細を参考に組立アングル等を設ける。
4. タテフランジ中間部の折れ防止のため、ラグスクリュー用13φを利用して、b部詳細に準じた組立アングルを設ける。
5. 工場溶接(P1A)は、枠組み鉄骨を建て起こし、下向き溶接とする。
6. ジベルPL-9小口はまわし溶接とせず、柱端部±0で止める。
7. 現場継手は、裏波溶接とし、裏当金撤去後、グラインダー仕上げとする。
8. タテ・ヨコフランジ芯間距離の精度は±1.0mmとし、ひとユニット(w=3500)の精度は±2mmとする。
9. スリット加工・面取り加工した全符号のLVLパネルを鉄骨ファブリケーターへ支給し、はめ込み可能なことを確認のうえで現場搬入すること。
10. 耐震パネル鉄骨枠フランジ部は溶接により面外に変形するおそれがある。
    LVLを精度良くはめ込むため、製作にあたっては面外変形量や溶接ビートの大きさを木加工クリア寸法以下とする。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記 2010.4.7 見積用図面 (この図面で施工しないで下さい)	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS.ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号 記名 代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人	検印 製図 検図 納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 木質耐震パネルリスト(3)
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査 主査	課長			担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道	一級建築士 第254066号 構造設計一級建築士 第1314号 丸谷 周平		縮尺 A1:1/5,1/10,1/30 A3:1/10,1/20,1/60

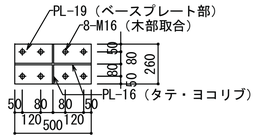
図面番号 2306
区分 建築構造図

6FL梁納まり詳細図(1)



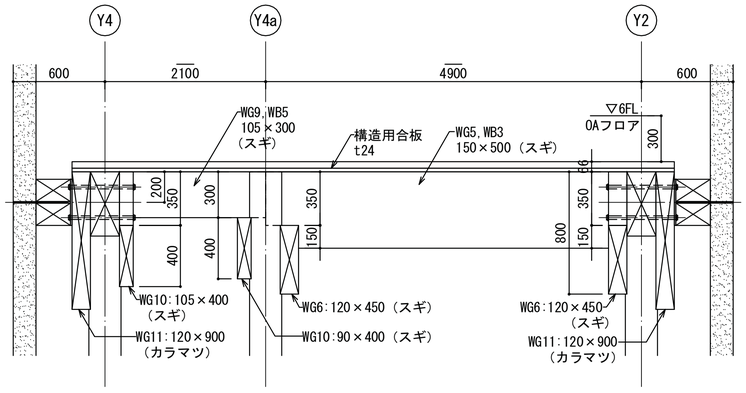


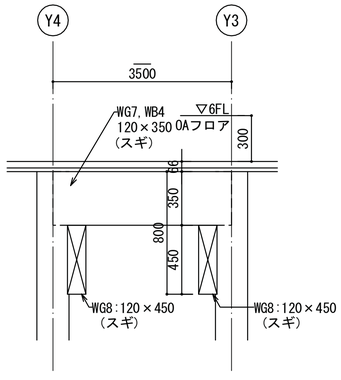
共通事項



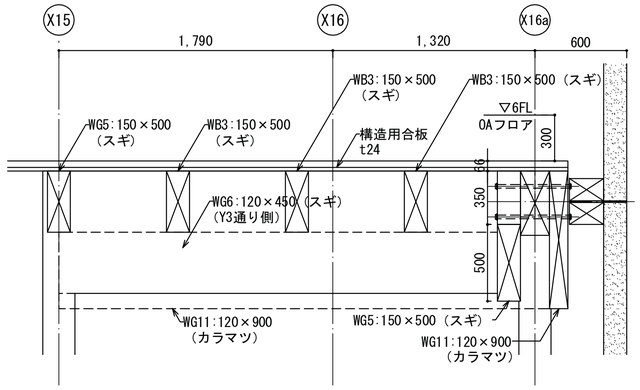
＊ボルトセットは引張り
ボルトセットを用いる。
＊材質はSM490A

6FL梁納まり詳細図(2)

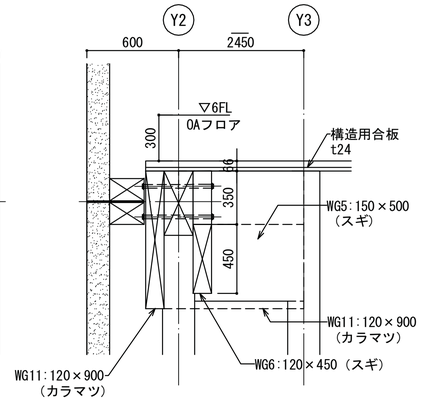




6FL梁納まり詳細図(3)

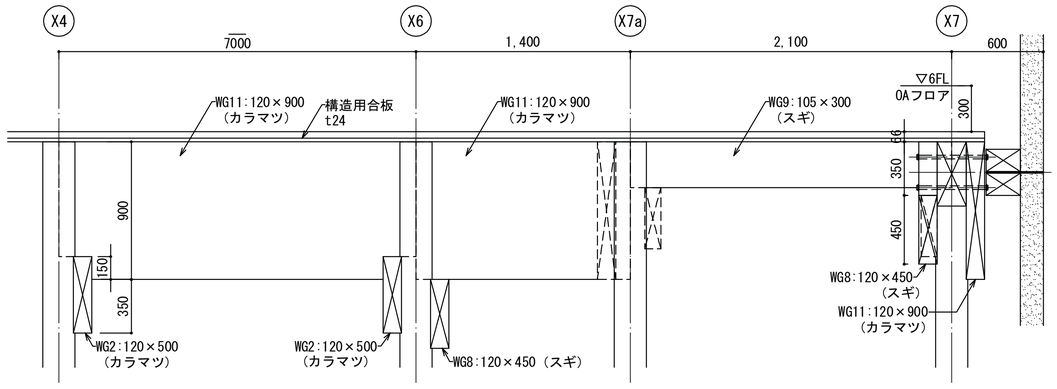


Y2通り納まり

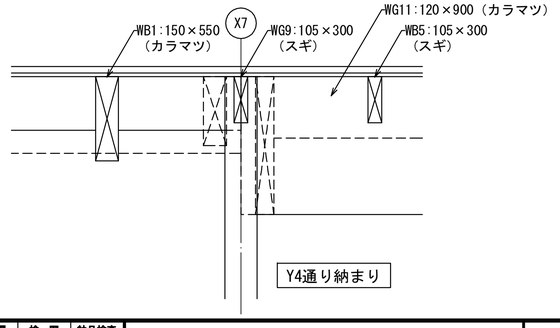


X16a通り納まり

6FL梁納まり詳細図(4)



Y6通り納まり



Y4通り納まり

埼玉県産業労働部産業拠点整備課	課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	課長	

特記：2010.4.7 見積用図面
（この図面で施工しないで下さい）

株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.

	資格/番号	記名	検印	製図	検図	納品検査
代表設計者	一級建築士 第239114号	石井 靖人				
担当設計者	一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号	塩手 博道		一級建築士 第254066号 構造設計一級建築士 第131号	丸谷 周平	

東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称)
建築工事

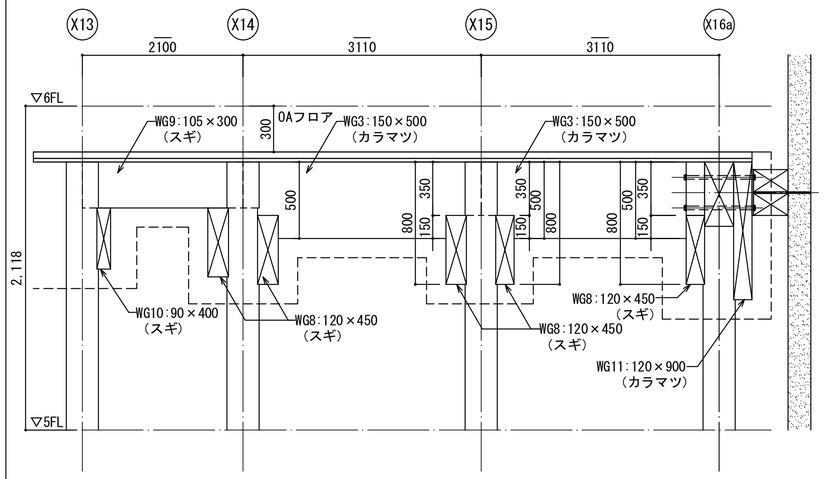
図面内容：6階梁納まり詳細図(1)～(4)

図面番号：2307

縮尺：A1:1/20 A3:1/40

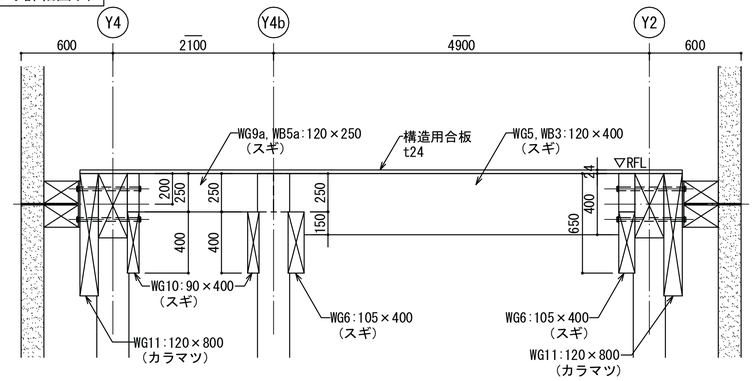
区分：建築構造図

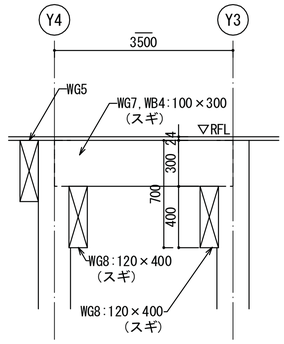
6FL梁納まり詳細図(5)



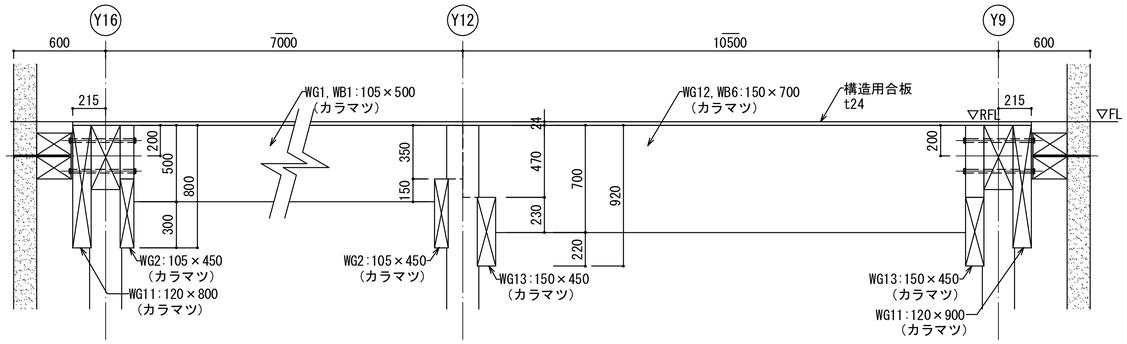
Y11通り納まり

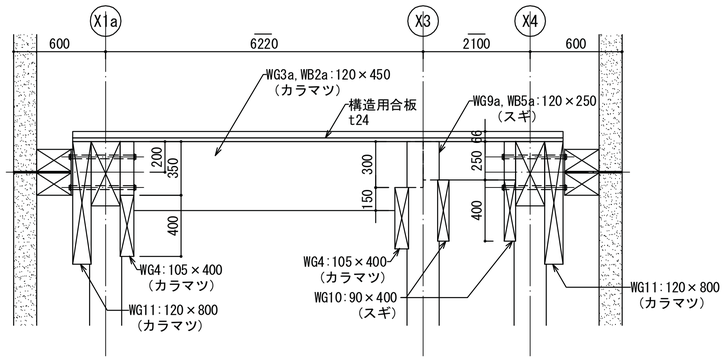
RFL梁納まり詳細図(2)



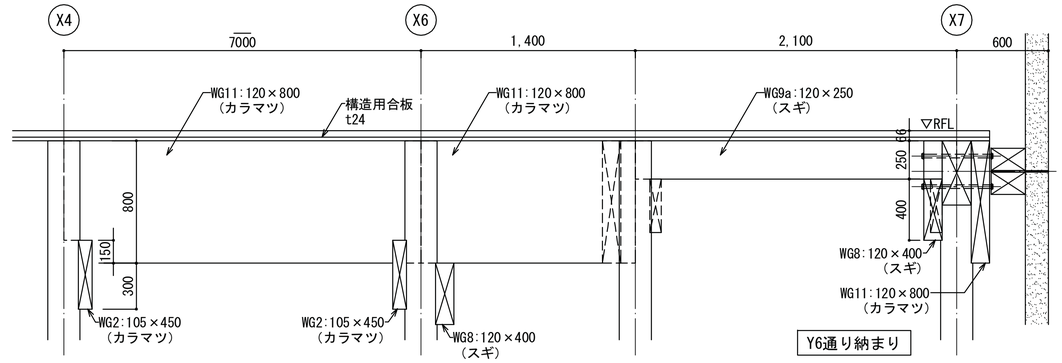


RFL梁納まり詳細図(1)





RFL梁納まり詳細図(3)



Y6通り納まり

埼玉県産業労働部産業拠点整備課						春日部市都市整備部鉄道高架整備課						特記	2010.4.7 見積用図面 (この図面で施工しないで下さい)		
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	課長									

株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.

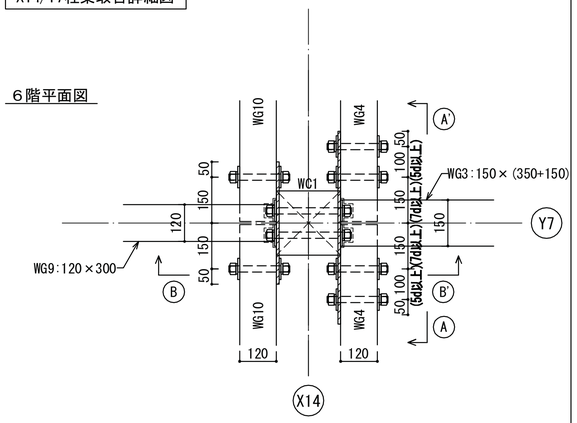
	資格/番号	記名	捺印	製図	検図	納品検査
代表設計者	一級建築士 第239114号	石井 靖人				
担当設計者	一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号	塩手 博道		一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号	丸谷 周平	

東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称)
建築工事

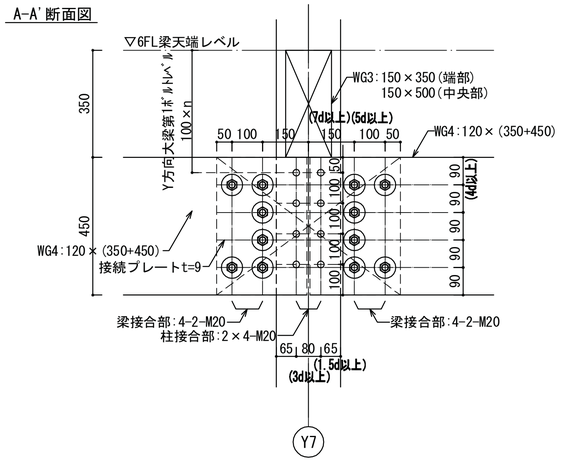
図面内容	6階梁納まり詳細図(5) R階梁納まり詳細図(1)～(3)
縮尺	A1:1/20 A3:1/40
図面番号	2308
区分	建築構造図

X14/Y7柱梁取合詳細図

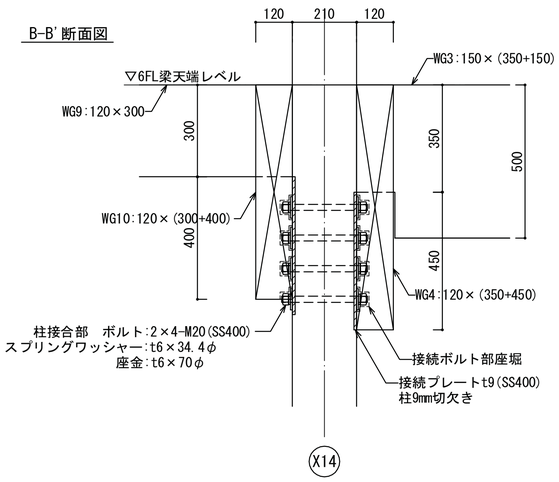
6階平面図



A-A'断面図



B-B'断面図

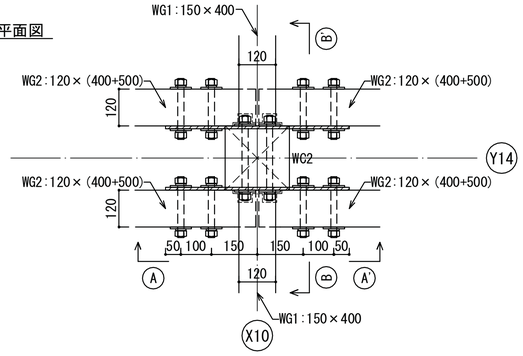


共通事項（特記なき限り下記による）

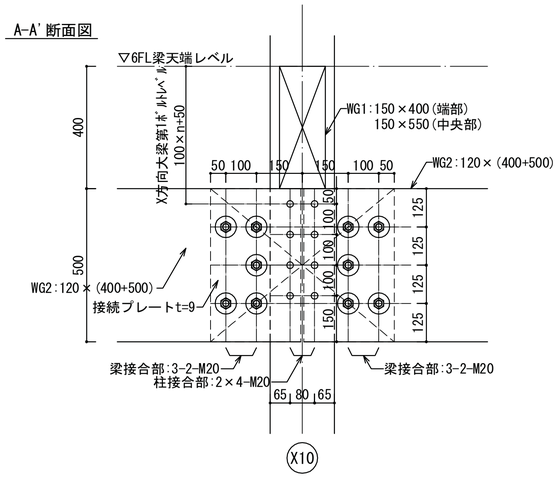
1. ボルト接合部はスプリングワッシャーt6×34.4φ及び座金t6×70φを取り付ける。
2. 図中のdはボルト径を示す。

X10/Y14柱梁取合詳細図

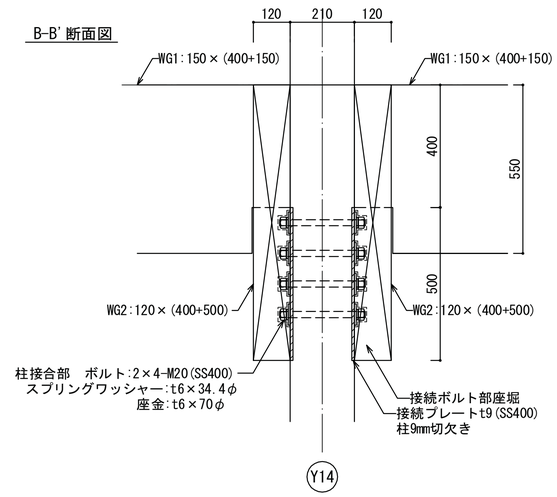
6階平面図



A-A'断面図



B-B'断面図

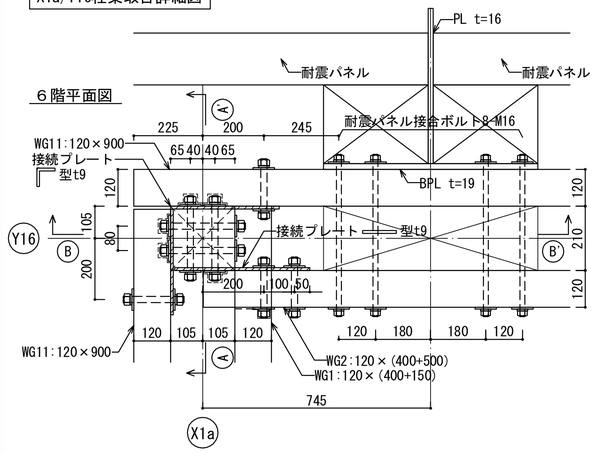


共通事項（特記なき限り下記による）

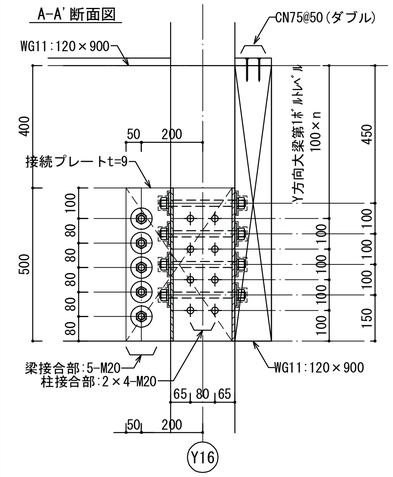
1. ボルト接合部はスプリングワッシャーt6×34.4φ及び座金t6×70φを取り付ける。

X1a/Y16柱梁取合詳細図

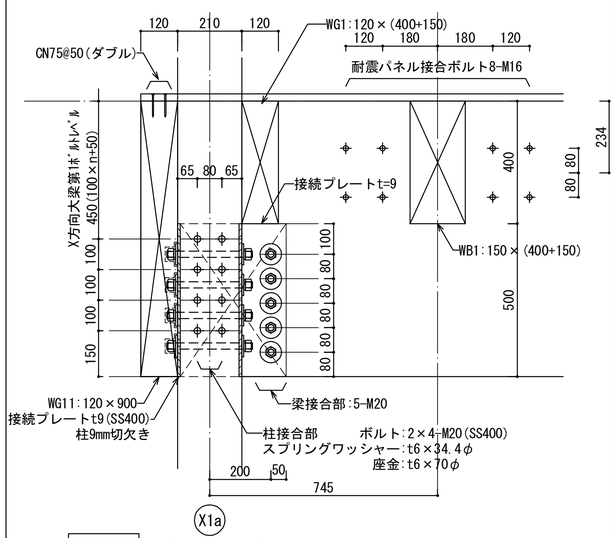
6階平面図



A-A'断面図



B-B'断面図

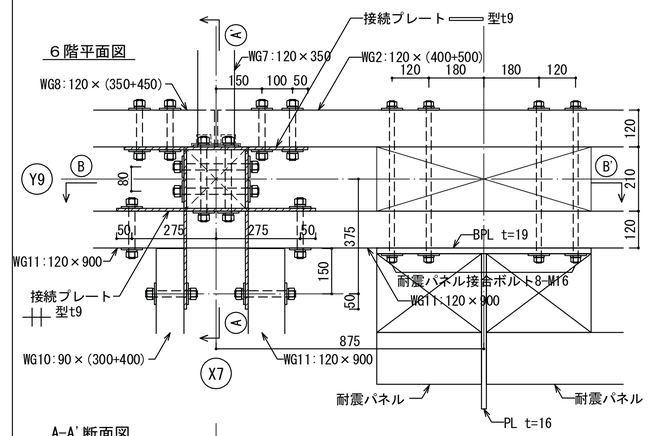


共通事項（特記なき限り下記による）

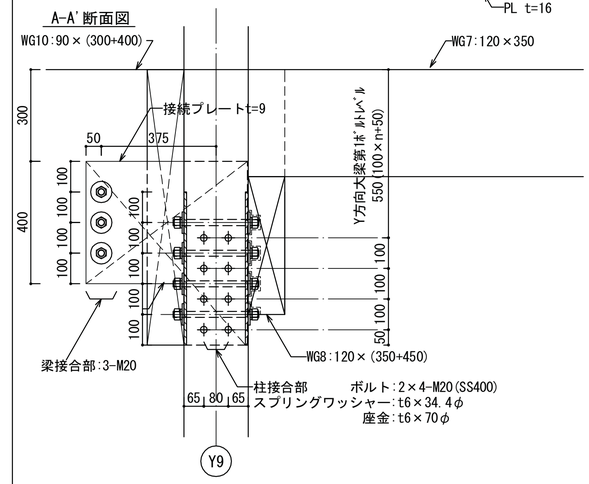
1. ボルト接合部はスプリングワッシャーt6×34.4φ及び座金t6×70φを取り付ける。

X7/Y9柱梁取合詳細図

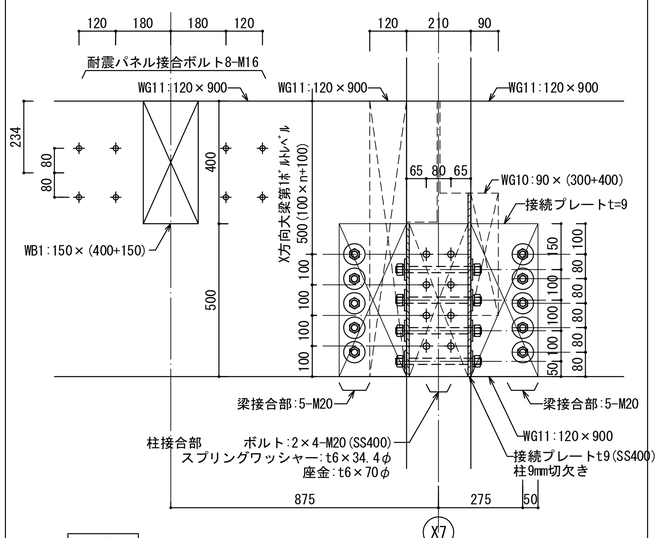
6階平面図



A-A'断面図



B-B'断面図

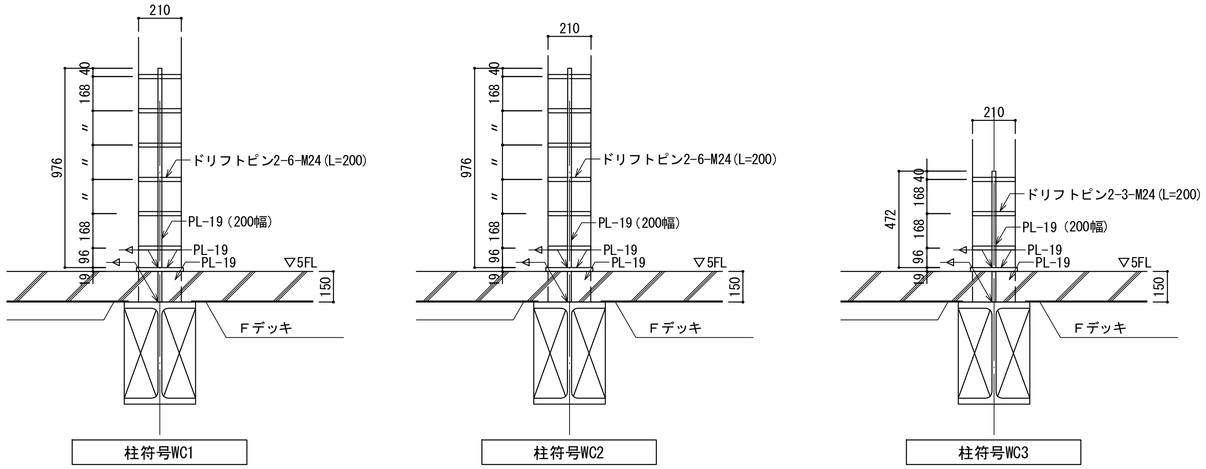


共通事項（特記なき限り下記による）

1. ボルト接合部はスプリングワッシャーt6×34.4φ及び座金t6×70φを取り付ける。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課							春日部市都市整備部鉄道高架整備課						特記	2010.4.7　見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号　記名　捺印 代表設計者　一級建築士 第239114号　石井 靖人 担当設計者　一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号　塩手 博道 一級建築士 第254066号 構造設計一級建築士 第131号　丸谷 周平	製図	検図	納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 6階柱梁接合部詳細図	図面番号 2309
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査	課長														縮尺 A1:1/10　A3:1/20	区分 建築構造図

木部柱脚詳細図　A1:1/15　A3:1/30



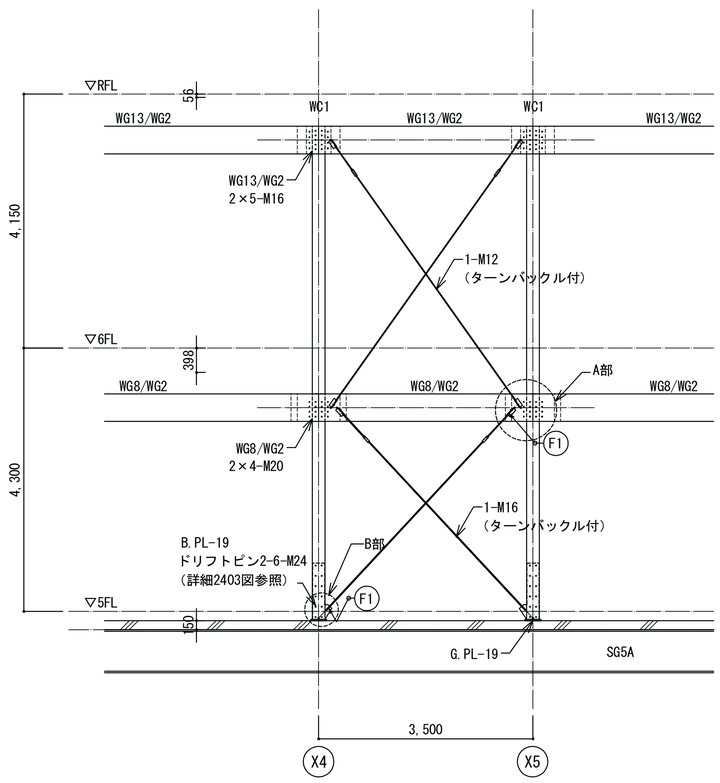
柱符号WC1

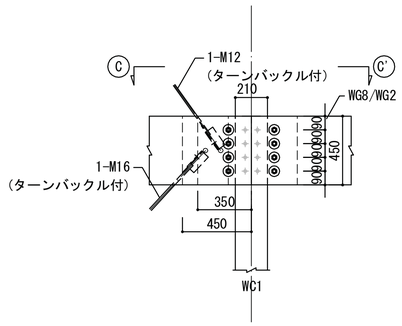
柱符号WC2

柱符号WC3

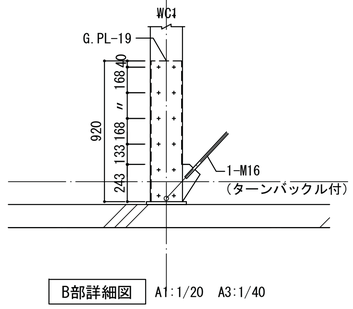
室内耐風ブレース詳細図　A1:1/50　A3:1/100

Y12通りX4-X5間

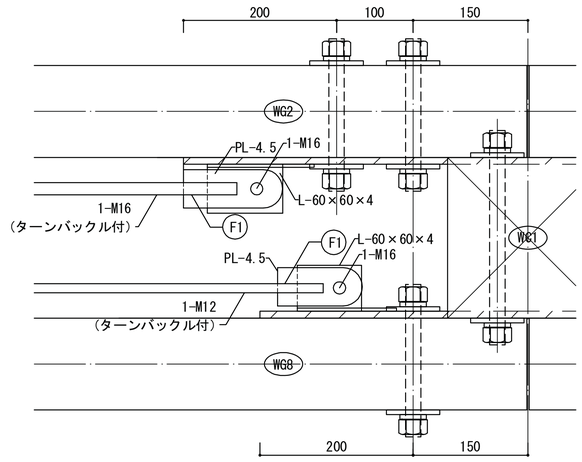




A部詳細図　A1:1/20　A3:1/40



B部詳細図　A1:1/20　A3:1/40

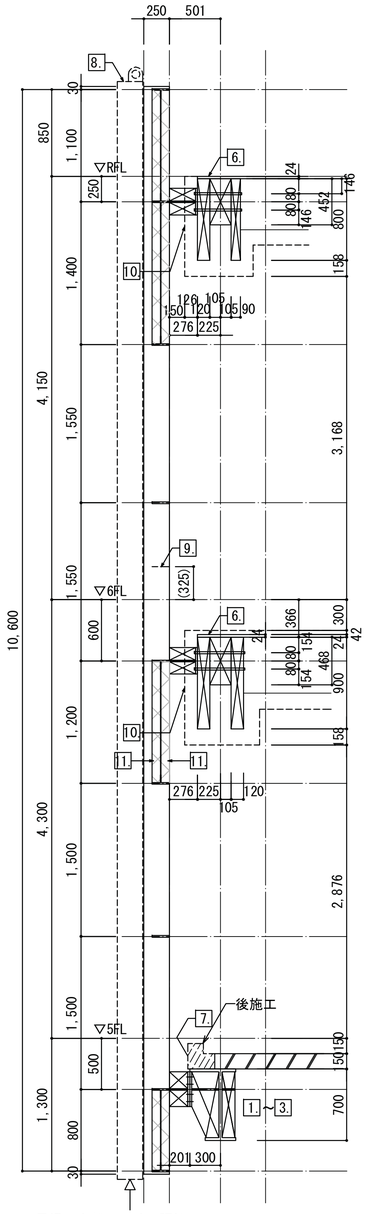


C-C' 断面図　A1:1/4　A3:1/8

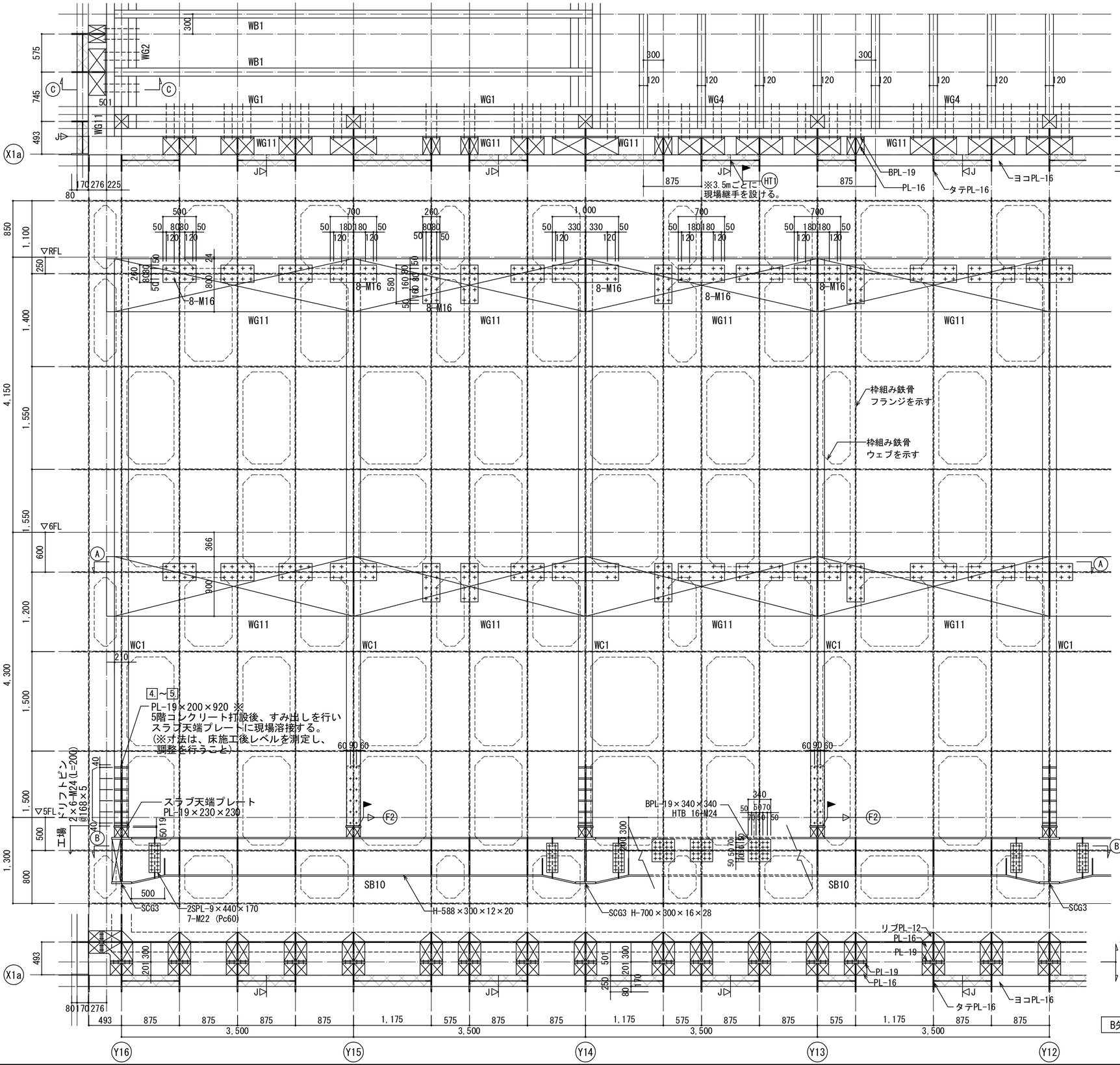
共通事項（特記なき限り下記による）

1. 室内ブレースは
   5階 M16（ターンバックル付）
   6階 M12（ターンバックル付）とし、
   取り付け場所は図2110による。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記 2010.4.7 見積用図面（この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号 記名 捺印 製図 検図 納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 木部柱脚詳細図 室内耐風ブレース詳細図	図面番号 2310
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査	課長			代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人		縮尺 A1:1/15,1/20,1/50 A3:1/30,1/40,1/100	区分 建築構造図
				担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道 一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号 丸谷 周平			



C断面図 1/30



A 矢視(6階平面図) 1/30

X1a通り断面詳細図 1/30
(西面・外観)

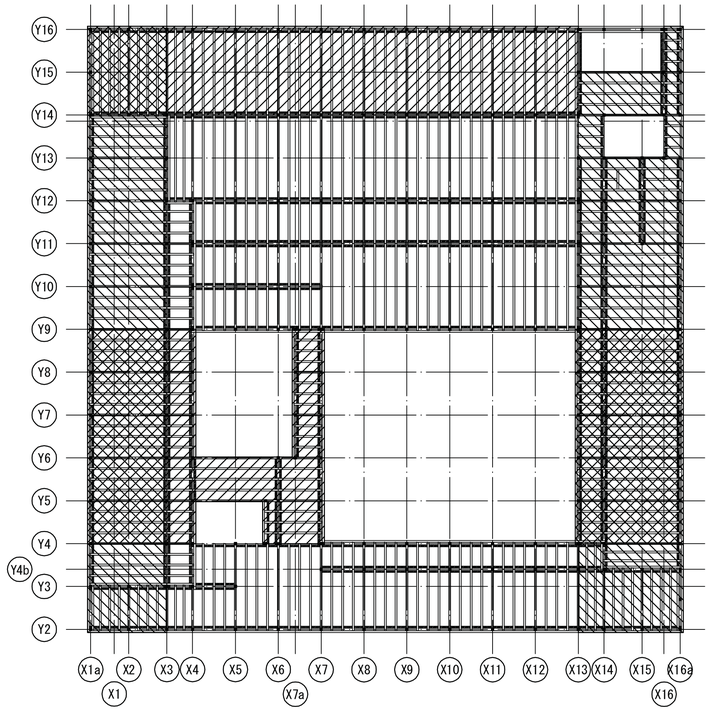
B矢視(5階平面図) 1/30

施工手順と寸法精度確保について

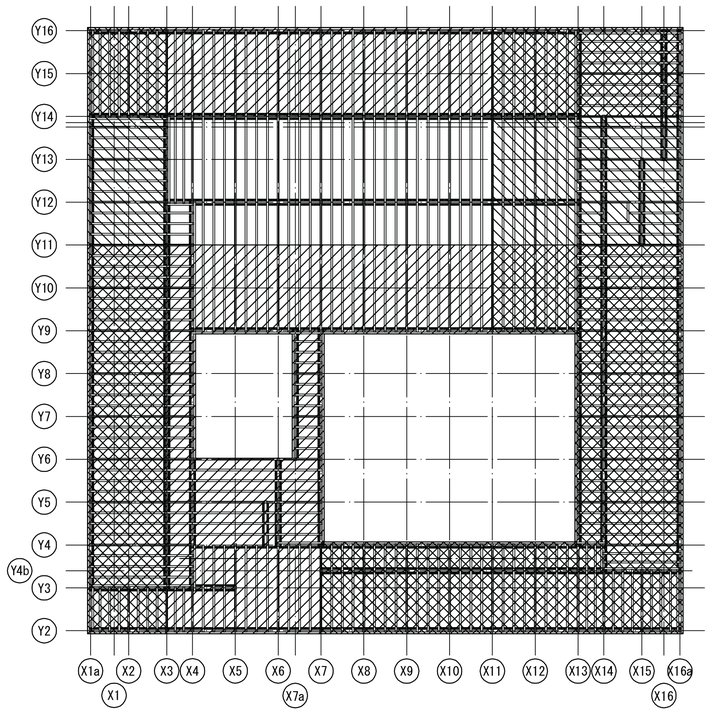
1. 5FLの耐震パネル取合梁（外周及び中庭）位置の平面精度を±1.0mmとすること。
2. 鉄骨建方は、現場溶接による緩みを考慮して、外側にあらかじめ倒しておく等の計画とすること。
3. 鉄骨製品検査表より、柱梁フレームごとの寸法累積長さを求め、誤差が大きい場合はスプライスプレートの穴位置を調整すること。
4. 木質構造部の建方寸法精度を確保するため、柱脚の平面及びレベルを±1.0mmとする。
5. このため、5FLコンクリート打設後墨出しを行い、柱脚接合PLをスラブ天端プレートに現場溶接とする。
6. 木質構造の耐震パネル取合梁（外周及び中庭）位置の平面精度を±1.0mmとする。
7. 耐震パネル枠組鉄骨と5FL梁取合のHTB穴径は+3mmとしても良いがすべて試験を行うこと。
8. 枠組鉄骨建方に際しては、1ユニット幅のH型鋼等を組んだ仮設治具フレーム（面内ブレース、ターンバックル付）等を作成することにより、建て起こしや吊り下げ時に有害な変形が枠組みに生じないようにすること。
9. 枠組鉄骨高さ10.6mは、一体施工を想定しているが、工場での寸法精度確保や現場での木取合ボルトとの施工誤差吸収のため、高さ方向に分割することも可能とする。（その場合、現場継手はHB1とする。）
10. LVLパネル取付け前にWG1側面の耐火プラスターボードの施工を行う。
11. 最後にLVLパネルの取付けを行う。

埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記 2010.4.7 見積用図面（この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号 記名 代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人	担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道	一級建築士 第254066号 構造設計一級建築士 第1314号 丸谷 周平	検印 製図 検図 納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 耐震パネル接合部詳細図	図面番号 2311	縮尺 A1:1/30 A3:1/60	区分 建築構造図
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査	課長										

釘配列パターン図　A1:1/250 A3:1/500

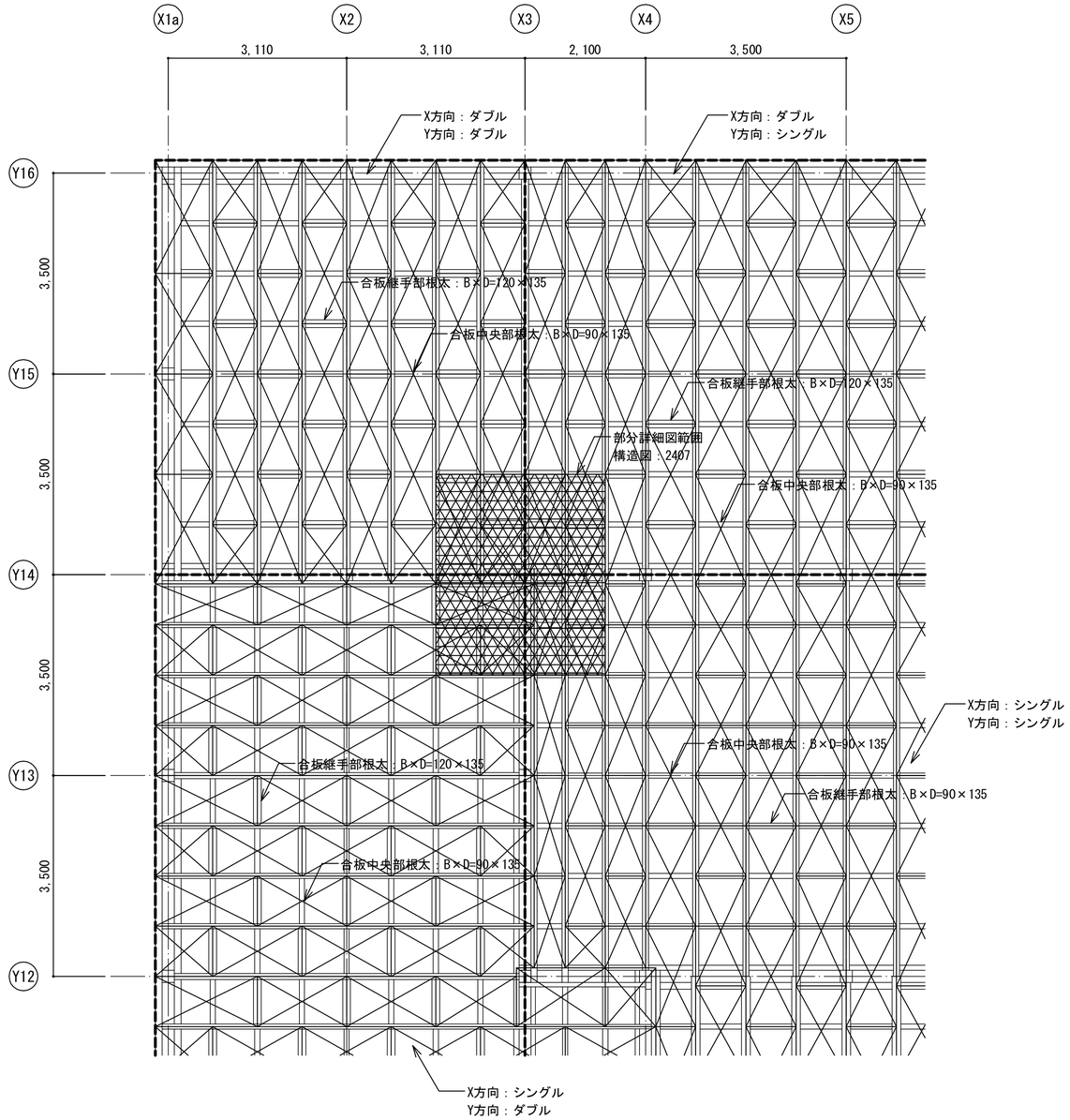


6階床レベル



R階床レベル

合板割付要領図　A1:1/50 A3:1/100

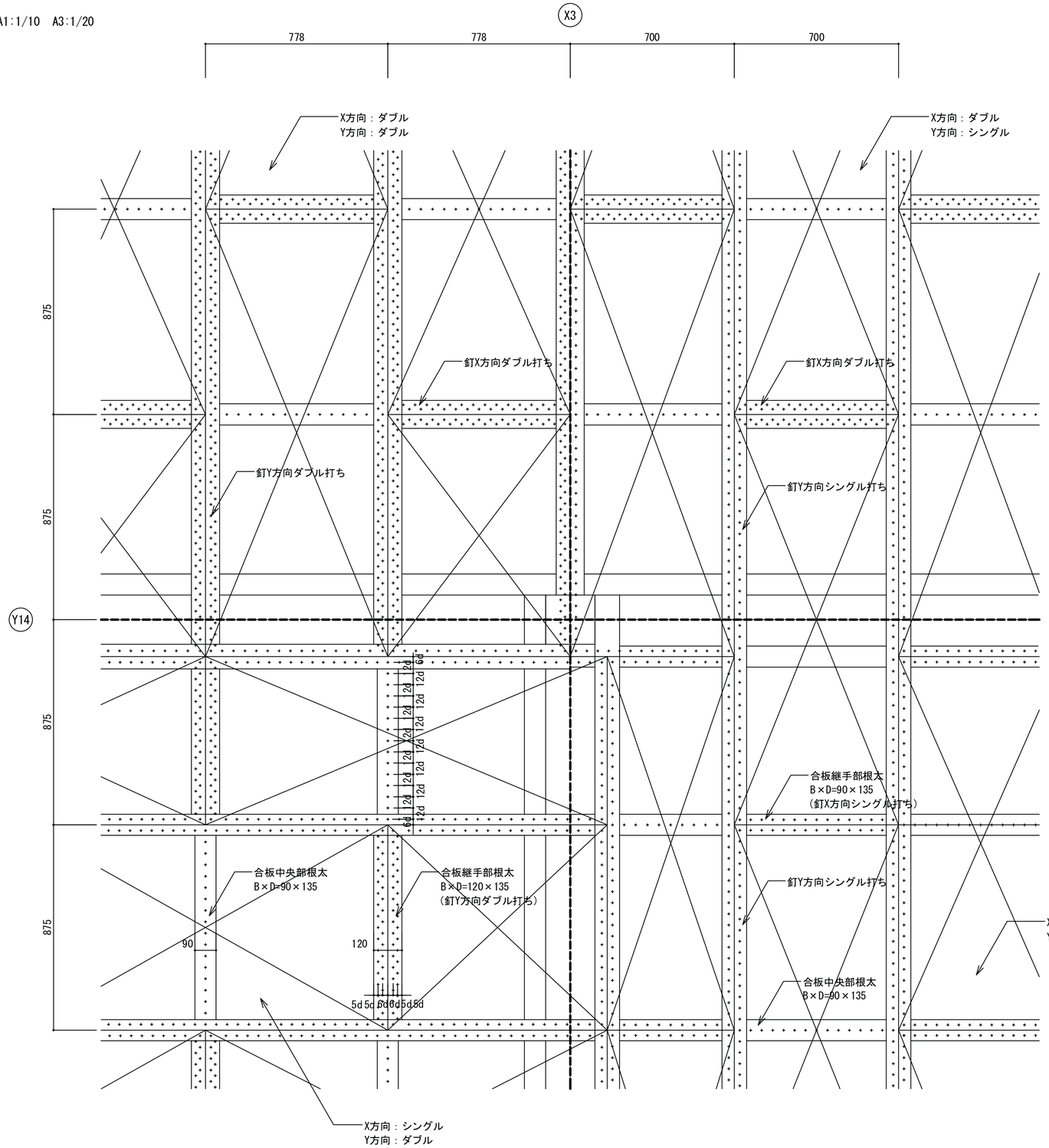


共通事項　（特記なき限り下記による）

1. ：X方向Y方向共にCN75@50ダブル
2. ：X方向CN75@50シングル、Y方向CN75@50ダブル
3. ：X方向CN75@50ダブル、Y方向CN75@50シングル
4. ：X方向Y方向共にCN75@50シングル

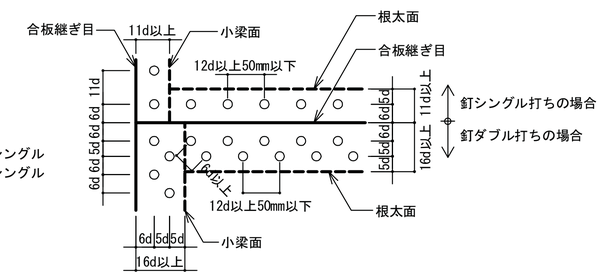
埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記 2010.4.7 見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号 記名 捺印 製図 検図 納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 床合板割付要領図	図面番号 2312
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査 主査	課長			代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人 担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道 一級建築士 第254066号 構造設計一級建築士 第1314号 丸谷 周平		縮尺 A1:1/50,250 A3:1/100,500	区分 建築構造図

釘配列要領図　A1:1/10　A3:1/20



共通事項　（特記なき限り下記による）

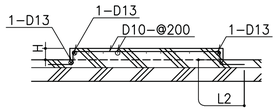
1. 釘打ちピッチは下図による。
2. ネイルマシンにて釘施工時には、
釘ピッチを記載したガイドを作成し、
そのガイドを用いて施工すること。



埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号　記名　捺印	東部地域振興ふれあい拠点施設（仮称） 建築工事	図面内容	図面番号
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査 主査	課長	2010.4.7　見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）		代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人 / 担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道 / 一級建築士 第254066号 構造設計一級建築士 第1314号 丸谷 周平		床合板釘配列要領図	2313
				製図　検図　納品検査		縮尺 A1:1/10　A3:1/20	区分 建築構造図

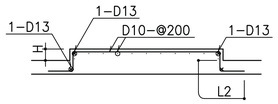
機械基礎配筋詳細図　S=1：40

置き基礎（押えコンクリートに定着）



Hは意匠図による

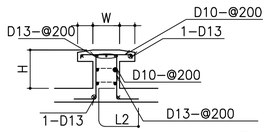
べた基礎（スラブに定着）



Hは意匠図による

（注）・アンカー筋に引張力の発生する場合

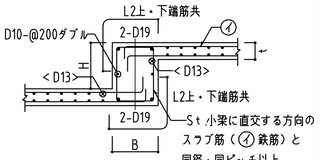
連続基礎



B、Hは意匠図による

（注）・取付く梁のスパンは4.0m以下とする。
・梁型は本体の梁から梁へ通すこと。
・監督職員の承認を受けること。

150mmを超えるスラブ段差

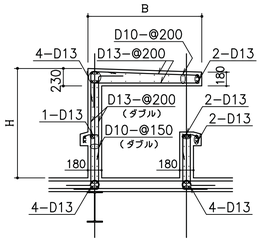


150<Hの場合
B：300mmかつt以上

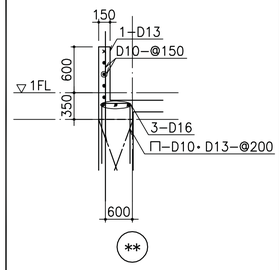
雑配筋詳細図　S=1：40

屋上配管取出口（2階）

B、Hは意匠図による

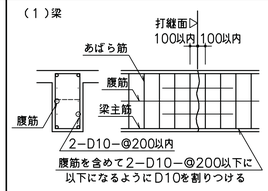


アスロック版荷重受け立上り

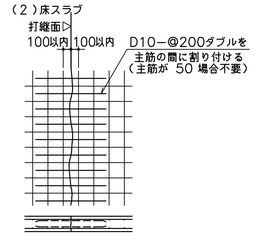


打継ぎ部の処理

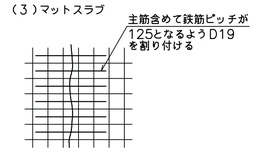
（1）梁



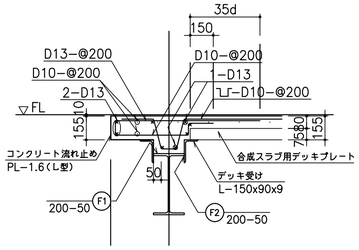
（2）床スラブ



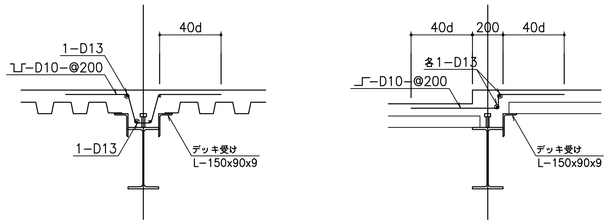
（3）マットスラブ



スラブコン止め及びデッキ取合要領　S=1：20

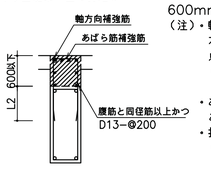


合成スラブデッキ段差補強要領　S=1：20



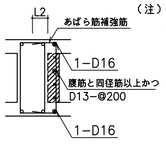
基礎梁の打増し

（1）基礎梁上面の打増し



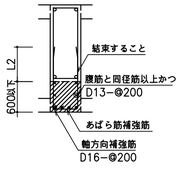
600mm以下の場合に適用する。
（注）・軸方向補強筋の径と継手は特記事項により本数は梁幅を200で除し、1を加え小数点以下は切り捨てた値とする。
（例）梁幅が500mmのとき。
500／200+1=3.5→3本
・あばら筋補強筋はD13−@200かつあばら筋と同径、同ピッチとする。
・打増し筋レベル保持の為に鉄筋保持金物（D13程度の馬）を適切に配置すること。

（2）基礎梁側面の打増し



70mm以上、400mm以下の場合に適用する。
（注）・あばら筋補強筋はD13−@200とする。
・定着長さL2が確保される場合は基礎スラブ定着としてもよい。

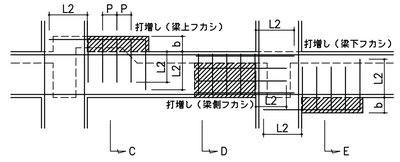
（3）基礎梁下面の打増し

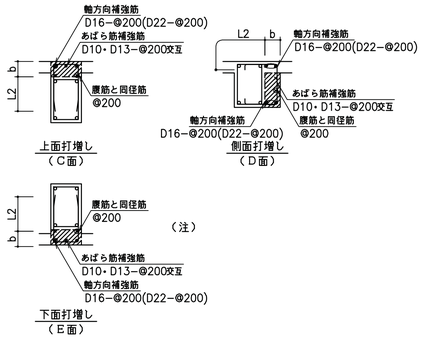


600mm以下の場合に適用する。
（注）・軸方向補強筋の径と継手は特記事項により本数は梁幅を200で除し、1を加え小数点以下は切り捨てた値とする。
・あばら筋補強筋はD13−@200かつあばら筋と同径、同ピッチとする。

梁の打増し

・打増しコンクリートは、打増し幅（厚さ）が70mm以上、400mm以下の場合に適用する。ただし、基礎梁は除く。（　）内は、400mmを超える場合を示す。





（注）・上ふかし（C面）・下ふかし（E面）：b＜70mmの場合は、補強筋不要とする。
・側ふかし（D面）：b＜70mmの場合は補強筋不要とする。
ただし、打増し部分に壁が取合う場合は「柱の打増し」と同様に 上下の壁筋を通し配筋するか、梁構造断面内に定着長さL2を確保する。
・軸方向補強筋は、D16−@200 程度とする。
・梁の打増し部に耐震壁・土圧壁が取付く場合の補強については監督員及び構造監理担当者との協議による。

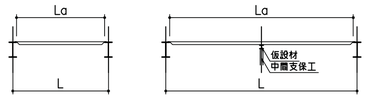
デッキプレート（捨型枠）施工要領図

デッキプレート厚と許容スパン（mm）との関係（普通コンクリート）

スラブ厚 150（mm）	スラブ厚 180（mm）	スラブ厚 200（mm）	デッキプレート厚（mm）	中間支保工の有無
La≦2,450	La≦2,295	La≦2,210	0.8	無
2,450＜La≦2,765	2,295＜La≦2,615	2,210＜La≦2,515	1.0	無
2,765＜La≦2,920	2,615＜La≦2,800	2,515＜La≦2,740	1.2	無
La≦3,820	La≦3,360	La≦3,110	0.8	有
3,820＜La≦4,900	3,360＜La≦4,900	3,110＜La≦4,640	1.0	有

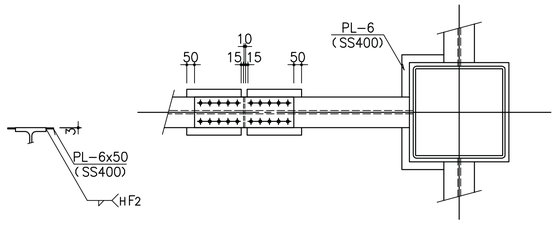
デッキプレート厚と許容スパン（mm）との関係（1種軽量コンクリート）

スラブ厚 150（mm）	スラブ厚 180（mm）	スラブ厚 200（mm）	デッキプレート厚（mm）	中間支保工の有無
La≦2,600	La≦2,470	La≦2,360	0.8	
2,600＜La≦2,870	2,470＜La≦2,765	2,360＜La≦2,690	1.0	
2,870＜La≦3,030	2,765＜La≦2,920	2,690＜La≦2,855	1.2	
3,030＜La≦3,150			1.4	
3,150＜La≦3,260			1.6	

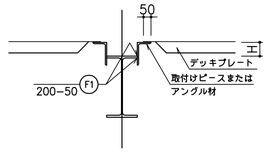


（注記）
1. 亜鉛の付着量：Z12（2階床以上）
Z27（1・B1階床）
2. デッキプレートの使用範囲：構造関係共通事項7参照

デッキ受け詳細図



スラブ嵩上げ要領図



H	取付けピースまたはアングル材
H＜50	L−90x90x6（SS400）
50＜H≦100	L−150x90x9（SS400）
100＜H≦150	L−200x90x9x14（SS400）
150＜H≦200	L−250x90x10x15（SS400）
200＜H	仕上げBT：フランジPL−9×取合う梁と同幅 ウェブPL−6

埼玉県産業労働部産業拠点整備課							春日部市都市整備部鉄道高架整備課						
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査	課長						

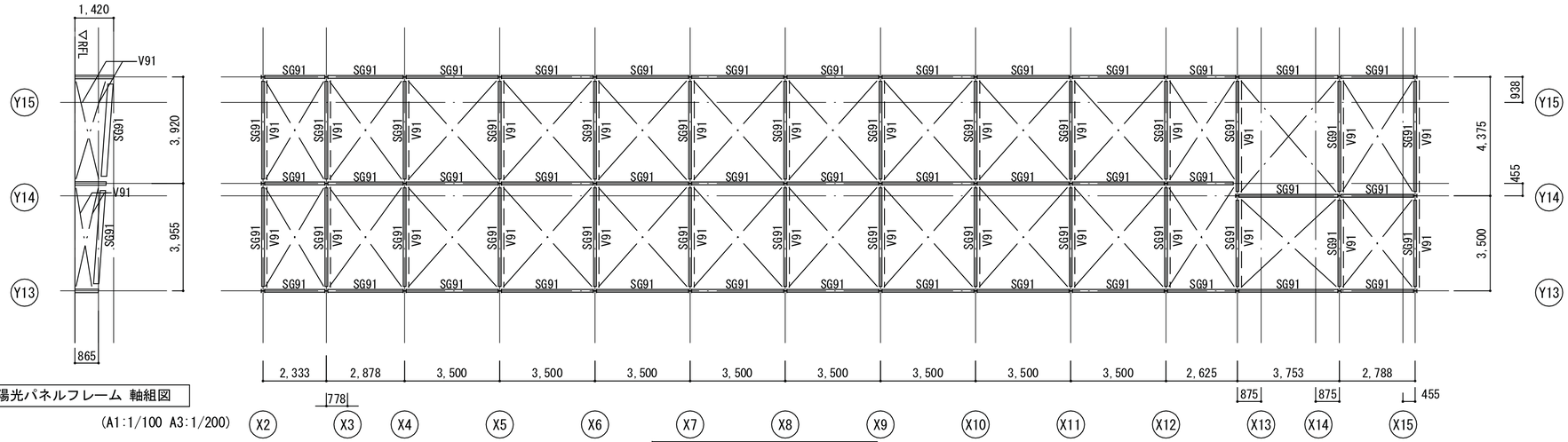
特記　2010.4.7　見積用図面
（この図面で施工しないで下さい）
特記なき限り下記による。
1. 開口補強の要領は、機準仕様書による。2. 梁貫通孔の補強種別は、機準仕様書の別図各部配筋（7．1）による。
3. スリーブ材の凡例（材料は、機準仕様書の表6．9．1による） VU：硬質塩化ビニル管　RS：つば付き鋼管

株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.

	資格/番号	記名	捺印	製図	検図	納品検査
代表設計者	一級建築士 第239114号	石井 靖人				
担当設計者	一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号	塩手 博道		一級建築士 第254060号 構造設計一級建築士 第1319号	丸谷 周平	

東部地域振興ふれあい拠点施設（仮称）
建築工事

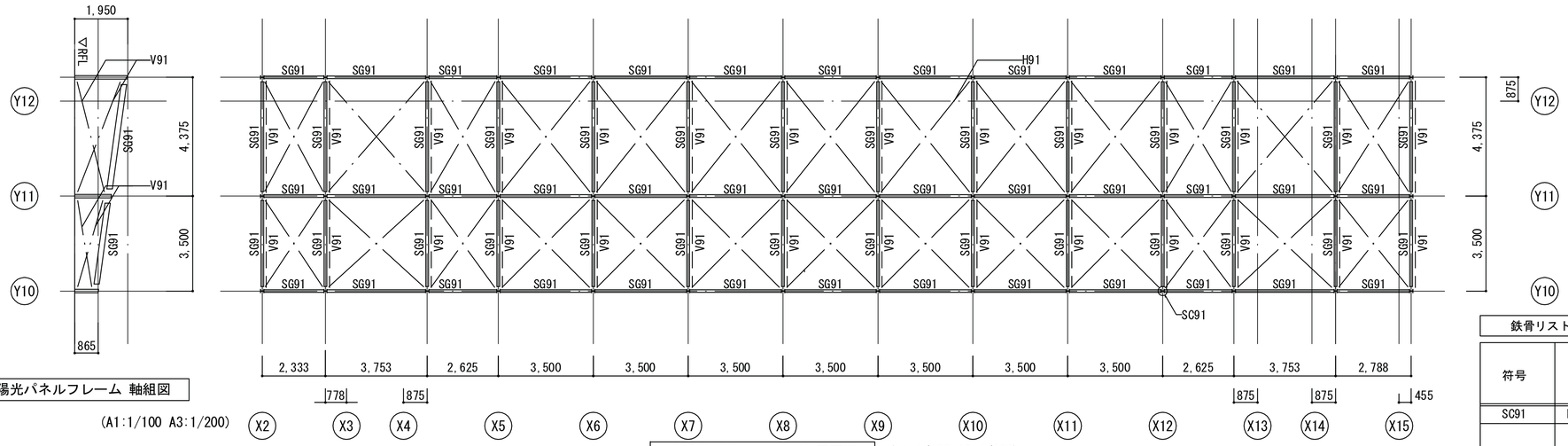
図面内容	図面番号
雑配筋詳細図	2401
縮尺 A1:1/40　A3:1/80	区分 建築構造図



太陽光パネルフレーム 軸組図

(A1:1/100 A3:1/200)

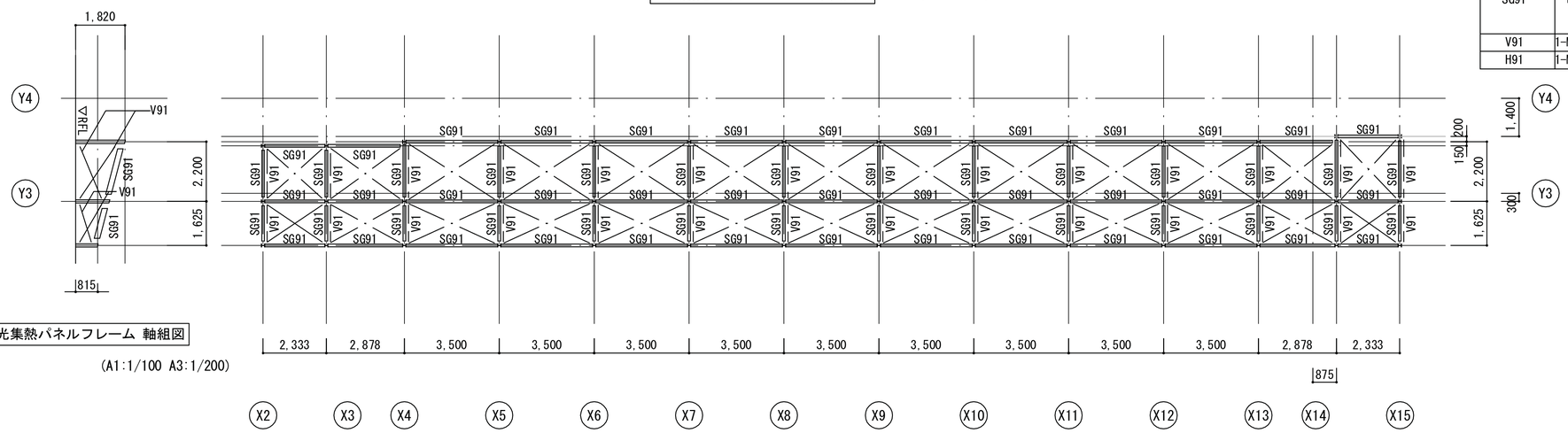
太陽光パネルフレーム 平面図 (A1:1/100 A3:1/200)



太陽光パネルフレーム 軸組図

(A1:1/100 A3:1/200)

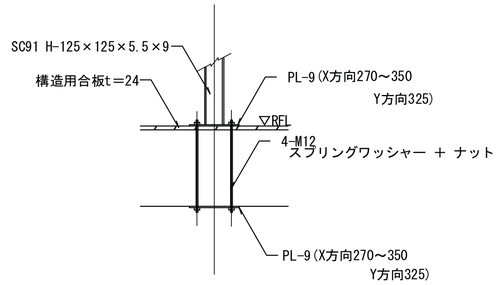
太陽光パネルフレーム 平面図 (A1:1/100 A3:1/200)



太陽光集熱パネルフレーム 軸組図

(A1:1/100 A3:1/200)

太陽光集熱パネルフレーム 平面図 (A1:1/100 A3:1/200)



柱脚部詳細図 (A1:1/20 A3:1/40)

鉄骨リスト 鋼種:SS400

符号	断面	G.PL	HTB	備考
SC91	H -125×125×6.5×9	–	–	–
SG91	H -200×100×5.5×8	G.PL-9	2-M12	剛接合の場合 HTB:8-M16 FPL(外)-16×290×100 HTB:4-M16 WPL - 6×140×170
V91	1-M12(ターンバックル付)	G.PL-6	1-M12	–
H91	1-M12(ターンバックル付)	G.PL-6	1-M12	–

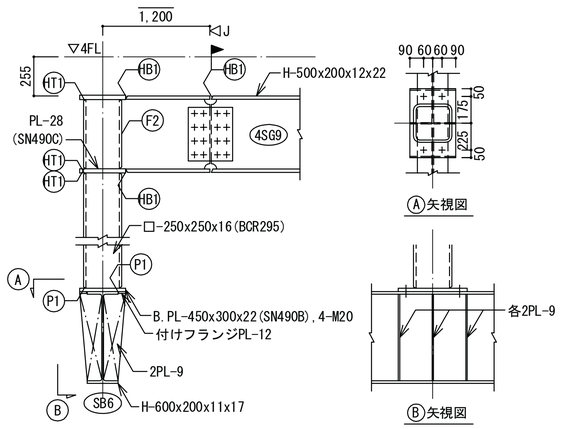
共通事項 (特記なき限り下記による)

1. 柱 SC91
2. 鉛直ブレース H91
3. ブレース方向の梁端部はピン接合
   直行方向の梁端部は剛接合とする。

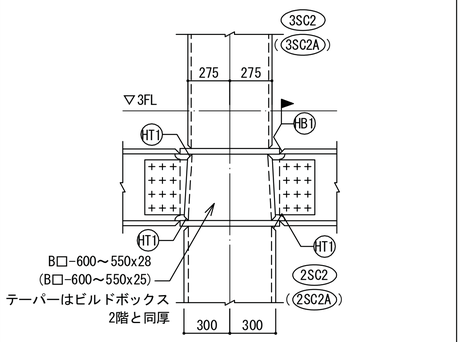
埼玉県産業労働部産業拠点整備課							春日部市都市整備部鉄道高架整備課						特記 2010.4.7 見積用図面 (この図面で施工しないで下さい)	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号 記名 捺印 製図 検図 納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 太陽光パネル 伏図・軸組図・リスト	図面番号 2402
課長	副課長	主幹	主査	主査	主査	主査	課長								代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人		縮尺 A1:1/100,1/20 A3:1/200,1/40	区分 建築構造図
															担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道 一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第131号 丸谷 周平			

各部納まり詳細図　A1:1/20　A3:1/40

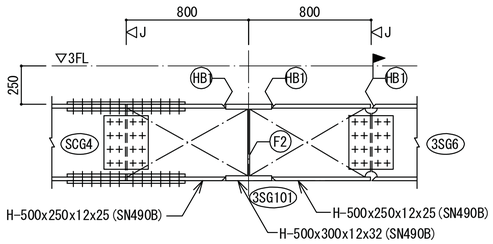
Y13通りX5-1,050 SP1-4SG9 取合い詳細図



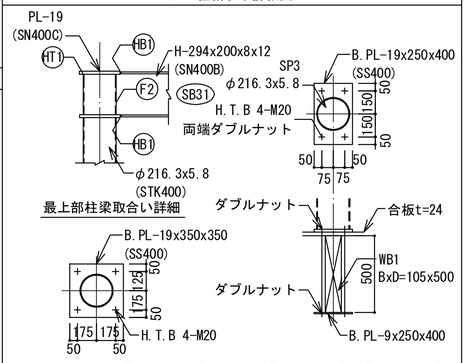
SC2,(SC2A) 柱サイズ切替詳細図



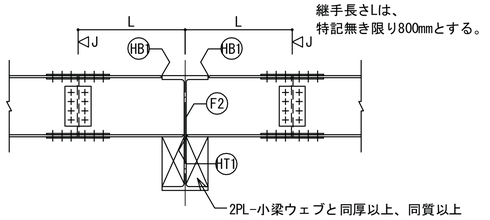
Y11通りX4 SG6-SCG4 取合い詳細図



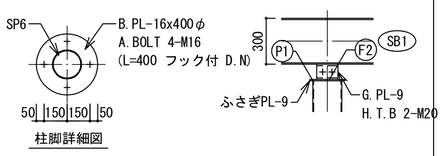
SP3 柱納まり詳細図



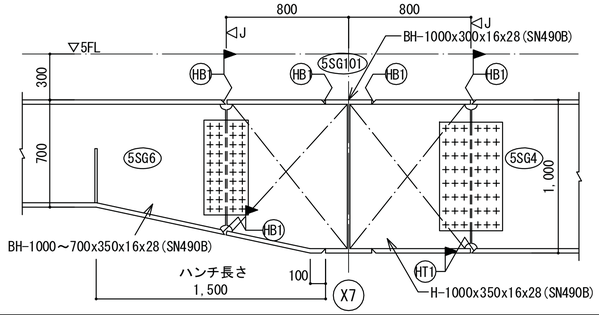
SB梁剛接合納まり詳細図



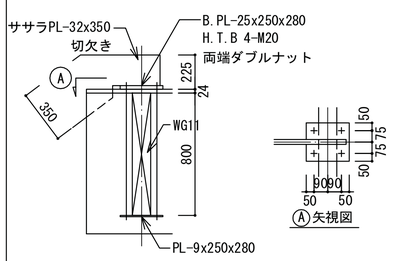
風除室　間柱SP6　納まり詳細図

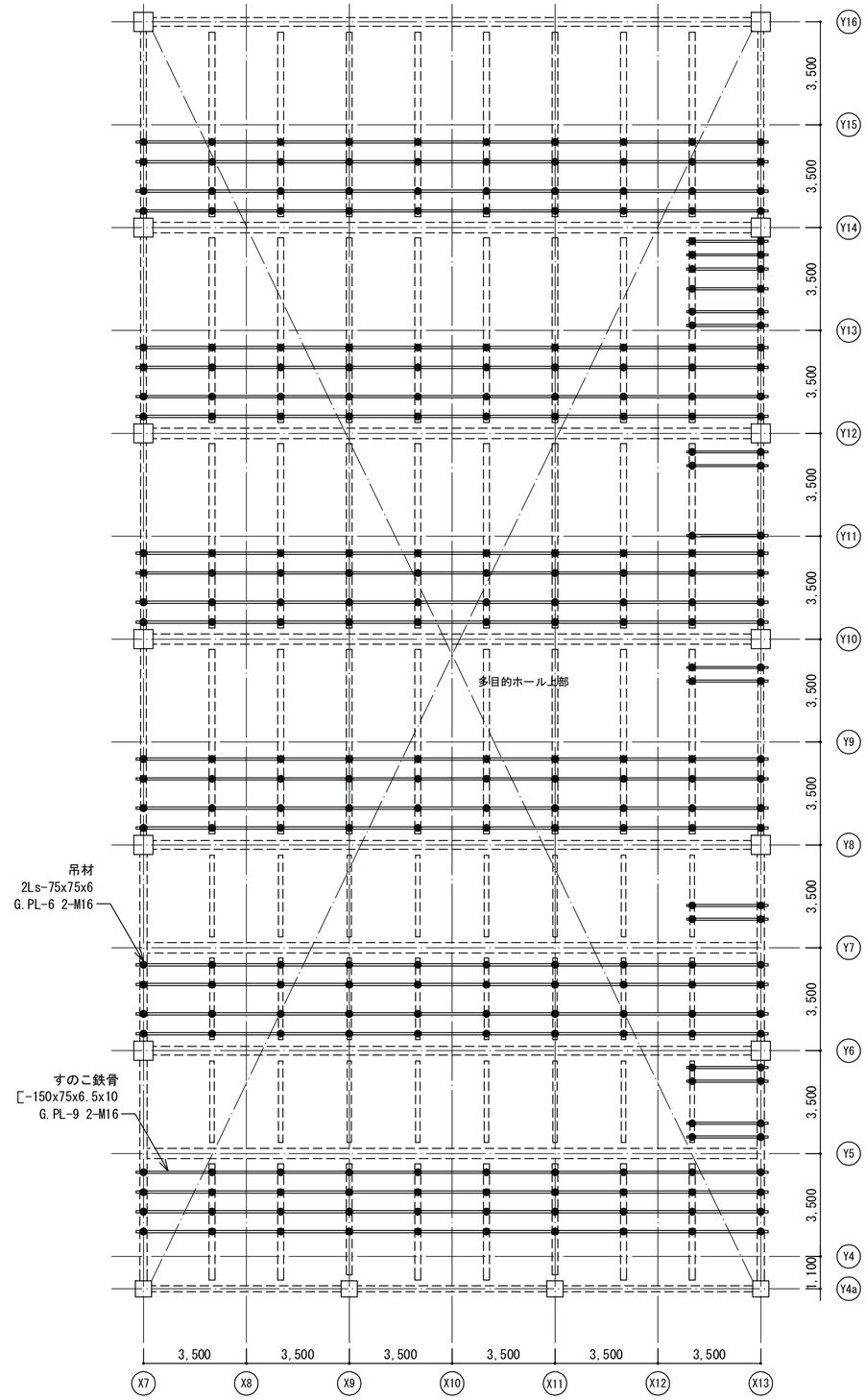


5階 SG4-SG6 取合い詳細図



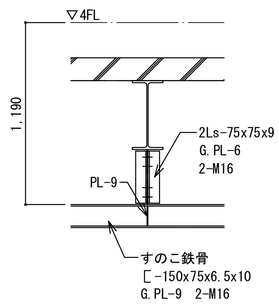
階段(1)　ササラPL 木質梁取合詳細図





多目的ホール上部すのこ鉄骨伏図

A1:1/100　A3:1/200



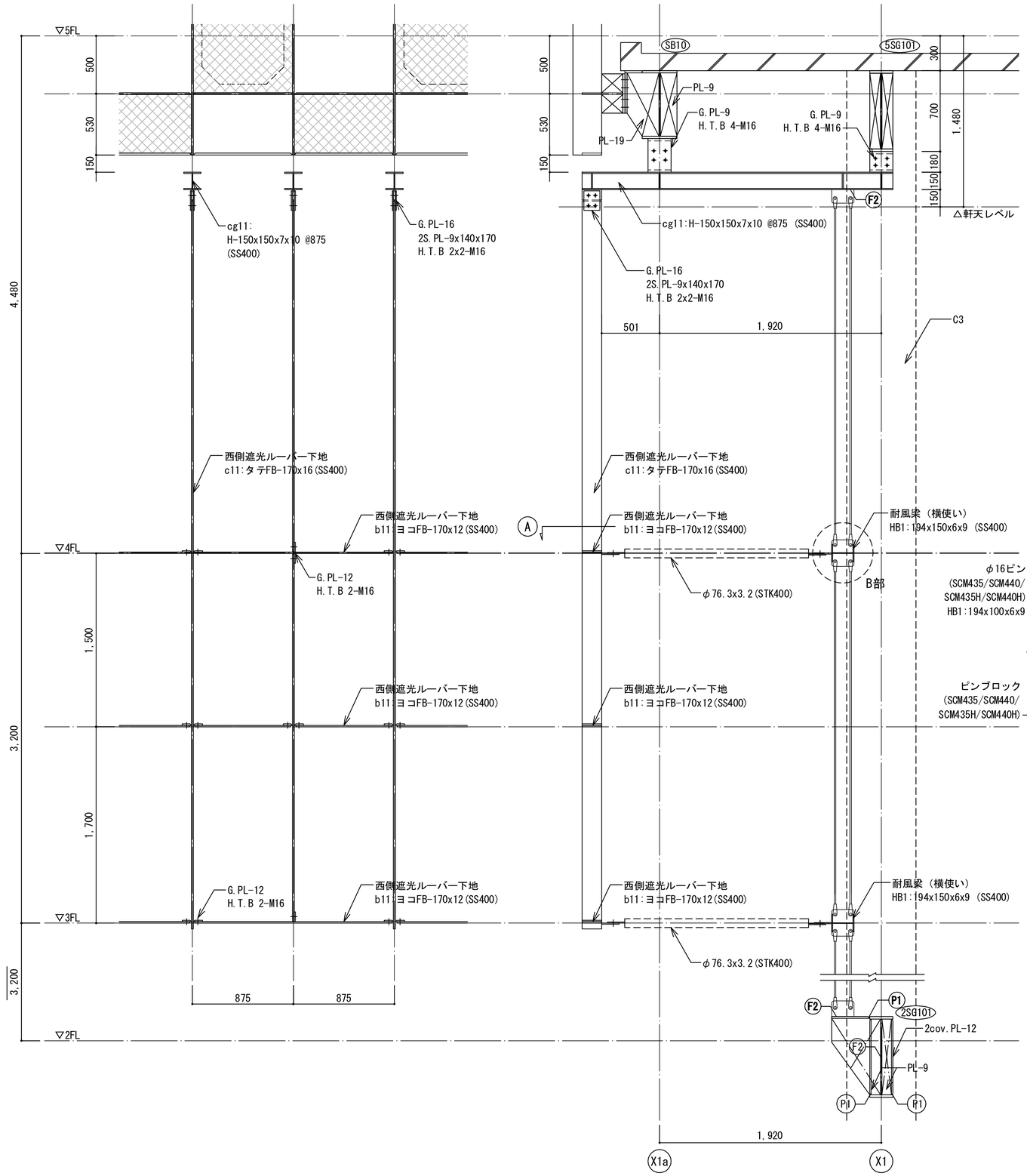
吊材立面図

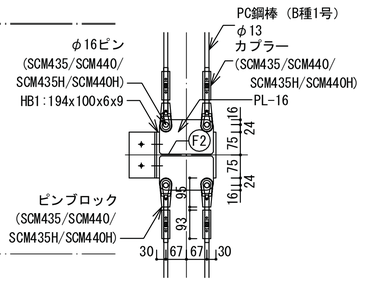
共通事項（特記なき限り下記による）

1. 点線部材は4階床レベル鉄骨部材を示す。
2. すのこ鉄骨上端レベル：4FL-1,190

埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記 2010.4.7 見積用図面（この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号 記名 捺印 製図 検図 納品検査	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 各部納まり詳細図 多目的ホールすのこ鉄骨詳細図	図面番号 2403
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査 主査	課長			代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人		縮尺 A1:1/20,1/100 A3:1/40,1/200	区分 建築構造図
				担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第6144号 塩手 博道	一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 第1314号 丸谷 周平		

西側遮光ルーバー下地詳細図　A1:1/20　A3:1/40

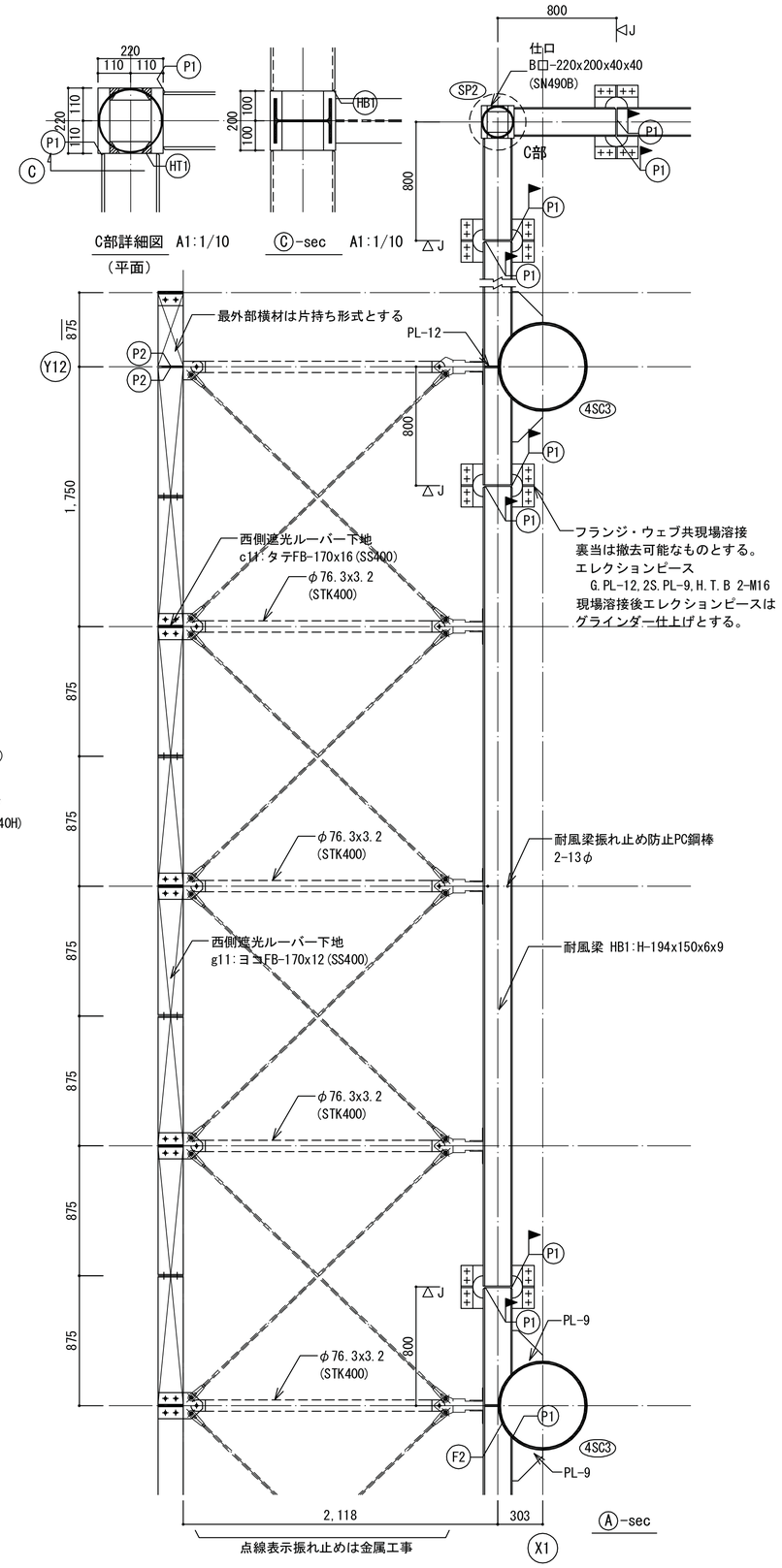




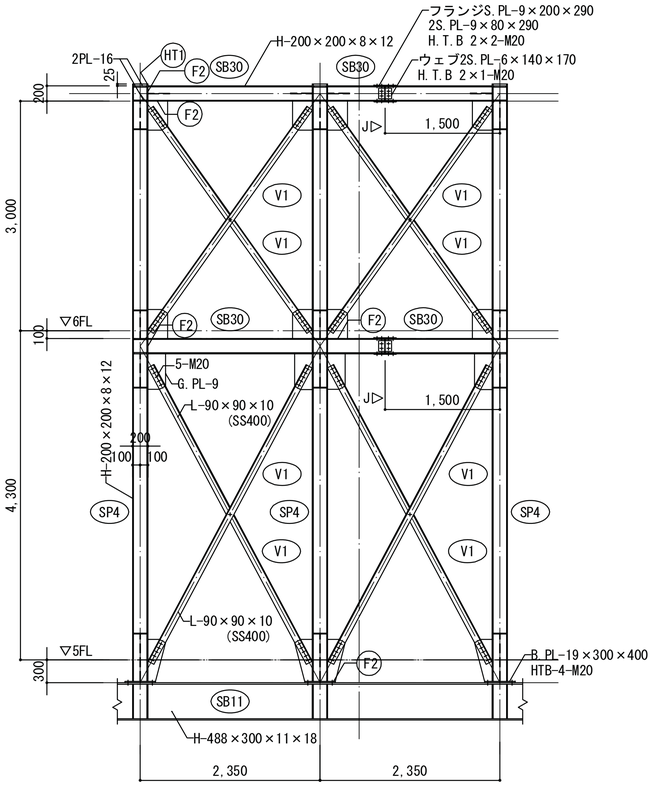
B部詳細図　A1:1/10

C部詳細図　A1:1/10

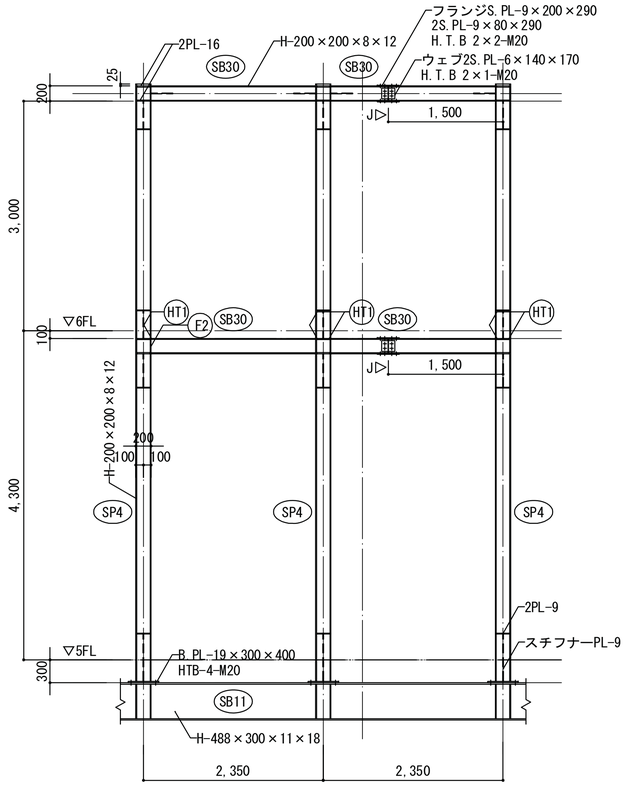
Ⓒ-sec　A1:1/10



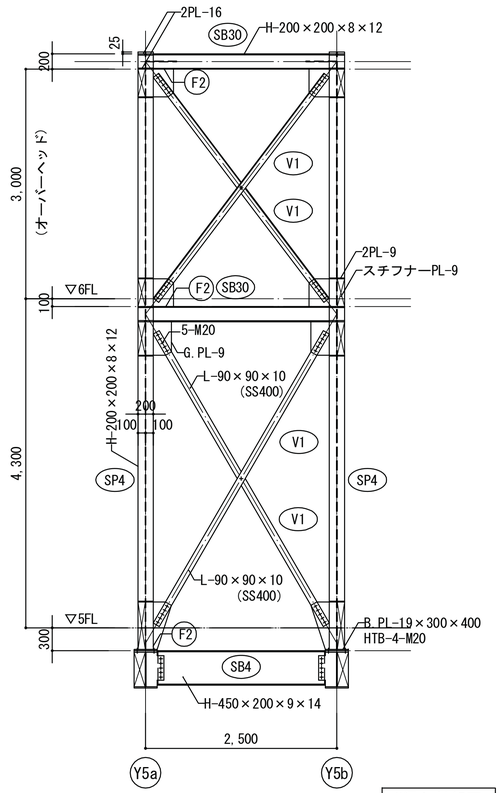
埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記 2010.4.7 見積用図面 （この図面で施工しないで下さい）	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号 記名 検印 製図 検図 納品検査 代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人 担当設計者 一級建築士 第238543号 塩手 博道 / 一級建築士 第254056号 丸谷 周平	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 西側遮光ルーバー下地詳細図 縮尺 A1:1/10,1/20 A3:1/20,1/40	図面番号 2404 区分 建築構造図
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査 主査	課長			構造設計一級建築士 第6144号 / 構造設計一級建築士 第131号			



Y5a通り軸組図 1/40



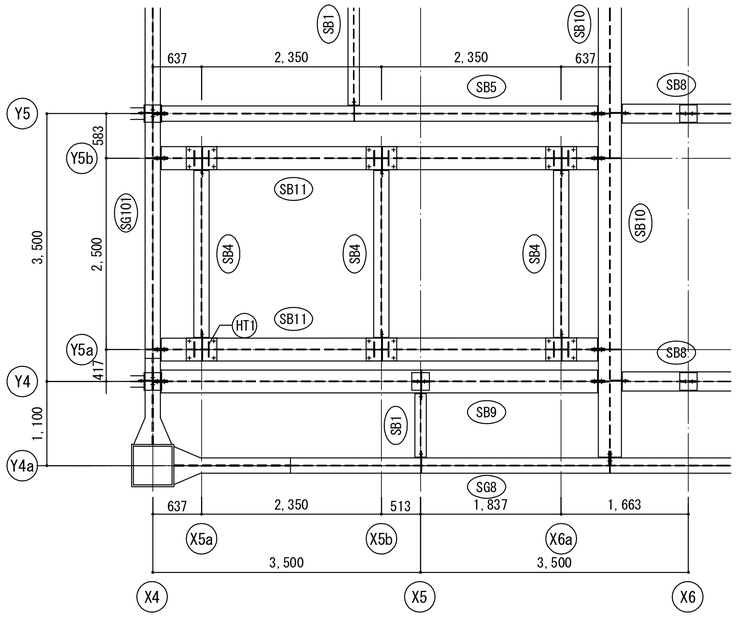
Y5b通り軸組図 1/40



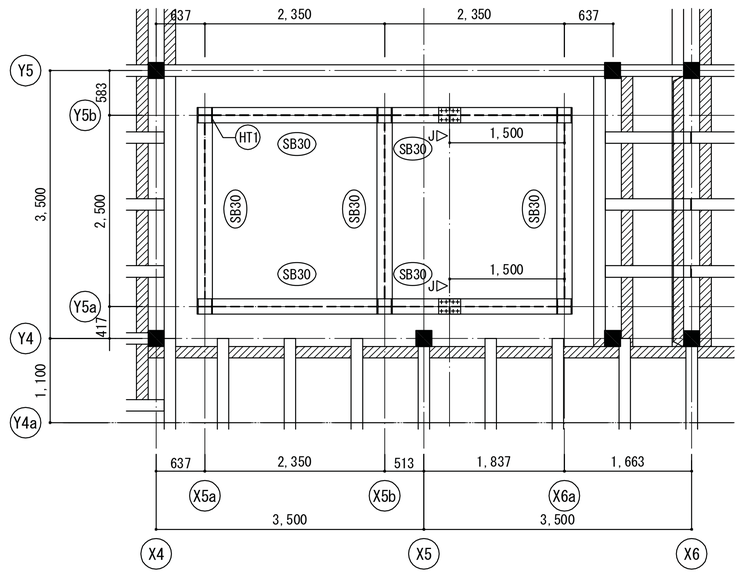
X通り軸組図 1/40

共通事項 (特記なき限り下記による)

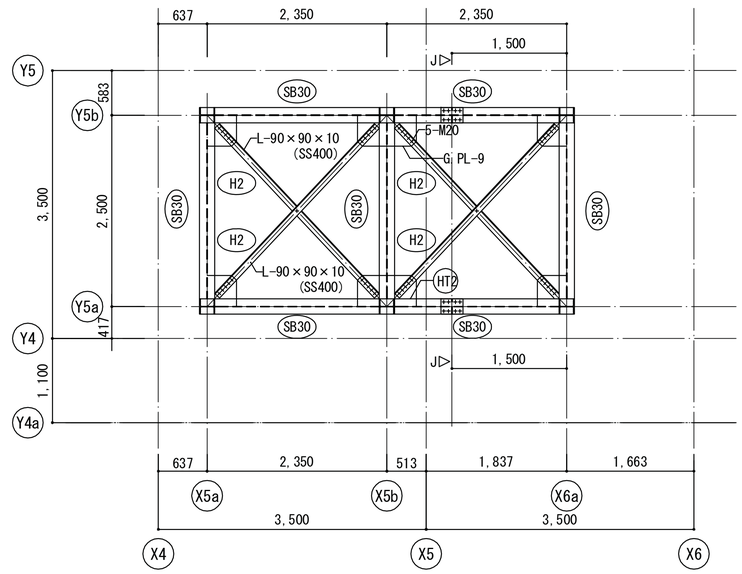
1. 鉄骨材種 SN400B
2. ブレース交差部は
フィラーPL-9,1-M20とする。



5F伏図 1/40

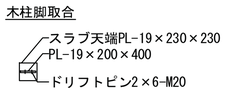


6F伏図 1/40

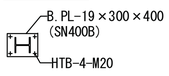


6F+3200伏図 1/40

木柱脚取合



EVシャフト柱



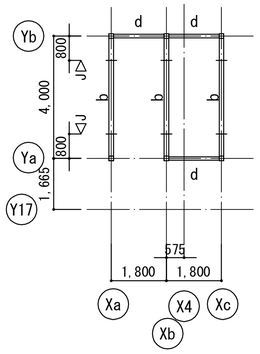
共通事項 (特記なき限り下記による)

1. 鉄骨上端レベルはFL-300とする。

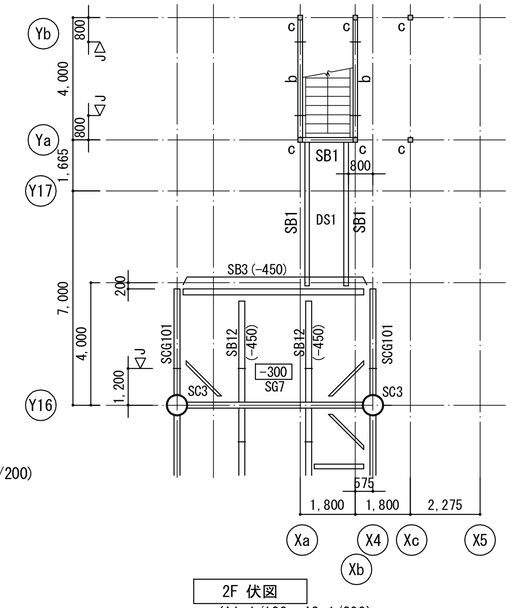
共通事項 (特記なき限り下記による)

1. H2の水平G.PLレベルは、SB30せいの中央とする。

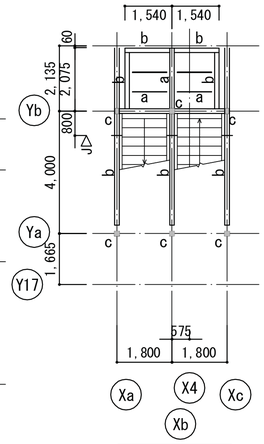
埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記 2010.4.7 見積用図面 (この図面で施工しないで下さい)	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	資格/番号 記名 代表 一級建築士 第239114号 石井 靖人 / 担当 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 塩手 博道 第5144号 / 一級建築士 第254056号 構造設計一級建築士 丸谷 周平 第131号	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 EVシャフト受鉄骨詳細図	図面番号 2405
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査	課長			印 製図 検図 納品検査		縮尺 A1:1/40 A3:1/80	区分 建築構造図



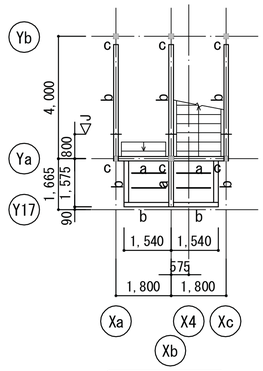
2F +1600 伏図
(A1:1/100, A3:1/200)



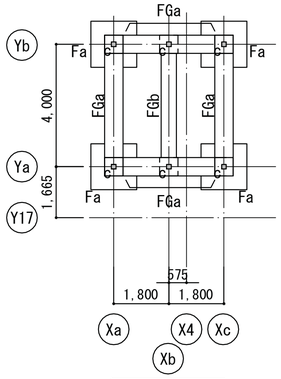
2F 伏図
(A1:1/100, A3:1/200)



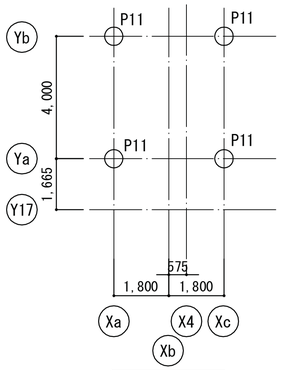
2F -1970 伏図
(A1:1/100, A3:1/200)



1F +640 伏図
(A1:1/100, A3:1/200)



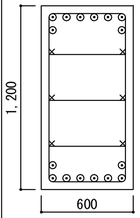
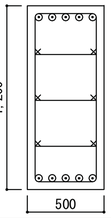
基礎伏図
(A1:1/100, A3:1/200)



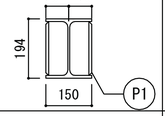
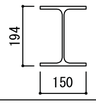
杭伏図
(A1:1/100, A3:1/200)

基礎大梁リスト

コンクリートFc30　高性能AE減水剤
スランプ　18cm

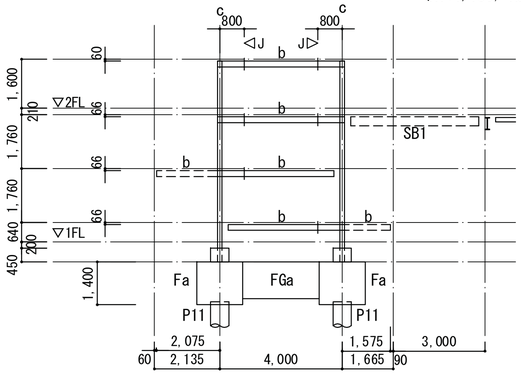
符号	FGa	FGb
断面	全断面 	全断面 
上端筋	8-D25	5-D25
下端筋	8-D25	5-D25
HOOP筋	D13@200	D13@200
腹筋	6-D13	6-D13

鉄骨部材リスト　1.さび止めエポキシ樹脂系さび止め塗料(2回)とする。

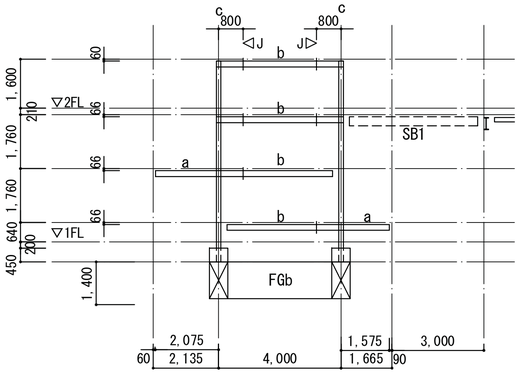
符号	a	b	c	d
断面	H-194×150×6×9 COV.PL-9(両面) 	H-194×150×6×9 	□-150×150×12	○-114.3φ×6
材種	SN400B	SN400B	STKR400	STK400

鉄骨継手リスト　鋼種:SN400B

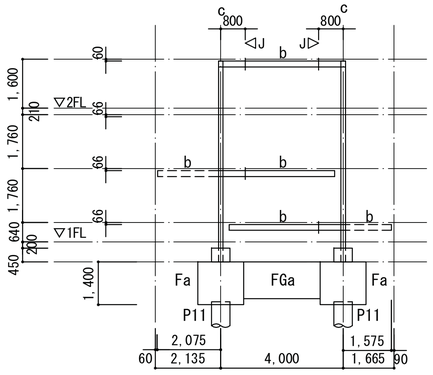
符号	断面	径	フランジ			ウェブ		
			ボルト	外添板	内添板	ボルト		添板寸法
			nF×mF	厚x幅x長さ	厚x幅x長さ	mW×nW	Pc	厚x幅x長さ
b	H -195×150×6×9	M20	2x2	9x150x290	6x90x290	2x1	60	6x140x170



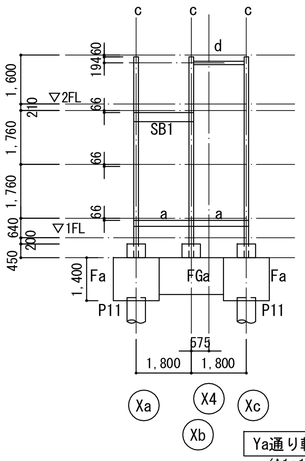
Xa通り軸組図
(A1:1/100, A3:1/200)



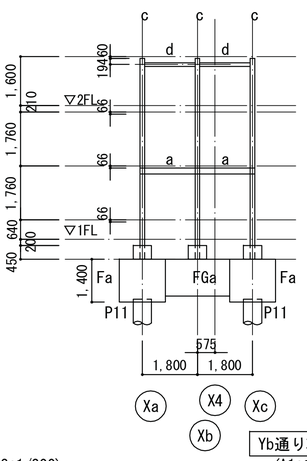
Xb通り軸組図 (A1:1/100, A3:1/200)



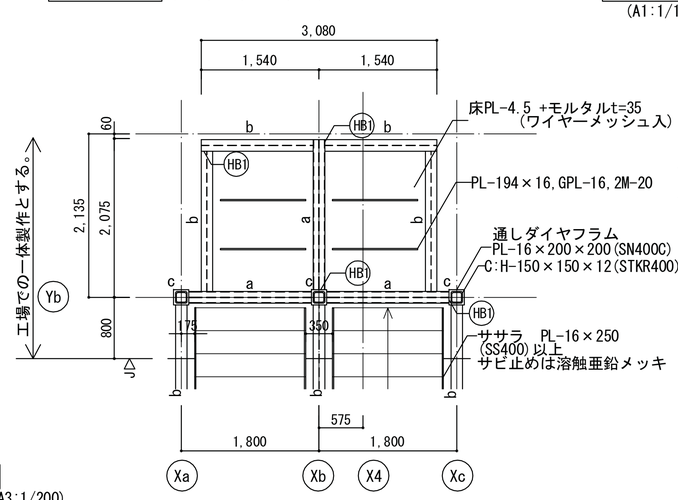
Xc通り軸組図
(A1:1/100, A3:1/200)



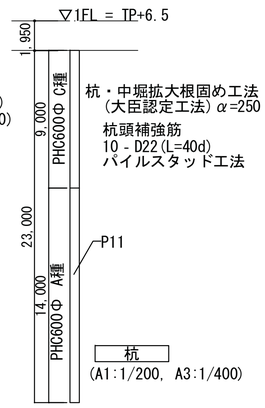
Ya通り軸組図
(A1:1/100, A3:1/200)



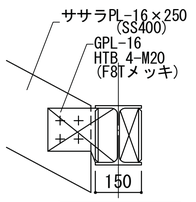
Yb通り軸組図
(A1:1/100, A3:1/200)



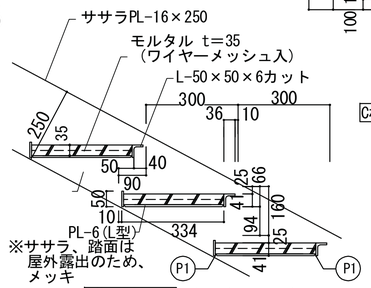
踊り場詳細図
(A1:1/40, A3:1/80)



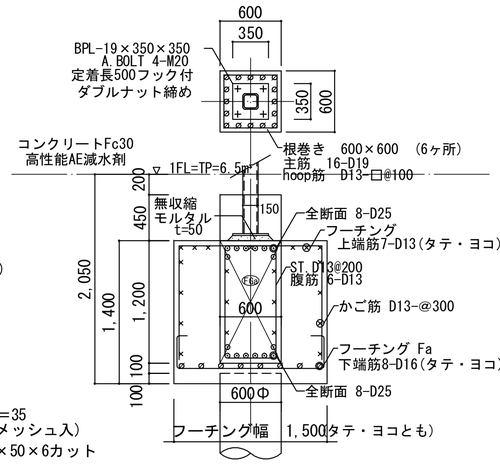
杭
(A1:1/200, A3:1/400)



ササラ板接合部
(A:1/10,A3:1/20)



階段詳細図 (A:1/10,A3:1/20)



C柱・基礎詳細図 (A1:1/30 A2:1/60)

埼玉県産業労働部産業拠点整備課	春日部市都市整備部鉄道高架整備課	特記 2010.4.7 見積用図面 (この図面で施工しないで下さい)	株式会社 山下設計 YAMASHITA SEKKEI INC. ARCHITECTS,ENGINEERS & CONSULTANTS.	東部地域振興ふれあい拠点施設(仮称) 建築工事	図面内容 屋上階段(1)詳細図	図面番号 2406
課長 副課長 主幹 主査 主査 主査	課長		代表設計者 一級建築士 第239114号 石井 靖人 / 担当設計者 一級建築士 第238543号 構造設計一級建築士 第5144号 塩手 博道 / 一級建築士 第254059号 構造設計一級建築士 第131号 丸谷 周平		縮尺 A1:1/200,1/100,1/40,1/30,1/10 A3:1/400,1/200,1/80,1/60,1/20	区分 建築構造図